科目名	保育原理	対象			
担当教員	山上 裕子	単位数	短期大学部 幼児教育	学科 1年2単位 必修	
開講期	I	必選			
授業概要		みる保育の基本、保育	育の目標や方法などにつ	R育は、どのような基本を踏まえて活動を行うのか。保育の思想や歴史 ついて取りあげる。授業では、随時、グループ・ワークによる学びを取	
達成目標	本科目は、ディプロマ・ポリシーの「保育の本質理解」「豊かな人間性と規範意識」に対応している。 ①保育の意義を、7割以上理解できたか。 ②「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の法的位置づけや保育の基本を、7割以上理解できたか。 ③保育の思想と歴史について、7割以上理解できたか。				
受講資格	原則として、幼稚園教諭二種免許状、f 者	呆育士資格取得希望	成績評価 方法	授業参加度 (30点)、レポート (30点) 授業内試験 (40 点)	
教科書	・西村望編『教育原理』みらい社、2	0 1 8 年。			
参考書	<ul> <li>・「幼稚園教育要領」(平成29年3月告示 文部科学省)</li> <li>・「保育所保育指針」(平成29年3月告示 厚生労働省)</li> <li>・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」(平成29年3月告示 内閣府)</li> </ul>				
学生への要望	授業用のノートを用意し、疑問に思ったこと、感じたことなどメモをすること。 欠席、遅刻はしないようにすること。				
オフィスタイム	木曜日:14:30~16:00 金曜日:14:30~16:00 833研究室				

П	項目	授業内容	自学自習	目安時間
	オリエンテーション	講義内容について説明を受け、到達目標や評価方法を確認	シラバスを確認し、自身の乳幼児期のこと	30
1		する。保育のイメージをする。	を、家族から聴いたり思い出したりする。	
	保育の必要性	未熟な状態で生まれるヒトであることをふまえ、文化的環	ヒト以外の動物の生誕について調べる。	60
2		境の中で、人間として成長していくことを、野生児の事例		
2		から学ぶ。		
	保育の意義	ヒトから人間への成長において、未熟ではあるが、子ども	前回の授業内容を振り返る。本時の授業か	60
3		には独自の世界があるという子ども観を知り、保育の意義	ら保育の意義を整理する。	
		を考える。		
	保育とは何か	「保」「育」の言葉を手がかりにして、日本語の語源や西		30
4		洋で保育にあたる言葉を知り、「育む」ことの意味を考え	調べる。	
·		る。これまでの授業で感じたこと、考えたことをまとめ		
		3.		
	養護と教育	養護と教育の関係を中心にして、環境をとおした保育、発		60
5		達の視点などについて、「保育所保育指針」をとおして学	を概観する。	
		ぶ。また、子ども・子育て支援制度を知り、保育施設と家庭との関係を学ぶ。		
		「幼稚園教育要領」の法的位置づけや、ねらい及び内容	「幼稚園教育要領」の記載内容を概観す	60
6	育の基本	を、「保育所保育指針」と比較しながら学ぶ。	<u>ి</u>	
	「但本式但本比引」におけて但	リヘムンの声味を乗ばてなされた「伊女子/伊女长母」の	「但去可但去找到」大笑法十2	
7	「保育所保育指針」におりる保 育の基本	社会からの要請を受けて改訂された「保育所保育指針」の 法的位置づけや、ねらい及び内容について学ぶ。	「保育所保育指針」を通読する。	60
1	日の奉本	が出いた。		
	保育の目標	   小学校就学までに何を育んだらよいのか。10のねらいを	「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」に	60
8	KILLS & H. KIL	知り、保育活動の留意点や計画を立	おける10のねらいの位置づけを確認する。	
Ü		てていくための基本を学ぶ		
	西洋と日本の子ども観	ー 中世から近代にかけての西洋の子ども観の変遷をたどると	世界史の年表で時代を確認する。また、授	60
9		ともに、日本では子どもを善とみる見方があったことを知	業で取りあげられた事項の時代の様相を確	
		<b>3</b> .	認する。	
	日本の保育思想と歴史	江戸時代から明治期にかけて各地に設立された、保育所や	日本史の年表で時代を確認する。また、授	60
10		子守学校について学ぶ。	業で取りあげられた事項の時代の様相を確	
			認する。	
11	日本で初めての幼稚園	東京女子師範学校附属幼稚園のはじまりについて学ぶ。	明治時代の社会変動について確認する。	60
11				

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
12		東京女子師範学校附属幼稚園の改革をし、今日の日本の保育を切り開いいた倉橋について、彼の保育への情熱や誘導保育論などを学ぶ。	倉橋惣三について調べる。	60
13	倉橋惣三の保育思想		配布資料を通読する。これまで学んだことの整理をする。	90
14	外国の保育の現状と課題	アメリカでの就学前の政策について知り、ヘッドスタート 政策以降、過剰な教育への見直しが進められていることを 学ぶ。	,	90
15	まとめ	これまで学んできたことの理解度を、授業内試験をとおし て確認し、解説を受ける。	試験に備えて準備を進め、理解が不足しているものは解説を受けて補う。	60

保育原理Ⅱ	対象			
山上 裕子	単位数	短期大学部 幼児教育	育学科 2年2単位選択	
IV	必選			
本科目は、保育活動についてより専門性を深めるための科目です。内容は、子どもを理解するための観察の方法を取りあげます。子どもの発話の記録や				
エピソード記録、蜘蛛の巣型記録など	です。これまでの実習	習日誌をもとに、更に	子どもを観察する観点を議論し、改めて子どもを観察し、観察力を磨い	
ていきます。フィードバックは、その	都度行います。			
位置づけ・水準 CE2202				
本科目の教職ディプロマ・ポリシーと	の対応項目は、次のと	こおりである。「保育	「の本質の理解」「豊かな人間性と規範意識」。	
子どもを理解するための観察方法につ	いて、7割以上理解で	<b>できる。</b>		
保育について関心のある者		成績評価	平常点30%・レポート70%	
		方法		
特に指定はしない				
適宜、紹介する				
観察記録を整えていく作業をいとわないこと。				
木曜日:14:30~16:00 83	3研究室			
金曜日:12:50~14:20 83	3研究室			
	山上 裕子  IV  本科目は、保育活動についてより専門 エピソード記録、蜘蛛の巣型記録など ていきます。フィードバックは、その 位置づけ・水準 CE2202  本科目の教職ディブロマ・ポリシーと 子どもを理解するための観察方法につ 保育について関心のある者  特に指定はしない 適宜、紹介する 観察記録を整えていく作業をいとわな 木曜日:14:30~16:00 83	山上 裕子  単位数  必選  本科目は、保育活動についてより専門性を深めるための科目 エピソード記録、蜘蛛の巣型記録などです。これまでの実習 ていきます。フィードバックは、その都度行います。  位置づけ・水準 CE2202  本科目の教職ディプロマ・ポリシーとの対応項目は、次のと 子どもを理解するための観察方法について、7割以上理解で 保育について関心のある者	山上 裕子	

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
	オリエンテーション	授業内容について説明を受け、到達目標を確認する。これ	シラバスを確認し、これまでの実習日誌に	30
1		までの実習日誌を振り返り、子どもを観察することについ	記載した観察記録を振り返る。	
		て議論をする。		
2	多様な観察方法	子どもの活動を観察する方法には、様々なものがあること	配布資料を読み、ポイントを整理する。	60
Ζ		を学ぶ。		
3	発話の記録①	子どもの発話と保育者の発話を記録する方法を、資料をも	配布資料を読み、ポイントを整理する。	60
3		とに学ぶ。		
4	発話の記録②	発話の点から実習日誌を振り返り、発話を記載することの	実習日誌を振り返り、発話を取り出す。	60
4		意味を学ぶ。		
5	エピソード記録①	エピソード記録とは何か。改めて学ぶ。	授業で行った内容を、整理する。	60
	エピソード記録②	エピソード記録の事例を読み、議論し、エピソード記録の	レポートを作成する。	60
6		意味を学ぶ。これまでの授業の内容をレポートにまとめ		
		3.		
7	エマージェントカリキュラム①	子どもの遊びから、カリキュラムが生まれるというエマー	配布使用を読み、ポイントを整理する。	60
		ジェントカリキュラムの考え方を学ぶ。		
8	エマージェントカリキュラム②	エマージェントカリキュラムの考えを活かした、観察記録	配布資料を読み、ポイントを整理する。	60
		の方法について学ぶ。		
9	蜘蛛の巣型記録の実際①	実習日誌から、蜘蛛の巣型記録の作成を試みる。	配布資料を読み、ポイントを整理する。	60
10	蜘蛛の巣型記録の実際②	実際に子どもの活動を、観察し記録する。	蜘蛛の巣型記録を作成する。	60
11	蜘蛛の巣型記録の実際③	実際に子どもの活動の記録を、蜘蛛の巣型に整理する。	蜘蛛の巣型記録を作成する。	60
11				
	蜘蛛の巣型記録の実際④		蜘蛛の巣型記録の意義をまとめる。	60
12		保育者にインタヴューを行い、蜘蛛の巣型記録の意義を検		
		討する。		
13	保育マップ型の観察記録①	保育環境図に子どもの活動の様子を書き込んでいくマップ	配布使用を読み、ポイントを整理する。	60
10		型の記録方法について学ぶ。		
14	保育マップ型の観察記録②	これまでの記録を、マップ型に直してみることをとおし	学んだことを整理する。	90
		て、その意義を学ぶ。		
15	まとめ	これまでの学びをレポートにして、確かめ、指導を受け	学んだことを整理する。	30
		る。		

科目名	教育原理	対象		
担当教員	山上 裕子	単位数	短期大学部 幼児教育	f学科 1年 2単位 選択
開講期	II	必選		
授業概要	教育とはどのような行為をいうのか。人が成長していくために、教育は何ができるのか。本科目は、教え、学ぶ行為を考えていくための基礎を学ぶ科目である。授業では、近代学校教育制度の始まりとその時代背景、さまざまな教育実践、思想を時代の経過をたどりつつ講義する。また、安全な場である教育現場において、事故が発生している実態やその対策についてリスクの考え方を取りあげる。講義は、実物投影機や教材を使用した活動を適宜取り入れる。また、読書レポートを課し、教育を深く考える機会を設ける。 最終授業で全体に対するフィードバックを行う。  位置づけ・水準 CE2103  本科目は、ディプロマ・ポリシーの「保育の本質理解」「豊かな人間性と規範意識」に対応している。			
達成目標	本科目は、ディプロマ・ポリシーの「保育の本質理解」「豊かな人間性と規範意識」に対応している。 ①近代学校教育制度の成立について、その社会的背景を捉えて、7割以上理解できたか。 ②代表的な教育思想と実践について、7割以上理解できたか。 ③保育事故を踏まえ、安全教育の重要性について7割以上理解できたか。			
受講資格	原則として、幼稚園教諭二種免許、保 者。	育士資格取得希望	成績評価 方法	授業内試験(40%)、レポート(30%)、授業参加度(30%)
教科書	・西村望編『教育原理』みらい社、2	018年。		
参考書	<ul> <li>・「幼稚園教育要領」(平成29年3月告示 文部科学省)</li> <li>・「保育所保育指針」(平成29年3月告示 厚生労働省)</li> <li>・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」(平成29年3月告示 内閣府)</li> </ul>			
学生への要望	講義用ノートを用意し、疑問点をメモすること。 欠席、遅刻をしないよう注意すること。			
オフィスタイム	木曜日:14:30~16:00 金曜日:12:50~14:20 833研究室			

	項目	授業内容	自学自習	目安時間
	オリエンテーション	講義内容について説明を受け、到達目標や評価方法を確認	シラバスを読み、保育原理の授業で学んだ	30
1		する。真の知識とは何か。生涯学習社会において求められ	ことを振り返る。	
		る乳幼児期の学びを考える。		
	教育の目的と意義	人類の歴史とともにある教育的行為の諸要素を知り、「日	教科書の26~37頁を通読する。保育に	60
		本国憲法」や「教育基本法」などをとおして教育の目的に	関すると思う書籍を探す。	
2		ついて考える。また、人間観や子ども観、教える内容、社		
		会的状況との関連にあることを学ぶ。		
	近代学校教育制度の始まり	,	西洋史の年表を手に取り、学ぶ事項の時代	60
		イギリス産業革命期において、児童労働が問題となり、子	を確認する。保育に関すると思う書籍を探	
		どもを保護するために政府によって制定された「工場法」	す。	
3		により初等教育の法制化が始まったことを学ぶ。また、エ		
		場経営者オウエンによる性格形成学院の実践から環境をと		
		おした教育という考え方を学ぶ。		
	一斉授業と個別指導	大量の児童を教えるために効率のよい一斉授業が考案され	西洋史の年表を手に取り、学ぶ事項の時代	60
		た。モニトリアル・システムについて、その長所と短所を	を確認する。保育に関すると思う書籍を探	
4		考え、グループで意見をまとめる。一方で、自ら思考する	す。	
		ことをとおして知識を獲得する教育の考えがあったことを		
		学ぶ。		
	教科書の登場	英語圏で使用された教科書「ホーン・ブック」やコメニウ	西洋史の年表を手に取り、学ぶ事項の時代	60
		スの『世界図絵』を知り、教科書の役割を考える。また、	を確認する。保育に関すると思う書籍を探	
5		コメニウスはなぜ『世界図絵』を作成したのか、その理由	す。	
		を探り、母国語で学ぶことの意味、家庭教育の意義を学		
		-3° <sub>0</sub>		
	子どもの発見者	子どもから始まる新教育の源流である、ルソーの思想につ	教科書の該当箇所を読む。配布資料を読	60
		いて学ぶ。生まれた時は善であるが、社会によって子ども	む。	
6		がゆがめられていくという考えを知り、実際に『エミー		
		ル』の一節を読んでみる。		
	子どもからの教育	現在の理性を働かせて現在の自己を乗り越えていく啓蒙思	教科書の該当箇所を読む。読書レポートを	60
7		想を学び、ルソーの消極的教育の思想を理解する。読書を	進める。	
		とおした深い学びの方法を知る。		
	l .			

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	貧民の救済と直観教育	貧民の子どもを救済するために、すべてを教育に捧げたペスタロッチの思想を学ぶ。家庭の居間の雰囲気で道徳教育や直観教育などの実践を、実際に体験することをとおして		60
9	教育機関としての幼稚園	理解する。 単に子どもを預かるだけでなく、発達を促す場として幼稚 園を創設したフレーベルについて、恩物の体験をとおして 学ぶ。		120
10	教材の開発	知的障害者の教育のために考案された教具を使用した、モンテッソーリ・メソッドについて学ぶ。教具の目的、教具を使用することによる自己活動の効果を学ぶとともに、実際に教具を経験して理解を深める。現在も、行われている実践であることを学ぶ、		60
11	経験主義教育	アメリカプラグマティストのデューイの教育思想を学ぶ。 経験をとおした学び、生の素材を使用した実践など、幼児 期を含むラボラトリー・スクールの実践をとおして、総合 的な学びの内容を考える。	これまで経験してきた問題解決学習について思い出す。	30
12	問題解決学習	問題解決学習として現在盛んに取り組まれている論理を学ぶ。これまで自身が経験してきた総合的学習の時間を振り返り、問題解決学習について理解を深める。		60
13	保育事故の現状	一向に減少しない保育事故の実態を、内閣府で公開しているデータベースを読むことをとおして知る。教育機関の安全管理の重要性について学ぶ。		60
14	安全教育	リスクという言葉の意味を知り、チャレンジ精神を損なうことのない安全教育について学ぶ。子ども自身でリスク・マネジメントができ、そのために問題解決学習が取り入れられていることを知る。現在、行われている実践を知る。		90
15	まとめ	これまで学んできたことの理解度を、ノートに整理したことをもとに、授業内試験を受ける。解説を聞き理解を確かめる。	ノートを整理する。	60

市和3千皮					
科目名	子ども家庭福祉	対象			
担当教員	山脇 功次	単位数	短期大学部 幼児教	教育学科 1年2単位 必修	
開講期	III	必選			
授業概要				5等の基本的な知識を理解し保育との関連性及び子どもの権利について学 方法及び子ども家庭福祉の現状や動向を学び、今後の課題や展望についても	
達成目標	1.現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷について理解する。 2.子ども家庭福祉と保育との関連性及び児童の人権について理解する。 3.子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。 4.子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。 5.子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。				
受講資格	幼児教育学科		成績評価 方法	提出物70点、講義における取組30点	
教科書	(購入必須)山縣文治編「よくわかる子	ども家庭福祉」ミネル	ヴァ書房		
参考書					
学生への要望	板書を中心に講義します。ノートをと	って予習しましょう。			
オフィスタイム					

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	子ども家庭福祉の理念と概念	子ども家庭福祉の理念と概念について説明する。	講義の内容から関心のあることについて自 主的に学びを深める。	80
2	子ども家庭福祉の歴史的変遷	子ども家庭福祉の歴史的変遷について説明する。	講義の内容から関心のあることについて自 主的に学びを深める。	80
3	子どもの人権擁護	子どもの人権擁護について説明する。	講義の内容から関心のあることについて自 主的に学びを深める。	80
4	子ども家庭福祉の制度と実施体 系	子ども家庭福祉の制度と実施体系について説明する。	講義の内容から関心のあることについて自 主的に学びを深める。	80
5	母子保健と子どもの健全育成	母子保健と子どもの健全育成について説明する。	講義の内容から関心のあることについて自 主的に学びを深める。	80
6	多様な保育ニーズへの対応	多様な保育ニーズへの対応について説明する。	講義の内容から関心のあることについて自 主的に学びを深める。	80
7	子ども虐待・DV(ドメスティッ クバイオレンス)とその防止	子ども虐待・DV(ドメスティックバイオレンス)とその防止について説明する。	講義の内容から関心のあることについて自 主的に学びを深める。	80
8	貧困家庭、外国籍の子どもとそ の家庭への対応	貧困家庭、外国籍の子どもとその家庭への対応について説 明する。	講義の内容から関心のあることについて自 主的に学びを深める。	80
9	障害のある子どもへの対応	障害のある子どもへの対応について説明する。	講義の内容から関心のあることについて自 主的に学びを深める。	80
10	少年非行等への対応	少年非行等への対応について説明する。	講義の内容から関心のあることについて自 主的に学びを深める。	80
11	少子化と地域子育て支援	少子化と地域子育て支援について説明する。	講義の内容から関心のあることについて自 主的に学びを深める。	80
12	子育て世代の親たちの就労環境 と子育て困難	子育で世代の親たちの就労環境と子育で困難について説明する。	講義の内容から関心のあることについて自 主的に学びを深める。	80
13	次世代育成支援と子ども家庭福 祉の推進	次世代育成支援と子ども家庭福祉の推進について説明する。	講義の内容から関心のあることについて自 主的に学びを深める。	80
14	子ども家庭福祉の施設と専門性	子ども家庭福祉の施設と専門性について説明する。	講義の内容から関心のあることについて自 主的に学びを深める。	80
15	地域における連携・協働とネットワーク	地域における連携・協働とネットワークについて説明す る。	講義の内容から関心のあることについて自 主的に学びを深める。	80

科目名	社会福祉	対象			
担当教員	山脇 功次	単位数	短期大学部 幼児教	マ育学科 1年2単位 必修	
開講期	I	必選			
授業概要	本科目では、「社会福祉」を以下のテ (1) 社会福祉の意義と歴史的変遷を (2) ソーシャルワークの基本的知識 (3) 社会福祉の法や制度について学 位置づけ・水準 CE2105	学ぶ。 と援助技術を学ぶ。	を進める。		
達成目標	(1) 社会福祉のなか保育士の役割を (2) 社会福祉の「価値」を説明する (3) 社会福祉の相談援助を実践する	ことができる。			
受講資格	幼児教育学科		成績評価 方法	講義における取組40点、レポート60点	
教科書	山縣文治・岡田忠克 編「よくわかる社	上会福祉」ミネルヴァ	書房(購入必須)	·	
参考書					
学生への要望	板書を中心に講義します。ノートをと	板書を中心に講義します。ノートをとって予習しましょう。			
オフィスタイム					

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
	イントロダクション 社会福祉	社会福祉とは何かについて説明する。	教科書を予習・復習すること。	80
1	とは何か (保育と社会福祉)			
2	社会福祉の基礎概念 社会福祉という考え方について説明する。		教科書を予習・復習すること。	80
3	社会福祉の歴史と展開	日本と諸外国の歴史について説明する。	教科書を予習・復習すること。	80
4	社会福祉の仕組みと運営	社会福祉の法律と行政について説明する。	教科書を予習・復習すること。	80
5	社会保障・公的扶助	社会保障制度について説明する。	教科書を予習・復習すること。	80
6	社会福祉の機関と施設	厚生労働省、児童相談所、社会福祉施設等について説明す	教科書を予習・復習すること。	80
Ü		<b>ప</b> 。		
7	社会福祉の援助と方法 ①	ソーシャルワーク等について説明する。	教科書を予習・復習すること。	80
8	社会福祉の援助と方法 ②	援助方法について説明する。	教科書を予習・復習すること。	80
9	子ども家庭福祉①	子ども家庭福祉という考え方について説明する。	教科書を予習・復習すること。	80
10	子ども家庭福祉②	子ども家庭福祉という考え方について説明する。	教科書を予習・復習すること。	80
11	障がい者福祉 ①	障がいの概念と理念について説明する。	教科書を予習・復習すること。	80
12	障がい者福祉 ② 障がいの概念と理念について説明する。		教科書を予習・復習すること。	80
13	障がい者福祉 ③ 障がいの概念と理念について説明する。		教科書を予習・復習すること。	80
14	地域福祉	地域で支える社会福祉について説明する。	教科書を予習・復習すること。	80
15	これからの社会福祉の課題	福祉教育について説明する。	教科書を予習・復習すること。	80

市和3年及				
科目名	子ども家庭支援論	対象		
担当教員	山脇 功次	単位数	短期大学部 幼児教育	学科 2年2単位 必修
開講期	IV	必選		
授業概要	本科目では、「子ども家庭支援論」を以下のテーマに基づいて学習を進めます。 (1)子ども家庭を取り巻く環境の変化を学びます。 (2)子ども家庭のニーズと、その援助技術を学びます。 (3)子ども家庭支援の制度について学びます。 水準:CE2206			
達成目標	(1) 保育分野における子ども家庭福 (2) こども、子育て家庭を取り巻く (3) 子ども家庭のニーズを理解し、	環境の変化を理解でき	きる。	きる。
受講資格	幼児教育学科2年生		成績評価 方法	提出物70点、講義における取組30点
教科書	適宜プリント等を配付する。			
参考書	講義の中で随時紹介する。(購入任意)			
学生への要望	板書を中心に講義します。ノートをと	って予習しましょう。		
オフィスタイム				

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	子どもの保育とともに行う保護 者の支援	子どもの保育とともに行う保護者の支援内容について説明 する。	講義の内容から関心のあることについて自 主的に学びを深める。	80
2	保育所等における支援	保育所等における支援について説明する。	講義の内容から関心のあることについて自 主的に学びを深める。	80
3	地域の子育て家庭に対する支援	地域の子育で家庭に対する支援について説明する。	講義の内容から関心のあることについて自 主的に学びを深める。	80
4	障害のある子ども及びその家庭 に対する支援	障害のある子ども及びその家庭に対する支援について説明 する。	講義の内容から関心のあることについて自 主的に学びを深める。	80
5	特別な配慮を要する子ども及び その家庭に対する支援	特別な配慮を要する子ども及びその家庭に対する支援につ いて説明する。	講義の内容から関心のあることについて自 主的に学びを深める。	80
6	子ども虐待の予防と対応	子どもの虐待の予防と対応について説明する。	講義の内容から関心のあることについて自 主的に学びを深める。	80
7	要保護児童等の家庭に対する支 援	要保護児童等の家庭に対する支援について説明する。	講義の内容から関心のあることについて自 主的に学びを深める。	80
8	多様な支援ニーズを抱える子育 て家庭の理解	多様な支援ニーズを抱える子育て家庭について説明する。	講義の内容から関心のあることについて自 主的に学びを深める。	80
9		日常的・継続的な関わりを通じた保護者との相互理解と信頼関係に形成について説明する。	講義の内容から関心のあることについて自 主的に学びを深める。	80
10	保護者や家庭の抱える支援の ニーズへの気づきと多面的な理 解	保護者や家庭の抱える支援ニーズへの気づきと多面的な理解をする。	講義の内容から関心のあることについて自 主的に学びを深める。	80
11	子ども及び保護者の状況・状態 の把握	子ども及び保護者の状況・状態の把握を行う。	講義の内容から関心のあることについて自 主的に学びを深める。	80
12	支援の計画と環境の構成	支援の計画と環境の構成について説明する。	講義の内容から関心のあることについて自 主的に学びを深める。	80
13	支援の実践・記録・評価・カン ファレンス	支援の実践・記録・評価・カンファレンスについて説明する。	講義の内容から関心のあることについて自 主的に学びを深める。	80
14	職員間の連携・協働	職員間の連携・協働について説明する。	講義の内容から関心のあることについて自 主的に学びを深める。	80
15		社会資源の活用と自治体・関係機関や専門職との連携・協 働について説明する。	講義の内容から関心のあることについて自 主的に学びを深める。	80

市和3年及				
科目名	社会的養護 I	対象		
担当教員	山脇 功次	単位数	短期大学部 幼児教育等	学科 2年2単位選択
開講期	III	必選		
授業概要	本科目では、「社会的養護」を以下のテーマに基づいて基礎学習と事例検討を中心に学びを深めます。 (1) こどもの権利を基軸とした社会的養護の基本的な考えを学びます。 (2) こどもの自己実現・自立に向けた取り組みを学びます。 (3) 地域・学校・家族とのネットワークづくりを学びます。 (CE2207)			
達成目標	(1) こどもに寄り添った伴走型支援 (2) 各授業にて扱ったテーマの内容 (3) 事例検討をとおして社会資源の	を説明することができ	<b>る</b> 。	
受講資格	幼児教育学科2年		成績評価 方法	提出物 70点、講義における取組 30点
教科書	中山正雄 監修 浦田雅夫 編著「よりそい支える社会的養護   第2版」教育情報出版 (購入必須)			
参考書				
学生への要望	板書を中心に講義します。ノートをと	って予習しましょう。		
オフィスタイム				

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	社会的養護の理念と概念	子どもと家庭を取り巻く環境と社会的養護について説明し ます。	教科書を予習・復習すること	80
2	社会的養護の歴史的変遷	日本と諸外国の社会的養護について説明します。	教科書を予習・復習すること	80
3	社会的養護の役割① 施設養護	施設養護について学びます。	教科書を予習・復習すること	80
4	社会的養護の役割② 家庭養護	家庭養護について学びます。	教科書を予習・復習すること	80
5	社会的養護における保育士等の 倫理と責務	社会的養護に求められる保育士等について説明します。	教科書を予習・復習すること	80
6	社会的養護の制度と法体系	児童福祉法等について説明します。	教科書を予習・復習すること	80
7	社会的養護の仕組みと実施体系	社会的養護全体の体系について説明します。	教科書を予習・復習すること	80
8	施設等の運営管理	社会的養護の施設運営について説明します。	教科書を予習・復習すること	80
9	乳児院について	乳児院の役割と機能について学びます。	教科書を予習・復習すること	80
10	児童養護施設について	児童養護施設の役割と機能について学びます。	教科書を予習・復習すること	80
11	障害児入所施設について	障害児入所施設の役割と機能について学びます。	教科書を予習・復習すること	80
12	社会的養護に関する社会的状況	児童虐待や子どもの貧困等について説明します。	教科書を予習・復習すること	80
13	社会的養護に関わる専門職 ①	求められる専門性について説明します。	教科書を予習・復習すること	80
14	社会的養護に関わる専門職 ②	入所するこどもの福祉ニーズの理解について学びます。	教科書を予習・復習すること	80
15	社会的養護と地域福祉	地域子育て支援について説明します。	教科書を予習・復習すること	80

科目名	保育者論	対象		
担当教員	安部 高太朗	単位数	短期大学部 幼児教育	教育学科 1年 2単位 必修
開講期	I	必選		
授業概要	リア形成等について学ぶ。現行の幼ョ門性を持っているとされているの	推園教育要領や保育所 かを整理する。授業に 保育・幼児教育等に関 の理解が深まるようエ	保育指針等を参照しつ おいては、子ども子育 わる問題と保育者がど	命理について理解し、「保育者」の制度的な位置づけやその専門性及び しつつ、幼稚園教諭・保育士等の「保育者」が制度的にどう位置づけら 子育て支援新制度以降の保育・幼児教育に関わる現在の状況を踏まえな がどう関わるかについても言及し、グループディスカッション等のアク
達成目標	本科目においては、次の五つの達成  1. 保育者の役割と倫理について理  2. 保育者の制度的な位置づけを理  3. 保育者の専門性について考察し  4. 保育者の連携・協働について理  5. 保育者の資質向上とキャリア形  ○単位認定の最低基準:内容の7割を  ○ディプロマ・ポリシーとの関係:	解できたか。 解できたか。 、理解できたか。 解できたか。 成について理解できた で理解していること。	•	意識。
受講資格	原則として、幼稚園教諭二種、保育	士資格取得希望者。	成績評価 方法	<ul><li>①授業参加度(受講態度や提出物の提出状況):30%</li><li>②授業内試験(第15回に予定):70%</li><li>①及び②の合計:100%</li></ul>
教科書	厚生労働省編(2018)『保育所保育指針解説(平成30年3月)』フレーベル館。 内閣府・文部科学省・厚生労働省(2018)『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(平成30年3月)』フレーベル館。 文部科学省(2018)『幼稚園教育要領解説(平成30年3月)』フレーベル館。 ※加えて、適宜、必要に応じて授業担当者が資料を配布する。			
参考書	白石崇人 (2015) 『保育者の専門性と	: は何か(改訂版)』社会	<b>冷評論社。</b>	
学生への要望	本科目を受講する学生には以下のことを求める。 ・欠席、遅刻はしないこと。 ・わからないことや疑問に思ったことは積極的に質問すること。 ・新聞やTV番組等を通じて、保育に関わる情報や話題を自ら収集すること。			
オフィスタイム	・火曜日IV限(14:30~16:00) ・火曜日V限(16:10~17:40) いずれも、83年館2階の安部研究室 ルで連絡を入れること。	室(821研究室)とする	る。そのほかの時間帯で	帯を希望する場合は、予め、安部(k-abe@koriyama-kgc.ac.jp)までノ

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	講義内容について説明を受け、到達目標や評価方法を確認する。自身の経験等から、保育者の仕事をイメージする。		30
2	保育者の役割・職務内容	児童福祉法や学校教育法等に即しながら、保育士・幼稚園 教諭等の保育者として求められる役割、職務内容について 整理する。		60
3	保育者の倫理	全国保育士会倫理綱領や児童福祉法・教育職員免許法等に則しながら、保育者の倫理について学ぶ。	インターネット上で全国保育士会倫理綱領を探し、内容をひとつひとつ読上げ、重要だと思うところに線を引いてくる。	60
4	保育者の制度的位置づけ	保育士の資格取得・欠格事項及び幼稚園教諭の免許状の種類・欠格事項等について、児童福祉法・教育職員免許法等を参照しながら整理する。さらに認定こども園における保育者の位置づけについても学ぶ。	度に関するリーフレットをダウンロード	60
5	保育者の資質・能力	中央教育審議会の「教員の資質能力向上特別部会」による 報告書「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的 な向上方策について」等を参照しながら、保育者としての 資質・能力について考える。	力・技能等について自分なりに考えてく	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
6	養護及び教育の一体的展開	保育所保育指針・幼稚園教育要領等に即しながら、養護と 教育が一体的に展開されることの意味を整理する。	保育所保育指針・幼稚園教育要領等の該当 箇所を読んでくる。	60
7	家庭との連携・保護者支援	保育所等における子育で支援の意義を、時代状況を踏まえながら整理し、保護者・家庭と連携しながら保育を展開することの重要性について理解する。		90
8	保育の計画と評価:あるいは、 保育におけるリフレクション	保育における計画・評価の意味を確認し、保育においてなされるリフレクションとはどのようなものとなるのかを学ぶ。		60
9	保育の質をめぐる議論	保育の「質」として語られるものとしてどういう視点があるのかを学ぶ。	自分にとって理想の保育とはどういう性質 のものであるのかをノートに記してくる。	60
10		保育の質を向上させるために、どのような方法がありうるのか、カリキュラムとしてはどのように構想できるのかを考える。		60
11	保育における職員間の連携・協 働	保育所等における職員間の連携・協働について、学ぶ。	チーム保育や特に乳児の担当制保育のあり ようについて、参考書等を元にしながら、 自分なりに調べておく。	60
12	他の専門機関等との連携・協働	医療機関や小学校との連携・協働について、10の姿などに 即しながら学ぶ。	10の姿について保育所保育指針・幼稚園教育要領等で見ておく。	60
13	地域社会の中の保育所・幼稚園 等の施設	地域社会との連携や協働について、保育所・幼稚園等の実 例をもとに知る。	附属幼稚園等、学生にとって身近な保育の 現場における地域連携の実態を調べてお く。	60
14	保育者のキャリア形成	キャリアアップ研修等の保育者のキャリアに関わる研修に ついて整理する。	保育者として働く上で大切にしたいことは 何か自分なりの考えをノートに記してく る。	60
15	まとめ	ノートや配布資料等を持参したうえで授業内試験を受ける。これまでの理解を確認し、解説を受ける。	ノートを整理し試験に備え、理解できな かったことを復習する。	60

市和3年及				
科目名	保育の心理学	対象		
担当教員	折笠 国康	単位数	短期大学部 幼児教育	学科 1年2単位 必修
開講期	II	必選		
授業概要	保育実践にかかわる心理学の基礎知識 見据えながらその特徴について学習す 最終授業で全体に対するフィードバッ 位置づけ・水準 CE2109	る。	)理解を深め好ましいす	内応を見極める力を養うことを目標とする。特に、人間の発達の過程を
達成目標	<ul><li>①子どもの発達にかかわる心理学の基礎を習得し、子どもへの理解を深めることができたか。</li><li>②保育実践にかかわる心理学的な基礎理論を理解することができたか。</li><li>③子どもの発達を援助する方法を心理学的な観点で理解することができたか。</li><li>単位認定の最低基準は、:「内容の7割を理解していること」</li><li>ディプロマ・ポリシーとの関係:子どもの発達の理解と支援の力</li></ul>			
受講資格	短期大学部 幼児教育学科 1年		成績評価 方法	内容の「70%」の理解で合格とするが、「80%程度」の理解が望まれる。理解度の評価は小レポート30%、試験70%で行う。
教科書	特に指定はしない。授業の時に資料を	配布することがある。		
参考書	必要に応じて紹介する。			
学生への要望	講義への協力的な参加を要望する。 専用のノートを準備すること。			
オフィスタイム	水曜 4限 835研究室 火曜 2限 835研究室			

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション 保育の基 本 勇気づけ理論	この科目の目標と授業方針を理解する。保育とは何かを心理学的な視点から理解する。	復習:授業内容をまとめ、必要に応じ参考 文献にあたる	60
1		ほめる・叱るにかわるアプローチである"勇気づけ"についての基礎理論を理解する。		
2	保育のための心理学を流分析	自己についてエゴグラムを用いた交流分析によって理解する。	復習:授業内容をまとめ、必要に応じ参考 文献にあたる	60
3	保育のための心理学 - 発達心 理学—	子どもの発達や成長に関して、心理的な知見や関わり方を 理解する。	復習:授業内容をまとめ、必要に応じ参考 文献にあたる	60
4	保育のための心理学 -保育の 目標 ①-	保育の目標や保育者の対応について心理学的な視点から理 解する。	復習:授業内容をまとめ、必要に応じ参考 文献にあたる	60
5	保育のための心理学 -保育の 目標 ②-	保育の目標や保育者の対応について心理学的な視点から理 解する。	復習:授業内容をまとめ、必要に応じ参考 文献にあたる	60
6	保育のための心理学 - 保育者 の役割 1 -	保育者との信頼関係や、保育者による子ども承認認知の重 要性を理解する。	復習:授業内容をまとめ、必要に応じ参考 文献にあたる	60
7	保育のための心理学 -運動や 遊びの本質-	保育や心理学的な視点から、子どもの運動や遊びの本質に ついて理解する。	復習:授業内容をまとめ、必要に応じ参考 文献にあたる	60
8	保育のための心理学 - 運動 や遊びの本質 2 -	保育や心理学的な視点から、子どもの運動や遊びの本質に ついて理解する。	復習:授業内容をまとめ、必要に応じ参考 文献にあたる	60
9	保育のための心理学 -保育者 の役割 2-	保育者との信頼関係や、保育者による子ども承認認知の重要性を理解する。	復習:授業内容をまとめ、必要に応じ参考 文献にあたる	60
10	保育のための心理学 一動機づ けの理論一	人間のやる気や意欲にかかわる動機づけの理論の基礎を理 解する。	復習:授業内容をまとめ、必要に応じ参考 文献にあたる	60
11	保育のための心理学 - 保育 者の役割 3-	動機づけ理論の基礎を基に、ほめる・叱るといった賞罰に ついての心理学的知見を理解する。	復習:授業内容をまとめ、必要に応じ参考 文献にあたる	60
12	保育のための心理学 - アド ラー心理学 1-	子どもの適応を育むための、アドラー心理学の理論を理解 する。	復習:授業内容をまとめ、必要に応じ参考 文献にあたる	60
13	保育のための心理学 - アド ラー心理学 2-	子どもとの良好な関係性を築くため、アドラー心理学の理 論を理解する。	復習:授業内容をまとめ、必要に応じ参考 文献にあたる	60
14	保育のための心理学 教師の リーダーシップ	教師の果たす役割やあり方、実際の指導行動の状態、時代が求める望まれるリーダーシップについての理解を深める。時代が求めるリーダーシップについてのディスカッションを行う。	復習:授業内容をまとめ、必要に応じ参考 文献にあたる	60
15	本講義のまとめ	試験を実施し、本講義を振り返り保育に関する心理学的視 点を復習する。	復習:授業内容をまとめ、必要に応じ参考 文献にあたる	60

科目名	教育心理学			
担当教員	折笠 国康	単位数	短期大学部 幼児教育	育学科 1年 2単位 選択
開講期	I	必選		
授業概要	教育心理学は、教育活動をより効果的に 教育に関する心理学的な知識や方法を理 最終授業で全体に対するフィードバック 位置づけ・水準 CE2110	L解することを目標と		する学問である。本科目を通して、より効果的な教育実践が可能となる
達成目標	①認知や感情などの「心の発達」に関す ②「自己」に関する基本概念をどの程 ③近年の教育現場で問題となっている 単位認定の最低基準は、:「内容の 7 害 ディプロマ・ポリシーとの関係:子ども	程度理解できたか。 事柄をどの程度理角 見を理解していること	<b>翠できたか。</b> ⊆」	
受講資格	短期大学部 幼児教育学科 1年		成績評価 方法	授業内容の「70%程度」の理解が必要。理解度の評価は、授業の参加 の様子やリアクションシート30%、試験70%で行う。
教科書	特に指定はない。		•	
参考書	講義の中で、適宜紹介する。			
学生への要望	講義への協力的な参加を要望する。			
オフィスタイム	金曜 2 限 8 3 5 研究室 3 限 8 3 5 研究室			

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	この授業の目的と授業方針を理解する。	復習:授業内容をまとめ、必要に応じ参考 文献にあたる	60
2	人間の発達 - 発達心理学 -	人間の発達や成長に関して、心理学的な知見や理論を学び 理解する。	復習:授業内容をまとめ、必要に応じ参考 文献にあたる	60
3	自己とは(1) 認知について	認知心理学の基礎を学び、自己に対する認識について理解 する。	復習:授業内容をまとめ、必要に応じ参考 文献にあたる	60
4	自己とは(2) 認知について	ピアジェの認知の発達に関する理論を学び理解する。	復習:授業内容をまとめ、必要に応じ参考 文献にあたる	60
5	自己とは(3) 自我同一性	自我同一性を中心に心理学的な枠組みで自己とは何かを理 解する。	復習:授業内容をまとめ、必要に応じ参考 文献にあたる	60
6	自己とは(4) 自己概念	心理学的な構成概念としての自己概念の理論的枠組みを理 解する。	復習:授業内容をまとめ、必要に応じ参考 文献にあたる	60
7	自己とは(5) 自尊感情と自 己評価	自尊感情や自己評価に関する心理学的知見を概観し理解する。 「本当の自分」に関して、心理学的視野から理解する。	復習:授業内容をまとめ、必要に応じ参考 文献にあたる	60
8	自己とは(6) 自己受容、防 衛機制	C. ロジャースの理論を用いて、自己受容について理解する。 A. フロイトによる防衛機制の概念を学び、自己についての理解を深める。	復習:授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
9	自己とは(7) 交流分析	自己についてエゴグラムを用いて理解する。	復習:授業内容をまとめ、必要に応じ参考 文献にあたる	60
10	動機づけの理論	内発的動機、外発的動機づけに関する理論を理解する。 E. デシの自己決定理論の基礎を理解する。	復習:授業内容をまとめ、必要に応じ参考 文献にあたる	60
11	学級のアセスメント 1	標準化された心理尺度による客観的な指標を基にした学級 のアセスメントについて理解する。	復習:授業内容をまとめ、必要に応じ参考 文献にあたる	60
12	学級のアセスメント 2	標準化された心理尺度による客観的な指標を基にした学級 のアセスメントについて理解する。	復習:授業内容をまとめ、必要に応じ参考 文献にあたる	60
13	教師のリーダーシップ 1	教師の果たす役割やあり方、実際の指導行動の状態、時代 が求める望まれるリーダーシップについての理解を深め る。	復習:授業内容をまとめ、必要に応じ参考 文献にあたる	60
14	教師のリーダーシップ 2	教師の果たす役割やあり方、実際の指導行動の状態、時代 が求める望まれるリーダーシップについての理解を深め る。	復習:授業内容をまとめ、必要に応じ参考 文献にあたる	60
15	本講義のまとめ	試験を実施し、本講義の振り返りを通して教育の実践に必要な心理学的な知見を復習する。	復習:授業内容をまとめ、必要に応じ参考 文献にあたる	60

7/113千尺				
科目名	子ども家庭支援の心理学	対象		
担当教員	宇治 和子	単位数	短期大学部 幼児教	育学科 2年2単位選択
開講期	IV	必選		
授業概要	昨今の保育現場では、家族構造の変化を背景として、保育者も、子どもの発達や学びの過程、生涯発達、多様な育ちなど、保育や子育で支援に関する内容を包括的に理解することが必要になってきました。子どもと家庭を支援していくために保育者としてどのようなかかわりをもてばいいのか、心理学の知見から考えます。この授業は、子ども家庭福祉の現場で心理職として支援の実務経験がある教員が担当し、各種課題は授業内にて随時返却 or 口頭フィードバックしていきます(位置付け・水準 CE2211)。			
達成目標	本授業は、以下2点を達成目標(8割以上で単位認定)とします。 ・心理学的な考え方に基づき、人の気持ちを推測できるようになる。 ・発達的観点から、子ども家庭支援を捉えることができるようになる。 なおこの科目は、本学科DPの「子どもの発達の理解と支援の力」に関連しています。			
受講資格	幼児教育学科2年		成績評価 方法	積極的な授業参加(20%)、授業内課題やレポート(3回:80%)により評価します。
教科書	教科書を指定します(授業内で指示)。			
参考書	授業の中で、随時紹介します。			
学生への要望	資料等を工夫してイメージしやすい授	業を心がけるので、積	責極的な授業参加を基	<b>∄待します。</b>
オフィスタイム	授業開始前・終了後・月曜3限・4限:	宇治研究室(836)		

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
	オリエンテーション	・授業内容、評価方法について説明する	教科書をよく読みこんで、予習・復習する	60
1	発達について	・生涯発達、初期経験の重要性、発達課題等について説明	こと	
		する		
0	発達の理解 1	・胎生期~乳児期にかけての発達を説明する	教科書をよく読みこんで、予習・復習する	60
2			こと	
2	発達の理解 2	・幼児期前期の発達について説明する	教科書をよく読みこんで、予習・復習する	60
3			こと	
4	発達の理解 3	・幼児期後期の発達について説明する	教科書をよく読みこんで、予習・復習する	60
4			こと	
	発達の理解 4	・学童期の発達について説明する	教科書をよく読みこんで、予習・復習する	60
5			こと	
6	発達の理解 5	・思春期の発達について説明する	教科書をよく読みこんで、予習・復習する	60
6			こと	
7	発達の理解 6	・青年期の発達について説明する	教科書をよく読みこんで、予習・復習する	60
7			こと	
0	発達の理解 7	・成人期・老年期の発達について説明する	教科書をよく読みこんで、予習・復習する	60
8			こと	
0	家族・家庭の意義と機能	・子どもが育つ場としての「家族」「家庭」を説明する	教科書をよく読みこんで、予習・復習する	60
9			こと	
10	子育て家庭に関する現状と課題	・子育てを取り巻く社会的状況、ライフコースと仕事・子	教科書をよく読みこんで、予習・復習する	60
10	1	育てについて説明する	こと	
11	子育て家庭に関する現状と課題	・ひとり親家庭・ステップファミリー・里親家庭・外国籍	教科書をよく読みこんで、予習・復習する	60
11	2	の家族などについて説明する	こと	
10	子どもの精神保健とその課題1	・チック、吃音、緘黙、指しゃぶり、爪かみ、オナニーな	教科書をよく読みこんで、予習・復習する	60
12		どの問題について説明する	こと	
10	子どもの精神保健とその課題2	・発達障害の理解について説明する(ASDを中心に)	教科書をよく読みこんで、予習・復習する	60
13			こと	
1.4	子どもの精神保健とその課題3	・発達障害の理解について説明する(ADHDを中心に)	教科書をよく読みこんで、予習・復習する	60
14			こと	
	自分のストレスと向き合う	・子どもの育ちを支えていくために、自分自身のことを振	教科書をよく読みこんで、予習・復習する	60
15		り返るワークを行いグループディスカッションをする	こと	
		I		

市和3年及				
科目名	子どもの理解と支援	対象		
担当教員	宇治 和子	単位数	短期大学部 幼児教	育学科 2年 1単位 選択
開講期	III	必選		
授業概要	どんなに社会が変わっても、子どもの成長発達というものは基本的なところでは大きく変わりません。まずは定型発達の子どもの育ちをきちんと観察し、情報を整理して全体像を捉えられることを目指します。そのうえで、保育士としてどのようなかかわりをもつのかについて考えます。この授業は、子ども家庭福祉の現場で心理職として支援の実務経験がある教員が担当し、各種課題は授業内にて随時返却 or 口頭フィードバックしていきます(位置付け・水準 CE2212)			
達成目標	本授業は、以下2点を達成目標(8割以上で単位認定)とします。 ・保育実践において子どもの成長を自分なりに捉えられる。 ・子どもの現状を理解し、対応を考えることができる。 なおこの科目は、本学科DPの「子どもの発達の理解と支援の力」に関連しています。			
受講資格	幼児教育学科2年		成績評価 方法	積極的な授業参加(20%)、授業内課題やレポート(3回:80%)により評価します。
教科書	教科書は使わず、レジュメ、資料を配	布します。		·
参考書	授業の中で、随時紹介します。			
学生への要望	資料等を工夫してイメージしやすい授業を心がけるので、積極的な授業参加を期待します。			
オフィスタイム	授業開始前・終了後・月曜3限・4限:	宇治研究室(836)		

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
	オリエンテーション	・授業内容、評価方法について説明する	このテーマに関連する資料などを探して読	60
1	子どもを理解すること 1	・子どもの実態に応じた発達や学びの把握について説明す	み、知見を広げる	
		వ		
2	子どもを理解すること 2	・共感的理解についての説明の後、グループワークを行う	このテーマに関連する資料などを探して読	60
۷			み、知見を広げる	
	子どもを理解する視点1	・子どもの生活面での発達を捉える視点について説明する	このテーマに関連する資料などを探して読	60
		・各クラス5グループに分かれ、1歳の子ども・2歳の子ど	み、知見を広げる	
2		も・3歳の子ども・4歳の子ども・5~7歳の子どもの様子		
3		について調べ、整理してまとめる		
	子どもを理解する視点2	・子どもの遊び面での発達を捉える視点について説明する	このテーマに関連する資料などを探して読	60
		・各クラス5グループに分かれ、1歳の子ども・2歳の子ど	み、知見を広げる	
		も・3歳の子ども・4歳の子ども・5~8歳の子どもの様子		
4		について調べ、整理してまとめる		
	子どもを理解する視点3	・子どもの集団における経験と育ち(自己主張と自己抑	このテーマに関連する資料などを探して読	60
		制・自己の主体性の形成)を捉える視点について説明する	み、知見を広げる	
		・各クラス5グループに分かれ、1歳の子ども・2歳の子ど		
5		も・3歳の子ども・4歳の子ども・5~9歳の子どもの様子		
		について調べ、整理してまとめる		
	子どもを理解する視点4	・子どもの葛藤やつまずきを捉える視点について説明する	ァルニーラに関すれて次約45 じも切して注	60
	丁ともを理解する倪只4	・・ 古ともの曷藤やつよすさを捉える祝点について説明する ・・ 各クラス5グループに分かれ、1歳の子ども・2歳の子ど		60
		も・3歳の子ども・4歳の子ども・5~10歳の子どもの様	の、加元で広りる	
6		子について調べ、整理してまとめる		
	子どもを理解する方法	・子どもを理解する方法について説明する	このテーマに関連する資料などを探して読	60
7		・前項でまとめたものを使って、省察と評価を行い、対応	み、知見を広げる	
		を考えてみる		
	子どもの理解に基づく発達援助	・発達の課題に応じた援助と関わりについて説明する	このテーマに関連する資料などを探して読	60
		・特別な配慮を要する子どもの理解と援助について説明す	み、知見を広げる	
8		వ		
		・発達の連続性と就学への支援について説明する		

令和5年及			_		
科目名	子どもの保健	対象			
担当教員	永瀬 悦子	単位数	短期大学部 幼児教育	学科 1年 2単位 選択	
開講期	II	必選			
授業概要	に多い疾患と体調不良時の症状に対する 義を行う。現代社会における子どもを見いても学ぶ。 【課題に対するフィードバック方法】引 【授業の目的】	る対処法について学作 取り巻く健康問題と記 最終授業で全体に対す	多する。助産師・看護的 果題について学ぶ。更に するフィードバックを行	学ぶ。子どもの心身の発育発達には個別性があることを踏まえ、子ども所として医療機関勤務および乳幼児健診等をしてきた経験を活かして講に、家庭と地域の連携を通した保健活動及びその関係機関との連携につます。 まずり、 まずり、 まずり、 まずり、 まずり、 まずり、 まずり、 まずり、 まずり、 まずり、 は・技術内容・子どもにかかわる姿勢(心)を理解する。	
達成目標	1)子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解し、保育保健を総合的に計画・実践について説明できる 2)子どもの発育発達には個別性があることを踏まえその支援内容について説明できる 3)子どもの心身の健康状態とその把握の方法を述べることができる 4)体調不良の子どもの観察とその対応について説明できる。ディプロマポリシーとの関係から「保育の内容理解と総合計画力」「「子どもの発達の理解と支援の力」「保育の方法と技術力」「問題解決力」を身に付けることを達成目標にする。これらのことを7割達成すれば単位認定とする。				
受講資格	保育士資格取得を希望する学生		成績評価 方法	筆記試験80点・レポート20点	
教科書	飯島一誠監修『保育者のためのわかりやすい子どもの保健』総合医学社 2022年 ※資料を毎回配付				
参考書	『保育所保育指針』フレーベル館 202	17年			
学生への要望	子どもの成長・発達の基礎的な知識をもとに、その健康を逸脱した過程における対応、健康課題に関する知識を学ぶ。講義は積極的に臨むことを期待する。				
オフィスタイム	火曜日 V時限 (16:10~17:40) 木曜日 I時限 (8:50~10:20) 8				

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	子どもの心身の健康と保健の意 義 1	1)生命の保持と情緒の安定に係る保健活動の意義と目的 2)目的健康の概念と健康指標 3)現代社会における保健活動と子どもの健康に関する現状と課題 ※保育所における保健活動が、生命の保持と情緒の安定にどのようにつながっているのかを考え養護と教育を一体的に行う意味や「健康」「人間関係」「環境」「表現」における目標や保育の重要性を学ぶ。	新聞記事や書籍、ニュース等を通して、現代の子どもの健康問題について調べる	120
2	子どもの心身の健康と保健の意 義 2	1)地域における保健活動と子どもの虐待防止 2)虐待に関する法律と保健活動学ぶ ※虐待に関わる諸統計からみる現状を理解する。更に、これらに対する母子保健の施策や体系、支援を開設する。そして保育者について求められる知識や取組みを考える。	新聞記事や書籍等で「虐待」について調べる	120
3	子どもの身体的発育・発達と保健1	1)子どもの身体発育の評価と成長に影響を及ぼす因子 2) 発達の順序と原始反射 ※発育・発達の目安となる指標を理解し、その発育状態の評価方法をその意義を学ぶ。		120
4	子どもの身体的発育・発達と保健2	1)子どもの生理機能の発達と保健 ※各器官の生理的機能とその成長過程について理解を深める。	教科書をよく読み学びを深める	120
5	子どもの身体的発育・発達と保 健3	1)新生児の特徴 2)母と子の心と身体のつながり ※新生児の特徴を理解し母子相互作用等についても学ぶ。	自分および身近な子どもの誕生について聞 いてまとめる。	120
6	子どもの心身の健康状態とその 把握 1	1)子どもの健康状態の観察 2)心身の不調時の早期発見 3) 発育・発達の把握と健康診断 4)保護者との情報共有 ※ 子どもの健康状態を観察し、表情や行動、しぐさ等も大切な観察点であることを学ぶ。体調不良時に早急に対応をして受診か否かの判断を求められることを理解する。また、保護者との情報共有する大切さを学ぶ。	策ガイドライン」(平成30年3月厚生労働 省)における「子どもの症状をみるポイン	120

	-授業内容とスケジュール-					
回	項目	授業内容	自学自習	目安時間		
7	感染経路と保健活動	1)感染症と要因 2)感染経路と対策 3)学校保健安全法施 行規則19条について 4)感染症の疑いのある時と発生時の 対応 ※感染症の要因と感染経路・対策の基礎的知識を理 解し、感染症の疑いのある子どもに対する対応を学ぶ。学 校保健安全法にある感染症の種類と登園停止期間を学ぶ。		120		
8	子どもの疾病の予防及び適切な 対応1	1)子どもの代表的な感染症①	課題レポートをまとめる	120		
9	子どもの疾病の予防及び適切な 対応2	1)子どもの主な病気の特徴(呼吸器系、循環器系、消化器 系、血液系)	教科書をよく読み学びを深める	120		
10	子どもの疾病の予防及び適切な 対応3	1)子どもの主な病気の特徴(泌尿器系、生殖器系、内分泌 系)	教科書をよく読み学びを深める	120		
11	子どもの疾病の予防及び適切な 対応4	1)子どもの主な病気の特徴(皮膚、神経系、骨・関節・筋肉 系、感覚器系)	教科書をよく読み学びを深める	120		
12	子どもの疾病の予防及び適切な 対応5	1)子どもの主な病気の特徴(アレルギー・免疫系)	教科書をよく読み学びを深める	120		
13	子どもの疾病の予防及び適切な 対応 6	1)発熱、脱水、咳嗽、喘鳴の症状観察と適切な対応 ※子ど もの健康状態の観察の方法及び主な症状(発熱・脱水咳嗽・ 喘鳴)の見方と対処法について学ぶ。		120		
14	子どもの疾病の予防及び適切な 対応 7	1)腹痛、下痢、嘔吐、便秘の症状観察と適切な対応 ※子どもの健康状態の観察の方法及び主な症状(腹痛、下痢、嘔吐、便秘)の見方と対処法について学ぶ。		120		
15	子どもの疾病の予防及び適切な 対応8	けいれん、熱中症、鼻出血、耳の異物、虫刺され、発疹の症状観察と適切な対応 ※子どもの健康状態の観察の方法及び主な症状(けいれん、熱中症、鼻出血、耳の異物、虫刺され、発疹)の見方と対処法について学ぶ。	策ガイドライン」(平成30年3月厚生労働	120		

令和5年度				
科目名	子どもの食と栄養	対象		
担当教員	水野 時子	単位数	短期大学部 幼児教育	学科 2年 2単位 選択
開講期	III	必選		
授業概要	な望ましい食生活のあり方、食事方法 (授業全体の内容の概要)	を理解する。さらに係 活をめぐる現状と課題 ぶ。また食育を行うた 伝達)方法:課題・L	展育所における食育の 夏、食生活と栄養に関 ための計画を立て発表。 ・ポート提出後、フィー	する基本的知識、発育・発達と食生活、食育の基本と内容、特別な配慮 会を行う。
達成目標	授業の達成目標は ①子どもの健やかな発育・発達のために食事が重要な役割を果たすことを理解している。 ②栄養に関する基本的知識を理解している。 ③食育の重要性や内容を理解している。 ④特別な配慮を要する子どもへの対応について理解している。 ⑤乳児期・幼児期・学童期の食生活の特徴、望ましい食生活について理解している。 単位認定の最低基準は、内容の8割を理解していること。 ディプロマ・ポリシーとの関係:「保育の内容理解と総合的計画力」、「子どもの発達の理解と支援の力」			
受講資格	特にありません		成績評価 方法	課題の提出 60点、感想レポートの提出 40点 60%以上で合格とする。
教科書	子どもの食と栄養(岡井紀代香・吉井	美奈子 編著, ミネル	レヴァ書房,京都市,2	200円〔税別〕)
参考書	必要に応じて連絡する。			
学生への要望	子どもの食について興味と関心を持ち生活してください。			
オフィスタイム	水野:火曜日12:10~12:40、木曜日 善方:月曜日12:10~12:40、水曜日			

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	子どもの健康と食生活の意義	子どもの健やかな発育・発達のための食事の重要性について、また食事は栄養面だけでなく社会性の発達や食習慣の 形成にも深く関わりのあることを学び理解する。	授業の内容を振り返る。	20
2	課題	子どもの生活習慣の現状、朝食の摂食と就寝時間の関係、 子どもの体型等について学び、子どもの食生活をめぐる現 状と課題について理解する。	授業の内容を振り返る。	20
3	子どもの食生活の理解	子どもの食に関する理解を深めるためにビデオ「3歳児食べるよろこび」を視聴し、食べることを通して親や保護者の係わり方、また子ども自身の成長を理解する。 レポート:ビデオを通して学んだことについて感想レポートを提出する。 《参考ビデオ「3歳児食べるよろこび」》 企画:キッコーマン醤油株式会社、制作:岩波映画作成所	授業の内容を振り返る。	40
4	栄養に関する基礎知識 1	食べ物に含まれている栄養素の種類とその働き、「日本人の食事摂取基準2020年版」における小児期栄養の留意点を 学び理解する。	授業の内容を振り返る。	20
5	栄養に関する基礎知識 2	栄養の特性を理解し、食事摂取基準をもとにした献立作成 と食品構成について学び、どのような組み合わせで食べれ ばよいかを理解する。		40
6	子どもの発育発達と食生活 1 乳児期	乳児の食べる機能の変化と栄養補給法(乳汁栄養・離乳)について学び、乳児栄養について理解する。また、調乳方法について学び理解する。 「第1回~第5回授業内容に関する課題」を提出する。		20

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	子どもの発育発達と食生活 2 幼児期	幼児期の食機能の特徴と間食が必要な理由と与え方について学び、幼児期栄養について理解する。また、保育所給食の実際について学び理解する。	授業の内容を振り返る。	20
8	子どもの発育発達と食生活3 学童期	「食習慣の完成期」である学童期の食行動の実態や動向、 また学童期の食生活の特徴と学校給食について学び、学童 期栄養について理解する。	授業の内容を振り返る。	40
9	特別な配慮を要する子どもの食 と栄養	疾病及び体調不良の子ども、食物アレルギーのある子ども、障がいのある子ども、それぞれの配慮を要する子どもへの理解と、食事の対応や栄養について学び理解する。	授業の内容を振り返る。 「第6~9回授業内容に関する課題」に取り 組む。	40
10	食育の基本と内容(1)	食育とは何か、食育基本法、保育所で食育を行う意義について学び理解する。 「第6~9回授業内容に関する課題」を提出する。	授業の内容を振り返る。	20
11	食育の基本と内容(2)	月・年齢に応じた食育について学び、給食を通してどのような食育ができるのか、地域と連携をとることでどのような食育ができるのか、検討を行う。	授業の内容を振り返る。 「第10・11回授業内容に関する課題」に取 り組む。	20
12	食育研究発表会について	13回・14回の授業で行う「食育研究の発表会」の内容と進め方を説明する。 「第10・11回授業内容に関する課題」を提出する。	授業の内容を振り返る。	20
13	食育研究の発表会(1)	「食育の研究発表会」を行う。	授業の内容を振り返る。	20
14	食育研究の発表会 (2)	「食育の研究発表会」を行う。	授業の内容を振り返る。 「食育研究の発表会」の感想レポートに取 り組む。	40
15	授業のまとめ	「子どもの食と栄養」についてのまとめを行う。 「食育研究の発表会」の感想レポートを提出する。	「子どもの食と栄養」で学んだ内容の復習 を行う。	45

令和5年度				
科目名	子どもの食と栄養	対象		
担当教員	善方 美千子	単位数	短期大学部 幼児教育	育学科 2年 2単位 選択
開講期	III	必選		
授業概要	な望ましい食生活のあり方、食事方法 (授業全体の内容の概要)	を理解する。さらに係 活をめぐる現状と課題 ぶ。また食育を行うた 伝達)方法:課題・レ	展育所における食育の 夏、食生活と栄養に関 ための計画を立て発表 レポート提出後、フィ	]する基本的知識、発育・発達と食生活、食育の基本と内容、特別な配慮  会を行う。
達成目標	授業の達成目標は ①子どもの健やかな発育・発達のために食事が重要な役割を果たすことを理解している。 ②栄養に関する基本的知識を理解している。 ③食育の重要性や内容を理解している。 ④特別な配慮を要する子どもへの対応について理解している。 ⑤乳児期・幼児期・学童期の食生活の特徴、望ましい食生活について理解している。 単位認定の最低基準は、内容の8割を理解していること。 ディプロマ・ポリシーとの関係:「保育の内容理解と総合的計画力」、「子どもの発達の理解と支援の力」			
受講資格	特にありません		成績評価 方法	課題の提出 60点、感想レポートの提出 40点 60%以上で合格とする。
教科書	子どもの食と栄養(岡井紀代香・吉井	美奈子 編著, ミネル	レヴァ書房,京都市,	2200円〔税別〕)
参考書	必要に応じて連絡する。			
学生への要望	子どもの食について興味と関心を持ち	生活してください。		
オフィスタイム	水野:火曜日12:10~12:40、木曜日 善方:月曜日12:10~12:40、水曜日			

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	子どもの健康と食生活の意義	子どもの健やかな発育・発達のための食事の重要性について、また食事は栄養面だけでなく社会性の発達や食習慣の 形成にも深く関わりのあることを学び理解する。	授業の内容を振り返る。	20
2	子どもの食生活をめぐる現状と 課題	子どもの生活習慣の現状、朝食の摂食と就寝時間の関係、 子どもの体型等について学び、子どもの食生活をめぐる現 状と課題について理解する。	授業の内容を振り返る。	20
3	子どもの食生活の理解	子どもの食に関する理解を深めるためにビデオ「3歳児食べるよろこび」を視聴し、食べることを通して親や保護者の係わり方、また子ども自身の成長を理解する。 レポート:ビデオを通して学んだことについて感想レポートを提出する。 《参考ビデオ「3歳児食べるよろこび」》 企画:キッコーマン醤油株式会社、制作:岩波映画作成所	授業の内容を振り返る。	40
4	栄養に関する基礎知識 1	食べ物に含まれている栄養素の種類とその働き、「日本人の食事摂取基準2020年版」における小児期栄養の留意点を 学び理解する。	授業の内容を振り返る。	20
5	栄養に関する基礎知識 2	栄養の特性を理解し、食事摂取基準をもとにした献立作成 と食品構成について学び、どのような組み合わせで食べれ ばよいかを理解する。	2000	40
6	子どもの発育発達と食生活 1 乳児期	乳児の食べる機能の変化と栄養補給法(乳汁栄養・離乳)について学び、乳児栄養について理解する。また、調乳方法について学び理解する。 「第1回〜第5回授業内容に関する課題」を提出する。		20

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	子どもの発育発達と食生活 2 幼児期	幼児期の食機能の特徴と間食が必要な理由と与え方について学び、幼児期栄養について理解する。また、保育所給食の実際について学び理解する。	授業の内容を振り返る。	20
8	子どもの発育発達と食生活3 学童期	「食習慣の完成期」である学童期の食行動の実態や動向、 また学童期の食生活の特徴と学校給食について学び、学童 期栄養について理解する。	授業の内容を振り返る。	40
9	特別な配慮を要する子どもの食 と栄養	疾病及び体調不良の子ども、食物アレルギーのある子ども、障がいのある子ども、それぞれの配慮を要する子どもへの理解と、食事の対応や栄養について学び理解する。	授業の内容を振り返る。 「第6~9回授業内容に関する課題」に取り 組む。	40
10	食育の基本と内容(1)	食育とは何か、食育基本法、保育所で食育を行う意義について学び理解する。 「第6~9回授業内容に関する課題」を提出する。	授業の内容を振り返る。	20
11	食育の基本と内容(2)	月・年齢に応じた食育について学び、給食を通してどのような食育ができるのか、地域と連携をとることでどのような食育ができるのか、検討を行う。	授業の内容を振り返る。 「第10・11回授業内容に関する課題」に取 り組む。	20
12	食育研究発表会について	13回・14回の授業で行う「食育研究の発表会」の内容と進め方を説明する。 「第10・11回授業内容に関する課題」を提出する。	授業の内容を振り返る。	20
13	食育研究の発表会(1)	「食育の研究発表会」を行う。	授業の内容を振り返る。	20
14	食育研究の発表会 (2)	「食育の研究発表会」を行う。	授業の内容を振り返る。 「食育研究の発表会」の感想レポートに取 り組む。	40
15	授業のまとめ	「子どもの食と栄養」についてのまとめを行う。 「食育研究の発表会」の感想レポートを提出する。	「子どもの食と栄養」で学んだ内容の復習 を行う。	45

科目名	教育・保育課程論	対象			
担当教員	安部 高太朗	単位数	短期大学部 幼児教育	学科	1年 2単位 必修/短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択
開講期	II	必選			
授業概要	針」「幼保連携型認定こども園教育・ 義、編成の方法、指導案の作成、カリ や保育者の関わりの様子をスライドや	保育要領」を基準にし キュラム・マネジメン ビデオなどで示しつつ プ・ワークを行いつつ	た計画を立てられる; ・トなどを取りあげる。 つ、具体的な子どもの。 つ、現場に直結する力;	さめにまたいまたいまた。	育課程はどのようなものか。「幼稚園教育要領」「保育所保育指 に必要な基礎を講義する。具体的には、教育・保育課程の役割や意 に附属幼稚園での勤務をもとに、実際の保育現場での子どもの姿等 保育についての現代的な課題についての話題を提供し、指導計画作 につけていく。なお、最終授業で全体に対するフィードバックを行
達成目標	本科目は、ディプロマ・ポリシーの「保育の内容理解と総合的計画力」と「保育の方法と技術力」に対応している。 ①教育・保育課程の役割と意義を、7割以上理解できたか。 ②教育・保育課程の編成と指導計画の作成方法について、7割以上理解できたか。 ③教育・保育課程のマネジメントの必要性を、7割以上理解できたか。				
受講資格	原則として、幼稚園教諭二種、保育士	資格取得希望者	成績評価 方法	②授	受業参加度:30% 受業内試験:70% - ②以上で100%
教科書	・文部科学省『幼稚園教育要領(平成29年3月告示)』フレーベル館、2017年。 ・厚生労働省『保育所保育指針(平成29年3月告示)』フレーベル館、2017年。 ・内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示)』フレーベル館、2017年。 ・古林ゆり(監修・執筆)『0~5歳児年齢別 実習の日誌と指導案 完全サポート』新星出版社、2017年。				
参考書	・その他、授業中に適宜プリントを配	布する。			
学生への要望	授業用のノートを用意すること。 欠席、遅刻はしないようにすること。 指導計画の作成にはイメージの豊かさが大事である。授業内容に沿った気づきや発想を、積極的に発言すること。				
オフィスタイム	安部 月曜日:16:00~17:30 821研究室     火曜日:16:00~17:30 821研究室     り間 月~金曜日 10:00~11:30 附属幼稚園応接室				

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション (担当:安部 高太朗)	・講義内容について説明を受け、到達目標や評価方法を確認する。保育活動がどのように行われているのか、気づいたことを共有する。		60
2	教育・保育課程とは何か (担当:安部 高太朗)	・カリキュラムの発生を知ることをとおして、経験カリキュラムについて学ぶ。また、我が国日本で告示された教育要領等の学校教育における位置づけや性格を学び、教育課程等を作成する必要性について考える。		60
3	教育要領の変遷 (担当:安部 高太朗)	・戦後「保育要領」として生まれ、「幼稚園教育要領」として今日まで改訂されてきた変遷を知る。その際、社会からの要請が関連していたことを理解する。また、同時に「保育所保育指針」の変遷についても学ぶ。これまで学んだことをまとめる。	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」 「幼保連携型認定こども園教育・保育要 領」の変遷をまとめる。	60
4	教育課程・指導計画の種類 (担当:賀門 康博)	・保育三法令(幼稚園教育要領・保育指針・幼保連携型認定 こども園教育保育要領)について、29年度の改訂版をもと に、それぞれの内容と関連性を話しつつ、"3つの視点(0 歳)""5領域(1~5歳)""10の姿"などのキーワードを学 び、保育の置けるその位置づけを理解する。	「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」で要となる"3つの視点 (0歳)""5領域	60
5		・5領域や10の姿等の内容を照らし合わせながら、子どもの姿や日々の生活・体験が子ども達の成長にとってどういった意味を持つのかについて、ビデオなどの視聴をつつ、理解を深める。		60

-授業内容とスケジュール-					
回	項目	授業内容	自学自習	目安時間	
6	指導計画の構成について① (担当:賀門 康博)	・指導計画はどういった構成になっており、それぞれがどういった関係であるのかについて、全体像を理解する。また、構成要素のうち、「子どもの姿」「ねらい」「内容」について掘り下げ、その意味を理解する。	い」「内容」についてそれぞれの意味と違	60	
7	指導計画の構成について② (担当:賀門 康博)	・前回に続き、指導計画の構成について学ぶ。全体の構成 を考えつつ、構成要素のうち「環境の構成」「予想される 子どもの姿」「保育者の援助・配慮」について掘り下げ、 その意味を理解する。	指導計画における「環境の構成」「予想される子どもの姿」「保育者の援助・配慮」についてそれぞれの意味と違いを理解する。	60	
8		・前回までに学んだ指導計画の全体像の理解を踏まえ、以後4回にわたり各論的にワークを行い、実際の記述の仕方などを学ぶ。この回では指導計画の基礎となる「子どもの姿」について、"個の理解"と"全体の理解"の重要性について学ぶ。また、ビデオなどを用いながら行動観察などでのポイントやその意味を理解する。		60	
9		・前回から引き続き、子どもの姿についてのワークを行う。実際に実習でクラス担当になり、部分実習などで全体への指導を行う際に、クラス全体の状態をどのように指導計画に反映させるかについて、幾つかの視点を提示しつつ、指導計画への記述について理解する。	個の発達の姿を理解しつつ、集団保育の中で重要とされる関わりについてポイントを 理解する。	60	
10	指導計画作成の実際②(ねら い・内容) (担 当:賀門 康博)	・前回に引き続きワークを行う。この回では、子どもの姿を踏まえた上で、どのように「ねらい」や「内容」を立てていくかについてそのポイントを学び、指導計画への記述の手順などを理解する。	方について、5領域等の視点を持った考え	60	
11	指導計画作成の実際③ (環境設定・予想される子どもの姿) (担当:賀門 康博)	・前回に引き続きワークを行う。この回では、前回理解したねらいや内容に準じて、どういった形で「環境構成」をし、「子どもの姿を予想する」かについてそのポイントを学び、指導計画への記述の手順などを理解する。	構成」と「子どもの予想される姿」につい	60	
12		・前回に引き続きワークを行う。この回では、活動の内容や予想される子どもの姿に対して、ねらいを達成するための「保育者の援助や配慮」についてそのポイントを学び、指導計画への記述の手順などを理解する。		60	
13		・これまでに学んだ指導計画(部分指導・一日指導)が、子どもたちの日々の成長の中でどういった見通しをもって作成されるべきであるかについて、より長期的な教育課程との関連や、小学校との連携(指導要録の作成)の意味と関連させながら学ぶ。	保育における現代的な課題について概観する。	60	
14	カリキュラム・マネジメントに ついて② (担 当:賀門 康博)	・カリキュラムの評価や発達や環境の違いに応じて、柔軟に対応(ネージメント)していくことの大切さを知る。	PDCAサイクルについて理解し、現代的な 課題に対して指導計画を体操させていく重 要性を理解する。	60	
15	まとめ (担当:安部 高太朗)	・これまで授業で学んできたことを、実習で経験したことをとおして振り返り、授業内試験を受け、教育・保育課程の役割や意義等を再確認する。		60	

令和5年度	T., _ , , _ , , _ ,		1		
科目名	特別支援教育基礎論	対象			
担当教員	小林 徹	単位数	短期大学部 幼児教育	学科 1年 2単位 必修	
開講期	II	必選			
	中学校特別支援学級担任教諭としての打	指導経験や市町村教育	育支援委員としての幼稚	<b>性園・保育所等との連携の経験に基づき、研究成果も踏まえて以下の内</b>	
	容を講義する。				
	1. 特別支援教育を支える理念や歴史的	的変遷について理解す	する。		
	2. 特別支援教育の場(機関)と制度の	<b>の現状をとらえる。</b>			
	3. さまざまな障がいと障がい児、特別	別な配慮を要する子と	どもの理解の視点と方法	去について理解する。	
授業概要	4. 障がい児等の個別支援計画の作成、	評価について理解す	する。		
	5. 特別支援教育の実際について理解を	を深める。			
	課題、レポート、実技については、実施	施後に授業内でフィ-	-ドバックを行う。		
	位置づけ・水準 CE2116				
	1. 特別支援教育の理念や制度、その歴史や支援機関の現状をどの程度理解できたか。				
	2. 障がい児や特別な配慮を要する子	どもの個別指導(支援	爰) 計画の作成、評価に	こついてどの程度理解できたか。	
達成目標	3. さまざまな障がいと障がい児や特別	別な配慮を要する子と	どもを支援するための神	見点と方法について理解できたか。	
ZM IN	単位認定の最低基準は、内容の7割が理	解できていること。			
	ディプロマ・ポリシーとの関係:保育の	の内容理解と総合的記	計画力、子どもの発達の	り理解と支援の力、保育の方法と技術力	
777 =## \An 1 An	幼児教育学科の学生を中心とする		成績評価	平常点50点(小テスト、提出物、授業態度による減点)	
受講資格			方法	期末試験50点	
	小林徹・栗山宣夫編著『ライフステージ	ジを見通した障害児の	保育と特別支援教育』。	みらい,2020	
おりき	文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館,2018				
<b>教科書</b>	<b>教科書</b> 厚生労働省編『保育所保育指針解説』フレーベル館,2018				
	内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館,2018				
参考書	七木田敦編著『保育そこが知りたい!気になる子Q&A』チャイルド本社,2008				
学生への要望	障がいや障がい児について関心をもち、学習を深めてほしい。				
オフィスタイム	毎週水曜9:10~12:05、小林徹研究室	室。それ以外は個別村	目談(cobalt@koriyam	a-kgc.ac.jpにメールして日時を設定)	

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	特別支援教育の考え方	障がい児、特別な配慮を要する子ども、特別支援教育の基 礎概念について学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
2	特別支援教育の歴史	特別支援教育と障がい児保育の歴史的変遷について学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
3	特別支援教育の制度と仕組み	特別支援教育と障がい児福祉の制度とその仕組みについて 学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
4	発達障がいの理解と支援①	さまざまな発達理論の基礎概念と障がいとの関連について 映像を通して学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
5	発達障がいの理解と支援②	障がいの基礎概念とその発見、支援の流れについて映像を 通して学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
6	発達障がいへのアプローチ	映像を通して発達障がいに関する基礎的概念を整理し、その支援方法を考える。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
7	障がい児の子育て	障がいのある子どもの子育ての考え方と療育の実際を映像 を通して学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
8	知的障がい	映像を通して知的障がいに関する基礎的概念を整理し、その支援方法を考える。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
9	自閉症	映像を通して自閉症に関する基礎的概念を整理し、その支援方法を考える。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
10	その他の障がい	映像を通してその他の障がいに関する基礎的概念を整理 し、その支援方法を考える。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
11	障がい児支援の工夫	障がい児支援に関わるさまざまな工夫について紹介し、理解を深める。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
12	他機関との連携	ゲストスピーカーを招いて、特別支援教育に関するさまざ まな機関との連携について学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
13	子ども理解と保育方法①	子どもとその特別な教育的ニーズをどのように見出し、理解するかを個別の指導計画の作成を通して学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
14	子ども理解と保育方法②	子どもとその特別な教育的ニーズから、個別の指導計画を 作成し、適切で具体的な保育方法を考える。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
15	まとめ	学習内容を振り返り、保育者として特別支援教育にどう取り組むかを考察する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30

令和5年度				
科目名	教育方法論	対象		
担当教員	賀門 康博	単位数	短期大学部 幼児教	育学科 2年 1単位 選択
開講期	IV	必選		
授業概要	い」を達成するために行う保育内容が、は、実践場面のビデオなどを使ってのケととする。	子どもの姿に即し、 一ススタディや、 行の学修に加え、 を行います。 (現在は園長) として	適切なものなのかを グループワークなどを 園庭の有無など様々な て郡山女子大学附属&	
達成目標	本科目は、ディプロマ・ポリシーの「保育を実践するための方法や技術」と「学習した知識や技術を統合し、問題を解決する能力」に対応している。 一人ひとりの子どもの発達段階に即しつつ、「環境を通じた指導(保育)」の意義・意味を理解するとともに、保育の「ねらい」に応じた様々な指導方法を学ぶ。それらを通じ、指導計画における「方法(内容)」の作成能力、そしてその実践力の基礎を身につける。 ①保育における「環境を通じた指導」の意義・意味を理解できたか ②指導を行う上でのさまざまな指導方法を理解し、指導のねらいと併せた理解ができたか ③グループや全体での話し合いを通じ、ねらいに対して様々な方法があることを知り、自分の保育観の幅を広げることができたか。 単位認定の最低基準:「内容の7割を理解していること」			
受講資格	原則として、幼稚園教諭二種、保育士資	格取得希望者	成績評価 方法	授業参加度30% レポート70%
教科書			•	
参考書	<ul><li>・幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)</li><li>・保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省)</li><li>・幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府)</li></ul>			
学生への要望	授業用のノートを用意すること。 欠席、遅刻はしないようにすること。 保育における「ねらい」と「方法」(内容)の関係を意識し、授業内容に沿った気づきや発想を、積極的に発言すること。			
オフィスタイム	賀門・奥 月〜金曜日 10:00~1 15:00~1	1:30 附属幼和 7:00 附属幼和		

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
	オリエンテーション(賀門、奥)	講義の内容、予定、評価など、授業に関する説明を聞く。	自らの実習体験等から、そこで行われてい	30
1	~本授業のねらいと概要(賀門、	授業を構成する三要素(「園児」と「教員」と「教材」)に	た保育方法について振り返り、その意味を	
	奥)~	ついて知る。	考察する。	
	各カリキュラムと教育方法の関	保育三法令を含め、保育に関するカリキュラムの存在につ	「ねらい」と「方法(内容)」についての位	30
	係の理解(賀門) ~子どもの	いて再確認するとともに、そこにあるねらいを達成するた	置づけについて、実習やこれまでの授業を	
2	姿、ねらいと方法~	めの「方法」との関連性について知るとともに、子どもの	振り返り考察する。	
		姿と連携する重要性について知る。		
	様々な保育方法がある事を知る	これまでの保育の歴史の中で、様々な保育方法が開発され	教科書などを読んで、一般的に或様々な保	30
	(賀門) ~モンテッソーリやフ	た事を知る。それぞれの特徴を理解するとともに、保育現	育方法について考える。	
3	レーベルが開発した教材・教具	場では教育理念やねらいに合う教育方法を採っている事を		
	等~	知る。		
	教育機器の使用① ビデオを	前回までの知識を基に、実際の保育場面の様子を視覚的に	一年次の授業(教育保育課程論など)のノー	30
	使ってのケーススタディ(賀門、	見る中で、教材の出し方やそのタイミング等についてワー	トなどを振り返り、指導計画の作成につい	
4	奥) ~教材の特性、関わりのタ	ク等を通じ考察や理解を深める。そうした考察を元に、指	て復習をしておく。	
	イミング、保育実践(指導計画)	導計画を作成し、実践力を高める。		
	への反映等~			
	教育機器の使用② ビデオを	ビデオを使ってのケーススタディを行いつつ、前回作成し	前回作成した指導計画を用いた保育をイ	30
	使ってのケーススタディ(賀門、	た指導計画に従った模擬保育の実践を行い、実際の保育場	メージしながら、その保育に必要な物や使	
5	奥) ~、模擬保育の実践と振り	面でのより効果的な教材の活用方法について考察を行い、	い方などを考えておく(教材研究)。	
	返り~	理解を深める。		
	教育機器の使用③ パソコンや	パソコンやタブレットなど先進的なICT機器を活用した保育	ICT機器のメリットやデメリットについ	30
	タブレットなど、近年導入が進	の存在を知ると共に、現代の子どもたちが不足した経験を	て、教科書などを用いながら考えておく。	
6	んでいるが教育機器を使用した	どう補っていくかについて考察を行う。		
	保育について(賀門)			
	1	1	I .	

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	リキュラムマネージメント、 PDCAと併せた保育方法の再考	これまでのワークなどを踏まえ、保育実践そのものが一回で終わるものではなく、振り返りを行い、より良い方法を考える必要がある事を知る。その評価が子ども主体である事が重要である事を知る。		30
	振り返りとまとめ、自らの保育観の醸成(賀門、奥)	これまで学んできたことから、望ましい保育実践について まとめる。	ノートやプリントを整理し、保育をいかに 進めていくかを考える基礎となる視点を再 確認する。	30

市和3千皮				
科目名	保育相談支援	対象		
担当教員	宇治 和子	単位数	短期大学部 幼児教	育学科 2年 2単位 選択
開講期	IV	必選		
授業概要	昨今の保育現場では、家族構造の変化を背景として、養育者(保護者)の相談ニーズが増加しています。養育者と信頼関係を形成し、家族が抱える支援のニーズに気づき、実際に援助を行える保育者を目指して、相談、助言、情報提供、モデルの提示等のさまざまな支援のあり方を具体的に検討します。この授業は、子ども家庭福祉の現場で心理職として相談の実務経験がある教員が担当し、各種課題は授業内にて随時返却 or 口頭フィードバックしていきます(位置付け・水準 CE2219)。			
達成目標	本授業は、以下2点を達成目標(8割以上で単位認定)とします。 ・養育者(保護者)や子どもと信頼関係を作る方法を理解する。 ・相談者の状況を把握し、子ども発達に応じた支援計画を自分なりに立てることができる。 なおこの科目は、本学科DPの「子どもの発達の理解と支援の力」「保育の方法と技術力」に関連しています。			
受講資格	対児教育学科2年 成績評価 積極的な授業参加(20%)、授業内課題やレポート(3回:80%)に 方法 より評価します。			
教科書	教科書は使わず、レジュメ、資料を配布します。			
参考書	授業の中で、随時紹介します。			
学生への要望	資料等を工夫してイメージしやすい授業を心がけるので、積極的な授業参加を期待します。			
オフィスタイム	授業開始前・終了後・月曜3限・4限:宇治研究室(836)			

2 聞記事を探して読み、知見を広げる	回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
2 検育相談・支援とは1 ・ 仮育者に求められる基本的態度について説明する		オリエンテーション	・授業内容、評価方法について説明する	このテーマに関連する資料やニュース、新	60
2	1	保育相談支援の社会的背景	・子育てをしている家庭に対する支援の意義や目的、役割	聞記事を探して読み、知見を広げる	
2			を説明する		
日記書を終して深み、知見を広げる		保育相談・支援とは1	・保育者に求められる基本的態度について説明する	このテーマに関連する資料やニュース、新	60
# 個談業務を組み立てる1	2			聞記事を探して読み、知見を広げる	
問題単を探して訪み、知見を広げる		保育相談・支援とは2	・保育の専門性を活かした子育て支援について説明する	このテーマに関連する資料やニュース、新	60
日	3			聞記事を探して読み、知見を広げる	
日報業務を組み立てる2   ・質問の立て方について検討した後、相談ロールプレイ、	4	相談業務を組み立てる1	・インテーク面接での基本について説明する	資料をよく読みこんで、予習・復習するこ	60
6   情報整理シートの記入を行う   と   と	4			ک	
情報整理シートの記人を行う   と		相談業務を組み立てる2	・質問の立て方について検討した後、相談ロールプレイ、	資料をよく読みこんで、予習・復習するこ	60
日	5		情報整理シートの記入を行う	ک	
相談業務を組み立てる4		相談業務を組み立てる3	・アセスメントツールについて説明する	資料をよく読みこんで、予習・復習するこ	60
# 相談業務を組み立てる5 ・ 行動観察の方法を説明する ・ 行動観察のトレーニングを行う (動画によるワーク) を	6		・ジェノグラムの書き方・読み方について説明する	ک	
# 相談業務を組み立てる5 ・ 行動観察の方法を説明する ・ 行動観察のトレーニングを行う (動画によるワーク) を					
相談業務を組み立てる5	7	相談業務を組み立てる4	・エコマップの書き方・読み方について説明する	資料をよく読みこんで、予習・復習するこ	60
8 ・行動観察のトレーニングを行う(動画によるワーク) と	1			ک	
相談業務を組み立てる6		相談業務を組み立てる5	・行動観察の方法を説明する	資料をよく読みこんで、予習・復習するこ	60
3	8		・行動観察のトレーニングを行う(動画によるワーク)	ک	
3					
10		相談業務を組み立てる6	・発達検査について説明する(乳幼児発達検査:遠城寺	資料をよく読みこんで、予習・復習するこ	60
・読み取りトレーニングを行う(分析練音課趣実施)	0		式・新版K式・田中ビネー)	ک	
10       ・架空事例を使って面接相談のロールプレイを実施する ・支援計画を含む面接相談記録の作成を行う       と         11       多様な支援の展開と関係機関と の連携 1       ・障害のある子ども及びその家庭に対する支援(障害受容)について説明する資料やニュース、新聞記事を探して読み、知見を広げる       60         12       多様な支援の展開と関係機関と の連携 2       ・社会資源について説明し、どのように活用することが出まることが出まる企業の連携を保証する資料をニュース、新聞記事を探して読み、知見を広げる       60         13       多様な支援の展開と関係機関との連携 3       ・の手福祉、シングル家庭の状況に応じた支援の具体例を説明である資料をニュース、新聞記事を探して読み、知見を広げる       60         14       多様な支援の展開と関係機関との連携 4       ・要保護児童等及びその家庭に対する支援の具体例を説明である資料をニュース、新聞記事を探して読み、知見を広げる       60         15       多様な支援の展開と関係機関とい子ども虐待の予防と対応を目的とした子育で支援の具体をごのテーマに関連する資料をニュース、新聞記事を探して読み、知見を広げる       60	9		・読み取りトレーニングを行う(分析練習課題実施)		
10       ・架空事例を使って面接相談のロールプレイを実施する ・支援計画を含む面接相談記録の作成を行う       と         11       多様な支援の展開と関係機関と の連携 1       ・障害のある子ども及びその家庭に対する支援(障害受容)にのテーマに関連する資料やニュース、新図記事を探して読み、知見を広げる       60         12       多様な支援の展開と関係機関と の連携 2       ・社会資源について説明し、どのように活用することが出まるとが出まる。 ・ペアレントトレーニングのワークを行う       このテーマに関連する資料やニュース、新図記事を探して読み、知見を広げる       60         13       多様な支援の展開と関係機関との連携 3       ・母子福祉、シングル家庭の状況に応じた支援の具体例を説明まる。 ・受保護児童等及びその家庭に対する支援の具体例を説明である。 ・要保護児童等及びその家庭に対する支援の具体例を説明である。 ・要保護児童等及びその家庭に対する支援の具体例を説明を認力を表現して読み、知見を広げるの連携 4       このテーマに関連する資料やニュース、新図記事を探して読み、知見を広げる       60         15       多様な支援の展開と関係機関との予防と対応を目的とした子育で支援の具体の表現を記述する。       このテーマに関連する資料やニュース、新図記事を探して読み、知見を広げる       60		担談学教を知り立て 2.7	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	姿料 た ト / 注 カ ァ / ボ マ 羽 . 佐 羽 士 ス ァ	60
10       ・支援計画を含む面接相談記録の作成を行う         11       多様な支援の展開と関係機関との連携 1       ・障害のある子ども及びその家庭に対する支援(障害受容)について説明するでは、知見を広げる       このテーマに関連する資料やニュース、新聞記事を探して読み、知見を広げる         12       多様な支援の展開と関係機関との連携 2       ・社会資源について説明し、どのように活用することが出来るかを検討する・ペアレントトレーニングのワークを行う       このテーマに関連する資料やニュース、新聞記事を探して読み、知見を広げる         13       多様な支援の展開と関係機関との連携 3       ・母子福祉、シングル家庭の状況に応じた支援の具体例を説明するの連携 3       このテーマに関連する資料やニュース、新聞記事を探して読み、知見を広げる       60         14       多様な支援の展開と関係機関との連携 4       ・安保護児童等及びその家庭に対する支援の具体例を説明する       このテーマに関連する資料やニュース、新聞記事を探して読み、知見を広げる       60         15       多様な支援の展開と関係機関との連携 2       ・子ども虐待の予防と対応を目的とした子育で支援の具体ののでは関連する資料やニュース、新聞記事を探して読み、知見を広げる       60		旧欧木坊で旭の立てる「			00
11       多様な支援の展開と関係機関と の連携1       ・障害のある子ども及びその家庭に対する支援(障害受 変別について説明する       このテーマに関連する資料やニュース、新 間記事を探して読み、知見を広げる       60         12       多様な支援の展開と関係機関と の連携2       ・社会資源について説明し、どのように活用することが出 来るかを検討する でアレントトレーニングのワークを行う       このテーマに関連する資料やニュース、新 間記事を探して読み、知見を広げる       60         13       多様な支援の展開と関係機関と の連携3       ・ペアレントトレーニングのワークを行う 説明する       このテーマに関連する資料やニュース、新 間記事を探して読み、知見を広げる       60         14       多様な支援の展開と関係機関と の連携4       ・要保護児童等及びその家庭に対する支援の具体例を説明 する 変数である 関記事を探して読み、知見を広げる       このテーマに関連する資料やニュース、新 間記事を探して読み、知見を広げる       60         15       多様な支援の展開と関係機関と ・子ども虐待の予防と対応を目的とした子育で支援の具体       このテーマに関連する資料やニュース、新 60       60	10				
11       の連携1       容) について説明する       聞記事を探して読み、知見を広げる         2       多様な支援の展開と関係機関と 中子では関連する資料やニュース、新 来るかを検討する 中ペアレントトレーニングのワークを行う       このテーマに関連する資料やニュース、新 間記事を探して読み、知見を広げる       60         13       多様な支援の展開と関係機関と の連携3       ・母子福祉、シングル家庭の状況に応じた支援の具体例を 説明する 間記事を探して読み、知見を広げる       このテーマに関連する資料やニュース、新 間記事を探して読み、知見を広げる       60         14       多様な支援の展開と関係機関と の連携4       ・要保護児童等及びその家庭に対する支援の具体例を説明 する 間記事を探して読み、知見を広げる       このテーマに関連する資料やニュース、新 間記事を探して読み、知見を広げる       60         15       多様な支援の展開と関係機関と ・子ども虐待の予防と対応を目的とした子育で支援の具体 このテーマに関連する資料やニュース、新 60       60					
11       の連携1       容) について説明する       聞記事を探して読み、知見を広げる         2       多様な支援の展開と関係機関と 中子では関連する資料やニュース、新 来るかを検討する 中ペアレントトレーニングのワークを行う       このテーマに関連する資料やニュース、新 間記事を探して読み、知見を広げる       60         13       多様な支援の展開と関係機関と の連携3       ・母子福祉、シングル家庭の状況に応じた支援の具体例を 説明する 間記事を探して読み、知見を広げる       このテーマに関連する資料やニュース、新 間記事を探して読み、知見を広げる       60         14       多様な支援の展開と関係機関と の連携4       ・要保護児童等及びその家庭に対する支援の具体例を説明 する 間記事を探して読み、知見を広げる       このテーマに関連する資料やニュース、新 間記事を探して読み、知見を広げる       60         15       多様な支援の展開と関係機関と ・子ども虐待の予防と対応を目的とした子育で支援の具体 このテーマに関連する資料やニュース、新 60       60		多様な支援の展開と関係機関と	・ 障害のある子ども及びその家庭に対する支援 (障害受	このテーマに関連する資料やニュース、新	60
12     の連携2     来るかを検討する ・ペアレントトレーニングのワークを行う     聞記事を探して読み、知見を広げる       13     多様な支援の展開と関係機関と の連携3     ・母子福祉、シングル家庭の状況に応じた支援の具体例を 説明する     このテーマに関連する資料やニュース、新 聞記事を探して読み、知見を広げる     60       14     多様な支援の展開と関係機関と の連携4     ・要保護児童等及びその家庭に対する支援の具体例を説明 する     このテーマに関連する資料やニュース、新 間記事を探して読み、知見を広げる     60       3     多様な支援の展開と関係機関と ・子ども虐待の予防と対応を目的とした子育て支援の具体     このテーマに関連する資料やニュース、新 の見を広げる     60	11				
13       多様な支援の展開と関係機関と の連携3       ・母子福祉、シングル家庭の状況に応じた支援の具体例を 説明する 関記事を探して読み、知見を広げる       このテーマに関連する資料やニュース、新 関記事を探して読み、知見を広げる       60         14       多様な支援の展開と関係機関と の連携4       ・要保護児童等及びその家庭に対する支援の具体例を説明 する 関記事を探して読み、知見を広げる       このテーマに関連する資料やニュース、新 関記事を探して読み、知見を広げる       60         3       多様な支援の展開と関係機関と ・子ども虐待の予防と対応を目的とした子育で支援の具体       このテーマに関連する資料やニュース、新 60       60		多様な支援の展開と関係機関と	・社会資源について説明し、どのように活用することが出	このテーマに関連する資料やニュース、新	60
13       多様な支援の展開と関係機関と の連携3       ・母子福祉、シングル家庭の状況に応じた支援の具体例を 説明する       このテーマに関連する資料やニュース、新 聞記事を探して読み、知見を広げる       60         14       多様な支援の展開と関係機関と の連携4       ・要保護児童等及びその家庭に対する支援の具体例を説明 する       このテーマに関連する資料やニュース、新 間記事を探して読み、知見を広げる       60         3       多様な支援の展開と関係機関と ・子ども虐待の予防と対応を目的とした子育で支援の具体       このテーマに関連する資料やニュース、新 60       60	12	の連携 2	来るかを検討する	聞記事を探して読み、知見を広げる	
13     の連携3     説明する     聞記事を探して読み、知見を広げる       14     多様な支援の展開と関係機関との連携4     ・要保護児童等及びその家庭に対する支援の具体例を説明する。     このテーマに関連する資料やニュース、新聞記事を探して読み、知見を広げる     60       3     多様な支援の展開と関係機関との予防と対応を目的とした子育で支援の具体の     このテーマに関連する資料やニュース、新     60			・ペアレントトレーニングのワークを行う		
の連携3     説明する     聞記事を探して読み、知見を広げる       14     多様な支援の展開と関係機関との連携4     ・要保護児童等及びその家庭に対する支援の具体例を説明する     このテーマに関連する資料やニュース、新聞記事を探して読み、知見を広げる     60       3     多様な支援の展開と関係機関との予防と対応を目的とした子育で支援の具体の     このテーマに関連する資料やニュース、新     60		多様な支援の展開と関係機関と	・母子福祉、シングル家庭の状況に応じた支援の具体例を	このテーマに関連する資料やニュース、新	60
14     の連携4     する     聞記事を探して読み、知見を広げる       3     多様な支援の展開と関係機関と     ・子ども虐待の予防と対応を目的とした子育で支援の具体     このテーマに関連する資料やニュース、新       60	13	の連携3	説明する	聞記事を探して読み、知見を広げる	
の連携4     する     間記事を探して読み、知見を広ける       多様な支援の展開と関係機関と     ・子ども虐待の予防と対応を目的とした子育て支援の具体     このテーマに関連する資料やニュース、新       15		多様な支援の展開と関係機関と	・要保護児童等及びその家庭に対する支援の具体例を説明	このテーマに関連する資料やニュース、新	60
15	14	の連携 4	する	聞記事を探して読み、知見を広げる	
15     の連携5     例を説明する     聞記事を探して読み、知見を広げる		多様な支援の展開と関係機関と	・子ども虐待の予防と対応を目的とした子育て支援の具体	このテーマに関連する資料やニュース、新	60
	15	の連携 5	例を説明する	聞記事を探して読み、知見を広げる	

令和5年度 <b>科目名</b>	幼児と健康	*14			
		対象	/= +10   24 ±07 /± 10 1/6-	<del></del>	
担当教員	一柳 智子	単位数	短期大学部 劝咒教	育学科 1年 1単位 必修	
開講期	1	必選			
授業概要		身の健康を基盤として 最終授業で全体に対す	ての怪我や病気の予防するフィードバックを		
達成目標	幼児期の心身の健康について、下記のようなテーマで目標を定める。 ①幼児期の心身の健康についての課題と発達的意義を理解することができる ②幼児の基本的生活習慣の形成、安全な生活と病気・怪我の予防について理解することができる。 ③学術的基盤や専門性をもって健康に関わる幼児期の課題を考えることができる。 ディプロマポリシーとの関係から「保育の内容理解と総合計画力」「保育の方法と技術力」を達成することを目標にする。これらのことを7割達成すれば単位認定とする。				
受講資格	短期大学部 幼児教育学科 1年 AB		成績評価 方法	授業内試験50点、平常点・態度点50点 合計100点	
教科書	授業時に随時配布				
参考書	無藤隆監修『新訂/事例で学ぶ保育内容領域健康』萌文書林 近藤充夫著2008『幼児のこころと運動』教育出版 浮田咲子・町田太郎編著『新・保育内容 健康」教育情報出版				
学生への要望	乳幼児の健康に関する基本的な観点を学ぶことを期待する。				
オフィスタイム	一柳先生月曜日				

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	幼児期の心身の発育発達	幼児期の心身の発育発達に関する健康の定義と意義を扱う	40	
2	幼児の運動発達と認知	幼児の運動発達における認知機能との関わりから見る身体 性について考える	幼児の身体と動作を観察する	40
3	幼児の身体	幼児の体の諸機能の発達と生活習慣の形成 I : 幼児の身体の発達的特徴を知る	配布資料と授業内容を復習する	40
4	基本的生活習慣	幼児の体の諸機能の発達と生活習慣の形成 II : 幼児の基本的生活習慣の形成と意義	配布資料と授業内容を復習する	40
5	幼児の体の諸機能の発達と生活 習慣の形成 I	幼児の心身の発育発達の特徴を理解する	テキストの授業内容に係るページを読む	120
6	幼児の体の諸機能の発達と生活 習慣の形成 II	幼児の基本的生活習慣の形成と意義と方法について理解す る	テキストの授業内容に係るページを読む	120
7	安全な生活と病気・怪我の予防	幼児の安全教育・健康管理について理解する	テキストの授業内容に係るページを読む	120
8	安全な生活と病気・怪我の予防 II	幼児の病気・怪我の特徴や病気の予防、安全管理、安全教育について理解する	テキストの授業内容に係るページを読む	120

市和3千皮					
科目名	幼児と人間関係	対象			
担当教員	宇治 和子	単位数	短期大学部 幼児教	育学科 1年1単位 必修	
開講期	I	必選			
授業概要	この授業では、幼児が他の人と仲良く支え合って生活するために大切なことを事例から実践的に学び、昨今の社会環境ゆえの問題や課題、自立心を育てることについて考え、人と関わる力を養うための方法について検討します。この授業は、子ども家庭福祉の現場で臨床心理士・公認心理師として実務経験のある教員が担当し、各種課題は授業内にて随時返却 or 口頭フィードバックしていきます(位置付け・水準 CE2120)。				
達成目標	本授業は、以下3点を達成目標(8割以上で単位認定)とします。 ・幼児が人と関わることの重要性について説明できる ・幼児を取り巻く人間関係における現代的問題や課題を分析できる ・幼児期の人間関係を発達的視点から理解できる なおこの科目は、本学科DPの「保育の内容理解と総合的計画力」「保育の方法と技術力」「表現力とコミュニケーション能力」に関連しています。				
受講資格	幼児教育学科1年		成績評価 方法	グループワークへの取り組み、積極的な授業参加(30%)、授業内課 題やレポート提出(70%)により評価します。	
教科書	教科書は使わず、資料を配布します。				
参考書	授業の中で、随時紹介します。				
学生への要望	資料等を工夫してイメージしやすい授業を心がけるので、積極的な授業参加を期待します。				
オフィスタイム	授業開始前・終了後・月曜3限・4限: 宇治研究室(836)				

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	概説	・授業内容、評価方法について説明する ・人間関係を学ぶことの重要性、現代と昔の違い等につい て説明する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
2	自己理解と他者理解 グループワーク 1	・自己理解1についての説明と課題を行う ・0~2歳児の園内トラブル事例から人間関係の発達につい て考えるワークを行う	60	
3	自己理解と他者理解 グループワーク 2	・自己理解2についての説明と課題を行う ・3歳児の園内トラブル事例から人間関係の発達について考 えるワークを行う	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
4	自己理解と他者理解 グループワーク3	・自己理解3についての説明と課題を行う ・4歳児の園内トラブル事例から人間関係の発達について考 えるワークを行う	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
5	自己理解と他者理解 グループワーク 4	・他者理解1についての説明と課題を行う ・5~6歳児の園内トラブル事例から人間関係の発達につい て考えるワークを行う	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
6	自己理解と他者理解 グループワーク 5	・他者理解2についての説明と課題を行う ・様々な親子関係に焦点を当て、子どもへの影響を説明する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
7	自己理解と他者理解 グループワーク 6	・他者理解3についての説明と課題を行う ・家族や親族内での人間関係について説明する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
8	地域と子ども 子どもの自立心	・昨今の社会環境ゆえの問題や課題について説明する ・子どもの主体性を育てることの重要性とそれを促進する 関わりについて説明する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60

市和5年度						
科目名	幼児と環境	対象				
担当教員	柴田 卓	単位数	短期大学部 幼児教育	学科 1年 1単位 必修		
開講期	II	必選				
授業概要	幼稚園教育要領の領域環境に示されている「ねらい」と「内容」を理解し、事例を基に幼児が環境と関わる様子や環境を通して学ぶ姿を理解する。また、様々な視点から理想的な保育環境や保育教材について探求し、プレゼンテーションやディスカッションを通して保育実践力の向上を目指す。 ※位置づけ・水準CE2121					
達成目標	<ol> <li>領域環境のねらいと内容を理解できる。</li> <li>各領域の特徴や幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえ、保育環境を構成することができる。</li> <li>幼児期の思考・科学的概念・自然事象・健康面・創造性等の発達を理解し、理想の保育環境を構想することができる。</li> <li>※単位認定の最低基準は、内容の理解および実践力の習得に関して7割以上であること。</li> <li>※ディプロマ・ポリシーとの関連:保育の内容理解と総合的計画力、保育の方法と技術力、表現力とコミュニケーション能力</li> </ol>					
受講資格	幼児教育学科1年生		成績評価 方法	リフレクションシート20点 課題30点 授業内テスト50点		
教科書	幼稚園教育要領解説 フレーベル館 保育所保育指針解説 フレーベル館					
参考書	北欧スウェーデン発 科学する心を育てるアウトドア活動事例集 北大路書房					
学生への要望	事前および事後学習をして授業に臨むこと					
オフィスタイム	月曜日の13時~16時、金曜日の13時~16時 場所:83年館824研究室					

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
	ガイダンス	・授業の進め方や評価の仕方等に関する説明	幼稚園教育要領を参考に授業内容に関して	45
	領域「環境」の理解①	・幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本や保育所保	予習し、授業で学習したことを各自調べな	
1		育指針に示された保育の基本等を踏まえ、領域「環境」の	がらリフレクションシートへ記入する。	
		ねらい及び内容を理解する。		
	領域「環境」の理解②	乳幼児の発達と保育環境の理解	幼稚園教育要領を参考に授業内容に関して	45
		・人的環境と物的環境の探求	予習し、授業で学習したことを各自調べな	
2		・乳幼児の発達を促す室内環境「保育室」	がらリフレクションシートへ記入する。	
	領域「環境」の理解③	乳幼児の発達と保育環境の理解	幼稚園教育要領を参考に授業内容に関して	45
		・人的環境と物的環境の探求	予習し、授業で学習したことを各自調べな	
3		・乳幼児の発達を促す屋外環境「園庭」	がらリフレクションシートへ記入する。	
	領域「環境」の理解④	乳幼児の発達と保育環境の理解	幼稚園教育要領を参考に授業内容に関して	45
		・「快適な生活」を促す環境と教材	予習し、授業で学習したことを各自調べな	
4		・トイレ・手洗い場における環境構成と工夫	がらリフレクションシートへ記入する。	
		・ロッカー、着替え、午睡環境		
	領域「環境」の理解⑤	乳幼児の発達と保育環境の理解	幼稚園教育要領を参考に授業内容に関して	45
		・「言葉・数字」の習得促す教材と工夫	予習し、授業で学習したことを各自調べな	
5		・絵本、玩具	がらリフレクションシートへ記入する。	
	領域「環境」の理解⑥	乳幼児の発達と保育環境の理解	幼稚園教育要領を参考に授業内容に関して	45
		・年齢に応じた「玩具」とその「整理」	予習し、授業で学習したことを各自調べな	
6		・道具の活用とお道具箱の整理	がらリフレクションシートへ記入する。	
	領域「環境」の理解(7)	乳幼児の発達と保育環境の理解	幼稚園教育要領を参考に授業内容に関して	45
	N-W - W-201 - N-TILLO	・5感と教材について考える	予習し、授業で学習したことを各自調べな	40
7		「音楽」「自然」「食」「運動」「壁面」「表現」	がらリフレクションシートへ記入する。	
	まとめ	領域「環境」で扱う内容について、事例を基に具体的に理		45
8		解し、理想の保育環境について、レポートにまとめる。	ておく。	

令和5年度						
科目名	幼児と表現	対象				
担当教員	磯部 哲夫,早川 仁	単位数	短期大学部 幼児教育	学科 1年 1単位 必修		
開講期	1	必選				
授業概要	「幼稚園教育要領」における領域「表現」のねらいと内容を理解し、「表現」の観点から子どもの発達を捉え、発達段階に沿った子どもの感性と表現について体験を通して学び、表現についてディスカッションしながら授業を展開し、学生自身の感受性と感覚を培いながら、総合的な表現活動について学修する。 位置づけ・水準 CE2123					
達成目標	1.「教育要領」中の「領域表現」の『ねらい』と『内容』に沿いながら、子どもの表現の要因を分析し、かかわることについて基本的な理解を有している。 2.「領域表現」の内容について、素材、楽器、遊具、身体、言葉等による表現内容を、体験を通して理解している。 3.他者との関わり対応の中で感性を働かせ、状況に応じて能動的又は、受動的に動き表現することができる。ディプロマ・ポリシーとの関係は、「保育の内容理解と総合的計画力」「保育の方法と技術力」「表現力とコミュニケーション能力」である。					
受講資格	幼児教育学科1年		成績評価 方法	小テスト:30%、レポート:40%、指導計画作成40%		
教科書	文部科学省『幼稚園教育要領解説』フ	レーベル館、厚生労働	働省『保育所保育士指針	-   開設』フレーベル館		
<b>教科音</b>	今泉明美 他編著『子どものための音》	<b>棨表現技術』萌文書</b> ホ	木.2017 適宜資料を配	布する。		
参考書	大場牧夫著「表現原論ー幼児の『あられ	わし』と領域『表現』	」 1996年 萌文書	<b>ж</b>		
学生への要望	幼稚園教育要領解説を熟読しておくこ	٤٠				
オフィスタイム	磯部:月曜日Ⅲ限、水曜Ⅳ限 841程	开究室				
3717314	早川:毎昼休み・V限目、826研究	室				

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
	ガイダンス・表現領域について	本科目の流れについて説明する。「幼稚園教育要領」にお	「幼稚園教育要領解説」第2章「ねらい及	40
1	① (担当:磯部)	ける領域「表現」のねらいと内容(1)について理解す	び内容」の表現領域に関する項目を熟読し	
1		<b>వ</b> 。	ておくこと。記録ノートをまとめる。	
	表現領域について②	「幼稚園教育要領」における領域「表現」のねらいと内容	「幼稚園教育要領解説」第2章「ねらい及	40
0	(担当:磯部)	(2)、内容の取扱いについて理解する。	び内容」の表現領域に関する項目を熟読し	
2			ておくこと。記録ノートをまとめる。	
	あそびの理解と援助の方法	ITCを活用して保育現場の実践活動を通して、幼児期の発達	記録ノートをまとめる。	40
3	(担当:早川)	段階における、総合的なあそびの理解と、援助の方法を学		
		-Si.		
	幼児の音楽表現と身体表現につ	子どもとともに歌うことについて理解と童謡と身体表現に	幼児における音楽表現と身体表現について	40
4	いて	ついて理解する。音楽表現と身体表現についてグループ	下調べをしておくこと。	
	(担当:磯部)	ディスカッションを行う。		
	五感あそびについての体験と理	絵本(コトバ)から音の要素を拾い出し、表現する方法を	記録ノートをまとめる。	40
5	解(1)一言葉と音の共感覚を	グループワークで検討する。		
	探る。(担当:早川)			
	五感あそびについての体験と理	表現する方法をグループワークで実演発表する。	記録ノートをまとめる。	40
	解(2)一言葉と音の共感覚を			
	探る。(担当:早川)			
		自然のものや光・風などに触れることを通して、自己の感	記録ノートをまとめる。	40
7	解(3) (担当:早川)	覚を深める体験をすると共に幼児の感覚の発達について学		
		٠٤٠٠,		
8		領域「表現」について総括し、表現活動における指導計画	表現活動における指導計画作成を作成す	80
U	画作成(担当:磯部)	作成の方法とポイントについて理解する。	る。	

和5年度 	保育内容総論	*14	T			
担当教員	安部高太朗	対象 単位数	短期十党部 体旧教育	学科 2年 2単位 選択		
型	以 同		应期八子即 如元教目	子付 2年2年世 選扒		
授業概要	力を身につけることを狙う。摂	受業においては、2017年改訂 グループワーク等のアクテ	の現行の保育所保育指	战日本の保育方法論を紹介すると共に、演習課題を通じて、保育の構想 計・幼稚園教育要領等を踏まえ、現在の保育内容がどのように規定され 法を用いて学生の理解が深まるよう工夫する。		
達成目標	本科目においては、次の四つの達成目標を定める。  1. 保育所保育指針・幼稚園教育要領等における保育の目標・子どもの発達・保育内容を総合的に捉え、保育の全体的な構造を理解する。  2. 明治時代以降の我が国において保育内容がどのように変遷してきたのかを知る。  3. 子どもの発達過程を踏まえて保育内容を計画として構想する力を身につけると共に、保育のリフレクションについて保育記録論と併せて把握する。  4. 保育の多様な形態について認識を深めつつ、「養護と教育の一体性」をはじめとする現代日本の保育の基本的な発想を理解する。  ○単位認定の最低基準:内容の7割を理解していること。  ○ディプロマ・ポリシーとの関係:保育の内容理解と総合的計画力、保育の方法と技術力					
受講資格	原則として、幼稚園教諭二種、	保育士資格取得希望者	成績評価方法	①授業参加度(受講態度やノート等の提出物の提出状況):50% ②グループワーク課題(第12回に回収予定):50% ①及び②の合計:100%		
教科書	厚生労働省編(2018)『保育所 内閣府・文部科学省・厚生労働 文部科学省(2018)『幼稚園教 ※加えて、適宜、必要に応じて	加省 (2018) 『幼保連携型認定 育要領解説(平成30年3月)』	- Eこども園教育・保育要 フレーベル館。	領解説(平成30年3月)』フレーベル館。		
参考書	#上孝之・山崎敦子編 (2018) 『子どもと共に学びあう 演習・保育内容総論(第2版)』みらい。 加藤繁美・神田英雄 監修 (2011) 『子どもとつくる0歳児保育:心も体も気持ちいい』ひとなる書房。 加藤繁美・神田英雄 監修 (2012) 『子どもとつくる2歳児保育:思いがふくらみ響きあう』ひとなる書房。 加藤繁美・神田英雄 監修 (2013) 『子どもとつくる1歳児保育:イッショ!がたのしい』ひとなる書房。 加藤繁美 監修 (2016a) 『子どもとつくる4歳児保育:揺れる心をドラマにかえて』ひとなる書房。 加藤繁美 監修 (2016b) 『子どもとつくる5歳児保育:本気と本気がつながって』ひとなる書房。 加藤繁美 監修 (2016c) 『子どもとつくる3歳児保育:イッチョマエ!が誇らしい』ひとなる書房。 神田英雄 (2008) 『育ちのきほん:0歳から6歳』ひとなる書房。 ※その他、適宜授業において紹介する。					
学生への要望	本科目を受講する学生には以下のことを求める。 ・ 欠席、遅刻はしないこと。 ・ 授業ノートを用意し、予習・復習等も含めて活用すること。 ・ わからないことや疑問に思ったことは積極的に質問すること。 ・ 新聞やTV番組等を通じて、保育に関わる情報や話題を自ら収集すること。					
オフィスタイム	<ul> <li>・火曜日IV限(14:30~16:00)</li> <li>・火曜日 V限(16:10~17:40)</li> <li>いずれも、83年館2階の安部研究室(821研究室)とする。そのほかの時間帯を希望する場合は、予め、安部(k-abe@koriyama-kgc.ac.jp)までメールで連絡を入れること。</li> </ul>					

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション		実習で行ったもの・ことを思い出しておき、授業ノートに概要を記しておく。	30
2	保育を支える「発達」の概念	保育内容を規定する要素の一つである子どもの「発達」に ついて概念的な整理をする。	『保育所保育指針解説』・『幼稚園教育要領解説』で「発達」が保育・幼児教育を行うことにどう関わると記載されているか、 ノートに整理しておく。	60
		生命の保持・情緒の安定を意味する「養護」と5領域という 形で示される「教育」が一体的であるとはどのようなこと かを学ぶ。		60
	現行指針・要領等に見る保育・ 幼児教育の構造②:"10の姿"と 5領域の関係性	三つの「資質・能力」と5領域・"10の姿"がどう関連しているのかを理解する。	主として『幼稚園教育要領解説』を参照し、"10の姿"についての解説文を熟読し、ポイントとなると考えられることを自分なりにノートに整理しておく。	60

回	項目	- 技業内容 <b>授業内</b> 容	自学自習	目安時間
5	現代保育の基本理念と実践の連 関①:「環境を通して行う保 育」・「子どもの主体性」	「環境を通して行う」こと・「子どもの主体性」を尊重することの意義を要領・指針に基づいて解説し、関連する論者の議論を参照した上で整理する。		30
6	現代保育の基本理念と実践の連 関②:「遊び=幼児期特有の学 習」の含意	「遊び」が学習だとされる含意を要領・指針に基づきながら、関連する論者の議論を参照した上で整理する。	子どもの頃に夢中になって遊んだもの・ことについてノートに書き出してくる。	30
7		現代日本において主要な保育記録論に絞って紹介しながら、保育におけるリフレクションと評価の概念整理を行う。	保育におけるリフレクションの意味を自分なりに考え、ノートに整理しておく。	60
8	グループワーク①:テーマ設定	保育の多様性を主たるテーマとし、「多文化共生」あるいは「インクルーシブ保育」をキーワードにグループごとに 具体的なテーマを設定する。		60
9	グループワーク②:調べ学習(1)	各グループのテーマに即して、調べ学習を進める。その際、CiNii等の検索サイトについて紹介し、学術研究のリソースを基にして調べを進められるように工夫する。	グループ内の分担に即して、下調べをしてくる。	60
10	グループワーク③:調べ学習(2)	各グループのテーマに即して、調べ学習を進める。その際、CiNii等の検索サイトについて紹介し、学術研究のリソースを基にして調べを進められるように工夫する。	グループ内の分担に即して、下調べをして くる。	60
11	グループワーク④:ワークシー トの完成	各グループにおいてワークシートを完成させる。	グループ内の分担に即して、下調べの成果 を整理してくる。	60
12	幼保こ一元化と小学校教育との 接続	幼保この一元化について子育て支援新制度と関連づけて紹介し、小学校教育との接続に関し、スタートカリキュラムとアプローチカリキュラムの要点を解説する。		60
13	保育内容の歴史的変遷①:明治 〜昭和初期	明治期の保育内容(恩物中心)から大正期の自由保育の提唱まで、倉橋惣三等の主要人物の言説に焦点を合わせて概説する。		60
14	保育内容の歴史的変遷②:戦後 〜現代	保育要領以降の要領・指針の改訂について概観する。特に、保育内容が大きく変わったとされる平成初期の要領・ 指針について中心的に扱う。	参考書『子どもと共に学びあう 演習・保育 内容総論』(第2版)の第13章等を読んでお く。	60
15	まとめ	グループ課題の成果についてフィードバックを返しながら、全体の振り返りを行う。	各自ノートを整理した状態で準備し、自分 なりの振り返りを記してくる。	30

科目名	保育内容指導法 健康	対象				
担当教員	柴田 卓	単位数	短期大学部 幼児教	育学科	1年 1単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 必修	
開講期	II	必選				
授業概要	〔授業の概要〕 さまざまな視点から幼児の健康問題を探究し、子どもが意欲的かつ主体的に基本的な生活習慣を獲得するための方法や環境の構成方法を理解する。対象 年齢に応じた指導のポイントや環境設定等を実践的に学習するため、教材研究や模擬保育を多く実施する。また、ICTおよびポートフォリオを活用した 振り返りによって、専門性や実践力を高める。 ※位置づけ・水準CE2125					
達成目標	①領域「健康」を理解した上で、幼児の現代的健康問題を理解する。 ②模擬保育を通して、指導計画・指導方法・評価方法を理解する。 ③健康教育と小学校とのつながりを理解する。 ※単位認定の最低基準は、到達目標に対してその内容を7割以上習得していること。 ※ディプロマ・ポリシーとの関連:保育の内容理解と総合的計画力、保育の方法と技術力					
受講資格	幼児教育学科1年生		成績評価 方法		ートフォリオ(ノート)50点 支20点 課題・レポート30点	
教科書	柴田卓 石森真由子編,楽しく学ぶ運動	遊びのすすめ-ポー	トフォリオを活用し	た保育乳	実践力の探求-,みらい,2017	
参考書	幼児期運動指針策定委員会,幼児期運動	指針ガイドブック,文	部科学省,2013			
学生への要望	テキスト、筆記用具を持参すること 運動着であること アクセサリーを身に着けないこと 気温によってタオル、水分補給、着替えを準備すること					
オフィスタイム	木曜日の13時~16時、金曜日の13時~	-16時 場所:83年館	824研究室(柴田)	825研	研究室(一柳)	

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	領域「健康」の理解	事前:幼稚園教育要領を読む。	45
2	幼児期の発達と運動発達	園庭環境や遊具から心身の発達と運動の発達を探求する。 遊びを通した36の動きの理解	事前:36の動きについて調べてまとめる。	45
3	運動会の指導と留意点①	運動発達の側面から見た運動会の意義 バルーン種目	事前:運動会の意義について調べる。 事後:学習した内容や疑問に思う点をポートフォリオにまとめる。	45
4	運動会の指導と留意点②	年長種目の検討 クラス対抗リレー 組体操	事前:運動会の年長種目について調べる。 事後:学習した内容や疑問に思う点をポートフォリオにまとめる。	45
5	運動会の指導と留意点③	年齢に応じた種目の探求・計画 グループワーク	事前:年齢に応じた種目について調べる。 事後:学習した内容や疑問に思う点をポートフォリオにまとめる。	45
6	模擬保育の実施と振り返り	運動会の実施 運営方法や役割分担を考える。	事前:教材準備 事後:指導案作成	45
7	多様な動きを促す運動遊びの指 導と留意点①	マット運動 幼児期におけるマット運動の意義を考える。 年齢に応じた教材を探求する。	事前:マットを使用した運動遊びを調べる。事後:学習した内容や疑問に思う点をポートフォリオにまとめる。	45
8	多様な動きを促す運動遊びの指 導と留意点②	跳び箱 幼児期における跳び箱の意義を考える。 年齢に応じた教材を探求する。	事前:跳び箱を使用した運動遊びを調べる。事後:学習した内容や疑問に思う点をポートフォリオにまとめる。	45
9	多様な動きを促す運動遊びの指導と留意点③	鉄棒 幼児期における鉄棒の意義を考える。 年齢に応じた教材を探求する。	事前:鉄棒を使用した運動遊びを調べる。 事後:学習した内容や疑問に思う点をポー トフォリオにまとめる。	45
10	多様な動きを促す運動遊びの指導と留意点④	身近な素材を活用した運動遊びの探求 新聞・フープ・縄跳び等、年齢に応じた教材を探求する。	事前:新聞を使用した運動遊びを調べる。 事後:学習した内容や疑問に思う点をポートフォリオにまとめる。	45
11	模擬保育の実施と振り返り	模擬保育の実施 指導計画を基に多様な動き促す運動遊びを展開する。 実施内容を振り返り、指導計画を修正する。	事前:指導案の作成 事後:学習した内容や疑問に思う点をポートフォリオにまとめる。	45
12	幼児期の健康課題と発達の理解	安全な生活と怪我や病気の予防 事故事例からその対策・対応について考える。 グループワーク	事前:幼児期のケガや病気について調べる。事後:学習した内容や疑問に思う点をポートフォリオにまとめる。	45

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
	基本的生活習慣の形成とその意	基本的生活習慣の探求	事前:基本的生活習慣について調べる。事	45
13	義	トイレトレーニング 歯磨き 着替えなどについて、どの	後:学習した内容や疑問に思う点をポート	
		ようにアプローチすべきか探求する。グループワーク	フォリオにまとめる。	
	子ども主体の健康と安全教育の	安全教育	事前:安全教育等の事例について調べる。	45
14	実際	子ども主体の健康教育や安全教育の在り方について探求	事後:学習した内容や疑問に思う点をポー	
		し、良い事例を発表する。グループワーク	トフォリオにまとめる。	
15	まとめ	幼児期における健康教育の意義と指導法を整理する。	事前:これまでの授業内容を振り返る。	45

科目名	保育内容指導法 人間関係	対象				
担当教員	宇治 和子	単位数	短期大学部 幼児教	育学科 1年	1単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位	立必修
開講期	II	必選				
授業概要	幼児が他の人々と親しみ、支え合って生活するためには、彼らの自立心を育て、人と関わっていく力に注目しそれを育んでいく必要があります。幼児期までの人間関係の発達について、親、きょうだい、保育者、仲間との関係を中心に、具体的な指導場面を想定して保育を構想し実践していく方法を学びます。この授業は、子ども家庭福祉の現場で臨床心理士・公認心理師として実務経験のある教員が担当し、各種課題は授業内にて随時返却 or 口頭フィードバックしていきます(位置付け・水準 CE2126)。					
達成目標	本授業は、以下2点を達成目標(8割以 ・幼稚園教育において育みたい「人間 ・人間関係の発達を月齢・年齢に即し なおこの科目は、本学科DPの「保育の	関係」に関する資質能で具体的に把握し、時	と 能力について理解でき 時期に応じた保育者の	かかわり方	について実践的に学ぶ 「表現力とコミュニケーション能力」 に関連してい	ます。
受講資格	幼児教育学科1年		成績評価 方法		ワークへの貢献や積極的な授業参加(30%)、授業 提出(70%)により評価します。	業内課題や
教科書	教科書は使わず、資料を配布します。					
参考書	授業の中で、随時紹介します。					
学生への要望	資料等を工夫してイメージしやすい授業を心がけるので、積極的な授業参加を期待します。					
オフィスタイム	授業開始前・終了後・月曜3限・4限:	宇治研究室(836)				

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
	オリエンテーションと概説	・授業内容、評価方法について説明する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹	60
1		・幼稚園教育要領と人間関係について説明する	介するので、それを読み知見を広げる	
	発達状況に即した人間関係の展	・0~2歳児の発達と人間関係について説明する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹	60
2	開 1	・愛着について説明する	介するので、それを読み知見を広げる	
	発達状況に即した人間関係の展	・0~2歳児の発達と人間関係について説明する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹	60
3	開 2	・退行・かみつきについて説明する	介するので、それを読み知見を広げる	
	発達状況に即した人間関係の展	・0~2歳児の発達と人間関係について説明する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹	60
4	開 3	・第一次反抗期について説明する	介するので、それを読み知見を広げる	
	発達状況に即した人間関係の展	・3歳児の発達と人間関係について説明する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹	60
5	開 4	・登園渋りについて説明する	介するので、それを読み知見を広げる	
	発達状況に即した人間関係の展	・3歳児の発達と人間関係について説明する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹	60
6	開 5	・友だちとの遊びについて説明する	介するので、それを読み知見を広げる	
	発達状況に即した人間関係の展	・3歳児の発達と人間関係について説明する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹	60
7	開 6	・友だちとのケンカについて説明する	介するので、それを読み知見を広げる	
	発達状況に即した人間関係の展	・4歳児の発達と人間関係について説明する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹	60
8	開 7	・自己主張と嘘について説明する	介するので、それを読み知見を広げる	
	発達状況に即した人間関係の展	・4歳児の発達と人間関係について説明する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹	60
9	開 8	・ルールについて説明する	介するので、それを読み知見を広げる	
	発達状況に即した人間関係の展	・5~6歳児の発達と人間関係について説明する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹	60
10	開 9	・自分より小さな子どもへの配慮について説明する	介するので、それを読み知見を広げる	
	発達状況に即した人間関係の展	・5~6歳児の発達と人間関係について説明する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹	60
11	開 1 0	・小学生へのあこがれについて説明する	介するので、それを読み知見を広げる	
	グループワーク 1	・グループに分かれて、上記のテーマから人間関係に関す	このテーマに関連する参考資料や図書を紹	60
12		る指導案を立てる	介するので、それを読み知見を広げる	
	グループワーク 2	・グループごとに、上記のテーマによる人間関係に関する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹	60
13		指導案を発表する	介するので、それを読み知見を広げる	
	グループワーク3	・グループごとに模擬保育を行い、その様子をICT機器を	このテーマに関連する参考資料や図書を紹	60
14		使って録画する	介するので、それを読み知見を広げる	

Ī	回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
		グループワーク4	・振り返りを行い、グループで改善点を検討する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹	60
	15			介するので、それを読み知見を広げる	

科目名	保育内容指導法 環境	対象				
担当教員	柴田 卓	単位数	短期大学部 幼児教育	幹科 1年 1単位 選択/短期	大学部 幼児教育学科	斗 1年 1単位 必修
開講期	II	必選				
	授業の概要 〔授業の目的・ねらい〕					
授業概要	幼稚園教育要領および保育所保育指針の領域環境に示されている「ねらい」と「内容」を理解し、事例や実践を基に幼児が環境と関わる様子や環境を通して学ぶ姿を理解する。また、子どもを取りまく理想的な保育環境について、他の専門領域と関連させて理解を深める。ディスカッションや模擬保育などのアクティブラーニングを通して、保育実践力の向上を目指す。 位置づけ・水準CE2127 ディプロマ・ポリシーとの関係:保育の内容理解と総合的計画力、保育の方法と技術力、表現力とコミュニケーション能力					
達成目標	授業のテーマ及び到達目標  1) 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「環境」のねらい及び内容を理解することができる。  2) 子どもの学びと発達の視点から保育環境を捉え、教材や環境構成の意義を理解することができる。  3) 発達段階を踏まえた教材や保育環境を探求し、指導場面を構想しながら保育活動を計画および展開することができる。  ※単位認定の最低基準は、達成目標に対して7割を理解し習得していること。					
受講資格	幼児教育学科1年生		成績評価 方法	リフレクションシート30点 点10点	課題発表30点	最終レポート30点 平常
教科書	幼稚園教育要領解説 フレーベル館	保育所保育指針解説	フレーベル館			
参考書	北欧スウェーデン発 科学する心を育てるアウトドア活動事例集 北大路書房					
学生への要望	事前および事後学習をして授業に臨むこと					
オフィスタイム	月曜日の13時~16時、金曜日の13時~16時 場所:83年館824研究室					

-授業内容とスケジュール-						
回	項目	授業内容	自学自習	目安時間		
	ガイダンス	・授業の進め方や評価の仕方等に関する説明	幼稚園教育要領を参考に授業内容に関して	45		
	領域「環境」の理解①	・幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本や保育所保	予習し、授業で学習したことを各自調べな			
1		育指針に示された保育の基本等を踏まえ、領域「環境」の	がらリフレクションシートへ記入する。			
		ねらい及び内容を理解する。				
	領域「環境」の理解②	地球環境・自然環境としての環境	幼稚園教育要領を参考に授業内容に関して	45		
		・国内外における環境教育の歴史と背景の理解	予習し、授業で学習したことを各自調べな			
2		・自然を活かした保育活動の実際	がらリフレクションシートへ記入する。			
	教材研究①	教材研究	文字・数字に関する教材について予習し、	45		
		文字や数字に触れる教材と保育活動および環境構成につい	授業で学習したことを各自調べながらリフ			
3		て探求する。	レクションシートへ記入する。			
		グループワーク				
	教材研究②	教材研究	健康や運動、安全を促す教材について予習	45		
		健康や運動、安全を促す教材と保育活動および環境構成に	し、授業で学習したことを各自調べながら			
4		ついて探求する。	リフレクションシートへ記入する。			
		グループワーク				
	教材研究③	教材研究	音やアートの活用に関して予習し、授業で	45		
		音楽やアートに触れる教材と保育活動および環境構成につ	学習したことを各自調べながらリフレク			
5		いて探求する。	ションシートへ記入する。			
		グループワーク				
	教材研究④	教材研究	SDGsの取り組みに関して予習し、授業で	45		
		ESDおよびSDGsに係る教材と保育活動および環境構成につ	学習したことを各自調べながらリフレク			
6		いて探求する。	ションシートへ記入する。			
		グループワーク				
	グループ演習①	保育の構想と計画	予習として教材研究①~④の教材と環境構	45		
7		これまで探求した教材研究を活かし、壁面制作を行う。	成について整理する。また、学習したこと			
7		グループワーク①計画	をリフレクションシートへ記入する。			
	グループ演習②	保育の構想と計画	発表に向けての準備を行い、学習したこと	45		
0		これまで探求した教材研究を活かし、壁面制作を行う。	をリフレクションシートへ記入する。			
8		グループワーク②制作				
	グループ演習③	保育の構想と計画	発表に向けての準備を行い、学習したこと	45		
		これまで探求した教材研究を活かし、壁面制作を行う。	をリフレクションシートへ記入する。			
9		グループワーク③制作				

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
10	グループ演習④	保育の構想と計画 制作した壁面のプレゼンテーションと評価 グループワーク④制作	他のグループの発表や壁面の構成について、参考になる点等をリフレクションシートにまとめる。	45
11	教材研究⑤	教材研究 自然観や道徳観を育む教材と保育活動および環境構成について探求する。 グループワーク	自然物に関する教材について予習し、授業で学習したことを各自調べながらリフレクションシートへ記入する。	45
12	教材研究⑥	教材研究 伝統文化に係る教材と保育活動および環境構成について探 求する。 グループワーク	保育と伝統文化に関連した教材を調べ、準備する。また、学習したことをリフレクションシートへ記入する。	45
13	教材研究⑦	教材研究 地域と関わる保育活動および環境構成について探求する。 グループワーク	保育に活かせる地域資源について予習し、 授業で学習したことを各自調べながらリフ レクションシートへ記入する。	45
14	グルーブ演習⑤	理想とする保育環境を構想し、発表する。	これまでの教材研究の内容を踏まえ、自身 の理想の保育環境を構想し、発表する。	45
15	まとめ	本授業で学習した内容を振り返り、レポートにまとめる。 指導案とドキュメンテーションを提出する。	リフレクションシートを振り返り、本授業 で学習したことをレポートにまとめる。	60

令和5年度							
科目名	保育内容指導法 音楽表現	対象					
担当教員	横溝 聡子	単位数	短期大学部 幼児教育	育学科 1年 1単位 必修			
開講期	II	必選					
授業概要	[授業の目的・ねらい] 幼稚園教育要領に示された、幼稚園教育の基本を踏まえ、感性と表現に関する領域「表現」のねらい及び内容を理解し、また幼児の発達や学びを理解し、具体的な保育場面を想定した音楽表現における表現技術と指導法を修得する。 [授業全体の内容の概要] 幼児の発達段階における音楽表現技術、教育法を考察する。幼児達が主体的に音楽に関わることができるように、保育現場で使用している楽曲を取り上げ、弾き歌いやコードによる伴奏づけ、手遊び歌、楽器あそび、グループワーク等の体験を通して、音楽と身体表現、音楽と表情などの表現の関係性を理解しながら音楽表現の技術を学修し、指導法を身につける。確実な音楽表現、音楽表現教育法を身に付けるため、弾き歌いやコードによる伴奏づけでは双方向の授業を、手遊び歌、楽器あそびでは、グループワークでのディスカッション、協働的体験によるアクティブラーニングで授業を実施する。授業内でグループ発表を実施し、終了後コメントによるフィードバックを行う。位置づけ・水準 CE2129						
達成目標	②様々な音楽表現の実践を通して、音 ③幼児の生活の中での音楽や、音楽表 単位認定の最低基準は、①~③の内容	目標は ①感性と表現に関する領域「表現」の音楽表現のねらい及び内容を踏まえ、幼児が身に付けていく音楽表現内容と指導上の留意点を理解している。 ②様々な音楽表現の実践を通して、音楽の基礎知識、幼児の音楽表現、コミュニケーションとしての音楽の役割を理解する。 ③幼児の生活の中での音楽や、音楽表現の具体的な保育場面が想定できる。 単位認定の最低基準は、①~③の内容の7割を理解し、授業や発表において確認出来ること。ディプロマ・ポリシーとの関係は、「保育の内容理解と総合的計画力」「保育の方法と技術力」「表現力とコミュニケーション能力」「豊かな人間性と規範意識」である。					
受講資格	短期大学部 幼児教育学科 1年		成績評価 方法	小テスト(筆記)・課題提出40%、手遊び歌20%、楽器20%、弾き歌い20%			
教科書	今泉明美 他編著『子どものための音楽表現技術』萌文書林.2017 津布楽杏里・桑原章寧共著『保育・教育の現場で使える!弾き歌いピアノ曲集』ドレミ楽譜出版社 全国大学音楽教育学会編著『明日へ歌い継ぐ日本の子どもの歌』音楽之友社 那須和彦 他共著『現場で生かせる幼児合奏』圭文社出版 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館,2018、厚生労働省編『保育所保育指針解説』フレーベル館,2018						
参考書	授業内で指示						
学生への要望	指導案作成、弾き歌い、手遊び歌、楽	指導案作成、弾き歌い、手遊び歌、楽器あそびの各領域の自学自習をしっかりと行うこと。					
オフィスタイム	横溝聡子、深谷悠里絵:火曜日   限、	金曜日丨限、芸術館、	3 階 No.1幼児教育学	や研究室、菅原美謝:木曜日昼休み、または放課後、83年館非常勤控室			

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
	幼児の音楽的活動と音楽基礎知	シラバスを配布し、本講義の流れについての理解を深め	事前にシラバスを目を通して、本講義の流	30
	識① 横溝	る。幼稚園教育要領の領域「表現」のねらいについて理解	れを確認する。幼稚園教育要領解説を読ん	
		する。楽譜の記譜法について理解する。	でおくこと。『子どものための音楽表現技	
1			術』の「楽譜のしくみ」「音名」「音符と	
			休符」を読んでおくこと。	
0	音楽基礎知識②と幼児曲	楽譜の表記法と音階について理解する。幼児曲「生活のう	『子どものための音楽表現技術』の「音階	30
2	横溝	た」を学ぶ。	と調」を読んでおくこと。	
	音楽基礎知識③と幼児曲	音程について理解する。幼児曲「季節のうた」を学ぶ。	『子どものための音楽表現技術』の「音	30
3	横溝		程」を読んでおくこと。	
	音楽基礎知識④と幼児曲	和音とコードについて理解する。幼児曲「行事のうた」を	『子どものための音楽表現技術』の「和音	30
4	横溝	学ぶ。	とコードネーム」を読んでおくこと。	
	音楽基礎知識⑤と幼児曲	ピアノを用いてコードによる伴奏付けの基礎について学	『子どものための音楽表現技術』の「コー	30
5	横溝	ぶ。幼児曲を通して楽譜への理解を深める。	ド伴奏法の実践」を読んでおくこと。	
_	弾き歌い① 横溝	子どもの歌唱活動と保育者の支援について学ぶ。	多くの幼児曲を弾き歌いできるようにす	30
6			る。	
	弾き歌い② 横溝	弾き歌いの実践と歌唱の指導法について学ぶ。	多くの幼児曲を弾き歌いできるようにす	30
7			る。	
	手遊び歌① 深谷	子どもの音楽的表現の発達と音楽活動について学ぶ。歌唱	各自、手遊び歌を調べ、実践できるよう練	30
8		教材を基に音楽に合わせた手遊びによる音楽表現を理解す	習をする。	
		<b>వ</b> .		
	手遊び歌② 深谷	手遊び歌の指導法について学ぶ。各自、調べて練習してき	各自、手遊び歌を調べ、実践できるよう練	30
9		た手遊びを発表。グループワークで手遊び歌を考える。	習をする。	
	手遊び歌③ 深谷	手遊び歌の創作と実践。乳幼児の手遊び歌をグループで作	グループ発表の準備、練習を行う。	30
10		成し、発表をする。		

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
11	楽器あそび① 菅原	子どもの楽器活動の流れについて学ぶ。 楽器の扱い方、奏 法を理解する。	楽器の扱い方、奏法を調べる。	30
12	楽器あそび② 菅原	子どもの楽器活動でのリズムについて考える。 楽器あそび の様々な方法を学ぶ。	テキストのリズム打ちを行う。	30
13	楽器あそび③ 菅原	小打楽器を用いた楽器あそびを行う。	楽器を取り扱う音楽遊び指導案を作成す る。	30
14	楽器あそび④ 菅原	各年齢に応じた指導法、小打楽器を用いた楽器あそびを 行う。	楽器を取り扱う音楽遊び指導案を作成す る。	30
15	楽器あそび⑤とまとめ 菅原・深谷	年齢に応じた音楽表現について整理し、楽器あそびをグループごとに発表する。 授業の振り返りとまとめを行う。	グループ発表の準備、練習を行う。	30

科目名	保育内容指導法 造形表現	対象			
担当教員	早川 仁	単位数	短期大学部 幼児教育学	∮科 1年1単位 /i	<b>公修</b>
開講期	H	必選	/ A / A / A / A / A / A / A / A / A / A	17 17 14 14 14 14 14 14 14 14 14 14 14 14 14	פויט
刑	<u> </u>				
					を育むための造形活動や保育環境を創り出す素地を
	身につける。また、表現体験を基に保育	育現場を想定した指導	<b>淳方法について学び、研</b>	究を深める。	
	課題に対するフィードバック				
授業概要	①課題ごとに提出する活動記録にコメン	/ト等を記載しフィー	-ドバックを行います。		
	②発表会等においては、講評の形でフィ	ィードバックを行いま	きす。		
	位置づけ・水準ナンバリングCE2130				
	0.0 M L + 11 + V m L - 2 - 6 th L + 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 2 - 2 - 2				
	①多様な素材を活用し、その魅力をいかした造形表現ができる。				
	②子どもの豊かな感性と表現力を育む例				
	③造形活動を基にした保育現場指導が出				
達成目標	④グループ活動や発表会を通して、相互に意見交換を行い学びを高めあうことができる。				
	単位認定の最低基準:上記4項目総合して6割以上を満たしている。				
	ディプロマシーとの関係:保育の内容理解と総合計画力・保育の方法と技術力・表現力とコミュニケーション能力。				
受講資格	短期大学部 幼児教育学科 1年生		成績評価	・提出作品60	・授業活動内容20 ・発表内容20
文册其旧			方法		
教科書	なし				
参考書	文部科学省 「幼稚園教育要領解説」フレーベル館				
学生への要望	動きやすく、造形作業に適した服装・活動材料・用具を整えて授業に臨むこと。				
オフィスタイム	早川-水曜日 IV・V限目 826教室 草野 火曜~木曜 15:30~17:00 83年館2階 823研究室				

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業ガイダンス 「色材による表現」 (担当:草野)	1. 授業基本情報と内容及び実施方法について説明。 2. 「色材による表現」 色材によるコミュニケーションを体験する。	表現体験からの気づきを記録する。	30
2	「布による表現 I 」 (担当:草野)	布の魅力を知る。 ①自在に変化する布の特徴を知る。 ②光や空気等との関係で変わる布の魅力を体感する。	表現体験からの気づきを記録する。	30
3	「布による表現Ⅱ」 (担当:草野)	環境を活用した表現体験(5~6名のグループ活動)。 ①複数枚の布に紐を加えて表現の可能性を拡大する。 ③活動環境も含めた表現体験を行い、相互に発表しあう。	表現体験や発表会からの収穫を記録する。	30
4	「身近な素材による表現 I 」 (担当:草野)	コラージュ表現   ①雑誌や新聞等の身近な印刷物を使用した見立て表現。 ②写真等印刷物の情報を組合せて新たな世界を創り出す。	コラージュ表現に使用する雑誌や新聞などの印刷物を集める。	30
5	「身近な素材による表現 II 」 (担当:草野)	コラージュ表現 II ①落ち葉や木の実等、自然素材を使用した見立て表現。 ②自然界の色や形の面白さを味わいいかす表現体験。	コラージュ表現に使用する落ち葉などの素 材を集める。	30
6	「身近な素材による表現Ⅲ」 (担当:草野)	物語をつくる(5~6名のグループ活動)。 「I・II」のコラージュ表現をつないで物語をつくる。	絵本や紙芝居に目を通し、物語のイメージ や文章構成について考える。	60
7	「光と影の表現 I 」 (担当:草野)	光と物との関係(3~4名のグルーブ活動)。 ②各種素材を光にかざし表情の変化を味わう。 ③光の遮断・透過・反射等による光と影の表現を楽しむ。	光と影の表現に使用する様々な素材を集める。	30
8	「光と影の表現Ⅱ」 (担当:草野)	「I」の体験を基に光と影の表現遊びをつくる。 ①子どもと行う表現遊びを考える。 ②考えた遊びを相互に発表しあう。	光と影の表現や遊びに関する資料に目を通 し、遊びを創るための参考にする。	30
9	「保育の実践計画」 (担当:草野)	保育実践計画と指導方法(5~6名のグループ活動)。 ①授業体験に基にした保育計画を作成する。 ③保育計画をグループで相互に発表しあう。	1回~8回の内容を振り返り、保育活動への活かし方を考える。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
10		子どもの育ちと保育者の関わりを考える。 ①子どもの表現活動事例の紹介。 ②子どもの表現と保育者の関わりについて考える。	1月と2月の教育実習・保育実習の際の、 観察観点を記録する。	30
11	「保育の模擬実践」 ①-1デカルコマニー演習 (担当:早川)	色材を用いた表現活動「①」について学び、体験を通して 理解と考察を深める。	造形表現技法である「デカルコマニー」に ついて下調べする。	20
12	「保育の模擬実践」①-2 (担当:早川)	体験した表現活動「①」を基に模擬授業を体験する。	模擬授業の簡略な計画案を立て、発表時の イメージトレーニングをする。	60
13	「保育の模擬実践」 ②-1フロッタージュ演習 (担当:早川)	色材を用いた表現活動「②」について学び、体験を通して 理解と考察を深める。	造形表現技法である「フロッタージュ」に ついて下調べする。	20
14	「保育の模擬実践」②-2 (担当:早川)	体験した表現活動「②」を基に模擬授業を体験する。	模擬授業の簡略な計画案を立て、発表時の イメージトレーニングをする。	60
15	幼児の造形表現活動現場の実態 と課題を探る (担当:早川)	保育現場での造形表現活動にスポットを当てながら、各発 達段階における造形活動の意義と課題を探る。	幼児期のおおよその発達段階を確認してお く。	30

令和5年及			1	
科目名	保育内容指導法 身体表現	対象		
担当教員	柴田 卓	単位数	短期大学部 幼児教育	学科 1年 1単位 必修
開講期	1	必選		
授業概要	対象年齢に応じた運動遊び指導のポイ	評価方法を理解する。 イントや安全面につい から運動の面白さを掲 ント、安全面や環境記	、ての理解を深め、実践 架究し、子どもが意欲的 役定等を実践的に学習す	表的なスキルを習得する。 力かつ主体的に取り組む運動遊びの内容や指導方法を習得する。また、 よためにロールプレイやケーススタディを多く実施する。また、ポーリオの各提出後と実技発表後にフィードバックを行う。
達成目標	①幼児期の運動・健康について理解する。 ②幼児体育の指導計画・指導方法・評価方法を理解する。 ③幼体体育・運動遊びを子どもと保育者の目線で実践し、その意味と価値を理解する。 ※単位認定の最低基準は、到達目標に対してその内容を7割以上習得していること。 ※ディプロマ・ボリシーとの関連:保育の内容理解と総合的計画力、子どもの発達の理解と支援の力、保育の方法と技術力、表現力とコミュニケーション力			
受講資格	幼児教育学科1年生		成績評価 方法	ポートフォリオ(ノート)70点 実技20点 課題・レポート10点
教科書	柴田卓 石森真由子編,楽しく学ぶ運動	遊びのすすめ‐ポー	トフォリオを活用したイ	保育実践力の探求-,みらい,2017
参考書	幼児期運動指針策定委員会,幼児期運動	指針ガイドブック,文	部科学省,2013	
学生への要望	幼児期運動指針策定委員会、幼児期運動指針ガイドブック、文部科学省、2013 テキスト、筆記用具を持参すること 運動着であること アクセサリーを身に着けないこと 気温によってタオル、水分補給、着替えを準備すること			
オフィスタイム	木曜日の13時~16時、金曜日の13時~	-16時 場所:83年館	824研究室	

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション(体育館)	授業の目的と概要・評価方法・準備物を確認する。	ルーブリックを活用し、現状の知識・スキ ルについて、自己診断を行う。	45
2	アイスブレイクと準備体操	遊びを通してより良い関係性を築く手法を理解する。 幼児期における準備体操の意義と手法を理解する。	アイスプレイクについて、学習した内容や 疑問に思う点、学習内容を深める予備情報 をポートフォリオにまとめる。	45
3	道具を使わない遊び①	鬼遊びの導入・展開・発展方法を理解する。 (じゃんけんゲームや伝承遊びなど)	鬼遊びについて、学習した内容や疑問に思う点、学習内容を深める予備情報をポートフォリオにまとめる。	45
4	道具を使わない遊び②	ルール・課題の設定、説明の仕方などを理解する。また、 グループ作りの方法やその活動におけるポイントを理解す る。(協力・コミュニケーションスキルなど)	鬼遊びについて、学習した内容や疑問に思う点、学習内容を深める予備情報をポートフォリオにまとめる。	45
5	道具を使わない遊び③	ルール・課題の設定、説明の仕方などを理解する。また、 グループ作りの方法やその活動におけるポイントを理解す る。(協力・コミュニケーションスキルなど)	鬼遊びについて、学習した内容や疑問に思う点、学習内容を深める予備情報をポートフォリオにまとめる。	45
6	道具を使った遊び①	ボールを使ったチャレンジ遊びを理解する。	ボール遊びについて、学習した内容や疑問 に思う点、学習内容を深める予備情報を ポートフォリオにまとめる。	45
7	道具を使った遊び②	フラフープ・コーンを使った遊びの導入・展開方法を理解 する	フラフープやコーン遊びについて、学習した内容や疑問に思う点、学習内容を深める 予備情報をポートフォリオにまとめる。	45
8	道具を使った遊③	フラフープ・コーンを使った遊びの導入・展開方法を理解 する	フラフープやコーン遊びについて、学習した内容や疑問に思う点、学習内容を深める 予備情報をポートフォリオにまとめる。	45
9	ドッジボールの導入方法	一斉指導における説明の方法とドッジボールにおける導入 について学習する。	ドッジボールについて、学習した内容や疑問に思う点、学習内容を深める予備情報をポートフォリオにまとめる。	45

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
10	ドッジボールの展開・評価方法	ドッジボールの展開方法および勝敗の扱い方を学習する。	ドッジボールについて、学習した内容や疑問に思う点、学習内容を深める予備情報をポートフォリオにまとめる。	45
11	親子体操	親子体操の種目と展開方法について理解する。	親子体操について、学習した内容や疑問に 思う点、学習内容を深める予備情報をポー トフォリオにまとめる。	45
12	グループ演習①(リズムダン ス)	子ども向けの音楽を選択し、振り付けを考える。	リズムダンスについて、学習した内容や疑問に思う点、学習内容を深める予備情報を ポートフォリオにまとめる。	45
13	グループ演習②(リズムダンス)	リズムダンスの作成を通して、子どもが楽しめる動作と指 導言語を理解する。	リズムダンスについて、学習した内容や疑問に思う点、学習内容を深める予備情報を ポートフォリオにまとめる。	45
14	模擬保育	リズムダンスの発表(ロールプレイ)	グループで発表した内容について、振り返り、ポートフォリオにまとめる。	45
15	講義(教室)	自分たちの発表したリズムダンスの映像を見ながら、お互いに評価を行う。	リズムダンスの発表映像から、各自の課題 と後期の目標を設定する。	45

令和5年度						
科目名	子どもの器楽Ⅰ	41.64				
担当教員	深谷 悠里絵,鈴木 明美,佐久間 智	対象 単位数	短期十岁郊 幼旧教育	『学科 1年 1単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 必修		
12.3 秋泉	子,加藤 幸恵,本橋 美恵子	必選	<u> </u>	97件 1年1年四 透测 (		
開講期	I	201 <u>25</u>				
				こ合わせた基礎的なピアノ演奏技術(タッチ、音色、指の形、指使い		
		みの学習にとどまらす	r 、ディスカッション?	を重ねながら、音楽に対する興味、関心の伸長をはかることを基本とし		
授業概要	たい。					
	試験後に時間を設け、コメントによる	フィードバックを行う				
	位置づけ・水準 CE2132					
	保育者として必要なピアノ演奏の基礎:	技法を習得し、豊かな	お音楽性を自主的に体行	得することを目的とする。		
	①ピアノ・テキスト lesson9まで終了	している。				
	②楽譜の基本的な記譜法や音楽理論を理解し、演奏に活かすことができている。					
達成目標	単位認定の最低基準:個人レッスンの	①は必須条件である。	②は内容の7割を理解	解し、授業や演奏発表において確認できること。		
	ディプロマ・ポリシーとの関係: 「保	育の内容の理解と総合	合的計画力」「保育のプ	方法と技術力」「表現力とコミュニケーション能力」「豊かな人間性と		
	規範意識」					
	幼児教育学科1年		成績評価	毎授業でのレッスン成果(態度、課題に対する取り組み姿勢・意欲、		
受講資格			770.5007 11-1	進度等)40点、ML:平常点(意欲・態度等)20点、課題20点、定期		
			方法	試験20点		
	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士養成	課程のためのピアノ・	テキスト 改訂版(吉			
****	子どものための音楽表現技術(今泉明	美 他編著、萌文書材	<b>†</b> )			
教科書	保育・教育の現場で使える!弾き歌いピアノ曲集(津布楽杏里・桑原章寧共著、ドレミ楽譜出版社)					
参考書	授業内で適宜資料を配布する。					
	○毎時間休まないでレッスンを受ける	こと。				
学生への要望	○毎日最低30分は練習し、自己の課題	○毎日最低30分は練習し、自己の課題に取り組むこと。				
	○爪をカットし、マニキュアはつけな	いこと。髪の毛が前に	こ下がらないようにまる	とめてくること。		
+7,74/1	月曜日・金曜日 12:00~12:50 場所:	83年館4F コピー室	<b>E</b> 兼非常勤控室			
オフィスタイム	深谷:火曜日 限・金曜日  限 場所	: 芸術館 3 F No.1幼	児教育学研究室			

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	渡辺桂子、鈴木明美、佐久間智	##///DC   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100//   100/	各人の進度に合わせて、基礎的な技法 (タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得 する。	30
2	基本的なピアノ演奏法渡辺桂子、鈴木明美、佐久間智	・各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。 ・MLでは、項目に記載の内容を学ぶ。 ・テキスト「ピアノテキスト」のLesson 1~24の内容について、個人の進度に合わせたグレートをレッスンする。 ・進度の進んでいる学生は、上記テキストの応用[その1]参考曲・応用[その2]表現のための音楽の内容をレッスンする。	各人の進度に合わせて、基礎的な技法 (タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得 する。	30
3	アノ演奏法渡辺桂子、鈴木明美、佐久間智	・各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。 ・MLでは、項目に記載の内容を学ぶ。 ・テキスト「ピアノテキスト」のLesson 1~24の内容について、個人の進度に合わせたグレートをレッスンする。 ・進度の進んでいる学生は、上記テキストの応用[その1]参考曲・応用[その3]表現のための音楽の内容をレッスンする。	各人の進度に合わせて、基礎的な技法 (タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得 する。	30

0	項目	-授業内容とスケジュール- <b>授業内容</b>	自学自習	目安時間
		・各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指		30
4	ついてと基本的なピアノ演奏法 渡辺桂子、鈴木明美、佐久間智		(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。	55
5	アノ演奏法 渡辺桂子、鈴木明美、佐久間智	・各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。 ・MLでは、項目に記載の内容を学ぶ。 ・テキスト「ピアノテキスト」のLesson 1~24の内容について、個人の進度に合わせたグレートをレッスンする。 ・進度の進んでいる学生は、上記テキストの応用[その1]参考曲・応用[その5]表現のための音楽の内容をレッスンする。	各人の進度に合わせて、基礎的な技法 (タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得 する。	30
6	アノ演奏法 渡辺桂子、鈴木明美、佐久間智	・各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。 ・MLでは、項目に記載の内容を学ぶ。 ・テキスト「ピアノテキスト」のLesson 1~24の内容について、個人の進度に合わせたグレートをレッスンする。 ・進度の進んでいる学生は、上記テキストの応用[その1]参考曲・応用[その6]表現のための音楽の内容をレッスンする。	各人の進度に合わせて、基礎的な技法 (タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得 する。	30
7	本的なピアノ演奏法 渡辺桂子、鈴木明美、佐久間智	・各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。 ・MLでは、項目に記載の内容を学ぶ。 ・テキスト「ピアノテキスト」のLesson 1~24の内容について、個人の進度に合わせたグレートをレッスンする。 ・進度の進んでいる学生は、上記テキストの応用[その1]参考曲・応用[その7]表現のための音楽の内容をレッスンする。	各人の進度に合わせて、基礎的な技法 (タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得 する。	30
8	ノ演奏法 渡辺桂子、鈴木明美、佐久間智	・各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。 ・MLでは、項目に記載の内容を学ぶ。 ・テキスト「ピアノテキスト」のLesson 1~24の内容について、個人の進度に合わせたグレートをレッスンする。 ・進度の進んでいる学生は、上記テキストの応用[その1]参考曲・応用[その8]表現のための音楽の内容をレッスンする。	各人の進度に合わせて、基礎的な技法 (タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得 する。	30
9	ピアノ演奏法 渡辺桂子、鈴木明美、佐久間智	・各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。 ・MLでは、項目に記載の内容を学ぶ。 ・テキスト「ピアノテキスト」のLesson 1~24の内容について、個人の進度に合わせたグレートをレッスンする。 ・進度の進んでいる学生は、上記テキストの応用[その1]参考曲・応用[その9]表現のための音楽の内容をレッスンする。	各人の進度に合わせて、基礎的な技法 (タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得 する。	30

	-授業内容とスケジュール-				
回	項目	授業内容	自学自習	目安時間	
10	スリーコードの修得と基本的な ピアノ演奏法 渡辺桂子、鈴木明美、佐久間智 子、加藤幸恵、本橋美恵子、菅 原美謝	の形、指使い等)を習得する。	各人の進度に合わせて、基礎的な技法 (タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。	30	
11	ノ演奏法 渡辺桂子、鈴木明美、佐久間智	・各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。 ・MLでは、項目に記載の内容を学ぶ。 ・テキスト「ピアノテキスト」のLesson 1~24の内容について、個人の進度に合わせたグレートをレッスンする。 ・進度の進んでいる学生は、上記テキストの応用[その1]参考曲・応用[その11]表現のための音楽の内容をレッスンする。	各人の進度に合わせて、基礎的な技法 (タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。	30	
12	奏法 渡辺桂子、鈴木明美、佐久間智	・各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。 ・MLでは、項目に記載の内容を学ぶ。 ・テキスト「ピアノテキスト」のLesson 1~24の内容について、個人の進度に合わせたグレートをレッスンする。 ・進度の進んでいる学生は、上記テキストの応用[その1]参考曲・応用[その12]表現のための音楽の内容をレッスンする。	各人の進度に合わせて、基礎的な技法 (タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。	30	
13	マーチと基本的なピアノ演奏 法・表現の理解 渡辺桂子、鈴木明美、佐久間智 子、加藤幸恵、本橋美恵子、菅 原美謝	・各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。 ・MLでは、項目に記載の内容を学ぶ。 ・テキスト「ピアノテキスト」のLesson 1~24の内容について、個人の進度に合わせたグレートをレッスンする。 ・進度の進んでいる学生は、上記テキストの応用[その1]参考曲・応用[その13]表現のための音楽の内容をレッスンする。	試験に向けて演奏技術と表現力の向上を目指しながら練習に取り組む。マーチの暗譜を確実にする。	30	
14	マーチと基本的なピアノ演奏法・表現技術について渡辺桂子、鈴木明美、佐久間智子、加藤幸恵、本橋美恵子、菅原美謝		試験に向けて演奏技術と表現力の向上を目指しながら練習に取り組む。マーチの暗譜を確実にする。	30	
15	マーチと基本的なピアノ演奏法・豊かな表現について渡辺桂子、鈴木明美、佐久間智子、加藤幸恵、本橋美恵子、菅原美謝	15回のレッスンを通して得た奏法を振り返り、確認テストの準備をする。	試験に向けて演奏技術と表現力の向上を目指しながら練習に取り組む。マーチの暗譜 を確実にする。	30	

5年度		1	1		
科目名	子どもの器楽Ⅱ	対象			
担当教員	深谷 悠里絵	単位数	短期大学部 幼児教	育学科	1年 1単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 必修
開講期	II	必選			
授業概要	園・保育所での「生活のうた」	5 曲(おはようのうた2種類。 且のグループを作り、ディン を通して表現力や協調性、 5	・おべんとう・おかえ スカッションを重ねぇ コミュニケーション[	えりのう: ながら1=	。読譜力とピアノ演奏の基本技術を向上させると同時に、幼iた2種類)にも取り組み、保育現場で求められる実践力を身にコマにアンサンブル曲を1曲仕上げる。アンサンブルによる音目表させていく。
達成目標	保育者として必要なピアノ演奏の個人レッスン ①ピアノ・テキスト lesson12ま ②「生活のうた」の伴奏が弾ける ③楽譜の基本的な演奏技術を理解 ML授業 ①2人のテンポやリズム感等をも	で終了している。 る。 <sup>客し、 積極的に表現しようる</sup>	としている。	本得する	ことを目的とする。
		自分の演奏ができる。 スンの①は必須条件である。			を理解し、授業や演奏発表において確認できること。 技術力」「表現力とコミュニケーション能力」「豊かな人間!
受講資格	③他の人の演奏を聴きながら、自 単位認定の最低基準:個人レッス ディプロマ・ポリシーとの関係:	自分の演奏ができる。 スンの①は必須条件である。		の方法と毎段。	
	③他の人の演奏を聴きながら、自 単位認定の最低基準:個人レック ディプロマ・ポリシーとの関係: 規範意識」	自分の演奏ができる。 スンの①は必須条件である。 : 「保育の内容の理解と総合 第・編集者 育士養成課程のためのピア 弾き歌いピアノ曲集』ドレ	成績評価 方法 /・テキスト』ドレ: ミ楽譜出版社	の方法と 毎授 進度 度等)	技術力」「表現力とコミュニケーション能力」「豊かな人間 業でのレッスン成果(態度、課題に対する取り組み姿勢・意名等)40点、ML:平常点(課題に対する取り組み姿勢・意欲・ )40点、定期試験20点
受講資格	③他の人の演奏を聴きながら、自単位認定の最低基準:個人レックディプロマ・ポリシーとの関係:規範意識」 幼児教育学科1年生  吉野 幸男・三瓶 令子外10名 執『幼稚園教諭・小学校教諭・保育連布楽 杏里・桑原 章寧 共著『保育・教育の現場で使える! 全国大学音楽教育学会 編著『明日へ歌い継ぐ 日本の子ども	自分の演奏ができる。 スンの①は必須条件である。 : 「保育の内容の理解と総合 第・編集者 育士養成課程のためのピア 弾き歌いピアノ曲集』ドレ	成績評価 方法 /・テキスト』ドレ: ミ楽譜出版社	の方法と 毎授 進度 度等)	技術力」「表現力とコミュニケーション能力」「豊かな人間 業でのレッスン成果(態度、課題に対する取り組み姿勢・意名等)40点、ML:平常点(課題に対する取り組み姿勢・意欲・ )40点、定期試験20点
受講資格教科書	③他の人の演奏を聴きながら、自単位認定の最低基準:個人レックディプロマ・ポリシーとの関係:規範意識」 幼児教育学科1年生  吉野 幸男・三瓶 令子外10名 執『幼稚園教諭・小学校教諭・保育津布楽 杏里・桑原 章寧 共著『保育・教育の現場で使える! 全国大学音楽教育学会 編著『明日へ歌い継ぐ 日本の子どもの中から選択	自分の演奏ができる。 スンの①は必須条件である。 に「保育の内容の理解と総合 筆・編集者 育士養成課程のためのピア 弾き歌いピアノ曲集』ドレ の歌一唱歌童謡140年の歩	成績評価 方法 /・テキスト』ドレ: ミ楽譜出版社 :み』音楽之友社	の方法と	技術力」「表現力とコミュニケーション能力」「豊かな人間 業でのレッスン成果(態度、課題に対する取り組み姿勢・意欲等)40点、ML:平常点(課題に対する取り組み姿勢・意欲・ )40点、定期試験20点

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1		・個人レッスン→ I 期テキスト内容の継続したレッスンに よる基本技術の向上。 幼稚園・保育所での生活のための曲を5曲(おはようのうた 2種類・おべんとう・おかえりのうた2種類)を課題とする。 ・MLレッスン→アンサンブル体験	(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得	30
2		・個人レッスン→ I 期テキスト内容の継続したレッスンに よる基本技術の向上。 幼稚園・保育所での生活のための曲を 5 曲(おはようのうた 2種類・おべんとう・おかえりのうた2種類)を課題とする。 ・MLレッスン→アンサンプル体験	(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得	30
3	サンブル 渡辺桂子、鈴木明美、佐久間智	・個人レッスン→ I 期テキスト内容の継続したレッスンに よる基本技術の向上。 幼稚園・保育所での生活のための曲を 5 曲(おはようのうた 2種類・おべんとう・おかえりのうた2種類)を課題とする。 ・MLレッスン→アンサンブル体験	(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得	30

子、加藤幸恵、本橋美恵子、菅原美謝 基本的なピアノの演奏表現技術の応用とアンサンブル 渡辺桂子、鈴木明美、佐久間智子、加藤幸恵、本橋美恵子、菅原美謝 基本的なピアノ演奏法と「朝のうた」、アンサンブル 渡辺桂子、鈴木明美、佐久間智	よる基本技術の向上。 幼稚園・保育所での生活のための曲を5曲(おはようのうた 2種類・おべんとう・おかえりのうた5種類)を課題とする。 ・MLレッスン→アンサンブル体験  ・個人レッスン→ I 期テキスト内容の継続したレッスンに よる基本技術の向上。 幼稚園・保育所での生活のための曲を5曲(おはようのうた 2種類・おべんとう・おかえりのうた2種類)を課題とする。 ・MLレッスン→アンサンブル体験  ・個人レッスン→I 期テキスト内容の継続したレッスンに よる基本技術の向上。	(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。 各人の進度に合わせて、基礎的な技法 (タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得	<b>目安時間</b> 30 30 30
の応用とアンサンブル 渡辺桂子、鈴木明美、佐久間智 子、加藤幸恵、本橋美恵子、菅 原美謝 基本的なピアノ演奏法と「朝の うた」、アンサンブル 渡辺桂子、鈴木明美、佐久間智 子、加藤幸恵、本橋美恵子、菅	よる基本技術の向上。 幼稚園・保育所での生活のための曲を5曲(おはようのうた 2種類・おべんとう・おかえりのうた2種類)を課題とする。 ・MLレッスン→アンサンブル体験 ・個人レッスン→ I 期テキスト内容の継続したレッスンに よる基本技術の向上。	(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得	30
うた」、アンサンプル 渡辺桂子、鈴木明美、佐久間智 子、加藤幸恵、本橋美恵子、菅	よる基本技術の向上。		
-2 -2 CH03	幼稚園・保育所での生活のための曲を5曲(おはようのうた 2種類・おべんとう・おかえりのうた7種類)を課題とする。 ・MLレッスン→アンサンブル体験	(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得	30
ようの歌」、アンサンブル 渡辺桂子、鈴木明美、佐久間智		(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得	30
んとう」、アンサンブル 渡辺桂子、鈴木明美、佐久間智	よる基本技術の向上。 幼稚園・保育所での生活のための曲を5曲(おはようのうた	(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得	30
えりのうた」、アンサンブル 渡辺桂子、鈴木明美、佐久間智	よる基本技術の向上。 幼稚園・保育所での生活のための曲を5曲(おはようのうた	(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得	30
ならのうた」、アンサンブル 渡辺桂子、鈴木明美、佐久間智	よる基本技術の向上。 幼稚園・保育所での生活のための曲を5曲(おはようのうた	(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得	30
ンサンブル表現 渡辺桂子、鈴木明美、佐久間智	よる基本技術の向上。 幼稚園・保育所での生活のための曲を5曲(おはようのうた	(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得	30
ンサンブル表現 渡辺桂子、鈴木明美、佐久間智	よる基本技術の向上。 幼稚園・保育所での生活のための曲を5曲(おはようのうた	(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得	30
ンサンブル表現 渡辺桂子、鈴木明美、佐久間智	よる基本技術の向上。 幼稚園・保育所での生活のための曲を5曲(おはようのうた 2種類・おべんとう・おかえりのうた2種類)を課題とする。	指しながら練習に取り組む。生活のうたの	30
一刻一顶 建大划一顶 建支制一顶 建大划一顶 一言之别一顶 一言之别一	度辺柱子、余恵、本橋美恵子、常芸・大田で、   一を辺には、   一を辺には、   一を辺には、   一を辺には、   一を辺には、   一を変え、   になる、   に	度辺桂子、鈴木明美、佐久間智 ア、加藤辛恵、本橋美恵子、菅 「無本的なピアノ演奏法と「おべ いとう」、アンサンブル 支辺桂子、鈴木明美、佐久間智 ア、加藤辛恵、本橋美恵子、菅 「個人レッスン→ I 期テキスト内容の継続したレッスンに よる基本技術の向上。 が推園・保育所での生活のための曲を5曲(おはようのうた 原美謝  「中のの大力での生活のための曲を5曲(おはようのうた 原美謝  「中のの大力での生活のための曲を5曲(おはようのうた のでは、おのでは、アンサンブル ないのうた」、アンサンブル 変辺桂子、鈴木明美、佐久間智 ア、加藤辛恵、本橋美恵子、菅 原美謝  「個人レッスン→ I 期テキスト内容の継続したレッスンに よる基本技術の向上。 が推園・保育所での生活のための曲を5曲(おはようのうた のが推園・保育所での生活のための曲を5曲(おはようのうた のが推園・保育所での生活のための曲を5曲(おはようのうた のが上アノ演奏法と「さよいとう・おかえりのうた2種類)を課題とする。 のが上レッスン→アンサンブル体験  「個人レッスン→ I 期テキスト内容の継続したレッスンに よる基本技術の向上。 が推園・保育所での生活のための曲を5曲(おはようのうた のが推園・保育所での生活のための曲を5曲(おはようのうた のが推園・保育所での生活のための曲を5曲(おはようのうた のが推園・保育所での生活のための曲を5曲(おはようのうた のが推園・保育所での生活のための曲を5曲(おはようのうた のが推園・保育所での生活のための曲を5曲(おはようのうた のが推園・保育所での生活のための曲を5曲(おはようのうた のが推園・保育所での生活のための曲を5曲(おはようのうた のが推園・保育所での生活のための曲を5曲(おはようのうた のが推園・保育所での生活のための曲を5曲(おはようのうた のが上の、などのよりにおいたの中を5曲(おはようのうた のが上の、などのよりにおいたの中を5曲(おはようのうた のが上の、などのよりにおいたの中を5曲(おはようのうた のが上の、などのよりにおいたの中を5曲(おはようのうた のが上の、などのよりにおいたの中を5曲(おはようのうた のが上の、などのよりには、などのうたと種類)を課題とする。 のが上の、などのよりには、などのよりには、などのよりには、などのよりには、などのよりには、などのよりには、などのよりには、などのよりには、などのよりには、などのよりには、などのよりには、などのよりには、などのよりには、などのよりには、などのは、などのよりには、などのよりには、などのよりには、などのよりには、などのよりには、などのよりには、などのよりには、などのよりには、などのよりには、などのよりには、などのよりには、などのよりには、などのよりには、などのよりには、などのよりには、などのよりには、などのよりには、などのよりには、などのよりには、などのよりには、などのよりには、などのよりには、などのよりには、などのよりには、などのよりには、などのよりには、などのよりには、などのよりには、などのよりには、などのよりには、などのよりには、などのよりには、などのよりには、などのよりには、などのよりには、などのよりには、などのよりには、などのよりには、などのよりには、などのよりには、などのよりには、などのよりには、などのよりには、などのよりには、などのよりには、などのよりには、などのよりには、などのよりには、などのよりには、などのよりには、などのよりには、などのよりには、などのよりには、などのよりには、などのよりには、などのよりには、などのよりには、などのよりには、などのよりには、などのよりには、などのよりには、などのよりには、などのよりには、などのよりには、などのよりには、などのよりには、などのよりには、などのよりには、などのよりには、などのよりには、などのよりには、などのよりには、などのよりには、などのよりには、などのよりには、などのよりには、などのよりには、などのよりには、などのよりには、などのよりには、などのよりには、などのよりには、などのよりには、などのよりには、などのよりには、などのよりには、などのよりには、などのよりには、などのよりには、などのよりには、などのよりには、などのよりには、などのよりには、などのよりには、などのよりには、などのは、などのよりには、などのよりには、などのよりには、などのよりには、などのよりには、などのよりには、などのは、などのは、などのは、などのは、などのは、などのは、などのは、などの	表型性子、鈴木明美、佐久間智 た、加藤辛恵、本横美恵子、宮 2種類・おべんとう・おかえりのうた2種類と課題とする。 ・MLレッスンー1期テキスト内容の超続したレッスンに よる基本技術の向上。 をはのうた」、アンサンブル 基本的なピアノ演奏法と「おか ・MLレッスンー1期テキスト内容の超続したレッスンに よる基本技術の向上。 をはのうた」、アンサンブル をはのうた」、アンサンブル をはいるがとアノ演奏法と「おか ・MLレッスンー1期テキスト内容の超続したレッスンに よる基本技術の向上。 をはのうた」、アンサンブル を担望・おべんとう・おかえりのうた2種類を課題とする。 ・MLレッスンー1期テキスト内容の超続したレッスンに よる基本技術の向上。 をはのうた」、アンサンブル を提起子、鈴木明美、佐人間智 ・MLレッスンー1期テキスト内容の超続したレッスンに よる基本技術の向上。 をはのうた」、アンサンブル を提起子、鈴木明美、佐人間智 ・MLレッスンー1期テキスト内容の超続したレッスンに よる基本技術の向上。 をはのうた」、アンサンブル を提出子、鈴木明美、佐人間智 ・MLレッスンー1期テキスト内容の超続したレッスンに よる基本技術の向上。 を基本的なピアノ演奏法と「さよ ならのうた」、アンサンブル を基本的なピアノ演奏法と「さよ なが出産」・終末側、銀行所での生活のための曲を5曲(おはようのうた ・MLレッスンーアンサンブル体験 を提出子、鈴木明美、佐人間智 ・MLレッスンーフアンサンブル体験 が機画・保育所での生活のための曲を5曲(おはようのうた を人の進度に合わせて、基礎的な技法 タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得 オる。 ・MLレッスンーアンサンブル体験 が機画・保育所での生活のための曲を5曲(おはようのうた を人の進度に合わせて、基礎的な技法 タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得 オる。 ・MLレッスンーアンサンブル体験 が構画・保育所での生活のための曲を5曲(おはようのうた なる基本技術の向上。 なる基本技術の向上。 なんとう・おかえりのうた2種類と課題とする。 ・MLレッスンー1期テキスト内容の超続したレッスンに よる基本技術の向上。 なんとう・おかえりのうた2種類と課題とする。 ・MLレッスンーフアンサンブル体験 の権国・保育所での生活のための曲を5曲(おはようのうた を表し、おの形、指使い等)を習得 オる。 ・MLレッスンー1期テキスト内容の超続したレッスンに よる基本技術の向上。 なんとう・おかえりのうた2種類と課題とする。 ・MLレッスンー1期テキスト内容の超続したレッスンに なる基本技術の向上。 なんとう・おかえりのうた2種類と課題とする。 ・MLレッスンー1期テキスト内容の超続したレッスンに なる基本技術の向上。 なんとう・おかえりのうた2種類と課題とする。 ・MLレッスンー1期テキスト内容の超続したレッスンに なる基本技術の向上。 なんとう・おかえりのうた2種類と課題とする。 ・Mにから数類に向けて演奏技術と表現力の向上を目 指しながら練習に取り組む。生活のうたの ・描述を確実にする。 が機関・よりのもと を構りを表現力の向上を を表れたとう・おかえりのうた2種類と課題とする。 ・Mを確実の生活のための曲を5曲(おはようのうた を表れたと、カースレースンで、 を表れたと、カースレースンで、 はながら練習に取り組む。生活のうた を確認と確実のも、 を確認と確実のは、 を表れたと、 を表れたと、 を表れたと、 を表れたと、 を発生を表現力の向上を を表れたと、 を表れたと、 を発生を発生のも、 を発生のなどを表れたと、 を発生を確定したい。 を表れたと、 を発生のも、 ・本にのよりを発生のよりを発見と を発生のよりに向上を を発生のよりに向上を を発生のよりに向上を を発生のよりに向上を を発生のよりに向上を を表れなどのと、 を発生のよりに向上を を発生のよりに向上を を発生のよりに向上を を発生のよりに向上を を発生のよりに向上を を発生のよりに向上を を発生のよりに向上を を発生のよりに向上を を発生のよりに向上を を発生のよりに向上を ・本にのよりに向上を ・本にのよりに向上を ・本にのよりに向上を ・本にのよりに向上を ・本にの

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1.4		・個人レッスン→ I 期テキスト内容の継続したレッスンに よる基本技術の向上。 幼稚園・保育所での生活のための曲を 5 曲(おはようのうた 2種類・おべんとう・おかえりのうた2種類)を課題とする。 ・MLレッスン→アンサンブル体験	習に取り組む。生活のうたの暗譜を確実に	30
		15回のレッスンを通して得た奏法を振り返り、確認テストの準備をする。	演奏技術と表現力の向上を目指しながら練習に取り組む。生活のうたの暗譜を確実にする。	30

科目名	ピアノI(主科)	対象			
担当教員	横溝 聡子	単位数	短期大学部 幼児教育	学科 1年 2単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 必修	
開講期	通年	必選			
授業概要	ビアノ演奏の基礎的技術の習得と豊かな表現力を体得することを目的とする。手、腕、身体の使い方や読譜など基礎的な知識や技術の習得のために個々のレベルに合わせて授業を展開する。基礎の練習曲や多声音楽、古典派などの楽曲などを通して音楽理論や作品の様式を理解し、表現するための技術や演奏法を学ぶ。加えて幼児教育現場で歌われる「生活のうた」やマーチも学び、保育者としての実践力を養う。また、マンツーマンの授業やアンサンブル、ディスカッションを通して豊かな人間性やコミュニケーション能力を高め、自発的で豊かな演奏表現ができることを目指す。各試験後、個々に時間を設定しフィードバックを行います。位置づけ・水準 CE2132				
達成目標	②多声音楽作品や古典派などの楽曲を空 ③自己の表現力や人間性を高めることに ④「生活のうた」の弾き歌いができる。 単位認定の最低基準:④は必須である。	ルー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・			
受講資格	幼児教育学科チャイルド・ミュージック	クコース1年	成績評価 方法	実技試験90%、平常点10%	
教科書	ツェルニー、バッハ、古典派作品など進度に応じてその都度指示。 津布楽杏里・桑原章寧 共著『保育・教育の現場で使える!弾き歌いピアノ曲集』ドレミ楽譜出版社 全国大学音楽教育学会 編著『明日へ歌い継ぐ 日本の子どもの歌ー唱歌童謡140年の歩み』音楽之友社				
参考書	進度に合わせて、適宜楽譜を紹介する。	,			
学生への要望	実技科目のため積極的な練習の積み重ね	ねが重要です。授業で	での課題を次の授業まで	でに出来るよう、よく考えながら根気強く取り組みましょう。	
オフィスタイム	火曜日Ⅰ限 金曜日Ⅲ限 場所:芸術館	館3F No.1幼児教育	育学研究室		

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
	基礎技術の学習1	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。古典派などの作品の学習、工作な話様力も見たのは2	上に向け練習を行う。授業での課題を、次	120
1		の学習。正確な読譜力を身につける。	週までにできるようにする。事前事後学習 の目安時間は最低必要な時間である。各自	
			授業に対応できるよう準備が必要である。	
	基礎技術の学習 2	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品		120
2		を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。古典派などの作品 の学習。正確な読譜力を身につける。	上に同け練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	
	基礎技術の学習3	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品		120
3		を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。古典派などの作品 の学習。マーチの学習。正確な読譜力を身につける。	上に向け練省を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	
	基礎技術の学習 4	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品		120
4		を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。古典派などの作品 の学習。マーチの学習。楽曲分析と演奏法の学習。	上を目指し練省を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	
	基礎技術の学習 5	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品		120
5		を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。古典派などの作品 の学習。マーチの学習。楽曲分析と演奏法の学習。	上を目指し練習を行う。授業での課題を次 週までにできるようにする。	
	基礎技術の学習 6	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。パロック作品		120
6		を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。古典派などの作品 の学習。マーチの学習。試験曲の選定。正確な読譜を行 う。	上を目指し練習を行う。授業での課題を次 週までにできるようにする。	
	基礎技術の学習 7	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向	120
7		を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。古典派などの作品 の学習。マーチの学習。試験曲の正確な読譜を行う。	上を目指し練習を行う。授業での課題を次 週までにできるようにする。	
	基礎技術の学習8	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。パロック作品		120
8		を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲とマーチの 学習。楽曲分析と演奏法の学習。	を行う。授業での課題を次週までにできる ようにする。	

	項目	- 授業内容とスケシュール- <b>授業内容</b>	自学自習	目安時間
	基礎技術の学習 9	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。パロック作品 を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲とマーチの	基礎的な技術と表現力の向上に向け練習を	120
9		学習。楽曲への理解を深め演奏表現に繋げる。		
	基礎技術の学習10	マーチの試験。練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図	試験に向け確実性のある技術と表現力の向	120
10		る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。 試験曲の学習。演奏表現を深める。	上を目指し練習を行う。授業での課題を次 週までにできるようにする。	
11	演奏表現の学習 1	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品 を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲の学習。演		120
11		を用いて多声自未の様式と奏法の子自。 過剰皿の子自。 過 奏表現を深める。	週までにできるようにする。	
12	演奏表現の学習 2	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。パロック作品 を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲の学習。演	上を目指し練習を行う。授業での課題を次	120
		奏表現を深める。	週までにできるようにする。	
13	演奏表現の学習 3	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品 を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲の学習。自 発的な演奏表現を目指す。		120
	演奏表現の学習 4	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品		120
14		を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲の学習。自 発的な演奏表現を目指す。		
	演奏表現の学習とまとめ	式験に向けステージを想定した発表を行い、グループでの	週までにできるようにする。 試験に向け確実性のある技術と表現力の向	120
15	A CANADIAC & CO	ディスカッションを通じて自己の演奏を振り返り、更なる	上を目指し練習を行う。授業での課題を試	125
		演奏表現の向上を目指す。	験までにできるようにする。	
	演奏技術の学習 1	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。古典派、ロマン	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での	120
16		派、近現代などの作品の学習。アンサンブル曲の学習。正確な読譜力を身につける。		
	演奏技術の学習 2	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品	アンサンブルでの演奏発表に向けて合わせ	120
17		を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。古典派、ロマン派、近現代などの作品の学習。アンサンブル曲の学習。正確な読譜力を身につける。	も含め練習を行う。授業での課題を次週ま でにできるようにする。	
	演奏技術の学習3	古典派、ロマン派、近現代などの作品の学習。アンサンブ	アンサンブルでの演奏発表に向けて合わせ	120
18			も含め練習を行う。授業での課題を次週ま	
10		を行いながらアンサンブルでのより良い表現を目指す。	でにできるようにする。	
	演奏技術の学習 4	アンサンブルの演奏発表を行う。演奏後それぞれの演奏表	次の授業に向けた譜読みをしっかり行い、	120
19		現についてディスカッションする。	基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。	
	演奏技術の学習 5	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。パロック作品	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向	120
20		を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。古典派、ロマン	上を目指し練習を行う。授業での課題を次	
		派、近現代などの作品の学習。「生活のうた」の学習。正確な読譜力を身につける。	旭までにできるようにする。	
	演奏技術の学習6	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。パロック作品	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向	120
21		を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。古典派、ロマン	上を目指し練習を行う。授業での課題を次	
		派、近現代などの作品の学習。「生活のうた」の学習。正確な読譜力を身につける。	週までにできるようにする。	
	演奏技術の学習7	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向	120
		を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。古典派、ロマン	上を目指し練習を行う。授業での課題を、	
22		派、近現代などの作品の学習。「生活のうた」の学習。試験曲の選定。正確な読譜力を身につける。	次週までにできるようにする。	
	演奏技術の学習8	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。パロック作品	iii 読みをしっかり行い、基礎的な技術の向	120
00	DOMESTIC OF THE STATE OF THE ST	を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲と「生活の		120
23		うた」の学習。正確な読譜力を身につける。	までにできるようにする。	
	演奏技術の学習9	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品	諸読みをしっかり行い、基礎的な技術の向	120
		を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲の学習。正		
24		確な読譜力を身につける。「生活のうた」の学習。	までにできるようにする。「生活のうた」 弾き歌いテストに向けて準備する。	
			汗で叭いノヘドに叩りく竿珊する。	

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
	演奏表現の学習 1	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向	120
		を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲の学習。楽	上に向け練習を行う。授業での課題を次週	
25		曲分析と演奏法の学習。「生活のうた」の学習。	までにできるようにする。	
	演奏表現の学習 2	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品	楽曲への理解を深め、基礎的な技術と表現	120
26		を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲の学習。楽		
20		曲分析と演奏法の学習。「生活のうた」の学習。	題を次週までにできるようにする。	
	演奏表現の学習3	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品	楽曲への理解を深め、演奏技術と表現力の	120
07		を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲の学習。楽	向上を目指し練習を行う。授業での課題を	
27		曲への理解を深め演奏表現に繋げる。「生活のうた」の学	次週までにできるようにする。	
		習。		
	演奏表現の学習 4	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品	楽曲への理解を深め、演奏技術と表現力の	120
		を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲の学習。自	向上を目指し練習を行う。授業での課題を	
28		発的な演奏表現を目指す。「生活のうた」の学習。	次週までにできるようにする。	
	演奏表現の学習 5	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品	楽曲への理解を深め、演奏技術と表現力の	120
		を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲の学習。自	更なる向上を目指し練習を行う。授業での	
29		発的な演奏表現を目指す。「生活のうた」の学習。	課題を次週までにできるようにする。	
	演奏表現の学習6とまとめ	試験に向けステージを想定した発表を行い、グループでの	試験に向け確実性のある演奏技術と表現力	120
		ディスカッションを通じて自己の演奏を振り返り、更なる	の更なる向上を目指し練習を行う。授業で	
30		演奏表現の向上を目指す。	の課題を試験までにできるようにする。	

#出当教員 深合 悠里絵 単位教 必選 短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 必修 必選 とアノ演奏の基礎的技術の習得と豊かな表現力を体得することを目的とする。手、腕、身体の使い方や読譜など基礎的な知識や技術の習得のために行のレベルに合わせて授業を展開する。基礎の練習曲や多声音楽、古典派などの楽曲などを通して音楽理論や作品の様式を理解し、表現するための技術演奏法を学ぶ。加えて幼児教育現場で歌われる「生活のうた」やマーチも学び、保育者としての実践力を養う。また、マンツーマンの授業やアンザル、ディスカッションを通して豊かな人間性やコミュニケーション能力を高め、自発的で豊かな演奏表現ができることを目指す。各試験後、個々に経過では、大学では、大学では、大学では、大学である。「カーションを力を高め、自発的で豊かな演奏表現ができることを目指す。各試験後、個々に経過では、大学である。「カーションを力を高め、自発的で豊かな演奏表現ができることを目指す。各試験後、個々に経過では、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のできる。「大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のできる。「大学のでは、大学のでは、大学のできる。」では、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のでは、大学のは、大学のでは、大学のでは、大学のは、大学のは、大学のは、大学のは、大学のは、大学のは、大学のは、大学の						
一次選   一次   一次   一次   一次   一次   一次   一次	科目名	ピアノI(主科)	対象			
世アノ演奏の基礎的技術の習得と豊かな表現力を体得することを目的とする。手、腕、身体の使い方や誘調など基礎的な知識や技術の習得のためにくのレベルに合わせて授業を展開する。基礎の練習曲や多声音楽、古典派などの楽曲などを通して音楽理論や作品の様式を理解し、表現するための技、演奏法を学ぶ。加えて幼児教育現場で歌われる「生活のうた」やマーチも学び、保育者としての実践力を養う。また、マンツーマンの授業やアンサル、ディスカッションを通して豊かな人間性やコミュニケーション能力を高め、自発的で豊かな演奏表現ができることを目指す。各試験後、個々にはを設定しフィードバックを行います。位置づけ・水準 CE2134  目標は ①ピアノの基本的技術や音楽理論を理解し、演奏技術の訓練に励むことができる。 ②多声音楽作品や古典派などの楽曲を学び、基本的な演奏法を理解できている。 ③自己の表現力や人間性を高めることができている。 ④「生活のうた」の弾き歌いができる。単位認定の最低基準:④は必須である。①から③までの内容の7割は理解し、授業や演奏発表で確認できること。ディブロマ・ポリシーとの関係:「保育の方法と技術力」「表現とコミュニケーション能力」「豊かな人間性と規範意識」「音楽表現能力」  受講資格  対児教育学科チャイルド・ミュージックコース1年  成績評価 方法  東校試験90%、平常点(ラーニングポートフォリオ含む)105  本本楽古里・桑原章寧 共著『保育・教育の現場で使える!弾き歌いピアノ曲集』ドレミ楽譜出版社 全国大学音楽教育学会 編著『明日へ歌い継ぐ 日本の子どもの歌ー唱歌童謡140年の歩み』音楽之友社 進度に応じてその都度指示。	担当教員	深谷 悠里絵	単位数	短期大学部 幼児教育	学科 1年 2単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 必修	
####################################	開講期	通年	必選			
①ピアノの基本的技術や音楽理論を理解し、演奏技術の訓練に励むことができる。 ②多声音楽作品や古典派などの楽曲を学び、基本的な演奏法を理解できている。 ③自己の表現力や人間性を高めることができている。 ④「生活のうた」の弾き歌いができる。 単位認定の最低基準:④は必須である。①から③までの内容の7割は理解し、授業や演奏発表で確認できること。 ディプロマ・ポリシーとの関係:「保育の方法と技術力」「表現とコミュニケーション能力」「豊かな人間性と規範意識」「音楽表現能力」  受講資格  対児教育学科チャイルド・ミュージックコース1年  成績評価 方法  津布楽杏里・桑原章率 共著『保育・教育の現場で使える!弾き歌いピアノ曲集』ドレミ楽譜出版社 全国大学音楽教育学会 編著『明日へ歌い継ぐ 日本の子どもの歌ー唱歌童謡140年の歩み』音楽之友社 進度に応じてその都度指示。	授業概要					
方法	達成目標	①ピアノの基本的技術や音楽理論を理解し、演奏技術の訓練に励むことができる。 ②多声音楽作品や古典派などの楽曲を学び、基本的な演奏法を理解できている。 ③自己の表現力や人間性を高めることができている。 ④「生活のうた」の弾き歌いができる。 単位認定の最低基準:④は必須である。①から③までの内容の7割は理解し、授業や演奏発表で確認できること。				
<b>教科書</b> 全国大学音楽教育学会 編著『明日へ歌い継ぐ 日本の子どもの歌ー唱歌童謡140年の歩み』音楽之友社 進度に応じてその都度指示。	受講資格	幼児教育学科チャイルド・ミュージック	クコース1年	134,541,12	実技試験90%、平常点(ラーニングポートフォリオ含む)10%	
<b> </b>	教科書	全国大学音楽教育学会 編著『明日へ歌い継ぐ 日本の子どもの歌ー唱歌童謡140年の歩み』音楽之友社				
<b>参考者</b> 進度に合わせて、適宜栄請を紹介する。	参考書	進度に合わせて、適宜楽譜を紹介する。				
<b>学生への要望</b> 実技科目のため積極的な練習の積み重ねが重要です。授業での課題を次の授業までに出来るよう、よく考えながら根気強く取り組みましょう。	学生への要望	実技科目のため積極的な練習の積み重ね	ねが重要です。授業で	での課題を次の授業まで	でに出来るよう、よく考えながら根気強く取り組みましょう。	
	オフィスタイム	火曜日Ⅰ限 金曜日Ⅱ限 場所:芸術館	館3F No.1幼児教育	育学研究室		

1	サ7株1十年の光77 1			
	基礎技術の学習1	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向	120
		を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。古典派などの作品	上に向け練習を行う。授業での課題を、次	
		の学習。正確な読譜力を身につける。	週までにできるようにする。事前事後学習	
1			の目安時間は最低必要な時間である。各自	
			授業に対応できるよう準備が必要である。	
1	基礎技術の学習 2	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向	120
		を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。古典派などの作品	上に向け練習を行う。授業での課題を次週	
2		の学習。正確な読譜力を身につける。	までにできるようにする。	
į	基礎技術の学習3	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向	120
		を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。古典派などの作品	上に向け練習を行う。授業での課題を次週	
3		の学習。マーチの学習。正確な読譜力を身につける。	までにできるようにする。	
<u></u>	基礎技術の学習 4	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向	120
		を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。古典派などの作品	上を目指し練習を行う。授業での課題を次	
4		の学習。マーチの学習。楽曲分析と演奏法の学習。	週までにできるようにする。	
4	基礎技術の学習 5	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向	120
-		を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。古典派などの作品	上を目指し練習を行う。授業での課題を次	
5		の学習。マーチの学習。楽曲分析と演奏法の学習。	週までにできるようにする。	
į	基礎技術の学習 6	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向	120
		を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。古典派などの作品	上を目指し練習を行う。授業での課題を次	
6		の学習。マーチの学習。試験曲の選定。正確な読譜を行	週までにできるようにする。	
		う。		
į	基礎技術の学習 7	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向	120
_		を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。古典派などの作品	上を目指し練習を行う。授業での課題を次	
7		の学習。マーチの学習。試験曲の正確な読譜を行う。	週までにできるようにする。	
į	基礎技術の学習8	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品	基礎的な技術と表現力の向上を目指し練習	120
8		を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲とマーチの	を行う。授業での課題を次週までにできる	
		学習。楽曲分析と演奏法の学習。	ようにする。	

0	項目	- 授業内容とスケシュール- <b>授業内容</b>	自学自習	 目安時間
9	基礎技術の学習9	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲とマーチの学習。楽曲への理解を深め演奏表現に繋げる。	基礎的な技術と表現力の向上に向け練習を	120
10	基礎技術の学習10	マーチの試験。練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲の学習。演奏表現を深める。	試験に向け確実性のある技術と表現力の向 上を目指し練習を行う。授業での課題を次 週までにできるようにする。	120
11	演奏表現の学習1	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。パロック作品 を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲の学習。演 奏表現を深める。		120
12	演奏表現の学習 2	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品 を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲の学習。演 奏表現を深める。		120
13	演奏表現の学習3	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品 を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲の学習。自 発的な演奏表現を目指す。		120
14	演奏表現の学習 4	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品 を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲の学習。自 発的な演奏表現を目指す。		120
15	演奏表現の学習とまとめ	試験に向けステージを想定した発表を行い、グループでの ディスカッションを通じて自己の演奏を振り返り、更なる 演奏表現の向上を目指す。	試験に向け確実性のある技術と表現力の向 上を目指し練習を行う。授業での課題を試 験までにできるようにする。	120
16	演奏技術の学習 1	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。パロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。古典派、ロマン派、近現代などの作品の学習。アンサンブル曲の学習。正確な読譜力を身につける。	現力の向上を目指し練習を行う。授業での	120
17	演奏技術の学習 2	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。パロック作品 を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。古典派、ロマン 派、近現代などの作品の学習。アンサンブル曲の学習。正 確な読譜力を身につける。	も含め練習を行う。授業での課題を次週ま	120
18	演奏技術の学習3	古典派、ロマン派、近現代などの作品の学習。アンサンブル曲の学習。演奏発表に向けグループでディスカッションを行いながらアンサンブルでのより良い表現を目指す。	アンサンブルでの演奏発表に向けて合わせ も含め練習を行う。授業での課題を次週ま でにできるようにする。	120
19	演奏技術の学習 4	アンサンブルの演奏発表を行う。演奏後それぞれの演奏表 現についてディスカッションする。	次の授業に向けた譜読みをしっかり行い、 基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。	120
20	演奏技術の学習5	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。パロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。古典派、ロマン派、近現代などの作品の学習。「生活のうた」の学習。正確な読譜力を身につける。	上を目指し練習を行う。授業での課題を次	120
21	演奏技術の学習6	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品 を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。古典派、ロマン 派、近現代などの作品の学習。「生活のうた」の学習。正 確な読譜力を身につける。	上を目指し練習を行う。授業での課題を次	120
22	演奏技術の学習7	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。パロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。古典派、ロマン派、近現代などの作品の学習。「生活のうた」の学習。試験曲の選定。正確な読譜力を身につける。	上を目指し練習を行う。授業での課題を、	120
23	演奏技術の学習8	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。パロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲と「生活のうた」の学習。正確な読譜力を身につける。		120
24	演奏技術の学習9	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。パロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲の学習。正確な読譜力を身につける。「生活のうた」の学習。		120

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
	演奏表現の学習 1	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向	120
		を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲の学習。楽	上に向け練習を行う。授業での課題を次週	
25		曲分析と演奏法の学習。「生活のうた」の学習。	までにできるようにする。	
	演奏表現の学習 2	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品	楽曲への理解を深め、基礎的な技術と表現	120
26		を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲の学習。楽		
20		曲分析と演奏法の学習。「生活のうた」の学習。	題を次週までにできるようにする。	
	演奏表現の学習3	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品	楽曲への理解を深め、演奏技術と表現力の	120
07		を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲の学習。楽	向上を目指し練習を行う。授業での課題を	
27		曲への理解を深め演奏表現に繋げる。「生活のうた」の学	次週までにできるようにする。	
		習。		
	演奏表現の学習 4	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品	楽曲への理解を深め、演奏技術と表現力の	120
		を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲の学習。自	向上を目指し練習を行う。授業での課題を	
28		発的な演奏表現を目指す。「生活のうた」の学習。	次週までにできるようにする。	
	演奏表現の学習 5	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品	楽曲への理解を深め、演奏技術と表現力の	120
		を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲の学習。自	更なる向上を目指し練習を行う。授業での	
29		発的な演奏表現を目指す。「生活のうた」の学習。	課題を次週までにできるようにする。	
	演奏表現の学習6とまとめ	試験に向けステージを想定した発表を行い、グループでの	試験に向け確実性のある演奏技術と表現力	120
		ディスカッションを通じて自己の演奏を振り返り、更なる	の更なる向上を目指し練習を行う。授業で	
30		演奏表現の向上を目指す。	の課題を試験までにできるようにする。	

令和5年度					
科目名	ピアノI(副科)	対象			
担当教員	横溝 聡子	単位数	短期大学部 幼児教育	育学科 1年1単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 1年1単位 必修	
開講期	通年	必選			
授業概要	ビアノ演奏の基礎的技術の習得と豊かな表現力を体得することを目的とする。手、腕、身体の使い方や読譜など基礎的な知識や技術の習得のために個々のレベルに合わせて授業を展開する。基礎の練習曲や様々な時代の楽曲などを通して音楽理論や作品の様式を理解し、表現するための技術や演奏法を学ぶ。加えて幼児教育現場で歌われる「生活のうた」やマーチも学び、保育者としての実践力を養う。また、マンツーマンの授業やアンサンブル、ディスカッションを通して豊かな人間性やコミュニケーション能力を高め、自発的で豊かな演奏表現ができることを目指す。各試験後、個々に時間を設定しフィードバックを行います。 位置づけ・水準 CE2135				
達成目標	目標は ①ピアノの基本的技術や音楽理論を理解し、演奏技術の訓練に励むことができる。 ②「生活のうた」の弾き歌いができる。 ③ピアノ初心者については、「ピアノ・テキスト」Lesson16まで終わらせている。 ④自己の表現力や人間性を高めることができている。 単位認定の最低基準:②③は必須である。①と④は内容の7割を理解し、授業や試験において確認できること。 ディブロマ・ポリシーとの関係:「保育の方法と技術力」「表現とコミュニケーション能力」「豊かな人間性と規範意識」「音楽表現能力」				
受講資格	幼児教育学科チャイルド・ミュージッ	クコース 1 年	成績評価 方法	実技試験90%、平常点(ラーニングポートフォリオ含む) 10%	
教科書	吉野幸男他 執筆・共著『幼稚園教諭・小学校教諭・保育士養成課程のためのピアノ・テキスト』ドレミ楽譜出版社 津布楽杏里・桑原章寧 共著『保育・教育の現場で使える!弾き歌いピアノ曲集』ドレミ楽譜出版社 全国大学音楽教育学会 編著『明日へ歌い継ぐ 日本の子どもの歌ー唱歌童謡140年の歩み』音楽之友社 進度に応じてその都度指示。				
参考書	進度に合わせて、適宜楽譜を紹介する。				
学生への要望	実技科目のため積極的な練習の積み重	ねが重要です。授業で	での課題を次の授業まで	でに出来るよう、よく考えながら根気強く取り組みましょう。	
オフィスタイム	火曜日   限、金曜日   限 場所:芸	術館 3 F No. 1 幼児教	<b>教育学研究室</b>		

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション 基礎技術の学習 1	入学前課題の確認。シラバスを用いたオリエンテーション。テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を、次週までにできるようにする。事前事後学習の目安時間は最低必要な時間である。各自授業に対応できるよう準備が必要である。	60
2	基礎技術の学習 2	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理 論も理解しながら正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
3	基礎技術の学習3	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理 論も理解しながら正確な読譜力を身につける.	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
4	基礎技術の学習 4	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理 論も理解しながら正確な読譜力を身につける。マーチの学 習。		60
5	基礎技術の学習5	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理 論も理解しながら正確な読譜力を身につける。マーチの学 習。		60
6	基礎技術の学習 6	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理 論も理解しながら正確な読譜力を身につける。マーチの学 習。		60
7	基礎技術の学習7	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理 論も理解しながら正確な読譜力を身につける。マーチの学 習。		60
8	基礎技術の学習8	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理 論も理解しながら正確な読譜力を身につける。マーチの学 習。試験曲の選定。		60
9	基礎技術の学習 9	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。マーチの学習。試験曲の譜読みを進める。		60
10	基礎技術の学習10	マーチの試験。テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。試験曲の楽曲分析と演奏法の学習。		60

	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	-授業内容とスケジュール-	4 24 4 30	5 ± ± ± 10
回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
11	演奏表現の学習 1	試験曲の学習。演奏に必要な技術を確実に身につけ表現に結びつける。	試験に同け傩美性のある技術と表現力の同 上を目指し練習を行う。授業での課題を次	60
11			週までにできるようにする。	
	ウェ キロの光図 O	= → FA → A → A → A → A → A → A → A → A →	-	
10	演奏表現の学習 2	試験曲の学習。演奏に必要な技術を確実に身につけ表現に結びつける。		60
12		だいりりる。	上を目指し練習を行う。授業での課題を次 週までにできるようにする。	
	\(\frac{1}{2} \tau = \frac{1}{2} \tau \tau \tau \tau \tau \tau \tau \tau		·	00
	演奏表現の学習 3	試験曲の学習。楽曲を理解し演奏に必要な技術を確実に身		60
13		につけ表現に結びつける。	上を目指し練習を行う。授業での課題を次	
			週までにできるようにする。	
	演奏表現の学習 4	試験曲の学習。楽曲を理解し演奏に必要な技術を確実に身		60
14		につけ自発的な表現に結びつける。	上を目指し練習を行う。授業での課題を次 週までにできるようにする。	
	N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N		-	
	演奏表現の学習とまとめ	試験に向けステージを想定した発表を行い、グループでの		60
15		ディスカッションを通じて自己の演奏を振り返り、更なる		
		演奏表現の向上を目指す。	験までにできるようにする。	
	アンサンブルの学習 1	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理		60
16		論も理解しながら正確な読譜力を身につける。アンサンブ		
		ル曲に取り組む。	課題を次週までにできるようにする。	
	アンサンブルの学習 2	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理		60
17		論も理解しながら正確な読譜力を身につける。アンサンブ		
11		ルにより人と呼吸を合わせることに慣れる。	でにできるようにする。	
<u></u>				
	アンサンブルの学習3	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理	アンサンブルでの演奏発表に向けて合わせ	60
18		論も理解しながら正確な読譜力を身につける。アンサンブ	も含め練習を行う。授業での課題を次週ま	
18		ルによる音楽の楽しさを体感する。	でにできるようにする。	
	アンサンブルの学習 4	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理	アンサンブルでの演奏発表に向けて合わせ	60
		論も理解しながら正確な読譜力を身につける。グループ毎	も含め練習を行う。授業での課題を次週ま	
19		にディスカッションしながら表現力を高め、音楽の楽しさ	でにできるようにする。	
		を体感する。		
	アンサンブルの学習とまとめ	アンサンブル曲の演奏発表を行う。演奏についてディス	アンサンブルでの演奏発表に向けて合わせ	60
20		カッションを行う。	も含め仕上げの練習を行う。授業後は次の	
			課題の譜読みをする。	
	演奏技術の学習 1	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向	60
21		論も理解しながら正確な読譜力を身につける。「生活のう	上を目指し練習を行う。授業での課題を次	
		た」の学習。	週までにできるようにする。	
	演奏技術の学習 2	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理	: : : : : : : : : : : : : : : : : : :	60
22	, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	論も理解しながら正確な読譜力を身につける。「生活のう		
		た」の学習。	次週までにできるようにする。	
	演奏技術の学習3	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理	: 護読みをしっかり行い、基礎的な技術の向	60
23	灰天灰丽·0 1 日 3	論も理解しながら正確な読譜力を身につける。「生活のう		00
25		たしの学習。	までにできるようにする。	
	演奏技術の学習 4	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理	-	60
24	スズス間ッナ日す	コイストを用いて基礎的な演奏技術の首特を図る。 自来生 論も理解しながら正確な読譜力を身につける。 「生活のう		00
24		た の学習。試験曲の選定。	き歌いテストに向けての準備。	
	演奏表現の学習 1	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理		60
25	沢天仪坑ツ于白↓	ディストを用いて基礎的な演奏技術の首待を図る。 音楽理 論も理解しながら正確な読譜力を身につける。試験曲を正		00
25		確に譜読みする。	上に向り練音を行う。 技業での課題を火炮 までにできるようにする。	
	定奏主用の党羽 2			
	演奏表現の学習 2	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解したがは正確な詩達力を見につける。試験曲を正		60
26		論も理解しながら正確な読譜力を身につける。試験曲を正確に譜読みする。	刀の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	
		₩世 ♥~□日□ルペク サ ′砂 ο	歴と外型よくにじさるよりにする。	
	W. + + TR & W. 777 0		Will a minute by the control of the	
	演奏表現の学習 3	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理		60
27		論も理解しながら正確な読譜力を身につける。試験曲への		
		理解を深め、表現について考える。	次週までにできるようにする。	
	演奏表現の学習 4	試験曲の確実な技術の習得と自発的な演奏表現を目指す。	楽曲への理解を深め、演奏技術と表現力の	60
28			向上を目指し練習を行う。授業での課題を	
			次週までにできるようにする。	

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
29	演奏表現の学習 5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	楽曲への理解を深め、演奏技術と表現力の 更なる向上を目指し練習を行う。授業での 課題を次週までにできるようにする。	60
30	演奏表現の学習とまとめ	試験に向けステージを想定した発表を行い、グループでの ディスカッションを通じて自己の演奏を振り返り、更なる 演奏表現の向上を目指す。		60

令和5年度					
科目名	ピアノI(副科)	対象			
担当教員	深谷 悠里絵	単位数	短期大学部 幼児教育	f学科 1年 1単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 必修	
開講期	通年	必選			
授業概要	ピアノ演奏の基礎的技術の習得と豊かな表現力を体得することを目的とする。手、腕、身体の使い方や読譜など基礎的な知識や技術の習得のために個々のレベルに合わせて授業を展開する。基礎の練習曲や様々な時代の楽曲などを通して音楽理論や作品の様式を理解し、表現するための技術や演奏法を学ぶ。加えて幼児教育現場で歌われる「生活のうた」やマーチも学び、保育者としての実践力を養う。また、マンツーマンの授業やアンサンブル、ディスカッションを通して豊かな人間性やコミュニケーション能力を高め、自発的で豊かな演奏表現ができることを目指す。各試験後、個々に時間を設定しフィードバックを行います。位置づけ・水準 CE2135				
達成目標	目標は ①ピアノの基本的技術や音楽理論を理解し、演奏技術の訓練に励むことができる。 ②「生活のうた」の弾き歌いができる。 ③ピアノ初心者については、「ピアノ・テキスト」Lesson16まで終わらせている。 ④自己の表現力や人間性を高めることができている。 単位認定の最低基準:②③は必須である。①と④は内容の7割を理解し、授業や試験において確認できること。 ディプロマ・ポリシーとの関係:「保育の方法と技術力」「表現とコミュニケーション能力」「豊かな人間性と規範意識」「音楽表現能力」				
受講資格	幼児教育学科チャイルド・ミュージッ	クコース 1 年	成績評価 方法	実技試験90%、平常点(ラーニングポートフォリオ含む) 10%	
教科書	吉野幸男他 執筆・共著『幼稚園教諭・小学校教諭・保育士養成課程のためのピアノ・テキスト』ドレミ楽譜出版社 津布楽杏里・桑原章寧 共著『保育・教育の現場で使える!弾き歌いピアノ曲集』ドレミ楽譜出版社 全国大学音楽教育学会 編著『明日へ歌い継ぐ 日本の子どもの歌ー唱歌童謡140年の歩み』音楽之友社 進度に応じてその都度指示。				
参考書	進度に合わせて、適宜楽譜を紹介する。				
学生への要望	実技科目のため積極的な練習の積み重	ねが重要です。授業で	での課題を次の授業まで	でに出来るよう、よく考えながら根気強く取り組みましょう。	
オフィスタイム	火曜日Ⅰ限、金曜日Ⅱ限 場所:芸	術館 3 F No. 1 幼児教	<b>教育学研究室</b>		

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
	オリエンテーション 基礎技術の学習 1	入学前課題の確認。シラバスを用いたオリエンテーション。テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を、次週までにできるようにする。事前事後学習	60
1		未注酬も柱併しなかり止催なが過力を対についる。	の目安時間は最低必要な時間である。各自 授業に対応できるよう準備が必要である。	
2	基礎技術の学習 2	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理 論も理解しながら正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
3	基礎技術の学習3	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理 論も理解しながら正確な読譜力を身につける.	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
4	基礎技術の学習 4	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理 論も理解しながら正確な読譜力を身につける。マーチの学 習。		60
5	基礎技術の学習5	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理 論も理解しながら正確な読譜力を身につける。マーチの学 習。		60
6	基礎技術の学習6	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。マーチの学習。		60
7	基礎技術の学習 7	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理 論も理解しながら正確な読譜力を身につける。マーチの学 習。		60
8	基礎技術の学習8	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。マーチの学習。試験曲の選定。		60
9	基礎技術の学習 9	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。マーチの学習。試験曲の譜読みを進める。		60
10	基礎技術の学習10	マーチの試験。テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。試験曲の楽曲分析と演奏法の学習。		60

	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	-授業内容とスケジュール-	4 24 4 30	5 ± ± ± 10
回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
11	演奏表現の学習 1	試験曲の学習。演奏に必要な技術を確実に身につけ表現に結びつける。	試験に同け傩美性のある技術と表現力の同 上を目指し練習を行う。授業での課題を次	60
11			週までにできるようにする。	
	ウェ キロの光図 O	= → FA → A → A → A → A → A → A → A → A →	-	
10	演奏表現の学習 2	試験曲の学習。演奏に必要な技術を確実に身につけ表現に結びつける。		60
12		だいりりる。	上を目指し練習を行う。授業での課題を次 週までにできるようにする。	
	V++10 * W 77 0		· ·	00
	演奏表現の学習 3	試験曲の学習。楽曲を理解し演奏に必要な技術を確実に身		60
13		につけ表現に結びつける。	上を目指し練習を行う。授業での課題を次	
			週までにできるようにする。	
	演奏表現の学習 4	試験曲の学習。楽曲を理解し演奏に必要な技術を確実に身		60
14		につけ自発的な表現に結びつける。	上を目指し練習を行う。授業での課題を次 週までにできるようにする。	
	N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N N		-	
	演奏表現の学習とまとめ	試験に向けステージを想定した発表を行い、グループでの		60
15		ディスカッションを通じて自己の演奏を振り返り、更なる		
		演奏表現の向上を目指す。	験までにできるようにする。	
	アンサンブルの学習 1	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理		60
16		論も理解しながら正確な読譜力を身につける。アンサンブ		
		ル曲に取り組む。	課題を次週までにできるようにする。	
	アンサンブルの学習 2	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理		60
17		論も理解しながら正確な読譜力を身につける。アンサンブ		
11		ルにより人と呼吸を合わせることに慣れる。	でにできるようにする。	
<u></u>				
	アンサンブルの学習3	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理	アンサンブルでの演奏発表に向けて合わせ	60
18		論も理解しながら正確な読譜力を身につける。アンサンブ	も含め練習を行う。授業での課題を次週ま	
18		ルによる音楽の楽しさを体感する。	でにできるようにする。	
	アンサンブルの学習 4	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理	アンサンブルでの演奏発表に向けて合わせ	60
		論も理解しながら正確な読譜力を身につける。グループ毎	も含め練習を行う。授業での課題を次週ま	
19		にディスカッションしながら表現力を高め、音楽の楽しさ	でにできるようにする。	
		を体感する。		
	アンサンブルの学習とまとめ	アンサンブル曲の演奏発表を行う。演奏についてディス	アンサンブルでの演奏発表に向けて合わせ	60
20		カッションを行う。	も含め仕上げの練習を行う。授業後は次の	
			課題の譜読みをする。	
	演奏技術の学習 1	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向	60
21		論も理解しながら正確な読譜力を身につける。「生活のう	上を目指し練習を行う。授業での課題を次	
		た」の学習。	週までにできるようにする。	
	演奏技術の学習 2	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理	: :: :: :: :: :: :: :: :: :: :: :: :: :	60
22	, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	論も理解しながら正確な読譜力を身につける。「生活のう		
		た」の学習。	次週までにできるようにする。	
	演奏技術の学習3	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理	: 護読みをしっかり行い、基礎的な技術の向	60
23	灰天汉州·0 1 日 3	論も理解しながら正確な読譜力を身につける。「生活のう		00
25		たしの学習。	までにできるようにする。	
	演奏技術の学習 4	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理	-	60
24	スズス間ッナ日す	コイストを用いて基礎的な演奏技術の首特を図る。 自来生 論も理解しながら正確な読譜力を身につける。 「生活のう		00
24		た の学習。試験曲の選定。	き歌いテストに向けての準備。	
	演奏表現の学習 1	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理		60
25	沢天仪坑ツ于白↓	ディストを用いて基礎的な演奏技術の首待を図る。 音楽理 論も理解しながら正確な読譜力を身につける。試験曲を正		00
25		確に譜読みする。	上に向り練音を行う。 技業での課題を火炮 までにできるようにする。	
	定奏主用の党羽 2			
	演奏表現の学習 2	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解したがは正確な詩達力を見につける。試験曲を正		60
26		論も理解しながら正確な読譜力を身につける。試験曲を正確に譜読みする。	刀の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	
		₩世 ♥~□日□ルペク サ ′砂 ο	歴と外型よくにじさるよりにする。	
	W. + + TR & W. 777 0		Will a minute by the control of the	
	演奏表現の学習 3	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理		60
27		論も理解しながら正確な読譜力を身につける。試験曲への		
		理解を深め、表現について考える。	次週までにできるようにする。	
	演奏表現の学習 4	試験曲の確実な技術の習得と自発的な演奏表現を目指す。	楽曲への理解を深め、演奏技術と表現力の	60
28			向上を目指し練習を行う。授業での課題を	
			次週までにできるようにする。	

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
29	演奏表現の学習 5	1	楽曲への理解を深め、演奏技術と表現力の 更なる向上を目指し練習を行う。授業での 課題を次週までにできるようにする。	60
30	演奏表現の学習とまとめ	試験に向けステージを想定した発表を行い、グループでの ディスカッションを通じて自己の演奏を振り返り、更なる 演奏表現の向上を目指す。		60

科目名	子どもの器楽Vハンドベル	対象			
担当教員	横溝 聡子,佐藤 美鶴稀	単位数	短期大学部 幼児教	育学科 1年 1単位 選択	
開講期	通年	必選			
授業概要	ハンドベル (イングリッシュ・ハンドベル) は様々な演奏法により多彩な音楽表現ができる楽器である。ハンドベルの多様な奏法の基礎的な知識や技術を身につけ、美しい音の響きで表現するための演奏法を学ぶ。また、アンサンブルを通して音楽表現力を高め、個人の責任と他との協調を大切にする態度を養い、コミュニケーション能力を身につけることをねらいとする。授業では音楽表現についてディスカッションをしながら曲を創り上げる。また、地域貢献活動など学外での演奏を通して子どもたちと交流し、総合的な実践力を身につける。演奏発表後や最終授業で、フィードバックを行う。位置づけ・水準 CE2138				
達成目標	目標は ①ハンドベルの基本的な取り扱い方や奏法、音楽的知識を身につけている。 ②美しい響きや表現を目指すために、豊かな感性や想像力を持って積極的に演奏に取り組むことができる。 ③個人の責任を果たし、他と協調しながらコミュニケーション能力を高めることができている。 単位認定の最低基準:①~③の内容の7割を理解し、授業や演奏において確認できること。 ディプロマ・ポリシーとの関係:「保育の内容理解と総合的計画力」「保育の方法と技術力」「表現とコミュニケーション能力」「豊かな人間性と規範意識」				
受講資格	幼児教育学科1年		成績評価 方法	平常点50% (関心・意欲・態度)、成果発表30%、ラーニングポートフォリオ20%	
教科書	進度に合わせて、その都度指示。				
参考書	進度に合わせて、適宜楽譜を紹介する。				
学生への要望	楽譜を読めることが条件である。手袋・筆記用具・楽譜を必ず持参する。ハンドベルに適した服装にし、長い髪の毛は後ろで結ぶこと。欠席・遅刻をしないようにすること。				
オフィスタイム	横溝:火曜日   限 金曜日   限 場	所:芸術館3F No.	1 幼児教育学研究室	佐藤:月曜日昼休み、火曜日Ⅳ限 83年館非常勤講師室	

回	項目 授業内容	項目 授業内容 自学自習			
	基礎技術の学習 1	ハンドベルの基本的な扱い方と、基礎的な技術の習得を図	楽譜の読み方やリズムへの理解を深めてお	30	
1	横溝・佐藤	3.	<.		
	基礎技術の学習 2	曲を用いて基礎的な技術や奏法の習得を図る。	楽譜を整え、必要な点をラーニングポート	30	
2	横溝・佐藤		フォリオに整理しておく。		
	基礎技術の学習3	曲を用いて基礎的な技術や奏法の習得を図る。	楽譜を整え、必要な点をラーニングポート	30	
3	横溝・佐藤		フォリオに整理しておく。		
	基礎技術の学習 4	曲を用いて基礎的な技術や奏法の習得を図る。	楽譜を整え、必要な点をラーニングポート	30	
4	横溝・佐藤		フォリオに整理しておく。		
	基礎技術の学習 5	曲を用いて基礎的な技術や奏法の習得を図る。	楽譜を整え、必要な点をラーニングポート	30	
5	横溝・佐藤		フォリオに整理しておく。		
	that III (In a W FF o				
	基礎技術の学習6	曲を用いて基礎的な技術や奏法の習得を図る。	楽譜を整え、必要な点をラーニングポート	30	
6	横溝・佐藤		フォリオに整理しておく。		
	基礎技術の学習 7	曲を用いて基礎的な技術や奏法の習得を図る。	楽譜を整え、必要な点をラーニングポート	30	
7	横溝・佐藤		フォリオに整理しておく。譜読みの復習。		
	基礎技術の学習8	曲を用いて基礎的な技術や奏法の習得を図る。	楽譜を整え、必要な点をラーニングポート	30	
8	横溝・佐藤		フォリオに整理しておく。譜読みの復習。		
	基礎技術の学習 9	曲を用いて基礎的な技術や奏法の習得を図る。	楽譜を整え、必要な点をラーニングポート	30	
	横溝・佐藤	a chi v ventra XIII v Eli va	フォリオに整理しておく。譜読みの復習。	00	
- 					
	基礎技術の学習10	曲を用いて基礎的な技術や奏法の習得を図る。	楽譜を整え、必要な点をラーニングポート	30	
10	横溝・佐藤		フォリオに整理しておく。譜読みの復習。		
	表現技術の学習 1	基本的な技術や奏法を踏まえ、表現についてディスカッ	楽譜を整え、必要な点をラーニングポート	30	
	横溝・佐藤	ションしながら演奏法を考える。	フォリオに整理しておく。譜読みの復習。		
	表現技術の学習 2	基本的な技術や奏法を踏まえ、表現についてディスカッ	楽譜を整え、必要な点をラーニングポート	30	
	横溝・佐藤	ションしながら演奏法を考える。	フォリオに整理しておく。譜読みの復習。	30	

		-授業内容とスケジュール-		
回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
	表現技術の学習3	基本的な技術や奏法を踏まえ、表現についてディスカッ	楽譜を整え、必要な点をラーニングポート	30
13	横溝・佐藤	ションしながら演奏法を考える。	フォリオに整理しておく。譜読みの復習。	
	表現技術の学習 4	基本的な技術や奏法を踏まえ、表現についてディスカッ	楽譜を整え、必要な点をラーニングポート	60
14	横溝・佐藤	ションしながら演奏法を考える。	フォリオに整理しておく。譜読みの復習。	
	表現技術の学習 5	基本的な技術や奏法を踏まえ、表現についてディスカッ	楽譜を整え、必要な点をラーニングポート	60
15	横溝・佐藤	ションしながら演奏法を考える。	フォリオに整理しておく。譜読みの復習。	
	トーンチャイムの演奏技術の学	トーンチャイムの基本的奏法の習得。	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向	30
16	習 1		上を目指し練習を行う。授業での課題を次	
	横溝・佐藤		週までにできるようにする。	
	トーンチャイムの演奏技術の学	トーンチャイムの基本的奏法の習得。	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向	30
17	習 2		上を目指し練習を行う。授業での課題を次	
	横溝・佐藤		週までにできるようにする。	
	トーンチャイムの演奏技術の学	トーンチャイムの基本的奏法の習得と応用。	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向	30
18	習 3		上を目指し練習を行う。授業での課題を、	
	横溝・佐藤		次週までにできるようにする。	
	トーンチャイムの演奏技術の学	トーンチャイムの基本的奏法の習得と表現方法について。	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向	30
19	習 4		上に向け練習を行う。授業での課題を次週	
	横溝・佐藤		までにできるようにする。	
	ハンドベルの演奏技術の学習 1	学内外での演奏発表に向けた練習。ハンドベルの基本的奏	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向	30
20	横溝・佐藤	法の確認。	上を目指し練習を行う。授業での課題を、	
			次週までにできるようにする。	
	ハンドベルの演奏技術の学習?	学内外での演奏発表に向けた練習。ハンドベルの基本的奏	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向	30
21	横溝・佐藤	法の確認。	上に向け練習を行う。授業での課題を次週	
			までにできるようにする。	
	ハンドベルの演奏技術の学習3	学内外での演奏発表に向けた練習。ハンドベルの基本的奏	   譜読みをしっかり行い。基礎的な技術の向	30
22	横溝・佐藤	法の確認。	上を目指し練習を行う。授業での課題を、	00
22	DC/13 1=134	724 - 192 HOLD	次週までにできるようにする。	
	ハンドベルの演奏技術の学習4	学内外での演奏発表に向けた練習。ハンドベルの基本的奏	   譜読みをしっかり行い。基礎的な技術の向	30
23	横溝・佐藤	法の確認。	上に向け練習を行う。授業での課題を次週	00
20			までにできるようにする。	
	ハンドベルの演奏技術の学習5	学内外での演奏発表に向けた練習。ハンドベルの基本的奏	護読みをしっかり行い 基礎的な技術の向	30
24	横溝・佐藤	法の確認。	上に向け練習を行う。授業での課題を次週	00
24	DC/13 1=134	1994 - 1997 MODEL	までにできるようにする。	
	演奏表現の学習 1	学内外での演奏発表に向けた練習。演奏表現の向上に向	楽曲への理解を深め、基礎的な技術と表現	30
	横溝・佐藤	け、ディスカッションをしながら表現を創意工夫する。	力の向上を目指し練習を行う。授業での課	30
25	IX/IT IIII	(人) イババックション とびは ラ気がと相応エス() が。	題を次週までにできるようにする。	
	演奏表現の学習 2	学内外での演奏発表に向けた練習。演奏表現の向上に向	楽曲への理解を深め、基礎的な技術と表現	30
	演奏表現の字音 Z 横溝・佐藤	子内外での演奏光衣に回りに練音。演奏衣現の回上に回  け、ディスカッションをしながら表現を創意工夫する。	大田への理解を深め、基礎的な技術と表現 力の向上を目指し練習を行う。授業での課	30
26	LIXATE KTURK	17、1、1、17、1/2 コンとしなりの状で間は上入りる。	題を次週までにできるようにする。	
			ASCURIS CICCOS / VC / VC	
		<b>営力なるできるまたちはもはなってきませるとして</b>	★	201
	演奏表現の学習3	学内外での演奏発表に向けた練習。演奏表現の向上に向け、ディスカッシュンをしたがらま現た創金エキオス	楽曲への理解を深め、演奏技術と表現力の	30
27	横溝・佐藤	け、ディスカッションをしながら表現を創意工夫する。	向上を目指し練習を行う。授業での課題を	
	X + +	W.L.(L Note Butter, Control of the Control of	次週までにできるようにする。	
	演奏表現の学習 4	学内外での演奏発表に向けた練習。演奏表現の向上に向	楽曲への理解を深め、演奏技術と表現力の	30
28	横溝・佐藤	け、ディスカッションをしながら表現を創意工夫する。	向上を目指し練習を行う。授業での課題を	
			次週までにできるようにする。	
	演奏表現の学習 5	学内外での演奏発表に向けた練習。演奏表現の向上に向	楽曲への理解を深め、演奏技術と表現力の	60
29	横溝・佐藤	け、ディスカッションをしながら表現を創意工夫する。	更なる向上を目指し練習を行う。授業での	
∠3			課題を次週までにできるようにする。	
	演奏表現の学習6とまとめ	演奏発表を行う。ディスカッションを通じて演奏を振り返	演奏発表に向けた練習を行う。	60
30	横溝・佐藤	り、1年間の学習のまとめとしてのフィードバックを行う。		
	•	•		

科目名	総合表現	対象					
担当教員	早川 仁	単位数	短期大学部 幼児教	育学科 1年 1単位 選択/短期大学部 幼児教育学	大学部 幼児教育学科	斗 1年 1単位 必修	
開講期	II	必選					
授業概要	・保育内容「表現」は、「感じたる 目指すものである。本科目では、紫 の知識や技能を身につける。・活動 位置づけ・水準ナンバリングCE21	カ児の感性や創造性を豊 カ内容について収録した	とかにする様々な表現だ	5動の実	践を通して、音楽、遊	<b>造形、身体を融合した</b>	総合的な表現について
達成目標	授業の到達目標及びテーマ 1. 幼児の感性と表現にかかわって 2. 学生自身の感受性と感覚を駆住 3. 総合的な表現活動の体験を通し 単位認定の基準 1. 「教育要領」「保育指針」中の 理解を有している。 2. 「領域表現」の保育内容につい 3. 他者とのかかわり・対応の中で ・ディプロマポリシーとの関係;役表現力とコミュニケーション能力	Eし、生き生きと動きを して表現力を育成する。 か「領域表現」の『ねら って、素材、楽器、遊具 ・感性を動かせ、状況に 限育の内容理解と総合的	表現することの基礎でいまる。 い』と『内容』に沿い、身体と言葉)等によ 応じて能動的又は、受	を、実技いながらる表現方	体験を通して養う。 、子どもの表現の要因 「法内容を、体験を通	して理解している。	ことについて基本的な
受講資格	短期大学部 幼児教育学科 1年生		成績評価 方法	レポ	スト(練習課程と表現 『一ト(記録ノート) 『計画実施能力(発表月	3 0 %	
	文部科学省「幼稚園教育要領解説」平成30年3月 フレーベル館						
教科書	文部科学省「幼稚園教育要領解説」	平成30年3月 フレー	ヘル貼				
教科書参考書	文部科学省「幼稚園教育要領解説」 「表現原論一幼児の『あらわし』と			林			
		:領域『表現』」大場牧	丈夫著 1996年 萌文書		ノートを準備すること	-0	

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業オリエンテーション (担当:磯部哲夫:早川仁)	(担当:磯部哲夫)	授業で実施した内容を振り返り、実施した 内容、及び体験後の自己変化や感想等につ いて記録する。	40
2	表現発表計画① (担当:磯部哲夫:早川仁)	(担当:磯部哲夫)	授業で実施した内容を振り返り、実施した 内容、及び体験後の自己変化や感想等につ いて記録する。	40
3	表現発表計画② (担当:磯部哲夫:早川仁)	当:磯部哲夫)	授業で実施した内容を振り返り、実施した 内容、及び体験後の自己変化や感想等につ いて記録する。	40
4	シナリオに基づいたグループ練習、造形制作1 (担当:磯部哲夫:早川仁)	, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	授業で実施した内容を振り返り、実施した 内容、及び体験後の自己変化や感想等につ いて記録する。	40
5	シナリオに基づいたグループ練習、造形制作2 (担当:磯部哲夫:早川仁)		授業で実施した内容を振り返り、実施した 内容、及び体験後の自己変化や感想等につ いて記録する。	40

-授業内容とスケジュール-				
回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
	ディスカッションを交えたグ	・音楽、身体表現についてのディスカッション(担当:磯	授業で実施した内容を振り返り、実施した	40
	ループ発表練習と造形制作 1	部哲夫)	内容、及び体験後の自己変化や感想等につ	
_	(担当:磯部哲夫:早川仁)	・造形、美術表現についてのディスカッション(担当:早	いて記録する。	
6		川仁)		
	それぞれの表現についてディス	・音楽、身体表現についてのディスカッション(担当:磯	授業で実施した内容を振り返り、実施した	40
	カッションを交えたグループ発		内容、及び体験後の自己変化や感想等につ	
	表練習と造形制作 2	- 造形、美術表現についてのディスカッション(担当:早	いて記録する。	
7	(担当:磯部哲夫:早川仁)	川仁)		
,				
	ステージでのグループ練習1	・音楽、身体表現について(担当:磯部哲夫)	授業で実施した内容を振り返り、実施した	40
	(担当:磯部哲夫:早川仁)	・造形、美術表現について(担当:早川仁)	内容、及び体験後の自己変化や感想等につ	
8			いて記録する。	
	ステージでのグループ練習2	・音楽、身体表現について(担当:磯部哲夫)	練習内容を振り返り、実施した内容の確認	40
	(担当:磯部哲夫:早川仁)	・造形、美術表現について(担当:早川仁)	と反省について次回の発表に活かす。	
9				
	ステージリハーサル	<u>-</u>  ・音楽、身体表現について(担当:磯部哲夫)	練習内容を振り返り、実施した内容の確認	40
	(担当:磯部哲夫:早川仁)	・造形、美術表現について(担当:早川仁)	と反省について次回の発表に活かす。	
10				
10				
	成果発表 1	グループ毎の成果発表 1	練習内容を振り返り、実施した内容の確認	40
	(担当:磯部哲夫:早川仁)	(担当:磯部哲夫、早川仁)	と反省をする。	40
11	() ()	(1-1 - 900 HP LI / (1 / 1 / 1 / 1 / 1 / 1 / 1 / 1 / 1 /		
11				
	DE SV + O	10		
	成果発表 2	グループ毎の成果発表 2	練習内容を振り返り、実施した内容の確認	40
12	(担当:磯部哲夫:早川仁)	(担当:磯部哲夫、早川仁)	と反省をする。	
	発表の映像編集1	ICTを使用し撮影したグループ発表の映像編集 1	発表内容を振り返り、実施した内容、及び	40
13	(担当:磯部哲夫:早川仁)	映像編集(担当:磯部哲夫)	体験後の自己変化や感想等について記録す	
12		データ収集(担当:早川仁)	3	
	発表の映像編集 2	ICTを使用し撮影したグループ発表の映像編集 2	発表内容を振り返り、実施した内容、及び	40
	(担当:磯部哲夫:早川仁)	映像編集(担当:磯部哲夫)	体験後の自己変化や感想等について記録す	
14		データ収集(担当:早川仁)	<u>る</u>	
	鑑賞とまとめ	・編集した映像の鑑賞	発表内容を振り返り、実施した内容、及び	40
	(担当:磯部哲夫:早川仁)	・総合表現についての振り返りとまとめ	体験後の自己変化や感想等について記録す	
15			3	
10				

令和5年度				
科目名	子どもの遊びI	対象		
担当教員	一柳 智子	単位数	短期大学部 幼児教育	学科 1年 2単位 必修
開講期	I	必選		
授業概要	子ども理解と子どもの世界の理解のために、子どもの生活のすべてである「遊び」について学ぶ。前半は、子どもの遊びの世界の前提となる、現代社会の文化的諸相を身体表象の観点から概論的に眺める。後半は、日本の伝統的な遊び文化を実際的に体験してみる。 【課題に対するフィードバック方法】最終授業で総合的にフィードバックを行う。 【授業の目的】子どもの遊びを身体表象の観点から文化的背景を知り、実際の伝統的遊びに触れることを目的とする。 【位置づけ・水準】ES2141			
達成目標	<ol> <li>いろいろな文化における身体表象文化における遊びの意義を理解する。</li> <li>遊びの現代的課題を理解する。</li> <li>自分自身の文化から現代の遊び文化についての考察力を得る。</li> <li>デイプロマポリシー: 「専門的学識」、「問題発見・解決力」</li> <li>認定の最低基準:内容の8割達成していること。</li> </ol>			
受講資格	短期大学部幼児教育科 1年		成績評価 方法	レポート60%、授業態度40%
教科書	授業時に随時配布			
参考書	レイチェル・バークら『子どもの身体』	』、ロジェ・カイヨワ	7『遊びと人間』	
学生への要望	子どもにとって必要な遊びと不必要な遊びを考えるために、子どもを取り巻く現代生活の中の遊びのシーンを意識を持って見渡すようにしてほしい。保 育の現場にでてから、先生がお手本になっていろいろな遊びを提示できるようになる野庭望ましい。			
オフィスタイム	水曜日			

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	遊びの基礎的理解	遊戯の基本的概念。ホイジンガの遊戯理論	ホイジンガの著作に触れる	0
2	遊びと文化の関係 1:身体的文化	日本の伝統的な身体表象文化:舞楽・能狂言	日常的な場面で日本の伝統芸能に興味を持	0
2	の着目		ち、機会があれば鑑賞する。	
3	遊びと文化の関係2:身体的文	日本の伝統的な身体表象文化:文楽	日常的な場面で日本の伝統芸能に興味を持	0
3	化に着目		ち、機会があれば鑑賞する。	
4	遊びと文化の関係3:身体的文	日本の伝統的な身体表象文化:歌舞伎	日常的な場面で日本の伝統芸能に興味を持	0
4	化に着目		ち、機会があれば鑑賞する。	
5	遊びと文化の関係4:身体的文	日本の伝統的な身体表象文化:民俗芸能	日常的な場面で、家族や周囲の人々に地元	0
5	化に着目		について聞く。	
6	外国発祥の身体表象1	バレエ1:歴史	バレエについて、テレビ等のビジュアルメ	0
О			デイアなどで情報を得る。	
7	外国発祥の身体表象2	バレエ2:技法	バレエについて、テレビ等のビジュアルメ	0
/			デイアなどで情報を得る。	
	外国発祥の身体表象3	hiphop,break dance,etc.	現代的ダンスシーンに触れる機会があれ	0
8			ば、積極的に情報を得るよう努力する。	
9	伝統的遊びに親しもう1	けん玉の歴史と技を知る。	けん玉の実技について調べる	0
10	伝統的遊びに親しもう2	けん玉の歴史と技:実技の練習から競技へ	けん玉の実技を練習する	0
11	伝統的遊びに親しもう3	お手玉、コマ、かるた等の歴史と技を知る。	お手玉、コマ、かるたについて調べる	0
12	伝統的遊びに親しもう4	お手玉、コマ、かるた等:実技の練習	お手玉、コマ、かるたの実技を練習する	0
12				
13	現代の子どもの遊び1	現代の遊び:SNS、その他	グループワーク:子どもを取り巻く現代的	0
13			遊びの環境について話し合う。	
14	現代の子どもの遊び2	「遊びは必要か」について討論する	グループワーク:子どもを取り巻く現代的	0
14			遊びの環境について話し合う。	
15	まとめ	授業全体をフィードバックする。	これまでの授業を十分復習する	0

科目名	乳児保育 I	対象		
担当教員	永瀬 悦子	単位数	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択	
開講期	I	必選		
授業概要	する。子どもの基本的生活習慣や の「乳児保育」とは、3歳未満児を フィードバック方法】最終授業で 【授業の目的】	基本的生活習慣を獲得す ご示す。 全体に対するフィード/	音う時期である。生命の保持および安全・安楽の確保に努めながら発育発達の支援について学修するための必要な乳児保育の役割を乳児の成長・発達の応じた保育について学修する。※ここで【課題に対するバックを行う。 なる。【位置づけ・水準】CE2146	
達成目標	1)乳児保育の保育内容を理解し、乳児保育を総合的に計画・実践について説明できるる。 2)乳児の発育発達を理解し、必要な乳児保育について論じることができる 3)3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容をて説明できる。 4)乳児保育を実践する姿勢として、感性豊かな表現力とコミュニーションを身につける必要性を感じることができる 5)乳児保育を実践する姿勢として幅広い教養と豊かな人間性や規範意識を身につける必要性を感じることができる ディプロマポリシーとの関係から「保育の内容理解と総合計画力」「「子どもの発達の理解と支援の力」「保育の方法と技術力」「表現力とコミュニケーション能力」「豊かな人間性と規範意識」「問題解決力」を身に付けることを達成目標にする。これらのことを7割達成すれば単位認定とする。			
受講資格	保育士資格取得希望学生		<b>成績評価</b> 筆記試験80点、レポート20点 <b>方法</b>	
教科書	・・・・			
参考書	『保育所保育指針』フレーベル館 2017年 榊原洋一・今井和子編著『乳児保育の実践と子育て支援』ミネルヴァ書房 保子・西隆太朗著『写真で描く乳児保育の実践』ミネルヴァ書房			
学生への要望	乳児保育を実践する場合、乳児の	発育・発達に合わせた例	保育内容を理解でき、実践できるように積極的に講義に臨んで下さい。	
オフィスタイム	月曜日   時限 (8:50~10:20 木曜日   時限 (8:50~10:20			

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	乳児保育の意義・目的と役割	1)乳児保育の意義・目的と歴史的変遷 2)乳児保育の役割と機能 3)乳児保育における養護及び教育 ※乳児期は人格形成の基礎を培う重要な時期であることを理解する。乳児保育の役割と機能について、乳児保育の特徴を踏まえながら、養護と教育の一体性とは何かを学ぶ。	3.	120
2	乳児保育の現状と課題①	1)乳児保育および子育て家庭に対する支援をめぐる社会的 状況と課題 ※保育をめぐる制度や法改正、子育て世代を 取り巻く社会的状況を踏まえながら、乳児保育の重要性や 保育所の子育て支援を学ぶ。		120
3	乳児保育の現状と課題②	1)保育所における乳児保育 ※保育所の役割や位置づけ、乳児保育の現状を学ぶ。	テキストの授業内容に係るページを熟読す る。	120
4	乳児保育の現状と課題③	1)保育所以外の児童福祉施設(乳児院等)における乳児保育 2)家庭的保育等における乳児保育 3)3歳児未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場 ※乳児院を中心に、保育所以外の児童福祉施設の現状と課題について学ぶ。また、乳児院の役割と支援方法の基礎的理解をする。	保育所以外の児童福祉施設の種類と役割を調べる。	120
5	3歳児未満児とその家庭を取り 巻く環境と子育で支援の場①	1)3歳未満児の生活と環境① 2)3歳未満児の遊びと環境① 3)3歳以上児の保育に移行する時期の保育① ※3歳未満児の発育・発達を理解し、生活を環境の視点から捉え、環境を通した保育について学ぶ。子どもの遊びと環境の視点から保育について学ぶ。		120
6	3歳児未満児とその家庭を取り 巻く環境と子育て支援の場②	1)3歳未満児の生活と環境② 2)3歳未満児の遊びと環境② 3)3歳以上児の保育に移行する時期の保育② ※3歳未満児の発育・発達を理解し、生活を環境の視点から捉え、環境を通した保育について学ぶ。子どもの遊びと環境の視点から保育について学ぶ。		120

	-授業内容とスケジュール-					
回	項目	授業内容	自学自習	目安時間		
7	3歳児未満児とその家庭を取り 巻く環境と子育て支援の場③	1)3歳以上児の保育に移行する時期の保育 ※『保育所保育 指針』における1歳以上3歳未満児のねらいと内容及び内容 の取扱いでは「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表 現」という5領域につながることを理解する。養護と教育 が一体となった3歳以上児の保育について学びを深める。		120		
8	3歳児未満児とその家庭を取り 巻く環境と子育て支援の場④	1)3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育士等による援助や関わり① ※乳児保育において子どもひとり一人の発達には個人差や月齢差を考慮した保育が重要であることを理解する。3歳未満児の発育・発達を考慮しながら保育を進めることを理解する。		120		
9	3歳児未満児とその家庭を取り 巻く環境と子育て支援の場⑤	1)3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育士等による援助や関わり② ※乳児保育において子どもひとリー人の発達には個人差や月齢差を考慮した保育が重要であることを理解する。3歳未満児の発育・発達を考慮しながら保育を進めることを理解する。		120		
10	3歳児未満児とその家庭を取り 巻く環境と子育て支援の場⑥	1)3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育における配慮 2) 乳児保育における計画・記録・評価とその意義 ※心身が未熟な3歳児未満児の心身の機能が未熟であることから、生命の保持と情緒の安定が重要であることを理解する。発達に応じた安心・安全な保育を学ぶ。	<b>5</b> .	120		
11	3歳未満児の発育・発達と保育 ①	1)3歳未満児の発育・発達に応じた保育① ※乳児の発育・発達過程を理解し、「健やかにのびのび育つ」「身近な人と気持ちが通じ合う」「身近なものと関わり感性が育つ」視点から遊びや食事の保育を学ぶ。		120		
12	3歳未満児の発育・発達と保育 ②	1)3歳未満児の発育・発達に応じた保育② ※乳児の発育・発達過程を理解し、排泄の援助方法を理解する。基本的生活習慣の自立に向けて必要な保育を学ぶ。また、基本的生活習慣の自立に向けて保育所のみで進めることはできないことを理解し、家庭との連携について考える。		120		
13	3歳未満児の発育・発達と保育 ③	1)3歳未満児の発育・発達に応じた保育③ ※乳児の発育・発達の過程を理解し、基本的生活習慣の自立に向けた衣服の着脱・清潔の保持の援助方法を理解する。子どもの年齢により、自己主張が強くなり自分でやろうとする子どもに対して、子どもの気持ちを尊重し見守り適切な援助をしていく必要性を理解する。	テキストの授業内容に係るページを熟読する。	120		
14	3歳未満児の発育・発達と保育 ④	1)3歳未満児の発育・発達に応じた保育④ ※乳児の発育・発達の過程を理解し、月齢に応じた抱っこ・おんぷの方法について理解する。乳児の欲求に対して愛情ある応答的にかかわることで乳児は養育者と愛着関係を深めていくことを理解する。		120		
15	乳児保育における連携・協働	1)職員間の連携・協働 2)保護者との連携・協働 3)自治 体や地域の関係機関等との連携・協働 ※乳児の 健康と安全を守るための関係機関の連携について学ぶ。子 育て支援や虐待から子どもの命を守るための保育所・保育 者の役割について理解する。	テキストの授業内容に係るページを熟読す る。	120		

令和5年度					
科目名	乳児保育	対象			
担当教員	永瀬 悦子	単位数	短期大学部 幼児教育	学科 1年1単位 選択	
開講期	II	必選			
授業概要	自尊心や自己統制、忍耐力といった社会情勢的スキルやいわゆる非認知的能力を乳幼児期に身につけることが、大人になってからの生活に大きな差を生じさせる。特に3歳児未満児の保育の重要性への認識が高まっている。乳幼児期の周囲の人・物、自然など様々な環境との関わりで自己という感覚や自我が育つことを学修する。乳児期からの保育の積み重ねは基本的生活習慣の形成、社会性の獲得にも影響することを学修する。それらを踏まえ、演習ではグループ演習等を通して、異なる意見に耳を傾け、問題解決に向けた努力と答えが明確でないことに対し問いに対して、自ら考え続ける態度を身につける姿勢を養う。  【課題に対するフィードバック方法】最終授業で全体に対するフィードバックを行う。  【授業の目的】 乳児保育の理論や知識・技術内容を基に乳児の発育発達に応じた保育展開を理解する。【位置づけ・水準】CE2147				
達成目標	1)保育場面から必要な保育内容を総合的に計画し実践内容を論じることができる 2) 乳児の発育発達を踏まえ、事例から必要な保育場面での支援内容を説明できる 3)乳児の発育発達に応じた支援内容を論じることができる 4)事例をもとに必要な保育の方法や技術について説明することができる 5)乳児保育を実践する際に必要な幅広い教養とコミュニケーションをみにつける必要性を感じることができる 6)幅広い教養と豊かな人間性や規範意識をみにつける必要性を感じることができる ディブロマポリシーとの関係から「保育の内容理解と総合計画力」「「子どもの発達の理解と支援の力」「保育の方法と技術力」「表現力とコミュニケーション能力」「豊かな人間性と規範意識」「問題解決力」を達成することを目標にする。これらのことを7割達成すれば単位認定とする。				
受講資格	保育士資格取得を希望する学生		成績評価 方法	筆記試験80点、課題レポート20点	
教科書	咲間まり子編著『コンパス乳児保育』 版 2022年 ※資料を随時配布	建帛社 2021年	入江慶太編著	『乳児保育-子ども・家庭・保育者が紡ぐ営み- 第3版』教育情報出	
参考書	『保育所保育指針』フレーベル館 2017年				
学生への要望	演習には主体的姿勢をもち参加して下さい。また、演習はグループで演習を行いますので協調性を大切にしましょう。				
オフィスタイム	月曜日   時限 (8:50~10:20)   8 木曜日   時限 (8:50~10:20)   8				

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	乳児保育の基本①	1)子どもと保育士等との関係の重要性 2)個々子どもに応じた援助や受容的・応答的な関わり ※子どもと保護者との応答的関わりや信頼関係、子どもと環境の相互作用が子どもに与える影響について考える。応答的関わりや共感性が子どもの発達にどのような関係があるかについて理解を深める。	テキストの授業内容に係るページを読む。	120
2	乳児保育の基本②	1)子どもの主体性の尊重と自己の育ち 2)子どもの体験と学びの芽生え ※事例をもとに、子どもの主体性の尊重について考える。子どもの視点に立ち「体験」からどのような学びがあるかをグループワークをして話し合い考えを深める。	テキストの授業内容に係るページを読む。	120
3		1)子どもの1日の生活の流れと保育の環境 2)子どもの生活や遊びを支える環境の構成 ※保育環境における人的環境と物的環境について考える。1日のデイリープログラムから乳児の生活、保育者の動きや配慮を理解する。		120
4		1)3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実際①2)3歳未満児の発育・発達を踏まえた遊びと援助の実際①3)子ども同士の関わりとその援助の実際①※保育における生活と遊びの場面から「養護」の視点、5領域につながる「健やかに伸び伸びと育つ」「身近な人と気持ちが通じ合う」「身近なものと関わり感性が育つ」視点を考えていく。	テキストの授業内容に係るページを読む。	120
5		1)3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実際① 2)3歳未満児の発育・発達を踏まえた遊びと援助の実際① 4)子ども同士の関わりとその援助の実際① ※子どもの 気持ちや育ちを尊重し自立を促す基本的生活習慣について 実技の体験学習をする。	テキストの授業内容に係るページを読む。	120

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
6	育・発達を踏まえた生活と遊び	1)3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実際②2)3歳未満児の発育・発達を踏まえた遊びと援助の実際②5)子ども同士の関わりとその援助の実際②※子どもの気持ちや育ちを尊重し自立を促す基本的生活習慣について考える。	テキストの授業内容に係るページを読む。	120
7	乳児保育における配慮の実際	1)子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮 2)集団での生活における配慮 3)環境の変化や移行に対する配慮 ※安全な人的・物的環境を設定し、子どもの健康の維持・増進を図ることは重要である。子どもの心身の発達を支えていくために必要な基本的知識を身につけ、子どもが安全に過ごすために必要な保育者の関わりをグループ・ディスカッションをして考える。	テキストの授業内容に係るページを読む。	120
8	乳児保育における計画の実際	1)長期的な指導計画と短期的な指導計画 2)個別的な指導 計画と集団の指導計画 ※子どもの個人差・月齢に応じた 保育計画を考える。	テキストの授業内容に係るページを読む。	120

令和5年度				
科目名	子どもの健康と安全 対象			
担当教員	永瀬 悦子 <b>単位数</b>	短期大学部 幼児教育	5学科 2年 1単位 選択	
開講期	Ⅲ 必選			
授業概要	務および乳幼児健診等をしてきた経験を活かして、子どもの 【課題に対するフィードバック方法】最終授業で全体に対す 【授業の目的・ねらい】	の体調不良等に対する するフィードバックを	た保育環境や援助について学修する。助産師・看護師として医療機関勤適切な対応、感染症対策、健康及び安全管理の体制について学修する。 行う。 や成長・発達を促す養護技術・保育における健康及び安全の管理につい	
達成目標	1)保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について総合的に計画・実践内容を述べることができる 2)保育における子どもの発達を理解し、衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策の支援について説明できる。 3)子どもの体調不良等に対する適切な対応方や技術について述べることができる。 4)保育における感染症対策について説明できる。 5)保育における保健の学修した知識や技術を統合し、子どもの健康が逸脱した時の問題解決方法を説明できる。 6)子どもの健康及び安全の管理に関わる組織的取組や保健活動の根底には幅広い教養と豊かな人間性や規範意識があることを説明できる ディプロマポリシーとの関係から「保育の内容理解と総合計画力」「「子どもの発達の理解と支援の力」「保育の方法と技術力」「豊かな人間性と規範意識」「問題解決力」「表現力とコミュニケーション能力」を身に付けることを達成目標にする。これらのことを7割達成すれば単位認定とする。			
受講資格	保育士資格取得を希望する学生	成績評価 方法	筆記試験60点、レポート40点	
教科書	松本峰雄監修『子どもの保健と安全演習ブック』ミネルヴァ 咲間まり子編著『コンパス乳児保育』建帛社 2021年 ※随時、資料配布	ァ書房 2022年		
参考書	『保育所保育指針』フレーベル館 2017年			
学生への要望	乳幼児のケアをおこなうためには、根拠のある確かな知識 ぞむことを期待する。	(頭)、愛情や相手を	思いやる心、適切で正確な技術(技)が大切である。講義は積極的にの	
オフィスタイム	火曜日 Ⅲ時限(12:50~14:30) 832研究室 木曜日 Ⅰ時限(8:50~10:20) 832研究室			

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	感染症対策	1)感染症の集団発生の予防 2)感染症発生時と罹患後の対応 ※長時間生活する保育所等の施設は、子どもたちにとり過ごしやすく、安全・衛生的な環境を整えることの大切さを理解する。病気の予防や感染症拡大を防止する衛生管理を学ぶ。	策ガイドライン』(平成30年3月厚生労働	60
2	子どもの体調不良等に対する適 切な対応①	1)子どもの状態観察と評価 ※子どもの生理機能を理解して、子どもの状態観察と評価を学ぶ。	教科書をよく読み学びを深める	60
3	子どもの体調不良等に対する適 切な対応②	1)薬の与薬 2)体調不良や傷害が発生した場合の対応 ※健康状態の観察と薬の与え方について学び、正しく行うことを身につける。		60
4	子どもの体調不良等に対する適 切な対応③	1)救急処置や救急蘇生法 2)応急処置 ※乳幼児救急蘇生法 の方法について理解し、包帯や三角布を利用した応急処置 の実技の体験学習をする。		60
5	保育における健康及び安全の管 理	1)保育における保健的対応の基本的な考え方 2)保育における健康を促進する関わり 3)個別的な配慮を要する子ども・障害のある子どもへの対応 ※慢性疾患やアレルギー疾患等をもちながら生活する子どもと家族支援の方法を学ぶ。子どもなりの成長・発達とは何かを考える。	教科書をよく読み学びを深める	60
6	保育における保健的対応	1)衛生管理 2)事故防止及び安全対策3)危機管理と災害への備え ※教育・保育施設における事故防止と安全対策の必要を理解し、危機管理と災害への備えの重要性を学ぶ。		60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	健康及び安全の管理の実施体制	1)職員間の連携・協働と組織的取組 2)保育における保健活動の計画及び評価 3)母子保健・地域保健における自治体との連携 4)家庭、専門機関、地域の関係機関との連携 ※子どもの育ちや子育て支援制度、地域の社会資源や関係機関について理解する。	『保育所におけるアレルギー対応ガイドライン』(平成23年3月厚生労働省)をよく読む	60
8	保健的観点を踏まえた保育環境 及び援助	1)子どもの健康と保育環境(身体計測と評価) 2)子どもの保健に関する個別対応と集団全体の健康及び安全管理3)子どもの生活習慣と心身の健康増進を図るための健康管理 ※子どもの健康の維持・増進にむけ保健計画を作成し、職員全体でねらいと目的を共通理解して実践していくことを理解する。保健計画および成長・発達の評価の資料となる身体計測の技術と留意点を学ぶ。		60

刊和3千及				
科目名	社会的養護	対象		
担当教員	山脇 功次	単位数	短期大学部 幼児教育	学科 2年 1単位 選択
開講期	IV	必選		
授業概要	本科目では、「社会的養護 I 」の学ん (1) こどもの権利を基軸とした社会 (2) こどもの自己実現・自立に向け (3) 地域・学校・家族とのネットワ (CE2242)	的養護の基本的な考え た取り組みを学びます		礎学習と事例検討を中心に学びを深めます。
達成目標	(1) こどもに寄り添った伴走型支援 (2) 各授業にて扱ったテーマの内容 (3) 事例検討をとおして社会資源の	を説明することができ	る。	
受講資格	幼児教育学科2年		成績評価 方法	提出物70点、講義における取組30点
教科書	中山正雄(監修)浦田雅夫(編著)「よりそい支える社会的養護Ⅱ」教育情報出版			
参考書				
学生への要望	板書を中心に講義します。ノートをと	って予習しましょう。		
オフィスタイム				

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	*** * * * * * * * * * * * * * * * * * *	授業内容、評価について説明する。 施設入所について説明する。	教科書を予習・復習すること	80
2		施設での生活について説明する。	教科書を予習・復習すること	80
3	集団を活用した生活づくり 治療的支援	施設等での治療的支援について説明する。	教科書を予習・復習すること	80
4	里親家庭・ファミリーホームの 生活 施設行事の意義	里親とファミリーホームについて説明する。	教科書を予習・復習すること	80
5	子どもの行動への理解と支援 自立支援	入所児童の特性について説明する。	教科書を予習・復習すること	80
6	親子再統合への取り組み 措置変更の現状と課題	親子再統合・再構築・措置変更について説明する。	教科書を予習・復習すること	80
7	アフターケアの計画と実際 職員のチームワークと働き方	自立に向けた支援について説明する。	教科書を予習・復習すること	80
8	不適切なかかわりの防止と研修 まとめ	施設職員の倫理について説明する。	教科書を予習・復習すること	80

科目名	教育実習	416				
担当教員	柳沼 真美子,佐々木 郁子,賀門 康博,奥 美代	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教	育学科 1年 1単位 必修/短期	大学部 幼児教育学科	1年 1単位 選択
開講期	I	20125				
授業概要	本授業は、幼稚園教育に関しての基本の基礎実習)、教育実習III(学外 観察び事後の反省を通して、自身の課題・「業の内容は、すべての実習の基本となる基本的な内容を学習する。フィードバック方法:レポートを添削位置づけ・水準:CE2150	察参加実習)、教育身 問題を発見し、主体的 るため、幼稚園教育要	実習Ⅳ(学外 本実習 勺・自発的に改善した 要領をもとに5領域、	)と学内での学習との関連に がら幼稚園教育の専門職とし 子どもの発達、幼児理解、保	こついて理解を図る。 まんて確立できるよう授業	また、実習の準備お 美をする。なお、本
	①教育実習の意義と目的を理解するこ	とができる。				
達成目標	②幼稚園教育の基本的事項である5領域 ③教育実習 II (附属幼稚園の基礎実習) ④実習生としての姿勢や態度、ルール・ ※単位認定の最低基準は、内容の7割を ※ディプロマポリシーとの関係:保育の	)、教育実習Ⅲ(学タ やマナーを理解し、積 ·理解していること。	ト観察参加実習)に向 責極的にコミュニケー		三体的に進め、理解を浮	深めることができる
達成目標	③教育実習 II (附属幼稚園の基礎実習) ④実習生としての姿勢や態度、ルール・ ※単位認定の最低基準は、内容の7割を	)、教育実習Ⅲ(学夕 やマナーを理解し、積 と理解していること。 の本質理解、子どもの	ト観察参加実習)に向 責極的にコミュニケー		を体的に進め、理解を済 ・ョン能力	
	③教育実習 II (附属幼稚園の基礎実習) ④実習生としての姿勢や態度、ルール・ ※単位認定の最低基準は、内容の7割を ※ディプロマポリシーとの関係:保育の	)、教育実習II(学タ やマナーを理解し、程 と理解していること。 の本質理解、子どもの 希望者 ・一ベル館) ベル館)	外観察参加実習)に向 責極的にコミュニケー の発達の理解と支援の 成績評価 方法	けた事前学習と事後学習を主 ションを図ることができる。 力、表現力とコミュニケーシ	を体的に進め、理解を済 ・ョン能力	
受講資格	③教育実習 II (附属幼稚園の基礎実習) ④実習生としての姿勢や態度、ルール・ ※単位認定の最低基準は、内容の7割を ※ディプロマポリシーとの関係:保育の 幼児教育学科1年「幼二種」免許取得。 ・文部科学省幼稚園教育要領解説(フレーク) ・厚生労働省保育所保育指針(フレーク)	)、教育実習III(学タ やマナーを理解し、程 理解していること。 の本質理解、子どもの 希望者 ・一ベル館) ベル館) ・保育要領解説(フレ	外観察参加実習)に向 責極的にコミュニケー の発達の理解と支援の 成績評価 方法	けた事前学習と事後学習を主 ションを図ることができる。 力、表現力とコミュニケーシ	を体的に進め、理解を済 ・ョン能力	
受講資格教科書	③教育実習 I (附属幼稚園の基礎実習) ④実習生としての姿勢や態度、ルール・ ※単位認定の最低基準は、内容の7割を ※ディプロマポリシーとの関係:保育の 幼児教育学科1年「幼二種」免許取得。 ・文部科学省幼稚園教育要領解説(フレーター・ ・ 内閣府幼保連携型認定こども園教育	)、教育実習  (学タ やマナーを理解し、程 と理解していること。 の本質理解、子どもの 希望者 ・一ベル館) 、い館) ・保育要領解説(フレ・ 出版) 布する。配布された資	<ul> <li>料観察参加実習)には</li></ul>	りけた事前学習と事後学習を主ションを図ることができる。 ウカ、表現力とコミュニケーシ 平常点50%(授業態度等に ること。	を体的に進め、理解を済 ・ョン能力	

	項目	- <sub>-   技</sub> 来内谷 C スケ シュール- <b>授業内容</b>	自学自習	目安時間
Ш	~			
	オリエンテーション	・教育実習の意義、目的、概要、評価方法について理解す		45
	全担当教員	<b>వ</b> .	・資料の整理をする。	
		・学外希望調査書を配布、説明する。	・幼稚園教育要領を読む。	
1		・教科書、ノート、スケッチブックの活用や自学自習の方		
		法など、受講方法について理解する。		
	教育実習の理解①	・幼稚園教育要領を読みながら、幼稚園教育について理解	・本日の講義内容をノートにまとめる。	45
	「幼稚園教育要領の理解」	する。特に、5領域と保育のポイントについて理解する。	・資料の整理をする。	
2	佐々木・栁沼	・その上で、なぜ実習に行く必要があるのかについて、グ	・幼稚園教育要領を読む。	
		ループワークで考える。		
	教育実習の理解②	・幼稚園教育要領から3・4・5歳の発達と保育のポイント	・本日の講義内容をノートにまとめる。	45
	「幼稚園教育要領から発達を理	を理解する。	・資料の整理をする。	
3	解する」	・学外希望調査書の提出	・3・4・5歳児の発達と保育活動につい	
3	佐々木・栁沼	1717年附出自2016日	て、テキストを参考に復習する。	
	在47人,100万		し、 ノコスドで参考に接自する。	
	教育実習の準備①	・学外幼稚園実習先への電話のかけ方、訪問の仕方につい	・グループワークで検討した自己紹介方法	45
	「学外実習の準備」	て理解する。	について、スケッチブックやペープサート	10
	佐々木・柳沼	・学外幼稚園実習先へのお伺い文書を配布し、記入する。		
4		・「グループワーク」附属幼稚園での自己紹介方法を考え	寺を卒崩する。	
		<b>3</b> .		
	教育実習の準備②	・附属幼稚園見学をする。	・附属幼稚園で見学した内容をノートに整	45
_	「附属幼稚園の見学」	・施設(保育室・園庭遊具)、職員、子どもの様子、保護	理する。	
5	全担当教員	者の様子等について確認する。		
		・園長講話を聴き、園の方針を理解する。		

項目 教育実習の準備③ 「附属幼稚園実習の準備」 全担当教員 幼稚園教育の基礎① 「遊びを通した学びを考える」 佐々木・栁沼 幼稚園教育の基礎②	授業内容 ・実習生としての心構えと実習生の視点 ・教育実習における日誌の意義を理解する。 ・記録のとり方、日誌の書き方、エピソードの書き方を理解する。 ・教室でできる遊びを体験する。 ・「グループワーク」体験した遊びから学びを探求する。	<b>自学自習</b> ・本日の授業内容をノートにまとめる。 ・エピソード記録を書いてくる。 ・本日の授業の内容を整理してノートに記入する。	<b>日安時間</b> 45 45 45
「附属幼稚園実習の準備」 全担当教員 幼稚園教育の基礎① 「遊びを通した学びを考える」 左々木・栁沼	・教育実習における日誌の意義を理解する。 ・記録のとり方、日誌の書き方、エピソードの書き方を理解する。 ・教室でできる遊びを体験する。	<ul><li>・エピソード記録を書いてくる。</li><li>・本日の授業の内容を整理してノートに記</li></ul>	
「遊びを通した学びを考える」 左々木・栁沼			45
幼稚園教育の基礎②			
「3歳の発達と保育のポイント」 佐々木・柳沼	・3歳児の発達と関わり方を理解する。	・本日の授業の内容を整理してノートに記入する。	45
幼稚園教育の基礎③ 「4歳の発達と保育のポイン ト」 佐々木・栁沼	・4歳児の発達と関わり方を理解する。	・本日の授業の内容を整理してノートに記入する。	45
め稚園教育の基礎④ 「5歳の発達と保育のポイン ト」 左々木・栁沼	・5歳児の発達と関わり方を理解する。	・本日の授業の内容を整理してノートに記 入する。	45
子ども理解① 佐々木・柳沼	<ul><li>・子どもを観察する視点を理解する。</li><li>・子どもの行動と言葉を理解する。</li><li>・子どもの関わり方を探求する。</li></ul>	・本日の授業の内容を整理してノートに記 入する。	45
子ども理解② 左々木・栁沼	・エピソード記録を理解する。 ・エピソード記録から子どもの姿を考察し、子どもの可能 性についてグループで議論する。	・本日の授業の内容を整理してノートに記 入する。	45
子ども理解③ 左々木・栁沼			45
まとめ 全担当教員	・本授業で学習したことを振り返り、まとめる。 ・ノートを提出する。	なし	0
学修成果の確認 全担当教員	・まとめの内容をフィードバックし、 II 期教育実習 III への 課題・問題を明確にする。 ・夏休みの課題「パペット・手袋人形等」を説明する。 ・1~4班は附属幼稚園実習のフィードバックを行う。	・夏休みの制作課題に取り組む。	120
	大」 左々木・柳沼 が稚園教育の基礎③ 「4歳の発達と保育のポイン た々木・柳沼 が稚園教育の基礎④ 「5歳の発達と保育のポイン 大」 左々木・柳沼 そども理解① 左々木・柳沼 そども理解② 左々木・柳沼 そども理解② た々木・柳沼 をとな木・柳沼 をとな木・柳沼	大々木・柳沼	た」 左々木・柳沼  ・ 4歳児の発達と関わり方を理解する。 ・本日の授業の内容を整理してノートに記入する。 ・ 本日の授業の内容を整理してノートに記入する。 ・ 本日の授業の内容を整理してノートに記入する。 ・ 本日の授業の内容を整理してノートに記入する。 ・ 本日の授業の内容を整理してノートに記入する。 ・ 子ども理解① ・ 子どもを観察する視点を理解する。 ・ 子ども理解① ・ 子どもの関わり方を探求する。 ・ 子どもの関わり方を探求する。 ・ 子どもの関わり方を探求する。 ・ エピソード記録を理解する。 ・ 子どもの関わり方を探求する。 ・ エピソード記録を理解する。 ・ エピソード記録を理解する。 ・ エピソートに記入する。 ・ エピソード記録を理解する。 ・ エピソード記録を可解する。 ・ エピソード記録を理解する。 ・ エピソード記録を理解する。 ・ エピソートに記入する。 ・ 本日の授業の内容を整理してノートに記入する。 ・ エピソード記録を可解する。 ・ 本日の授業の内容を整理してノートに記入する。 ・ エピソード記録を可解する。 ・ 本日の授業の内容を整理してノートに記入する。 ・ 本日の授業の内容を整理しているの内容をを表している。 ・ 本日の授業の内容を表しているの内容を表しているの内容を表しているの内容を表しているの内容を表しているの内容を表しているの内容を表しているの内容を表しているの内容を表しているの内容を表しているの内容を表しているの内容を表しているの内容を表しているの内容を表しているの内容を表しているの内容を表しているの内容を表しているの内容を表しているの内容を表しているの内容を表しているの内容を表しているの内容を表しているの

科目名	教育実習	対象			
担当教員	柳沼 真美子,佐々木 郁子	単位数	短期大学部 幼児教	育学科 1年 1単位 必修/短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 選択	
開講期	I	必選			
授業概要		全体像を理解する。 ション力を習得でき	また、教育実習III(管		
達成目標	③年齢に応じた保育内容を理解し、保 ④保育計画に基づき、保育の方法や技 ※単位認定の最低基準は、内容の7割を	しての姿勢や態度、 育計画を立てること 術を習得し、表現す を理解していること。	ルールやマナー、保育 ができる。 ることができる。	できる。 す者としてのコミュニケーション能力について理解することができる。 た技術力、表現力とコミュニケーション能力	
受講資格	幼児教育学科 教職課程履修者		成績評価 方法	実習園の評価40% 実習日誌20% レポート・ノート40%	
教科書	<ul><li>・文部科学省幼稚園教育要領解説(フレーベル館)</li><li>・厚生労働省保育所保育指針(フレーベル館)</li><li>・内閣府幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(フレーベル館)</li></ul>				
参考書	学びをいかすハンドブック(大学図書出	出版)			
学生への要望	・常日頃から基本的な生活習慣を身につけ、目的意識や課題意識を持って、意欲的に実習を行えるようにすること。 ・実習のフィードバックは各クラスで班単位で行う。				
オフィスタイム	佐々木:83年館3階 834研究室(月曜日	日・火曜日9:30~12	2:00) 柳沼:83年	館2階 共同研究室(月曜日・火曜日9:30~12:00)	

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
	オリエンテーション	・授業の概要と評価方法を確認する。	・本日の講義内容をノートにまとめる。	45
	「教育実習の概要を理解する」	・学外幼稚園実習希望園を確認する。	・資料の整理をする。	
1	佐々木・栁沼	・学外実習について説明する。		
	事前指導①	・グループワーク「夏休みの課題発表」	・本日の実践に対する振り返りをノートに	45
2	「実践演習」	・発表内容を再検討	まとめ、自身の課題を明確化する。	
	佐々木・栁沼	・発達段階を踏まえた保育活動の違い		
	事前指導②	・グループワーク	・収集した保育活動事例をノートに整理す	45
3	「3歳児の保育活動を理解す	「3歳児の保育活動事例の収集」	る。	
3	る」	・音図体の遊び、絵本等を探求する		
	佐々木・栁沼			
	事前指導③	・グループワーク	・指導計画を作成する。	45
	「3歳児の保育活動を計画す	「3歳児の保育活動計画作成」		
4	る」	「導入方法の検討」		
	佐々木・柳沼			
	事前指導④	・グループワーク	・収集した保育活動事例をノートに整理す	45
	「4歳児の保育活動を理解す	「4歳児の保育活動事例の収集」	る。	
5	る」	・音図体の遊び、絵本等を探求する		
	佐々木・栁沼			
	事前指導⑤	・グループワーク	・指導計画を作成する。	45
	「4歳児の保育活動を計画す	「4歳児の保育活動計画の作成」		
6	る」	「導入方法の検討」		
	佐々木・柳沼			
	事前指導⑥	・グループワーク	・収集した保育活動事例をノートに整理す	45
7	「5歳児の保育活動を理解す	「5歳児の保育活動事例の収集」	<b>ప</b> .	
7	る」	・音図体の遊び、絵本等を探求する		
	佐々木・栁沼			

0	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	事前指導⑦ 「5歳児の保育活動を計画する」 佐々木・柳沼	・グループワーク 「5歳児の保育活動計画の作成」 「導入方法の検討」	・指導計画を作成する。	45
9	事前指導® 「実習日誌の記入方法を理解する」 佐々木・柳沼	・実習日誌の記入方法を理解する。 書き言葉と話し言葉の違い 子どもの様子を表現する言葉の使い方	・本日の講義内容をノートにまとめる。 ・資料の整理をする。	45
10	事前指導⑨ 「実習日誌を記入する」 佐々木・柳沼	<ul><li>・グループワーク 実習日誌の記入と評価 園により記入が異なることを理解する</li><li>・実習日誌を記入してみる。</li></ul>	・本日の講義内容をノートにまとめる。 ・資料の整理をする。	45
11	学外実習の準備・指導① 「附属幼稚園実習の振り返り」 佐々木・栁沼	・実習関係書類を配布し、その内容を説明する。 (実習手引き・日誌・出勤表・自動車通勤願い) ・グループワーク「附属実習の振り返り」 振り返りから自身の課題と解決策を計画する。	・附属幼稚園実習の振り返りから自身の課題を明確化する。	45
12	附属幼稚園実習フィードバック 佐々木・柳沼	<ul><li>・各クラス班ごとに附属幼稚園実習のフィードバックを行う。</li></ul>	・学外実習に向けての目標を設定する。	45
13	学外実習の準備・指導② 「実習生の姿勢とモラルを理解 する」 佐々木・柳沼	・実習の手引きを理解する。 ・実習における学生の姿勢(礼儀・モラル) ・積極性とコミュニケーションを考える。 ・冬休みの課題「手遊び」を3つ習得する。	・本日の講義内容をノートにまとめる。 ・資料の整理をする。	45
14	学外実習の準備・指導③ 「各種書類確認と緊急時対応の 確認」 佐々木・栁沼	・実習を通して学ぶことを再確認する。 ・各書類の清書、お礼状の書き方 ・緊急時の対応確認(報連相の方法)	・本日の授業内の課題を学習・記入する。	45
15	まとめ 佐々木・柳沼	・まとめと実習の振り返り「レポート記入」 ・Ⅲ期「教育実習Ⅲ」事後指導の確認 ・学外実習に向けた教材の制作「エプロンシアターなど」	・学外実習に向け手作り教材を制作する。	120

科目名	教育実習Ⅲ	対象			
担当教員	栁沼 真美子	単位数	短期大学部 幼児教育	育学科 1年 1単位 必修/短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 選択	
開講期	II	必選			
授業概要		体像を理解する。? ョン力を習得できる	また、教育実習Ⅲ(学 るよう模擬保育を実施	際・幼児の発達理解)の内容を踏まえた上で、教育実習 II (附属幼稚園 外 観察参加実習) に向けて、保育内容の理解と総合的な計画力の向上 する。	
達成目標	③年齢に応じた保育内容を理解し、保育 ④保育計画に基づき、保育の方法や技術 ※単位認定の最低基準は、内容の7割を5	ての姿勢や態度、 計画を立てることが を習得し、表現する 理解していること。	ルールやマナー、保育 ができる。 ることができる。	きる。 :者としてのコミュニケーション能力について理解することができる。  技術力、表現力とコミュニケーション能力	
受講資格	幼児教育学科 教職課程履修者		成績評価 方法	実習園の評価50%、実習日誌20%、課題・レポート30%	
教科書	・文部科学省幼稚園教育要領解説(フレーベル館) ・厚生労働省保育所保育指針(フレーベル館) ・内閣府幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(フレーベル館)				
参考書	学びをいかすハンドブック(大学図書出版	页)			
学生への要望	・常日頃から基本的な生活習慣を身につけ、目的意識や課題意識を持って、意欲的に実習を行えるようにすること。 ・実習のフィードバックは各クラスで班単位で行う。				
オフィスタイム	佐々木:83年館3階 834研究室(月曜日	・火曜日9:30~12	?:00) 栁沼:83年館	館2階 共同研究室(月曜日・火曜日9:30~12:00)	

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
	オリエンテーション 「教育実習の概要を理解する」	・授業の概要と評価方法を確認する。 ・学外幼稚園実習希望園を確認する。	・本日の講義内容をノートにまとめる。 ・資料の整理をする。	45
1	佐々木・柳沼	・学外実習について説明する。	・貝科の金柱でする。	
	III VE/II	3,7,50,11-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1		
	事前指導①	・グループワーク「夏休みの課題発表」	・本日の実践に対する振り返りをノートに	45
2	「実践演習」	・発表内容を再検討	まとめ、自身の課題を明確化する。	
	佐々木・栁沼	・発達段階を踏まえた保育活動の違い		
	事前指導②	・グループワーク	・収集した保育活動事例をノートに整理す	45
3	「3歳児の保育活動を理解す	「3歳児の保育活動事例の収集」	る。	
3	3]	・音図体の遊び、絵本等を探求する。		
	佐々木・栁沼			
	事前指導③	・グループワーク	・指導計画を作成する。	45
	「3歳児の保育活動を計画す	「3歳児の保育活動計画作成」		
4	る」	「導入方法の検討」		
	佐々木・栁沼			
	事前指導④	・グループワーク	・収集した保育活動事例をノートに整理す	45
	「4歳児の保育活動を理解す	「4歳児の保育活動事例の収集」	る。	
5	る」	・音図体の遊び、絵本等を探求する。		
	佐々木・栁沼			
	事前指導⑤	・グループワーク	・指導計画を作成する。	45
	「4歳児の保育活動を計画す	「4歳児の保育活動計画の作成」		
6	る」	「導入方法の検討」		
	佐々木・栁沼			
	事前指導⑥	・グループワーク	・収集した保育活動事例をノートに整理す	45
7	「5歳児の保育活動を理解す	「5歳児の保育活動事例の収集」	る。	
/	る」	・音図体の遊び、絵本等を探求する。		
	佐々木・栁沼			

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	事前指導⑦ 「5歳児の保育活動を計画する」 佐々木・栁沼	・グループワーク 「5歳児の保育活動計画の作成」 「導入方法の検討」	・指導計画を作成する。	45
9	事前指導® 「実習日誌の記入方法を理解する」 佐々木・栁沼	・実習日誌の記入方法を理解する。 書き言葉と話し言葉の違い 子どもの様子を表現する言葉の使い方	・本日の講義内容をノートにまとめる。 ・資料の整理をする。	45
10	事前指導⑨ 「実習日誌を記入する」 佐々木・柳沼	・グループワーク 実習日誌の記入と評価 園により記入が異なることを理解する ・実習日誌を記入してみる。	・本日の講義内容をノートにまとめる。 ・資料の整理をする。	45
11	学外実習の準備・指導① 「附属幼稚園実習の振り返り」 佐々木・柳沼	・実習関係書類を配布し、その内容を説明する。 (実習手引き・日誌・出勤表・自動車通勤願い) ・グループワーク「附属実習の振り返り」 振り返りから自身の課題と解決策を計画する。	・附属幼稚園実習の振り返りから自身の課 題を明確化する。	45
12	附属幼稚園実習フィードバック 佐々木・柳沼	・各クラス班ごとに附属幼稚園実習のフィードバックを行う。	・学外実習に向けての目標を設定する。	45
13	学外実習の準備・指導② 「実習生の姿勢とモラルを理解 する」 佐々木・栁沼	・実習の手引きを理解する。 ・実習における学生の姿勢(礼儀・モラル) ・積極性とコミュニケーションを考える。 ・冬休みの課題「手遊び」を3つ習得する。	・本日の講義内容をノートにまとめる。 ・資料の整理をする。	45
14	学外実習の準備・指導③ 「各種書類確認と緊急時対応の 確認」 佐々木・栁沼	・実習を通して学ぶことを再確認する。 ・各書類の清書、お礼状の書き方 ・緊急時の対応確認(報連相の方法)	・本日の授業内の課題を学習・記入する。	45
15	まとめ佐々木・柳沼	・まとめと実習の振り返り「レポート記入」 ・Ⅲ期「教育実習Ⅲ」事後指導の確認 ・学外実習に向けた教材の制作「エプロンシアターなど」	・学外実習に向け手作り教材を制作する。	120

科目名	教育実習Ⅳ	—————————————————————————————————————			
				#1 0F 0# L 22 L	
担当教員	柳沼 真美子,佐々木 郁子	単位数	短期大字部 幼児教育	学科 2年 2単位 選択	
開講期	III	必選			
授業概要	本授業は、教育実習III(学外幼稚園・観察参加実習)の内容を踏まえた上で、自身の課題や問題を明確化する。また、教育実習IVに向けて具体的な保育内容の計画・展開・評価方法を主体的に探求する。教育実習IVの後は、グループワークで実習中の指導計画・日誌・態度・生活・職員とのコミュニケーションなどを振り返り、改善策を検討する。2年間の学びを振り返り、改めて保育の魅力や理想とする保育者像を探求する。フィードバック方法:実習園の評価をもとに、個別フィードバックを行います。 位置づけ・水準:CE2246				
達成目標	①学外幼稚園実習を通して、幼稚園教育について理解することができる。 ②学外幼稚園実習を通して、保育者の役割について理解することができる。 ③年齢に応じた保育内容を理解し、保育内容を具体的に計画・立案・展開することができる。 ④2年間の学びを振り返り、自身の課題や問題を客観視することができ、改善に向けて具体的に行動すること、学び続けることができる。 ※単位認定の最低基準は、内容の7割を理解していること。 ※ディプロマポリシーとの関係:保育の内容理解と総合的計画力、保育の方法と技術力、表現力とコミュニケーション能力、問題解決力				
受講資格	幼児教育学科2年 教職課程履修者		成績評価 方法	・実習園の評価50%、実習日誌20%、課題・レポート30%	
教科書	・文部科学省幼稚園教育要領解説(フレーベル館) ・厚生労働省保育所保育指針(フレーベル館) ・内閣府幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(フレーベル館)				
参考書	学びをいかすハンドブック(大学図書出	版)			
学生への要望	・常日頃から基本的な生活習慣を身につけ、目的意識や課題意識を持って、意欲的・積極的に実習を行うこと。 ・学外実習(本実習)の事前・事後指導を受けることを条件とする。				
オフィスタイム	佐々木:83年館3階 834研究室(月曜日	日・火曜日9:30~12	:00) 柳沼:83年館	22階 共同研究室(月曜日・火曜日9:30~12:00)	

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション 佐々木・柳沼	教育実習日誌の回収	・本日の授業内容をまとめる。	45
2	教育実習総まとめ① 佐々木・柳沼	実習日誌・指導案の書き方について	・本日の授業内容をまとめる。	45
3	教育実習総まとめ② 佐々木・栁沼	責任実習について	・本日の授業内容をまとめる。	45
4	教育実習総まとめ③ 佐々木・柳沼	実習の心得	・本日の授業内容をまとめる。	45
5	教育実習総まとめ④ 佐々木・柳沼	実習の注意事項について	・本日の授業内容をまとめる。	45
6	教育実習総まとめ⑤ 佐々木・柳沼	実習の振り返り (1)	・実習をふまえて、反省点や課題を明確にする。	45
7	教育実習総まとめ⑥ 佐々木・柳沼	実習の振り返り (2)	・本日の授業内容をまとめる。	45
8	幼稚園教諭免許申請等作成 柳沼	幼稚園教諭免許申請について	なし	0

令和5年度							
科目名	保育実習指導I	対象					
担当教員	安部 高太朗,山脇 功次,沼田 春香,	対象 単位数	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択				
======	宗像 佑華,小林 徹	必選	70-7017C 1 IIP 2917C 37C F	1111 17 27 21			
開講期	通年	~~					
	1. 保育実習の意義・目的を理解する。						
		2. 実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。					
	3. 実習施設における子どもの人権と最						
授業概要	4. 実習の保育計画、実践、観察、記録						
	グルーフワーク等のアクティヴ・ラーニ 	ングの手法を用いて	て授業を展開し、課題	等の返却時に授業内でフィードバックを行う。			
	位置づけ・水準 CE2154						
	DEE JV) NA OLZIJA						
	1. 保育実習の意義・目的・内容を理解	こし、自らの課題を	明確にすることができ	たか。			
	2. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解することができたか。						
達成目標	3. 実習の保育計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解することができたか。						
	単位認定の最低基準は、内容の7割が理解できていること。						
	ディプロマ・ポリシーとの関係:保育の	)内容理解と総合的詞	計画力、保育の方法と	技術力、表現力とコミュニケーション能力			
	幼児教育学科1年			①授業参加度:50%(提出物・授業態度)			
受講資格			成績評価	②レポート課題(第9回に提示し、第12回に回収予定):50%			
文神具俗			方法	上記①及び②の合計100%で成績をつける。			
	福島県保育者養成校連絡会『保育実習の	手引き』(2023年度	夏)、2023年。				
教科書	福島県保育者養成校連絡会 編『福島県伊	保育実習施設』(202	3年度)、2023年。				
	栗山宣夫・小林徹 編著『福祉施設実習う	林徹 編著『福祉施設実習テキストブック:子ども・利用者理解からはじめる実践』建帛社、2022年。					
参考書	厚生労働省 編『保育所保育指針解説書』	フレーベル館、20	)18年。				
罗万百	内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館、2018年。						
	本授業はⅠ期に8コマ、Ⅱ期に8コマ(あわせて2単位)、保育実習の事前指導として開設される。						
学生への要望	保育実習(保育所・施設)は、保育士資格取得に関わるたいへん重要な科目であり、本授業内容を正確に理解しない場合、資格が取得できない危険性が						
	ある。本授業の受講に際しては、慎重が	つ真摯な態度が不可	可欠である。				
	·火曜日IV限(14:30~16:00)						
オフィスタイム	・火曜日 V 限(16:10~17:40)						
371A31A		821研究室)とする	。そのほかの時間帯を	在希望する場合は、予め、安部(k-abe@koriyama-kgc.ac.jp)までメー			
	ルで連絡を入れること。						

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	保育実習の意義①	オリエンテーション、実習の目的、保育実習とは、保育所 実習の概要、実習希望先の確認	予習:テキスト内容の確認。 復習:まとめと質問シート作成。小テスト のための学習。	30
2	実習の内容と課題の明確化①	実習の内容および課題、実習希望先の調整	予習:テキスト内容の確認。 復習:まとめと質問シート作成。小テスト のための学習。	30
3	実習についての留意事項	子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と 守秘義務・信用失墜行為の禁止、個人情報保護法と保育、 実習生に求められる情報管理、実習希望先の決定	予習:テキスト内容の確認。 復習:まとめと質問シート作成。小テスト のための学習。	30
4	保育所実習の実際①	保育所実習の留意事項および保育所の基本的な理解と、実 習場面における子どもや職員との関わりについて	予習:テキスト内容の確認。 復習:まとめと質問シート作成。小テスト のための学習。	30
5	実習の記録①	実習における実践、観察、記録について、実習日誌の書き 方	予習:テキスト内容の確認。 復習:まとめと質問シート作成。小テスト のための学習。	30
6	実習の記録②	実習における実践、観察、記録について、実習日誌の書き 方	予習:テキスト内容の確認。 復習:まとめと質問シート作成。小テスト のための学習。	30
7	実習の計画①	実習における保育計画(指導案)の作成について	予習:テキスト内容の確認。 復習:まとめと質問シート作成。小テスト のための学習。	30
8	実習の計画②	実習における保育計画(指導案)の作成について	予習:テキスト内容の確認。 復習:まとめと質問シート作成。	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	保育実習の意義②	オリエンテーション、実習の目的、保育実習とは、施設実 習の概要	予習:テキスト内容の確認。 復習:まとめと質問シート作成。小テスト のための学習。	30
10	実習の内容と課題の明確化②	施設実習における心構え・準備について、実習施設別の基 本的な特徴の理解、実習希望先の確認	予習:テキスト内容の確認。 復習:まとめと質問シート作成。小テスト のための学習。	30
11	施設実習と守秘義務・個人情報 の保護	実習の内容と日誌、ケース記録の書き方の基本、守秘義務 を考慮した日誌の書き方、実習希望先の調整	予習:テキスト内容の確認。 復習:まとめと質問シート作成。小テスト のための学習。	30
12	施設実習の実際	実習の留意事項について、施設実習の基本的な理解と、実 習場面における園生や職員との関わりについて、実習希望 先の決定		30
13	保育所実習事前指導①	実習生としての心構え、実習日誌の配布、誓約書について	予習:テキスト内容の確認。 復習:まとめと質問シート作成。小テスト のための学習。	30
14	保育所実習事前指導②	実習の課題の明確化、実習日誌の記入、保菌検査・抗体検 査について	予習:テキスト内容の確認。 復習:まとめと質問シート作成。小テスト のための学習。	30
15	保育所実習の実際②	保育所実習の留意事項および保育所の基本的な理解と、実 習場面における子どもや職員との関わりについて	予習:テキスト内容の確認。 復習:まとめと質問シート作成。小テスト のための学習。	30
16	保育所実習の実際③	保育所実習の留意事項および保育所の基本的な理解と、実 習場面における子どもや職員との関わりについて	予習:テキスト内容の確認。 復習:まとめと質問シート作成。	30

令和5年度							
科目名	保育実習指導Ⅱ又はⅢ	対象					
担当教員	安部 高太朗,沼田 春香,宗像 佑華,	刈家 単位数	短期大学部 幼児教育学科 2年 1単位 選択				
担当教員	山脇 功次,小林 徹	必選	应州八十 即 列元教	次月子付 Z午 I 平位 选顶			
開講期	III	<b>炎</b> ·医					
	1. 保育実習の意義・目的を理解する。						
	2. 実習の内容を理解し、自らの課題を	明確にする。					
	3. 実習施設における子どもの人権と最	善の利益の考慮、	プライバシーの保護と	隻と守秘義務等について理解する。			
	4. 実習の保育計画、実践、観察、記録	、評価の方法や内?	容について具体的に理	理解する。			
授業概要	5. 実習の事後指導を通して、実習の総	括と自己評価を行	い、課題や学習目標を	きを明確にする。			
	グループワーク等のアクティヴ・ラーニ	ングの手法を用い	て授業を展開し、課題	<b></b> 題等の返却時に授業内でフィードバックを行う。			
	(1577 ) 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1						
	位置づけ・水準 CE2248						
	1. 保育実習の意義・目的・内容を理解	リー 白たの細頭を	明疎に士スマレができ	5 <del>+</del> + + h			
				•			
達成目標	2. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解することができたか。 3. 実習の保育計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解することができたか。						
连队日际	単位認定の最低基準は、内容の7割が理解						
	ディプロマ・ポリシーとの関係:保育の		計画力、保育の方法と	と技術力、表現力とコミュニケーション能力			
	幼児教育学科2年		成績評価	①授業参加度(提出物や受講態度):50点			
受講資格	初元教育于行乙午		方法	②レポート課題(第6回に回収予定):50点			
	福島県保育者養成校連絡会『保育実習の	チョーキョ (2022年度		6 - 9 - 1 byg (Nagheriwa ye) - 99 W			
教科書	福島県保育者養成校連絡会編『福島県保						
<b>秋竹</b> 百	栗山宣夫・小林徹 編著『福祉施設実習 ラ			からはじめる実践   建帛社、2022年。			
	厚生労働省 編『保育所保育指針解説書』			A STATE OF S			
参考書	内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保			Ŗ説   フレーベル館 2018年			
				育実習(保育所・施設)は、保育士資格取得に関わるたいへん重要な科			
学生への要望	, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,						
	あり、本授業内容を正確に理解しない場合、資格が取得できない危険性がある。本授業の受講に際しては、慎重かつ真摯な態度が不可欠である。 ・火曜日以限(14:30~16:00)						
	· 火曜日 V 限(14:30~16:00) · 火曜日 V 限(16:10~17:40)						
オフィスタイム	, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	821研究室)とする	、 そのほかの時間帯	帯を希望する場合は、予め、安部(k-abe@koriyama-kgc.ac.jp)までメ			
	ルで連絡を入れること。	ロビェッ アルエ/ こりつ	,。 こうない かれ自己中.	p e np 主 z での口は、 J の、久中 (n abce nonyama ngc.ac.jp) まてハ			

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	保育実習の振り返り①	オリエンテーション、本授業の目的、保育所実習の概要、 反省・感想	予習:当日の内容をテキスト等で確認する。復習:授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
2	保育実習の振り返り②	保育所実習の概要、反省・感想	予習:当日の内容をテキスト等で確認する。復習:授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
3	実習で学んだ重要事項①	子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と 守秘義務・信用失墜行為の禁止、個人情報保護法と保育、 実習生に求められる情報管理		30
4	実習で学んだ重要事項②	保育所実習における保育計画と実践、観察、記録及び評価、実習の内容と日誌、ケース記録の書き方の基本、守秘 義務を考慮した日誌の書き方。	予習:当日の内容をテキスト等で確認する。復習:授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
5	福祉職として働くために①	保育所実習の留意事項および保育所の基本的な理解と実習 場面における子どもや職員との関わりについて。 実習することと実際に保育所に勤務することの接続と困難 点。	る。復習:授業を踏まえてまとめと質問	30
6	福祉職として働くために②	施設実習の基本的な理解と実習場面における園生や職員との関わりについて。実習することと実際に保育所に勤務することの接続と困難点。		30
7	保育所実習の実際①	保育所実習の留意事項および保育所の基本的な理解と実習 場面における子どもや職員との関わりについて。	予習:当日の内容をテキスト等で確認する。復習:授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
8	保育所実習の実際②	保育所実習の留意事項および保育所の基本的な理解と、実 習場面における子どもや職員との関わりについて。	予習:当日の内容をテキスト等で確認する。復習:授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30

令和5年度	(D + ch 33   1	1			
科目名	保育実習   -1	対象	(-H2   W +2 (   H2 +4 -1	-Wel 4 - 0 W / 177 -	
担当教員	安部高太朗	単位数	短期大学部 幼児教育	で学科 1年 2単位 選択	
開講期	II	必選			
授業概要	1 保育所の役割や機能を具体的に要 2 観察や、子どもとの関わりを通し 3 既習の教科の内容を踏まえ、子と 4 保育の計画、観察、記録及び自己 5 保育士の業務内容や職業倫理にで 6 実習生としてふさわしい適切な態実習終了後、事後指導としてグルー ○本科目の位置づけ・水準 CE2150	して子どもへの理解を別されて子どもの保育及び保護者の 記評価等について具体的のいて具体的のいて具体的に学ぶ。 態度で実習に臨む。 プディスカッションで	への支援について総合的 内に理解する。	内に学ぶ。 したうえで、フィードバックを行う。	
達成目標	1 保育所の役割や機能、保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解できたか。 2 子どもへの理解を深め、子どもの保育及び保護者への支援について理解できたか。 3 保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解できたか。 4 実習生としてふさわしい適切な態度で実習に臨めたか。 単位認定の最低基準は、内容の7割が理解できていること。  〇ディプロマ・ポリシーとの関係: 保育の内容理解と総合的計画力、子どもの発達の理解と支援の力、保育の方法と技術力、表現力とコミュニケーション能力、問題解決力、豊かな人間にと規範意識				
受講資格	幼児教育学科		成績評価 方法	①大学による評価:50% ②福祉施設による実習の評価:50% ①+②合計:100%	
教科書	福島県保育者養成校連絡会『保育実 福島県保育者養成校連絡会編『福島 栗山宣夫・小林徹編著『福祉施設実	片果保育実習施設』(20:	22年度)、2022年。	・はじめる実践』建帛社、2022年。	
参考書	特に指定しない。				
学生への要望				感謝の心をもって取り組むこと。保育実習(保育所・施設)は、保育士 い場合、資格が取得できない危険性がある。実習に際しては、慎重かつ	
オフィスタイム	・火曜日IV限(14:30~16:00) ・火曜日V限(16:10~17:40) いずれも、83年館2階の安部研究3 ルで連絡を入れること。	室(821研究室)とする	る。そのほかの時間帯を	た希望する場合は、予め、安部(k-abe@koriyama-kgc.ac.jp)までメー	

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	保育所実習の内容①	<ol> <li>保育所の役割や機能の具体的展開</li> <li>養護と教育が一体となって行われる保育</li> <li>保育所の社会的役割と責任</li> </ol>	予習:翌日の保育活動の確認。指導計画の 作成。 復習:実習記録の記入。	60
2	保育所実習の内容②	2. 観察に基づく保育理解 ・子どもの心身の状態や活動の記録 ・保育士等の動きや実践の観察 ・保育所の生活の流れや展開の把握	予習:翌日の保育活動の確認。指導計画の 作成。 復習:実習記録の記入。	60
3	保育所実習の内容③	3. 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携 ・環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育の理解 ・入所している子どもの保護者支援及び地域の子育て家庭への支援 ・地域社会との連携	作成。	60
4	保育所実習の内容④	4. 指導計画の作成、実践、観察、記録、評価 ・保育課程に基づく指導計画の作成・実践・省察・評 価と保育課程の理解 ・作成した指導計画に基づく保育実践と評価	予習:翌日の保育活動の確認。指導計画の 作成。 復習:実習記録の記入。	60
5	保育所実習の内容⑤	5. 保育士の業務と職業倫理 ・多様な保育の展開と保育士の業務 ・多様な保育の展開と保育士の職業倫理	予習:翌日の保育活動の確認。指導計画の 作成。 復習:実習記録の記入。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
	保育所実習の内容⑥	6. 自己の課題の明確化	予習:翌日の保育活動の確認。指導計画の	60
6			作成。	
			復習:実習記録の記入。	
	実習生としてふさわしい適切な	・意欲・積極性	予習:翌日の保育活動の確認。指導計画の	60
_	態度	・責任感	作成。	
/		・探究心	復習:実習記録の記入。	
		・協調性		

令和5年度					
科目名	保育実習 1-2	対象			
担当教員	安部 高太朗,沼田 春香,宗像 佑華,	単位数	短期大学部 幼児教	育学科 2年 2単位 選択	
12.3 秋泉	山脇 功次	必選	(A)八十市 幼儿教	月子付 2十2十世 透》(	
開講期	III	20.762			
	1 児童福祉施設等(保育所以外)の役	割や機能を具体的に	こ理解する。		
	2 観察や、子どもとの関わりを通して	子どもへの理解を測	深める。		
	3 既習の教科の内容を踏まえ、子ども	の保育及び保護者へ	∖の支援について総合	的に学ぶ。	
	4 保育の計画、観察、記録及び自己評	価等について具体的	勺に理解する。		
₩₩₩₩₩	5 保育士の業務内容や職業倫理につい	て具体的に学ぶ。			
授業概要	6 実習生としてふさわしい適切な態度	で実習に臨む。			
	実習終了後、事後指導としてグループラ	ディスカッションの	場を設けて情報共有し	た上で、フィードバックを行う。	
	位置づけ・水準 CE2250				
	1 児童福祉施設等(保育所以外)の役	割や機能、保育士の	の業務内容や職業倫理	について具体的に理解できたか。	
	2 利用者への理解を深め、支援につい	て理解できたか。			
	3 支援の計画、観察、記録及び自己評	価等について具体的	勺に理解できたか。		
達成目標 達成目標	4 実習生としてふさわしい適切な態度	で実習に臨めたか。			
	単位認定の最低基準は、内容の7割が理	!解できていること。			
	ディプロマ・ポリシーとの関係:保育の内容理解と総合的計画力、子どもの発達の理解と支援の力、保育の方法と技術力、表現力とコミュニケーション				
	能力、問題解決力、豊かな人間性と規範	節意識			
	幼児教育学科			①大学による評価:50%	
受講資格			成績評価	②福祉施設による実習の評価:50%	
2 3 2 3			方法	①+②以上の100%	
	福島県保育者養成校連絡会『保育実習の	の手引き』(2022年月	度)、2022年。		
教科書	福島県保育者養成校連絡会 編『福島県保育実習施設』(2022年度)、2022年。				
	栗山宣夫・小林徹 編著『福祉施設実習	テキストブック:子	ども・利用者理解か	らはじめる実践』建帛社、2022年。	
参考書	特に指定しない。				
	実習は、実際の保育現場で行われるので	で、社会人のマナー	を厳守し、緊張感と原	<b>惑謝の心をもって取り組むこと。</b>	
学生への要望	保育実習(保育所・施設)は、保育士資格取得に関わるたいへん重要な科目であり、事前指導の内容を正確に理解しない場合、資格が取得できない危				
	険性がある。実習に際しては、慎重かっ	つ真摯な態度が不可	欠である。		
	·火曜日IV限(14:30~16:00)				
オフィスタイム	·火曜日V限(16:10~17:40)				
7/1/2/14	いずれも、83年館2階の安部研究室(	(821研究室) とする	。そのほかの時間帯	を希望する場合は、予め、安部(k-abe@koriyama-kgc.ac.jp)までメー	
	ルで連絡を入れること。				

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	居住型児童福祉施設等及び障害 児通所施設等における実習の内 容①	<ul><li>1. 施設の役割と機能</li><li>・施設の生活と一日の流れ</li><li>・施設の役割と機能</li></ul>	予習:翌日の保育活動の確認。指導計画の 作成。 復習:実習記録の記入。	60
2	居住型児童福祉施設等及び障害 児通所施設等における実習の内 容②	2. 利用者の理解 ・利用者の観察とその理解 ・個々の状態に応じた援助やかかわり	予習:翌日の保育活動の確認。指導計画の 作成。 復習:実習記録の記入。	60
3	居住型児童福祉施設等及び障害 児通所施設等における実習の内 容③	3. 養護内容・生活環境 ・計画に基づく活動や援助 ・利用者の心身の状態に応じた対応 ・利用者の活動と生活の環境 ・健康管理、安全対策の理解	予習:翌日の保育活動の確認。指導計画の 作成。 復習:実習記録の記入。	60
4	居住型児童福祉施設等及び障害 児通所施設等における実習の内 容④	4. 計画と記録 ・支援計画の理解と活用 ・記録に基づく省察・自己評価	予習:翌日の保育活動の確認。指導計画の 作成。 復習:実習記録の記入。	60
5	居住型児童福祉施設等及び障害 児通所施設等における実習の内 容⑤	5. 専門職としての保育士の役割と倫理 ・保育士の業務内容 ・職員間の役割分担や連携 ・保育士の役割と職業倫理	予習:翌日の保育活動の確認。指導計画の 作成。 復習:実習記録の記入。	60
6	実習生としてふさわしい適切な 態度	<ul><li>意欲・積極性</li><li>責任感</li><li>探究心</li><li>協調性</li></ul>	予習:翌日の保育活動の確認。指導計画の 作成。 復習:実習記録の記入。	60

令和5年度	_ <del>_</del>		•			
科目名	保育実習Ⅱ	対象				
担当教員	安部 高太朗,沼田 春香,宗像 佑華		短期大学部 幼児教育学科 2年2単位 選択			
2344			/ADMIN 1 10 40 70 45			
開講期	III	~~				
	1 保育所の役割や機能を具体的に理解	する。				
	2 観察や、子どもとの関わりを通して	子どもへの理解を深	<b></b> める。			
	3 既習の教科の内容を踏まえ、子ども	の保育及び保護者へ	の支援について総合	的に学ぶ。		
	4 保育の計画、観察、記録及び自己評	価等について具体的	]に理解する。			
授業概要	5 保育士の業務内容や職業倫理につい	て具体的に学ぶ。				
仅未恢安	6 実習生としてふさわしい適切な態度	で実習に臨む。				
	実習終了後、事後指導としてグループラ	ディスカッションのホ	場を設けて情報共有し	た上で、フィードバックを行う。		
	○位置づけ・水準 CE2251					
	1 保育所の役割や機能、保育士の業務	内容や職業倫理につ	いて具体的に理解で	きたか。		
	2 子どもへの理解を深め、子どもの保育及び保護者への支援について理解できたか。					
	3 保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解できたか。					
達成目標	4 実習生としてふさわしい適切な態度で実習に臨めたか。					
连队口惊						
	○単位認定の最低基準は、内容の7割が理解できていること。					
	〇ディプロマ・ポリシーとの関係:保育の内容と理解と総合的な計画力、子どもの発達の理解と支援の力、保育の方法と技術力、表現力とコミュニケー ション能力、問題解決力、豊かな人間性と規範意識。					
	/ コノ能力、问趣解決力、豆がな八间に	主乙州即忠誠。				
	幼児教育学科		-13 Art = T Are	①大学による評価:50%		
受講資格			成績評価	②福祉施設による実習の評価:50%		
			方法	①及び②の合計:100%		
教科書	福島県保育者養成校連絡会 編 (2022)『	保育実習の手引き』	(2022年度版)。			
参考書	特に指定しない。					
	実習は、実際の保育現場で行われるので	で、社会人のマナーで	を厳守し、緊張感と愿	謝の心をもって取り組むこと。保育実習(保育所・施設)は、保育士資		
学生への要望	格取得に関わるたいへん重要な科目であり、事前指導の内容を正確に理解しない場合、資格が取得できない危険性がある。実習に際しては、慎重かつ真					
	摯な態度が不可欠である。					
	·火曜日IV限(14:30~16:00)					
	· 火曜日 V 限(16:10~17:40)					
オフィスタイム	いずれも、83年館2階の安部研究室(	(821研究室) とする	。そのほかの時間帯	を希望する場合は、予め、安部(k-abe@koriyama-kgc.ac.jp)までメー		
	ルで連絡を入れること。					

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	保育所実習の内容①	1. 保育所の役割や機能の具体的展開 ・養護と教育が一体となって行われる保育 ・保育所の社会的役割と責任	予習:翌日の保育活動の確認。指導計画の 作成。 復習:実習記録の記入。	60
2	保育所実習の内容②	2. 観察に基づく保育理解 ・子どもの心身の状態や活動の記録 ・保育士等の動きや実践の観察 ・保育所の生活の流れや展開の把握	予習:翌日の保育活動の確認。指導計画の 作成。 復習:実習記録の記入。	60
3	保育所実習の内容③	3. 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携・環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育の理解・入所している子どもの保護者支援及び地域の子育て家庭への支援・地域社会との連携	作成。	60
4	保育所実習の内容④	4. 指導計画の作成、実践、観察、記録、評価 ・保育課程に基づく指導計画の作成・実践・省察・評 価と保育課程の理解 ・作成した指導計画に基づく保育実践と評価	予習:翌日の保育活動の確認。指導計画の 作成。 復習:実習記録の記入。	60
5	保育所実習の内容⑤	5. 保育士の業務と職業倫理 ・多様な保育の展開と保育士の業務 ・多様な保育の展開と保育士の職業倫理	予習:翌日の保育活動の確認。指導計画の 作成。 復習:実習記録の記入。	60
6	保育所実習の内容⑥	6. 自己の課題の明確化	予習:翌日の保育活動の確認。指導計画の 作成。 復習:実習記録の記入。	60

	項目	授業内容	自学自習	目安時間
	実習生としてふさわしい適切な	・意欲・積極性	予習:翌日の保育活動の確認。指導計画の	60
_	態度	・責任感	作成。	
/		・探究心	復習:実習記録の記入。	
		・協調性		

令和5年度			T		
科目名	保育実習Ⅲ	対象			
担当教員	安部 高太朗,宗像 佑華,沼田 春香,山脇 功次	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育	育学科 2年 2単位 選択	
開講期	III	~~			
授業概要	1 児童福祉施設等(保育所以外)の役割や機能について実践を通して理解を深める。 2 家庭と地域の生活実態にふれて、児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う。 3 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。 4 保育士としての自己の課題を明確化する。 実習終了後、事後指導としてグループディスカッションの場を設けて情報共有した上で、フィードバックを行う。 位置づけ・水準 CE2252				
達成目標	1 児童福祉施設等の役割や機能、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力について実践を通して理解を深めることができたか。 2 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解し、自己の課題を明確にできたか。 単位認定の最低基準は、内容の7割が理解できていること。 ディプロマ・ポリシーとの関係:保育の内容理解と総合的計画力、子どもの発達の理解と支援の力、保育の方法と技術力、表現力とコミュニケーショ能力、問題解決力、豊かな人間性と規範意識				
受講資格	幼児教育学科		成績評価 方法	①大学による評価:50% ②福祉施設による実習の評価:50% ①+②以上の合計100%	
教科書	福島県保育者養成校連絡会『保育実習の語 福島県保育者養成校連絡会編『福島県保 栗山宣夫・小林徹編著『福祉施設実習テ	育実習施設』(2022	2年度)、2022年。	うはじめる実践』建帛社、2022年。	
参考書	特に指定しない。				
学生への要望	実習は、実際の施設で行われるので、社会人のマナーを厳守し、緊張感と感謝の心をもって取り組むこと。 保育実習(保育所・施設)は、保育士資格取得に関わるたいへん重要な科目であり、事前指導の内容を正確に理解しない場合、資格が取得できない危 険性がある。実習に際しては、慎重かつ真摯な態度が不可欠である。				
オフィスタイム	・火曜日IV限(14:30~16:00) ・火曜日V限(16:10~17:40) いずれも、83年館2階の安部研究室(8 ルで連絡を入れること。	321研究室)とする。	、そのほかの時間帯 <sup>:</sup>	を希望する場合は、予め、安部(k-abe@koriyama-kgc.ac.jp)までメー	

60
60
60
1
60
60
60

科目名	教職・保育実践演習	対象			
担当教員	折笠 国康	単位数	短期大学部 幼児教	育学科 2年 2単位 選択	
開講期	IV	必選			
授業概要	完を目指し、保育者として備えるべき バックを行い、レポートの作成や履修	資質のさらなる向上 カルテを完成させる ロ等教育や児童相談	で目指す。教員の授業 。 所における経験を活用	美担当はオムニバスになり、	こ、自己分析を通して不足している部分の補 最終時間にはまとめと全体に対するフィード な育現場の実際を意識した学びが重視されて
達成目標	1. 使命感や責任感、教育的愛情等に ①教育現場の現状を再確認し、保育者 2. 社会性や対人関係能力に関する事 ②子どもや保護者教との人間関係を円 3. 幼児児童生徒理解や学級経営等に ③現在の学級経営上の諸問題を理解し 4. 教科・保育内容等の指導力に関す ④時代が求める保育を十分に遂行でき 単位認定の最低基準は、上記①~④の ディプロマ・ポリシーとの関係:問題	の使命と役割を理解項 滑に進めるための基 関する事項 、対応の基礎についる事項 る知識と技術を再確 総合的評価が達成度	一礎を培うことができた で理解できたか。 できたか。 「できたかること。		
受講資格	最終学年の後期		成績評価 方法	特別講義の感想 まとめのレポート	50点 50点
教科書	授業でプリントを配布		I	1	
参考書	授業中に紹介する				
学生への要望	今までの講義、演習、実習などで学習 実践的で学びの集大成となるこの授				
オフィスタイム	金曜日 3限 4限				

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーションと履修カル テ	授業についてのオリエンテーションと履修カルテの記入に ついて説明する。 担当:折笠・宇治	それぞれの課題について準備する。	60
2	社会福祉	社会福祉についての理解を深める 担当:宮内	それぞれの課題について準備する。	60
3	保育における造形表現 1	保育現場で役立つ造形表現について学ぶ 担当:草野	それぞれの課題について準備する。	60
4	保育における身体表現	保育現場で役立つ身体表現について学ぶ 担当:一柳	それぞれの課題について準備する。	60
5	保育における音楽表現	保育現場で役立つ音楽表現について学ぶ 担当:横溝・深谷	それぞれの課題について準備する。	60
6	保育者論	保育者論についての理解を深める 担当:安部	それぞれの課題について準備する。	60
7	保育における造形表現 2	保育現場で役立つ造形表現について学ぶ 担当:早川	それぞれの課題について準備する。	60
8	家庭支援・社会福祉・児童福祉	家庭支援・児童福祉についての理解を深める 担当:宇治	それぞれの課題について準備する。	60
9	健康と保育実践	子どもの健康と保育実践についての理解を深める 担当:永瀬	それぞれの課題について準備する。	60
10	教育心理学	現場で必要になる実践的な教育心理学の知識を学ぶ 担当:折笠	それぞれの課題について準備する。	60
11	学級経営	時代が求める学級経営について学び、保育者の役割につい ての学びを深める 担当:折笠	それぞれの課題について準備する。	60
12	世界と日本の保育	世界と日本の保育について学ぶ 担当:柴田	それぞれの課題について準備する。	60
13	事例研究1	附属幼稚園と連携して事例研究を行う。 時代が求める保育についてディスカッションを行う。 担当:付属幼稚園教諭、永瀬、折笠、柴田、横溝	レポートをまとめる。	60
14	事例研究2	附属幼稚園と連携して事例研究を行う。 時代が求める保育についてディスカッションを行う。 担当:付属幼稚園教諭、永瀬、折笠、柴田、横溝	レポートをまとめる。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
	まとめと履修カルテ	授業の総括を行う。目標と現在の課題を確認し、自己評価	レポートをまとめる。履修カルテを完成さ	90
		と反省を行い、レポートを提出し履修カルテを完成させ	せる。	
15		る。		
		担当:永瀬、折笠、柴田、横溝		
		担当・小々、加立、木口、快再		

科目名	ピアノ川 (主科)	対象			
担当教員	横溝 聡子	単位数	短期大学部 幼児教育:	学科 2年2単位選択	
開講期	通年	必選			
授業概要	ピアノ演奏の基礎的技術の習得と豊かな表現力を体得することを目的とする。練習曲やバロックから近現代までの様々な曲を通して音楽理論や作品の構成や様式を理解し、表現するための技術や演奏法を学ぶ。加えて幼児曲の弾き歌いの伴奏法を学び、保育者としての実践力を養う。授業は個々のレベルに合わせて展開し、アンサンブルやディスカッションを通して問題解決能力やコミュニケーション能力を高め、自発的で豊かな演奏表現ができることを目指す。各試験後、個々に時間を設定しフィードバックを行います。位置づけ・水準 CE2254				
達成目標	目標は ①様々な楽曲の学習を通して、曲の構成や様式、演奏法を理解できている。 ②ピアノの基本的な演奏技術が身についている。 ③自発的で豊かな演奏表現ができる。 ④幼児曲の弾き歌いが15曲以上できる。 単位認定の最低基準:④は必須である。①から③までの内容の7割は理解し、授業や演奏発表で確認できること。 ディプロマ・ポリシーとの関係:「保育の方法と技術力」「表現とコミュニケーション能力」「問題解決力」「豊かな人間性と規範意識」「音楽表現能力」				
受講資格	幼児教育学科チャイルド・ミュージッ	クコース2年	成績評価 方法	実技試験90%、平常点(ラーニングポートフォリオ含む)10%	
教科書	進度に応じてその都度指示。 津布楽杏里・桑原章寧 共著『保育・教育の現場で使える!弾き歌いピアノ曲集』ドレミ楽譜出版社 全国大学音楽教育学会 編著『明日へ歌い継ぐ 日本の子どもの歌ー唱歌童謡140年の歩み』音楽之友社				
参考書	進度に合わせて適宜楽譜を紹介する。		<u>-</u>	·	
学生への要望	実技科目のため積極的な練習の積み重	ねが重要です。授業で	での課題を次の授業まで	でに出来るよう、よく考えながら根気強く取り組みましょう。	
オフィスタイム	火曜日   限 金曜日   限 場所:芸術	館 3 F No. 1 幼児教育	育学研究室		

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
	基礎技術の学習1	春休み中の課題の確認。練習曲を用いて基礎的な技術の習	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向	120
		得を図る。正確な読譜力を身につける。	上に向け練習を行う。授業での課題を、次	
			週までにできるようにする。事前事後学習	
1			の目安時間は最低必要な時間である。各自	
			授業に対応できるよう準備が必要である。	
	基礎技術の学習 2	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向	120
		を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。ロマン派などの作	上に向け練習を行う。授業での課題を次週	
2		品の学習。幼児曲の伴奏についての学習。正確な読譜力を	までにできるようにする。	
		身につける。		
	基礎技術の学習3	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向	120
		を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。ロマン派などの作	上に向け練習を行う。授業での課題を次週	
3		品の学習。幼児曲の伴奏についての学習。正確な読譜力を	までにできるようにする。	
		身につける。		
	基礎技術の学習 4	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向	120
_		を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。ロマン派などの作	上を目指し練習を行う。授業での課題を次	
4		品の学習。幼児曲の伴奏についての学習。正確な読譜力を	週までにできるようにする。	
		身につける。		
	基礎技術の学習 5	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向	120
-		を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。ロマン派などの作	上を目指し練習を行う。授業での課題を次	
5		品の学習。幼児曲の伴奏についての学習。正確な読譜力を	週までにできるようにする。	
		身につける。		
	基礎技術の学習 6	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向	120
6		を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。ロマン派などの作	上を目指し練習を行う。授業での課題を次	
6		品の学習。幼児曲の伴奏についての学習。試験曲の選定。	週までにできるようにする。	
		正確な読譜を行う。		
	基礎技術の学習 7	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向	120
7		を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。幼児曲の伴奏につ	上を目指し練習を行う。授業での課題を次	
7		いての学習。試験曲の正確な読譜を行う。	週までにできるようにする。	
	基礎技術の学習8	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。期末試験曲に	基礎的な技術と表現力の向上を目指し練習	120
8		ついて楽曲分析と演奏法の学習。	を行う。授業での課題を次週までにできる	
			ようにする。	

		-授業内容とスケジュール-		
回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
	演奏表現の学習 1	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品		120
9		を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲の学習。楽	を行う。授業での課題を次週までにできる	
3		曲への理解を深め演奏表現に繋げる。	ようにする。	
	演奏表現の学習 2	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品	試験に向け確実性のある技術と表現力の向	120
10		を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲の学習。ペ	上を目指し練習を行う。授業での課題を次	
10		ダリングと演奏表現の工夫について。	週までにできるようにする。	
	演奏表現の学習3	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品	試験に向け確実性のある技術と表現力の向	120
11		を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲の学習。演	上を目指し練習を行う。授業での課題を次	
		奏表現を深める。	週までにできるようにする。	
	演奏表現の学習 4	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品	試験に向け確実性のある技術と表現力の向	120
12		を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲の学習。演	上を目指し練習を行う。授業での課題を次	
		奏表現を深める。	週までにできるようにする。	
	演奏表現の学習 5	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品	試験に向け確実性のある技術と表現力の向	120
13		を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲の学習。自	上を目指し練習を行う。授業での課題を次	
		発的な演奏表現を目指す。	週までにできるようにする。	
	演奏表現の学習 6	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品	試験に向け確実性のある技術と表現力の向	120
14		を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲の学習。自	上を目指し練習を行う。授業での課題を次	
		発的な演奏表現を目指す。	週までにできるようにする。	
	演奏表現の学習7とまとめ	試験に向けステージを想定した発表を行い、ディスカッ	試験に向け確実性のある技術と表現力の向	120
15		ションを通じて自己の演奏を振り返り、更なる演奏表現の	上を目指し練習を行う。授業での課題を試	
		向上を目指す。	験までにできるようにする。	
	演奏技術の学習 1	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術と表	120
		を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。古典派、ロマン	現力の向上を目指し練習を行う。授業での	
16		派、近現代などの作品の学習。アンサンブル曲の学習。正	課題を次週までにできるようにする。	
		確な読譜力を身につける。		
	演奏技術の学習 2	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術と表	120
		を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。古典派、ロマン	現力の向上を目指し練習を行う。授業での	
17		派、近現代などの作品の学習。アンサンブル曲の学習。正	課題を次週までにできるようにする。	
		確な読譜力を身につける。		
	演奏技術と表現の学習 1	古典派、ロマン派、近現代などの作品の学習。アンサンブ	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術と表	120
	, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	ル曲の学習。アンサンブルでのより良い表現を目指す。	現力の向上を目指し練習を行う。授業での	
18			課題を次週までにできるようにする。	
	演奏技術と表現の学習 2	古典派、ロマン派、近現代などの作品の学習。アンサンブ	次の授業に向けた譜読みをしっかり行い、	120
19		ル曲の学習。アンサンブルでのより良い表現を目指す。	基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。	
	演奏技術の学習1	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品	: : : : : : : : : : : : : : : : : : :	120
		を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。古典派、ロマン	上を目指し練習を行う。授業での課題を次	
20		派、近現代などの作品の学習。正確な読譜力を身につけ	週までにできるようにする。	
		る。		
	演奏技術の学習 2	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品	: :: :: :: :: :: :: :: :: :: :: :: :: :	120
		を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。古典派、ロマン	上を目指し練習を行う。授業での課題を次	120
21		派、近現代などの作品の学習。正確な読譜力を身につけ	週までにできるようにする。	
		る。		
	演奏技術の学習3	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品	譜読みをしっかり行い。基礎的な技術の向	120
	WYNU WIE O	を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。古典派、ロマン	上を目指し練習を行う。授業での課題を、	120
22		派、近現代などの作品の学習。試験曲の選定。正確な読譜		
		力を身につける。		
	演奏技術の学習 4	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品	謹読みをしっかり行い   其礎的か技術の点	120
23	ススJA 100 ヤチ目 **	株自曲を用いて基礎的な技術の自得を図る。バロックトーー を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲の学習。正		120
25		確な読譜力を身につける。	までにできるようにする。	
	演奏技術の学習 5	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品		120
24	ススス門ツ丁目り	を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲の学習。正		120
24		確な読譜力を身につける。	までにできるようにする。	
	演奏表現の学習1	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品	-	120
25	宍天仪切り于白↓	練育曲を用いて基礎的な技術の首停を図る。ハロック作品 を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲の学習。楽		120
20		曲分析と演奏法の学習。	までにできるようにする。	
	<u> </u>	// - // - // - // - // - // - //		

	項目	授業内容	自学自習	目安時間
	演奏表現の学習 2	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。パロック作品 を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲の学習。楽	楽曲への理解を深め、基礎的な技術と表現	120
26		曲分析と演奏法の学習。	題を次週までにできるようにする。	
27	演奏表現の学習 3	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。パロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲の学習。楽曲への理解を深め演奏表現に繋げる。		120
28	演奏表現の学習 4	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。パロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲の学習。自発的な演奏表現を目指す。		120
29	演奏表現の学習 5	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。パロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲の学習。自発的な演奏表現を目指す。		120
30	演奏表現の学習6とまとめ	試験に向けステージを想定した発表を行い、ディスカッションを通じて自己の演奏を振り返り、更なる演奏表現の向上を目指す。	試験に向け確実性のある演奏技術と表現力 の更なる向上を目指し練習を行う。授業で の課題を試験までにできるようにする。	120

令和5年度					
科目名	ピアノⅡ(副科)	対象			
担当教員	深谷 悠里絵	単位数	短期大学部 幼児教育	学科 2年 1単位 選択	
開講期	通年	必選			
授業概要	ピアノ演奏の基礎的技術の習得と豊かな表現力を体得することを目的とする。練習曲やバロックから近現代までの様々な曲を通して音楽理論や作品の構成や様式を理解し、表現するための技術や演奏法を学ぶ。加えて幼児曲の弾き歌いの伴奏法を学び、保育者としての実践力を養う。授業は個々のレベルに合わせて展開し、アンサンブルやディスカッションを通して問題解決能力やコミュニケーション能力を高め、自発的で豊かな演奏表現ができることを目指す。各試験後、個々に時間を設定しフィードバックを行います。位置づけ・水準 CE2255				
達成目標	目標は ①様々な楽曲の学習を通して、曲の構成や様式、演奏法を理解できている。 ②ピアノの基本的な演奏技術が身についている。 ③自発的で豊かな演奏表現ができる。 ④幼児曲の弾き歌いが15曲以上できる。 単位認定の最低基準:④は必須である。①から③までの内容の7割は理解し、授業や演奏発表で確認できること。 ディプロマ・ポリシーとの関係:「保育の方法と技術力」「表現とコミュニケーション能力」「問題解決力」「豊かな人間性と規範意識」「音楽表現能力」				
受講資格	幼児教育学科チャイルド・ミュージッ	クコース 2 年	成績評価 方法	実技試験90%、平常点(ラーニングポートフォリオ含む)10%	
教科書	進度に応じてその都度指示。 吉野幸男他 執筆・共著『幼稚園教諭・小学校教諭・保育士養成課程のためのピアノ・テキスト』ドレミ楽譜出版社 津布楽杏里・桑原章寧 共著『保育・教育の現場で使える!弾き歌いピアノ曲集』ドレミ楽譜出版社 全国大学音楽教育学会 編著『明日へ歌い継ぐ 日本の子どもの歌ー唱歌童謡140年の歩み』音楽之友社				
参考書	進度に合わせて適宜楽譜を紹介する。				
学生への要望	実技科目のため積極的な練習の積み重	ねが重要です。授業で	での課題を次の授業ま	でに出来るよう、よく考えながら根気強く取り組みましょう。	
オフィスタイム	火曜日Ⅰ限、金曜日Ⅱ限 場所:芸	術館 3 F No. 1 幼児	教育学研究室		

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
	基礎技術の学習 1	春休み中の課題の確認。練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向 上に向け練習を行う。授業での課題を、次 週までにできるようにする。事前事後学習	120
1			の目安時間は最低必要な時間である。各自授業に対応できるよう準備が必要である。	
2	基礎技術の学習 2	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。進度に応じた 作品の学習。幼児曲の伴奏についての学習。正確な読譜力 を身につける。		120
3	基礎技術の学習3	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。進度に応じた 作品の学習。幼児曲の伴奏についての学習。正確な読譜力 と演奏技術を身につける。		120
4	基礎技術の学習4	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。進度に応じた 作品の学習。幼児曲の伴奏についての学習。正確な読譜力 と演奏技術を身につける。		120
5	基礎技術の学習 5	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。進度に応じた 作品の学習。幼児曲の伴奏についての学習。正確な読譜力 と演奏技術を身につける。		120
6	基礎技術の学習 6	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。進度に応じた 作品の学習。幼児曲の伴奏についての学習。正確な読譜力 と演奏技術を身につける。		120
7	基礎技術の学習7	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。進度に応じた 作品の学習。幼児曲の伴奏についての学習。正確な読譜力 と演奏技術を身につける。		120
8	基礎技術の学習8	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。進度に応じた 作品の学習。幼児曲の伴奏についての学習。正確な読譜力 と演奏技術を身につける。		120
9	演奏表現の学習 1	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。試験曲の学習。正確な読譜力を身につける。	基礎的な技術と表現力の向上を目指し練習 を行う。授業での課題を次週までにできる ようにする。	120
10	演奏表現の学習 2	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。試験曲の学習。正確な読譜力を身につける。	試験に向け確実性のある技術と表現力の向 上を目指し練習を行う。授業での課題を次 週までにできるようにする。	120

		-授業内容とスケジュール-	+ W + DD	
回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
11	演奏表現の学習3	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。試験曲の学習。楽曲分析と演奏法の工夫。	試験に向け確実性のある技術と表現力の向 上を目指し練習を行う。授業での課題を次	120
11		目。未四ガ州と原癸仏の工人。	週までにできるようにする。	
	演奏表現の学習4	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。試験曲の学		120
1.0	演奏表現の子首 4	練育曲を用いて基礎的な技術の首件を図る。試験曲の字 習。演奏表現を深める。	試験に向け確実性のある技術と表現力の向 上を目指し練習を行う。授業での課題を次	120
12		自。	週までにできるようにする。	
	ウェ キロの	体羽井ナロレマ甘林竹も井体の羽組ナ阿フ 三半野井の芦		120
10	演奏表現の学習 5	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。試験曲の学習。自発的な演奏表現を目指す。	試験に向け確実性のある技術と表現力の向 上を目指し練習を行う。授業での課題を次	120
13		日。日光印な原英及死を口頂す。	週までにできるようにする。	
	ウェ キロ の光羽 C	<u> </u>	-	100
1.4	演奏表現の学習 6	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。試験曲の学 習。自発的な演奏表現を目指す。	試験に向け確実性のある技術と表現力の向 上を目指し練習を行う。授業での課題を次	120
14		自。日光的な演奏表現を目指す。	週までにできるようにする。	
	突奏 末田の 労羽 フレナレム	   対験に向けっこ ぎも相索しも改まも伝い、がま プラの	-	120
1.5	演奏表現の学習7とまとめ	試験に向けステージを想定した発表を行い、グループでの ディスカッションを通じて自己の演奏を振り返り、更なる	上を目指し練習を行う。授業での課題を試	120
15		演奏表現の向上を目指す。	験までにできるようにする。	
	ウェナ45 c 光辺 1			100
	演奏技術の学習 1	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。進度に応じた作品の学習。簡単なアンサンブル曲の学習。正確な読譜力		120
16		を身につける。	課題を次週までにできるようにする。	
		E316 211 30		
		体羽井ナロルマサ球仏と井体の羽得ナココードウにナン	= 並=± 1. ≠ 1	400
	演奏技術の学習 2	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。進度に応じた		120
17		作品の学習。簡単なアンサンブル曲の学習。正確な読譜力を息につける		
		を身につける。	課題を次週までにできるようにする。	
	\h_+14/15   _+ = - \lore - \lore - \lore -	4575 II. 4 CD 4575 IV. I LL/8 - 787 CD 777 CD.	5¥54 9 4 1 1 1 1 / - 1 4541 / 1 1 1 / - 1	
	演奏技術と表現の学習 1	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。進度に応じた		120
18		作品の学習。簡単なアンサンブル曲の学習。正確な読譜力		
		を身につける。	課題を次週までにできるようにする。	
	演奏技術と表現の学習 2	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。進度に応じた		120
19		作品の学習。簡単なアンサンブル曲の学習。正確な読譜力		
		を身につける。	課題を次週までにできるようにする。	
	演奏技術の学習 1	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。進度に応じた		120
20		作品の学習。正確な読譜力を身につける。	上を目指し練習を行う。授業での課題を次	
			週までにできるようにする。	
	演奏技術の学習 2	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。進度に応じた		120
21		作品の学習。正確な読譜力を身につける。	上を目指し練習を行う。授業での課題を次	
	) + + 1+// W == 0		週までにできるようにする。	100
	演奏技術の学習 3	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。進度に応じた		120
22		作品の学習。試験曲の選定。正確な読譜力を身につける。	上を目指し練習を行う。授業での課題を、	
			次週までにできるようにする。	
	演奏技術の学習 4	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。試験曲の学	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向 トに向け特別を行る。 授業での課題を次別	120
23		習。正確な読譜力を身につける。	上に向け練習を行う。授業での課題を次週 までにできるようにする。	
	7-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1	(#7711 + 17),		<u> </u>
	演奏技術の学習 5	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。試験曲の学	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向 トに向け体羽を行る。 概義の知題を次果	120
24		習。正確な読譜力を身につける。	上に向け練習を行う。授業での課題を次週 までにできるようにする。	
	₩±±п«₩201	(#7711 + 17),		<u> </u>
0.5	演奏表現の学習 1	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。試験曲の学	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向 トに向け特別を行る。 授業者の課題を次別	120
25		習。楽曲分析と演奏法の学習。	上に向け練習を行う。授業での課題を次週 までにできるようにする。	
	冷末±田の坐勿○	体羽井ナロルマサ球仏と44年の羽根ナロコ ニュロハルーツ		4.00
	演奏表現の学習 2	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。試験曲の学習。楽曲分析と演奏法の学習。	楽曲への理解を深め、基礎的な技術と表現	120
26		首。栄曲力例と演奏法の子首。	力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	
			AS CYCLES CICCES A / ICY DO	
	7±±10 0 20 0	(#7711 + 17),	ф. Д. Ф. П. Б. Т. Б. Т.	<b>4</b>
	演奏表現の学習 3	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。試験曲の学	楽曲への理解を深め、演奏技術と表現力の	120
27		習。楽曲への理解を深め演奏表現に繋げる。	向上を目指し練習を行う。授業での課題を	
			次週までにできるようにする。	
	演奏表現の学習 4	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。試験曲の学	楽曲への理解を深め、演奏技術と表現力の	120
28		習。自発的な演奏表現を目指す。	向上を目指し練習を行う。授業での課題を	
			次週までにできるようにする。	

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
29	演奏表現の学習 5	習。自発的な演奏表現を目指す。	楽曲への理解を深め、演奏技術と表現力の 更なる向上を目指し練習を行う。授業での 課題を次週までにできるようにする。	120
30	演奏表現の学習6とまとめ	試験に向けステージを想定した発表を行い、グループでの ディスカッションを通じて自己の演奏を振り返り、更なる 演奏表現の向上を目指す。		120

令和5年度					
科目名	ピアノⅡ(副科)	対象			
担当教員	横溝 聡子	単位数	短期大学部 幼児教育	学科 2年1単位 選択	
開講期	通年	必選			
授業概要	ピアノ演奏の基礎的技術の習得と豊かな表現力を体得することを目的とする。練習曲やバロックから近現代までの様々な曲を通して音楽理論や作品の構成や様式を理解し、表現するための技術や演奏法を学ぶ。加えて幼児曲の弾き歌いの伴奏法を学び、保育者としての実践力を養う。授業は個々のレベルに合わせて展開し、アンサンブルやディスカッションを通して問題解決能力やコミュニケーション能力を高め、自発的で豊かな演奏表現ができることを目指す。各試験後、個々に時間を設定しフィードバックを行います。位置づけ・水準 CE2255				
達成目標	目標は ①様々な楽曲の学習を通して、曲の構成や様式、演奏法を理解できている。 ②ピアノの基本的な演奏技術が身についている。 ③自発的で豊かな演奏表現ができる。 ④幼児曲の弾き歌いが15曲以上できる。 単位認定の最低基準:④は必須である。①から③までの内容の7割は理解し、授業や演奏発表で確認できること。 ディプロマ・ポリシーとの関係:「保育の方法と技術力」「表現とコミュニケーション能力」「問題解決力」「豊かな人間性と規範意識」「音楽表現能力」				
受講資格	幼児教育学科チャイルド・ミュージッ	クコース 2 年	成績評価 方法	実技試験90%、平常点(ラーニングポートフォリオ含む)10%	
教科書	進度に応じてその都度指示。 吉野幸男他 執筆・共著『幼稚園教諭・小学校教諭・保育士養成課程のためのピアノ・テキスト』ドレミ楽譜出版社 津布楽杏里・桑原章寧 共著『保育・教育の現場で使える!弾き歌いピアノ曲集』ドレミ楽譜出版社 全国大学音楽教育学会 編著『明日へ歌い継ぐ 日本の子どもの歌ー唱歌童謡140年の歩み』音楽之友社				
参考書	進度に合わせて適宜楽譜を紹介する。				
学生への要望	実技科目のため積極的な練習の積み重	ねが重要です。授業で	での課題を次の授業ま	でに出来るよう、よく考えながら根気強く取り組みましょう。	
オフィスタイム	火曜日   限、金曜日   限 場所:芸	術館 3 F No. 1 幼児	教育学研究室		

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
	基礎技術の学習 1	春休み中の課題の確認。練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向 上に向け練習を行う。授業での課題を、次 週までにできるようにする。事前事後学習	120
1			の目安時間は最低必要な時間である。各自授業に対応できるよう準備が必要である。	
2	基礎技術の学習 2	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。進度に応じた 作品の学習。幼児曲の伴奏についての学習。正確な読譜力 を身につける。		120
3	基礎技術の学習3	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。進度に応じた 作品の学習。幼児曲の伴奏についての学習。正確な読譜力 と演奏技術を身につける。		120
4	基礎技術の学習4	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。進度に応じた 作品の学習。幼児曲の伴奏についての学習。正確な読譜力 と演奏技術を身につける。		120
5	基礎技術の学習 5	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。進度に応じた 作品の学習。幼児曲の伴奏についての学習。正確な読譜力 と演奏技術を身につける。		120
6	基礎技術の学習 6	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。進度に応じた 作品の学習。幼児曲の伴奏についての学習。正確な読譜力 と演奏技術を身につける。		120
7	基礎技術の学習7	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。進度に応じた 作品の学習。幼児曲の伴奏についての学習。正確な読譜力 と演奏技術を身につける。		120
8	基礎技術の学習8	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。進度に応じた 作品の学習。幼児曲の伴奏についての学習。正確な読譜力 と演奏技術を身につける。		120
9	演奏表現の学習 1	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。試験曲の学習。正確な読譜力を身につける。	基礎的な技術と表現力の向上を目指し練習 を行う。授業での課題を次週までにできる ようにする。	120
10	演奏表現の学習 2	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。試験曲の学習。正確な読譜力を身につける。	試験に向け確実性のある技術と表現力の向 上を目指し練習を行う。授業での課題を次 週までにできるようにする。	120

		-授業内容とスケジュール-	+ W + DD	
回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
11	演奏表現の学習3	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。試験曲の学習。楽曲分析と演奏法の工夫。	試験に向け確実性のある技術と表現力の向 上を目指し練習を行う。授業での課題を次	120
11		目。未四ガ州と原癸仏の工人。	週までにできるようにする。	
	演奏表現の学習4	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。試験曲の学		120
1.0	演奏表現の子首 4	練育曲を用いて基礎的な技術の首件を図る。試験曲の字 習。演奏表現を深める。	試験に向け確実性のある技術と表現力の向 上を目指し練習を行う。授業での課題を次	120
12		自。	週までにできるようにする。	
	ウェ キロの	体羽井ナロレマ甘林竹も井体の羽組ナ阿フ 三半野井の芦		120
10	演奏表現の学習 5	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。試験曲の学習。自発的な演奏表現を目指す。	試験に向け確実性のある技術と表現力の向 上を目指し練習を行う。授業での課題を次	120
13		日。日光印な原英及死を口頂す。	週までにできるようにする。	
	ウェ キロ の光羽 C	<u> </u>	-	100
1.4	演奏表現の学習 6	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。試験曲の学 習。自発的な演奏表現を目指す。	試験に向け確実性のある技術と表現力の向 上を目指し練習を行う。授業での課題を次	120
14		自。日光的な演奏表現を目指す。	週までにできるようにする。	
	突奏 末田の 労羽 フレナレム	   対験に向けっこ ぎも相索しも改まも伝い、がま プラの	-	120
1.5	演奏表現の学習7とまとめ	試験に向けステージを想定した発表を行い、グループでの ディスカッションを通じて自己の演奏を振り返り、更なる	上を目指し練習を行う。授業での課題を試	120
15		演奏表現の向上を目指す。	験までにできるようにする。	
	ウェナ45 c 光辺 1			100
	演奏技術の学習 1	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。進度に応じた作品の学習。簡単なアンサンブル曲の学習。正確な読譜力		120
16		を身につける。	課題を次週までにできるようにする。	
		E316 211 30		
		体羽井ナロルマサ球仏と井体の羽得ナココードウにナン	= 並=± 1. ≠ 1	400
	演奏技術の学習 2	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。進度に応じた作品の学習、簡単なアンサンブル中の学習、正確な詩語力		120
17		作品の学習。簡単なアンサンブル曲の学習。正確な読譜力を息につける		
		を身につける。	課題を次週までにできるようにする。	
	\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\	4575 II. 4 CD 4475 IV. I L/N - 787 CD 777 CD.	5¥54 9 4 1 1 1 1 / - 1 4541 / 1 1 1 / - 1	
	演奏技術と表現の学習 1	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。進度に応じた		120
18		作品の学習。簡単なアンサンブル曲の学習。正確な読譜力		
		を身につける。	課題を次週までにできるようにする。	
	演奏技術と表現の学習 2	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。進度に応じた		120
19		作品の学習。簡単なアンサンブル曲の学習。正確な読譜力		
		を身につける。	課題を次週までにできるようにする。	
	演奏技術の学習 1	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。進度に応じた		120
20		作品の学習。正確な読譜力を身につける。	上を目指し練習を行う。授業での課題を次	
			週までにできるようにする。	
	演奏技術の学習 2	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。進度に応じた		120
21		作品の学習。正確な読譜力を身につける。	上を目指し練習を行う。授業での課題を次	
	) + + 1+// W == 0		週までにできるようにする。	100
	演奏技術の学習 3	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。進度に応じた		120
22		作品の学習。試験曲の選定。正確な読譜力を身につける。	上を目指し練習を行う。授業での課題を、	
			次週までにできるようにする。	
	演奏技術の学習 4	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。試験曲の学	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向 トに向け特別を行る。 授業での課題を次別	120
23		習。正確な読譜力を身につける。	上に向け練習を行う。授業での課題を次週 までにできるようにする。	
	7-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1	(#7711 + 17),		<u> </u>
	演奏技術の学習 5	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。試験曲の学	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向 トに向け体羽を行る。 概義の知題を次果	120
24		習。正確な読譜力を身につける。	上に向け練習を行う。授業での課題を次週 までにできるようにする。	
	₩±±п«₩201	(#7711 + 17),		<u> </u>
0.5	演奏表現の学習 1	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。試験曲の学	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向 トに向け特別を行る。 授業者の課題を次別	120
25		習。楽曲分析と演奏法の学習。	上に向け練習を行う。授業での課題を次週 までにできるようにする。	
	冷末±田の坐勿○	体羽井ナロルマサ球仏と44年の羽根ナロコ ニュロハルーツ		4.00
	演奏表現の学習 2	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。試験曲の学習。楽曲分析と演奏法の学習。	楽曲への理解を深め、基礎的な技術と表現	120
26		首。栄曲力例と演奏法の子首。	力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	
			AS CYCLES CICCES A / ICY DO	
	7±±10 0 20 0	(#7711 + 17),	ф. Д. Ф. П. Б. Т. Б. Т.	
	演奏表現の学習 3	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。試験曲の学	楽曲への理解を深め、演奏技術と表現力の	120
27		習。楽曲への理解を深め演奏表現に繋げる。	向上を目指し練習を行う。授業での課題を	
			次週までにできるようにする。	
	演奏表現の学習 4	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。試験曲の学	楽曲への理解を深め、演奏技術と表現力の	120
28		習。自発的な演奏表現を目指す。	向上を目指し練習を行う。授業での課題を	
			次週までにできるようにする。	

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
29	演奏表現の学習 5	習。自発的な演奏表現を目指す。	楽曲への理解を深め、演奏技術と表現力の 更なる向上を目指し練習を行う。授業での 課題を次週までにできるようにする。	120
30	演奏表現の学習6とまとめ	試験に向けステージを想定した発表を行い、グループでの ディスカッションを通じて自己の演奏を振り返り、更なる 演奏表現の向上を目指す。		120

令和5年度					
科目名	ボーカルI(主科)	対象			
担当教員	磯部 哲夫	単位数	短期大学部 幼児教育	育学科 1年 2単位 選択	
開講期	通年	必選			
	[授業の目的・ねらい]				
	7117 415 - 2 1 707 74 277 17 2 2	(	- 3( = - 2( ) 0, 1 - 3) -	正しく行うことができ、また保育者の音声障がい等を回避するという観	
		腹式呼吸を正確に身に	こつけ基本的な発声を	修得し、保育現場における様々な楽曲に対応できる歌唱表現テクニック	
	の修得をねらいとする。				
	[授業全体の内容の概要]				
授業概要	テノール歌手としてオペラやリサイタ	ル等の様々な舞台出演	員の経験を活かし、個	々の歌唱能力を伸ばすため、個人レッスン形式の授業で歌唱表現につい	
	て指導する。まず基本的な発声法を学	び、実際に歌唱楽曲を	E用い徐々に楽曲の難	易度を上げながら歌唱のポイントを解説する。また各個人の音楽表現に	
	ついてディスカッションし表現技術を	身につけていく(アク	<b>ァティブラーニング)</b>	。毎回の授業において目標管理カードを記入し、ラーニング・ポート	
	フォリオとして学習成果を蓄積する。第10目の授業において小テストを実施し、テスト終了後コメントによるフィードバック、期末実技試験においては				
	ルーブリックによるフィードバックを	行う。位置づけ・水準	≝ CE2163		
	①腹式呼吸が正確に習得できているこ	とが確認できる。			
	②各原語が正しく発音できる。				
達成目標	③基本的な発声法を習得し、それを基に楽曲のフレージング処理ができる。 単位認定の最低基準は①~③の内容の7割を理解し、実技試験において歌				
	唱表現が確認できること。ディプロマ・ポリシーとの関係は、「保育の方法と技術力」「表現力とコミュニケーション能力」「問題解決力」「豊かな人				
	間性と規範意識」「音楽表現能力」で	ある。			
	短期大学部 幼児教育学科チャイルド	・ミュージックコー	成績評価	ラーニング・ポートフォリオ10%、実技試験90%、実技試験はルー	
受講資格	ス 1年		方法	ブリック評価で評価を行う。	
教科書	コンコーネ50番中声用(全音楽楽譜出版)、イタリア歌曲集1中声用(全音楽楽譜出版)、童謡曲集、ミュージカル曲集。				
参考書	発声や歌唱に関する書物全般				
学生への要望	発声や歌唱法は理論を基に身体で覚えていくものである。授業での学びを振り返り主体的に予習復習に励むこと。				
オフィスタイム	火曜日Ⅱ限、水曜Ⅳ限 841研究室				

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	授業計画、授業内容、評価内容、授業への心構えについて 説明する。	本学科のシラパスを見て、授業内容、評価 内容、スケジュールを把握しておくこと。	120
2	コールユーブンゲン 1	コールユーブンゲンの階名唱を行う。腹式呼吸、歌唱姿勢 を理解する。	腹式呼吸、歌唱姿勢のチェックを毎日行 う。コールユーブンゲンで階名唱の練習を する。	120
3	コールユーブンゲン 2	コールユーブンゲンの階名唱を行う。腹式呼吸、歌唱姿勢を理解する。	腹式呼吸、歌唱姿勢のチェックを毎日行 う。コールユーブンゲンで階名唱の練習を する。	120
4	発声法・歌唱法 1	コンコーネ50番No.1を歌唱しながら、初期段階の腹式呼吸および順次音程の歌唱法を理解する。	腹式呼吸の習得に努め、腹式呼吸を使いながらコンコーネ50番No.1・2・3の譜読み、歌唱練習をする。	120
5	発声法・歌唱法2	腹式呼吸を活かしながらコンコーネ50番No.2・3の歌唱を行う。3度および4度の跳躍音程の歌唱法を理解する。	腹式呼吸を活かしながら、コンコーネ50番No.4、5の譜読み、歌唱練習をする。	120
6	発声法・歌唱法3	コンコーネ50番No.4、5を歌唱しながら、5度以上の跳 躍音程およびレガートの歌唱法を理解する。	跳躍音程の歌唱法を意識して、コンコーネ 5 0番No.6、7の譜読み、歌唱練習をす る。	120
7	発声法・歌唱法4	コンコーネ50番No.6、7を歌唱しながら、オクターブの 跳躍音程およびロングトーンの歌唱法を理解する。	跳躍音程の歌唱法を意識して、コンコーネ 5 0番の既習局の歌唱練習、イタリア歌曲 より「Caro mio ben」の譜読みをする。	120
8	イタリア歌曲1	イタリア語の発音について解説し、イタリア歌曲より 「Caro mio ben」の歌唱を行う。	「Nel cor piu non mi sento」の譜読み、歌唱練習をする。	120
9	イタリア歌曲 2	イタリア歌曲より「Nel cor piu non mi sento」の歌唱を行い、8分の6拍子の歌唱法を理解する。	正確なイタリア語の発音で、イタリア歌曲 より「Sebben crudele」の歌唱練習をす る。	120
10	イタリア歌曲 3	イタリア歌曲より「Sebben crudele」の歌唱を行い、フレージングや歌唱表現のポイントを解説する。	「Lascia ch'io pianga」の譜読み、歌唱練 習をする。	120
11	イタリア歌曲 4	イタリア歌曲より「Lascia ch'io pianga」の歌唱を行い、 3拍子の歌唱ポイントを解説する。	既習曲の歌唱練習をする。	120

		-授業内容とスケジュール-	+ W + 777	
回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
12	イタリア歌曲 5	イタリア歌曲の既習曲の歌唱を行い、試験曲を決める。	正確なイタリア語の発音で、既習曲の歌唱 練習をする。	120
	I期のまとめ1	イタリア歌曲より試験曲に決めた楽曲について、発声、姿		120
13		勢、歌唱フレージングを理解し、音楽表現についてディス カッションを行う。	犬のておく。	
	I期のまとめ2	イタリア歌曲より試験曲に決めた楽曲について、伴奏者と	試験曲の歌唱練習を行う。また、伴奏合わ	120
14		演奏を行い、音楽表現を深めていく。音楽表現について	せを行い、アンサンブル及び音楽表現を深	
		ディスカッションを行う。	めていくこと。	
	I期のまとめ3	イタリア歌曲より選択した楽曲を伴奏者と演奏を行い、I	試験曲の歌唱練習を行う。また伴奏合わせ	120
15		期実技試験へ向けて音楽表現を完成させる。音楽表現につ	を行い、アンサンブル及び音楽表現を深め	
		いてディスカッションを行う。	ていくこと。	
16	様々な発声法 1	自分の換声点を見つけ、ヘッド・チェストボイスを使い分	地声の多い楽曲を、チェストボイスで練習	120
10		け、ミドルボイスについて解説する。	する。	
	様々な発声法 2	地声声域の多い楽曲を選択し、チェストボイスについて解	自分の換声点を見つけ、ヘッド・チェスト	120
17		説し、地声で歌唱を行う。	ボイス、ミドルボイスを意識しながら、既	
			習曲で歌唱練習を行う。	
	様々な発声法 3	裏声声域の多い楽曲を選択し、ミドルボイス、ヘッドボイ	チェストボイスの発声練習、音程の低い楽	120
18		スについて解説し、裏声で歌唱を行う。	曲を選択し、チェストボイスで歌唱練習を	
			行う。	
	様々な歌唱曲の歌い方1	童謡を取り上げヘッド、ミドル、チェストボイスを使い分	ヘッドボイスの発声練習、音程の高い楽曲	120
10		けながら歌唱するポイントを解説する。	を選択し、ヘッドボイスで歌唱練習を行	
19			う。また、童謡集の中から選択した楽曲を	
			の歌唱練習を行う。	
	様々な歌唱曲の歌い方 2	童謡を取り上げヘッド、ミドル、チェストボイスを使い分	童謡集・ポップスの中から選択した楽曲を	120
		けながら歌唱するポイントを解説し、それを活かしながら	ヘッド、チェストボイスを使いながら歌唱	
20		歌唱を行う。音楽表現についてディスカッションを行う。	練習する。またミドルボイスが使えれば、	
			ミドルボイスも交えて練習する。	
	様々な歌唱曲の歌い方3	ポップス・ミュージカルナンバーを取り上げヘッド、ミド	ポップスの中から選択した楽曲をヘッド、	120
		ル、チェストボイスを使い分けながら歌唱するポイントを	チェストボイスを使いながら歌唱練習す	
21		解説する。	る。またミドルボイスが使えれば、ミドル	
			ボイスも交えて練習する。	
	様々な歌唱曲の歌い方4	ポップス・ミュージカルナンバーをヘッド、ミドル、チェ	ポップスの中から選択した楽曲をヘッド、	120
		ストボイスを使い分けながら歌唱するポイントを解説し、	チェストボイスを使いながら歌唱練習す	
22		それを活かしながら歌唱を行う。音楽表現についてディス	る。またミドルボイスが使えれば、ミドル	
		カッションを行う。	ボイスも交えて練習する。	
	様々な歌唱曲の歌い方5	ポップス・ミュージカルナンバーをヘッド、ミドル、チェ	ポップスの中から選択した楽曲をヘッド、	120
00		ストボイスを使い分けながら歌唱するポイントを解説し、	チェストボイスを使いながら歌唱練習す	
23		それを活かしながら歌唱を行う。音楽表現についてディス	る。またミドルボイスが使えれば、ミドル	
		カッションを行う。	ボイスも交えて練習する。	
24	弾き歌い1	幼児歌唱曲にピアノ伴奏を付け、弾き歌いを行う。弾き歌	歌唱にピアノ伴奏を付けた弾き歌いの練習	120
24		いのポイントを理解する。	をする。	
	弾き歌い 2	幼児歌唱曲にピアノ伴奏を付け、弾き歌いを行う。、弾き	歌唱にピアノ伴奏を付けた弾き歌いの練習	120
25		歌いを行う。弾き歌いのポイントを理解する。	をする。	
	弾き歌い3	幼児歌唱曲にピアノ伴奏を付け、弾き歌いを行う。、弾き	歌唱にピアノ伴奏を付けた弾き歌いの練習	120
26		歌いを行う。弾き歌いのポイントを理解する。	をする。	
	弾き歌い4	幼児歌唱曲にピアノ伴奏を付け、弾き歌いを行う。、弾き	歌唱にピアノ伴奏を付けた弾き歌いの練習	120
27		歌いを行う。弾き歌いのポイントを理解する。	をする。	
	弾き歌い5	幼児歌唱曲にピアノ伴奏を付け、弾き歌いを行う。、弾き	歌唱にピアノ伴奏を付けた弾き歌いの練習	120
28		歌いを行う。弾き歌いのポイントを理解する。	をする。	
20	出ま動いて	選生動い。手軽中のユジノン・1 + TERAのトラ	⇒+ 医> 曲 小 体 3 3 ± . → フ	100
29	弾き歌い 6	弾き歌い試験曲のポイントを理解する。	試験曲の練習をする。	120
30	まとめ	期末試験に向け、Ⅱ期のまとめを行う。	期の振り返りを行い、期末試験の練習を  行う。	120
	<u> </u>		11 / 0	

节和9年及					
科目名	ボーカルI(副科)	対象			
担当教員	金子 堅治	単位数	短期大学部 幼児教育	学科 1年 1単位 選択	
開講期	通年	必選			
授業概要	[授業の目的・ねらい] 保育者が正しい発声法を身につけることは、保育現場において歌唱の表現活動が正しく行うことができ、また保育者の音声障がい等を回避するという観点からも重要なことである。本科目は基本的な発声を修得し、保育現場における様々な楽曲に対応できる歌唱表現の修得をねらいとする。 [授業全体の内容の概要] テノール歌手としてリサイタル等の舞台出演の経験を活かし、個々の歌唱能力を伸ばすため、個人レッスン形式の授業で歌唱表現について指導する。まず基本的な発声法を学び、実際に歌唱楽曲を用い徐々に楽曲の難易度を上げながら歌唱のポイントを解説する。また各個人の音楽表現についてディスカッションし表現技術を身につけていく(アクティブラーニング)。毎回の授業において目標管理カードを記入し、ラーニング・ポートフォリオとして学習成果を蓄積する。期末実技試験におてはループリックによるフィードバックを行う。位置づけ・水準 CE2157				
達成目標	[授業修了時の達成課題] ①腹式呼吸が正確に習得できていることが確認できる。 ②各原語が正しく発音できる。 ③基本的な発声法を習得し、それを基に楽曲のフレージング処理ができる。 単位認定の最低基準は①~③の内容の7割を理解し、実技試験において歌唱表現が確認できること。ディプロマ・ポリシーとの関係は、「保育の方法と技術力」「表現力とコミュニケーション能力」「問題解決力」「豊かな人間性と規範意識」「音楽表現能力」である。				
受講資格	幼児教育学科チャイルド・ミュージッ	,クコース1年	成績評価 方法	ラーニング・ポートフォリオ10%、実技試験90%、実技試験はループ リック評価で評価を行う。	
教科書	コールユーブンゲン、コンコーネ50番中声用(全音楽楽譜出版)、イタリア歌曲集1中声用(全音楽楽譜出版)、童謡曲集、ミュージカル曲集。				
参考書	発声や歌唱に関する書物全般				
学生への要望	発声や歌唱法は理論を基に身体で覚えていくものである。授業での学びを振り返り主体的に予習復習に励むこと。				
オフィスタイム	火曜日III~V限 幼児教育学科(チャイルド・ミュージックコース)研究室				

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	シラバスを用いたオリエンテーション。 授業計画、授業内容、評価内容、授業への心構えについて 説明する。	本学科のシラバスを見て、授業内容、評価内容、スケジュールを把握しておく。コンコーネ50番の楽譜の準備をする。	120
2	コールユーブンゲン 1	コールユーブンゲンの階名唱を行う。 歌唱姿勢・腹式呼吸を理解し、腹式呼吸を用いた基本的な 発声法を習得する。	コールユーブンゲンの階名唱をする。 腹式呼吸、歌唱姿勢のチェックを行う。	120
3	コールユーブンゲン 2	コールユーブンゲンの階名唱を行う。 歌唱姿勢・腹式呼吸を理解し、腹式呼吸を用いた基本的な 発声法を習得する。	コールユーブンゲンの階名唱をする。 腹式呼吸、歌唱姿勢のチェックを行う。	120
4	コールユーブンゲン3	コールユーブンゲンの階名唱を行う。 歌唱姿勢・腹式呼吸を理解し、腹式呼吸を用いた基本的な 発声法を習得する。	コールユーブンゲンの階名唱をする。 腹式呼吸、歌唱姿勢のチェックを行う。 コンコーネ50番No.1の譜読みをする。	120
5	コンコーネ50番1	腹式呼吸を活かしコンコーネ50番No.1を歌唱し、順次音程の歌唱法を理解する。	腹式呼吸、歌唱姿勢のチェックを行う。 コンコーネ50番No.1の歌唱練習をする。 コンコーネ50番No.2の譜読みをする。	120
6	コンコーネ50番 2	腹式呼吸を活かしコンコーネ50番No.2を歌唱し、ロングトーンの歌唱法を理解する。	腹式呼吸、歌唱姿勢のチェックを行う。 コンコーネ既習曲の歌唱練習をする。	120
7	コンコーネ50番3	腹式呼吸を活かし既習の歌唱法を理解する。 コンコーネ50番既習曲の歌唱を行う。	腹式呼吸、歌唱姿勢のチェックを行う。 コンコーネ50番既習曲の歌唱練習をする。 コンコーネ50番No.3の譜読みをする。	120

			<del></del>	
□	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	コンコーネ50番 4	腹式呼吸を活かしコンコーネ50番No.3を歌唱し、3度・ 4度の跳躍音程およびダイナミクスを意識した歌唱法を理解する。	腹式呼吸、歌唱姿勢のチェックを行う。 コンコーネ50番既習曲の歌唱練習をする。 No.4 の譜読みをする。	120
9	コンコーネ50番 5	腹式呼吸を活かしコンコーネ50番No.4を歌唱し、ドミナントの和声感、カンタービレを意識した歌唱法を理解する。 <b>図</b>	腹式呼吸、歌唱姿勢のチェックを行う。 コンコーネ既習曲の歌唱練習をする。	120
10	コンコーネ50番 6	腹式呼吸を活かし既習の歌唱法を理解する。 コンコーネ50番既習曲の歌唱を行う。	腹式呼吸、歌唱姿勢のチェックを行う。 コンコーネ既習曲の歌唱練習をする。 コンコーネ50番No.5の譜読みをする。	120
10				
11	コンコーネ50番7	腹式呼吸を活かしコンコーネ50番No.5を歌唱し、オクターヴの跳躍音程、フレージングを意識した歌唱法を理解する。	腹式呼吸、歌唱姿勢のチェックを行う。 コンコーネ既習曲の歌唱練習をする。	120
12	コンコーネ50番8	腹式呼吸を活かし、既習の歌唱法を理解する。 コンコーネ50番既習曲の歌唱を行う。	腹式呼吸、歌唱姿勢のチェックを行う。 コンコーネ既習曲の歌唱練習をする。 試験曲の候補を選曲する。	120
13	I期のまとめ1	コンコーネ50番の既習曲の歌唱を行い、試験曲を決める。 発声、姿勢、歌唱フレージングを理解し、音楽表現につい てディスカッションを行う。	既習の歌唱法を理解し、決めた試験曲の歌 唱練習を行う。また伴奏者を決めておく。	120
14	I期のまとめ2	コンコーネ50番より試験曲に決めた楽曲について、伴奏者 と演奏を行い、音楽表現を深めていく。音楽表現について ディスカッションを行う。		120
15	期のまとめ3	コンコーネ50番より選択した楽曲を伴奏者と演奏を行い、 I期実技試験へ向けて音楽表現を完成させる。音楽表現に ついてディスカッションを行う。	試験曲の歌唱練習を行う。また伴奏合わせを行い、アンサンブル及び音楽表現を完成させる。	120
16	イタリア歌曲 1	イタリア語の発音について解説し、イタリア古典歌曲より「Caro mio ben」の歌唱を行う。	正確なイタリア語の発音で、イタリア古典 歌曲より既習曲の歌唱練習をする。	120
17	イタリア歌曲 2	イタリア古典歌曲より「Caro mio ben」の歌唱を行い、フレージングや歌唱表現のポイントを理解する。☑	正確なイタリア語の発音で、イタリア古典歌曲より既習曲の歌唱練習をする。 「Star vicino」の譜読みをする。	120
18	イタリア歌曲3	イタリア古典歌曲より、既習曲ならびに「Star vicino」の 歌唱を行う。	正確なイタリア語の発音で、イタリア古典 歌曲より既習曲の歌唱練習をする。	120
19	イタリア歌曲 4	イタリア古典歌曲より、既習曲ならびに「Star vicino」の歌唱を行い、メリスマ唱法や3拍子の歌唱表現のポイントを解説する。	既習の歌唱表現のポイントを意識し、既習 曲の歌唱練習をする。「Nel cor piu non mi sento」の譜読みをする。	120
20	イタリア歌曲 5	イタリア古典歌曲より、既習曲ならびに「Nel cor piu non mi sento」の歌唱を行う。	正確なイタリア語の発音で、イタリア古典歌曲より既習曲の歌唱練習をする。	120
21	イタリア歌曲 6	イタリア古典歌曲より、既習曲ならびに「Nel cor piu non mi sento」の歌唱を行い、8分の6拍子の楽曲、イタリア語のディクションを伴う歌唱法を理解する。		120
22	弾き歌い 1	幼児歌唱曲にピアノ伴奏を付け、弾き歌いを行う。 弾き歌いのポイントを理解する。	歌唱にピアノ伴奏を付けた弾き歌いの練習をする。	120
23	弾き歌い 2	幼児歌唱曲にピアノ伴奏を付け、弾き歌いを行う。 弾き歌いのポイントを理解する。	歌唱にピアノ伴奏を付けた弾き歌いの練習をする。	120
24	弾き歌い3	幼児歌唱曲にピアノ伴奏を付け、弾き歌いを行う。 弾き歌いのポイントを理解する。	歌唱にピアノ伴奏を付けた弾き歌いの練習をする。	120

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
25	弾き歌い4	幼児歌唱曲にピアノ伴奏を付け、弾き歌いを行う。 弾き歌いのポイントを理解する。	歌唱にピアノ伴奏を付けた弾き歌いの練習 をする。	120
26	弾き歌い 5	幼児歌唱曲にピアノ伴奏を付け、弾き歌いを行う。 弾き歌いのポイントを理解する。	歌唱にピアノ伴奏を付けた弾き歌いの練習 をする。	120
27	弾き歌い 6	幼児歌唱曲にピアノ伴奏を付け、弾き歌いを行う。 弾き歌いのポイントを理解する。	歌唱にピアノ伴奏を付けた弾き歌いの練習 をする。試験曲候補を選曲する。	120
28	まとめ1	試験曲を決める。期末試験の練習を行い、 II 期のまとめを 行う。	期の振り返りを行い、期末試験の練習を行う。試験用の楽譜を準備する。	120
29	まとめ2	期末試験の練習を行い、Ⅱ期のまとめを行う。	期の振り返りを行い、期末試験の練習を 行う。	120
30	まとめ3	期末試験の練習を行い、Ⅱ期のまとめを行う。	期の振り返りを行い、期末試験の練習を 行う。	120

<b>令和5年及</b>				
科目名	ボーカルⅡ(主科)	対象		
担当教員	磯部 哲夫	単位数	短期大学部 幼児教育	学科 2年2単位 選択
開講期	通年	必選		
授業概要	[授業全体の内容の概要] テノール歌手としてオペラやリサイタ て指導する。ボーカル   で修得した発 ながらの弾き歌いの技術を修得する。 を修得する。また各個人の音楽表現に プラーニング)。毎回の授業において	ル等の様々な舞台出演 声法を基に、III期では IV期においては、保育 ついては、1年次から 目標管理カードを記入 によるフィードバック	度の経験を活かし、個々 は保育現場で歌われてい 可現場での歌唱指導法、 実施している表現につ 、し、ラーニング・ポー 、期末実技試験は建当	中体的表現を含んだ歌唱表現技術の習得をねらいとする。 中の歌唱能力を伸ばすため、個人レッスン形式の授業で歌唱表現につい いる幼児用歌唱曲取り上げ、歌唱のポイントを解説しピアノ伴奏を付け 幼児用歌唱曲やミュージカル楽曲を取り上げ、身体的表現と歌唱表現 いてのディスカッションで音楽表現技術を身につけていく(アクティートフォリオとして学修成果を蓄積する。第25回目の授業において小テ が記念講堂大ホールのステージで試験を行い、ステージ上で身体的表現 サ・水準 CE2285
達成目標	①正確な原語発音、腹式呼吸、共鳴を含めた発声法を修得している。 ②ピアノ伴奏付け、表情を付けながら幼児用歌唱曲の弾き歌いができる。 ③幼児用歌唱曲やミュージカル楽曲において、身体的表現と歌唱表現を融合させた音楽表現ができ、舞台上で表現が確認できる。単位認定の最低基準は ①~③の内容の7割を理解し、実技試験において確認できること。ディプロマ・ポリシーとの関係は、「保育の方法と技術力」「表現力とコミュニケーション能力」「問題解決力」「豊かな人間性と規範意識」「音楽表現能力」である。			
受講資格	幼児教育学科チャイルド・ミュージッ	クコース 2年	成績評価 方法	ラーニング・ポートフォリオ10%、実技による期末試験90%、期末 試験はルーブリック評価で評価を行う。
教科書	童謡曲集、ミュージカル曲集より随時	指定する。		
参考書	発声や歌唱に関する書物全般			
学生への要望	保育現場で必要な弾き歌いや身体表現	を伴った歌唱表現が修	§得できるよう、授業で	での学びを振り返り主体的に予習復習に励むこと。
オフィスタイム	火曜日Ⅱ限、水曜Ⅳ限 841研究室			

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
	ガイダンス	シラバスを用いたオリエンテーション。	本学科のシラバスを見て、授業内容、評価	120
1			内容、スケジュールを把握しておくこと。	
2	弾き歌い1	1年次で修得した弾き歌いのポイントを活かし、幼児歌唱曲	歌唱にピアノ伴奏を付けた弾き歌いの練習	120
		の弾き歌いを行う。	をする。	
3	弾き歌い2	幼児歌唱曲にピアノ伴奏を付け、弾き歌いを行う。	歌唱にピアノ伴奏を付けた弾き歌いの練習	120
			をする。	
4	弾き歌い3	幼児歌唱曲にピアノ伴奏を付け、弾き歌いを行う。	歌唱にピアノ伴奏を付けた弾き歌いの練習	120
, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,			をする。	
5	弾き歌い4	幼児歌唱曲にピアノ伴奏を付け、弾き歌いを行う。	歌唱にピアノ伴奏を付けた弾き歌いの練習	120
3			をする。	
6	弾き歌い5	幼児歌唱曲にピアノ伴奏を付け、弾き歌いを行う。	歌唱にピアノ伴奏を付けた弾き歌いの練習	120
0			をする。	
7	弾き歌い 6	幼児歌唱曲にピアノ伴奏を付け、弾き歌いを行う。	歌唱にピアノ伴奏を付けた弾き歌いの練習	120
,			をする。	
8	弾き歌い7	幼児歌唱曲にピアノ伴奏を付け、弾き歌いを行う。	歌唱にピアノ伴奏を付けた弾き歌いの練習	120
0			をする。	
	身体的表現を伴った歌唱表現1	幼児歌唱曲、ミュージカル曲に身体的表現を付けながら歌	身体的表現の情報を収集し練習する。	120
9		う。幼児歌唱曲に合わせてそのように身体的表現を行えば		
9		よいか、ディスカッションで表現を考察する。		
	身体的表現を伴った歌唱表現2	幼児歌唱曲、ミュージカル曲に身体的表現を付けながら歌	身体的表現の情報を収集し練習する。	120
10		う。幼児歌唱曲に合わせてそのように身体的表現を行えば ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		
		よいか、ディスカッションで表現を考察する。		
	息体的主用を伴った動門主用2	   幼児歌唱曲、ミュージカル曲に身体的表現を付けながら歌	自体的主用の桂殻を収集し体羽まる	120
	対体的教児を行うに動唱教児3	う。幼児歌唱曲に合わせてそのように身体的表現を行えば	対体的表現の情報を収集し練自する。	120
11		よいか、ディスカッションで表現を考察する。		
	身体的表現を伴った歌唱表現4	   幼児歌唱曲、ミュージカル曲に身体的表現を付けながら歌	身体的表現の情報を収集し練習する。	120
	23.7320.00 0 11 2 70 30 12 20 00 1	う。幼児歌唱曲に合わせてそのように身体的表現を行えば	STATE OF THE PART	120
12		よいか、ディスカッションで表現を考察する。		

- 授業内容とスケジュール-						
回	項目	授業内容	自学自習	目安時間		
13	身体的表現を伴った歌唱表現5	幼児歌唱曲、ミュージカル曲に身体的表現を付けながら歌う。幼児歌唱曲に合わせてそのように身体的表現を行えばよいか、ディスカッションで表現を考察する。	身体的表現の情報を収集し練習する。	120		
14	身体的表現を伴った歌唱表現6	幼児歌唱曲、ミュージカル曲に身体的表現を付けながら歌う。幼児歌唱曲に合わせてそのように身体的表現を行えばよいか、ディスカッションで表現を考察する。	身体的表現の情報を収集し練習する。	120		
15	まとめ	期末試験に向け、Ⅲ期のまとめを行う。	III期の振り返りを行い、期末試験の練習を 行う。	120		
16	歌唱指導法 1	様々な楽曲を取り上げ、体的表現を伴った歌唱表現を考察 する。	様々な楽曲の身体的表現の情報を収集し、 身体的表現を伴った歌唱練習をする。	120		
17	歌唱指導法 2	様々な楽曲を取り上げ、体的表現を伴った歌唱表現を考察 する。	様々な楽曲の身体的表現の情報を収集し、 身体的表現を伴った歌唱練習をする。	120		
18	歌唱指導法3	様々な楽曲を取り上げ、体的表現を伴った歌唱表現を考察 する。	様々な楽曲の身体的表現の情報を収集し、 身体的表現を伴った歌唱練習をする。	120		
19	歌唱指導法 4	様々な楽曲を取り上げ、体的表現を伴った歌唱表現を考察 する。	歌唱にピアノ伴奏を付けた弾き歌いの練習 をする。	120		
20	ミュージカル表現 1	ミュージカル曲に身体的表現を付けながら歌い、ディス カッションをしながら身体的・音楽的表現を深めていく。	歌唱にピアノ伴奏を付けた弾き歌いの練習をする。	120		
21	ミュージカル表現2	ミュージカル曲に身体的表現を付けながら歌い、ディスカッションをしながら身体的・音楽的表現を深めていく。	身体的表現を伴った歌唱練習をする。	120		
22	ミュージカル表現3	ミュージカル曲に身体的表現を付けながら歌い、ディスカッションをしながら身体的・音楽的表現を深めていく。	身体的表現を伴った歌唱練習をする。	120		
23	ミュージカル表現4	ミュージカル曲に身体的表現を付けながら歌い、ディスカッションをしながら身体的・音楽的表現を深めていく。	身体的表現を伴った歌唱練習をする。	120		
24	ミュージカル表現 5	ミュージカル曲に身体的表現を付けながら歌い、ディスカッションをしながら身体的・音楽的表現を深めていく。	身体的表現を伴った歌唱練習をする。	120		
25	ミュージカル表現 6	ミュージカル曲に身体的表現を付けながら歌い、ディスカッションをしながら身体的・音楽的表現を深めていく。	身体的表現を伴った歌唱練習をする。	120		
26	ミュージカル表現 7	既習曲から試験曲、伴奏者を決める。	身体的表現を伴った歌唱練習をする。	120		
27	ミュージカル表現8	試験曲についてディスカッションをしながら身体的・音楽 的表現を深めていく。		120		
28	ミュージカル表現 9	試験曲についてディスカッションをしながら身体的・音楽 的表現を深めていく。	身体的表現を伴った歌唱練習をする。	120		
29	ミュージカル表現10	試験曲についてディスカッションをしながら身体的・音楽 的表現を深めていく。	身体的表現を伴った歌唱練習をする。	120		
30	まとめ	期末試験に向け、IV期のまとめを行う。	身体的表現を伴った歌唱練習をする。IV期 の振り返りを行う。	120		

令和5年度					
科目名	ボーカルⅡ(副科)	対象			
担当教員	金子 堅治	単位数	短期大学部 幼児教育	学科 2年1単位 選択	
開講期	通年	必選			
授業概要	[授業全体の内容の概要] テノール歌手としてリサイタル等の舞 ボーカル   で修得した発声法を基に、 歌いの技術を修得する。IV期において また各個人の音楽表現については、1年 グ)。毎回の授業において目標管理カ	台出演の経験を活かし Ⅲ期では保育現場で歌 は、保育現場での歌唱 F次から実施している: ードを記入し、ラーニ	、個々の歌唱能力を作なわれている幼児用歌唱 はお導法、幼児用歌唱は表現についてのディスニング・ポートフォリッ	身体的表現を含んだ歌唱表現技術の習得をねらいとする。 申ばすため、個人レッスン形式の授業で歌唱表現について指導する。 昌曲取り上げ、歌唱のポイントを解説しピアノ伴奏を付けながらの弾き 由やミュージカル楽曲を取り上げ、身体的表現と歌唱表現を修得する。 カッションで音楽表現技術を身につけていく(アクティブラーニン けとして学修成果を蓄積する。Ⅲ期に弾き歌いによる小テストを行い、 リックによるフィードバックを行う。位置づけ・水準 CE2159	
達成目標	①正確な原語発音、腹式呼吸等の発声 ②ピアノ伴奏付け、表情を付けながら ③幼児用歌唱曲やミュージカル楽曲に 単位認定の最低基準は①~③の内容の 「表現力とコミュニケーション能力」	幼児用歌唱曲の弾き歌 おいて、身体的表現と 7割を理解し、実技試	ご歌唱表現を融合させた 験において確認できる	こと。ディプロマ・ポリシーとの関係は、「保育の方法と技術力」	
受講資格	幼児教育学科チャイルド・ミュージッ	クコース 2年	成績評価 方法	ラーニング・ポートフォリオ5%、実技による小テスト5%、実技による期末試験90%、期末試験はルーブリック評価で評価を行う。	
教科書	童謡曲集、ミュージカル曲集より随時	指定する。	•		
参考書	発声や歌唱に関する書物全般				
学生への要望	保育現場で必要な弾き歌いや身体表現	を伴った歌唱表現が修	§得できるよう、授業で	での学びを振り返り主体的に予習復習に励むこと。	
オフィスタイム	火曜日III~V限 幼児教育学科(チャイ	イルド・ミュージック	コース)研究室		

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	シラパスを用いたオリエンテーション。 授業計画、授業内容、評価内容、授業への心構えについて 説明する。	本学科のシラバスを見て、授業内容、評価 内容、スケジュールを把握しておく。	120
2	弾き歌い 1	1年次で修得した弾き歌いのポイントを活かし、幼児歌唱曲 の弾き歌いを行う。	歌唱にピアノ伴奏を付けた弾き歌いの練習 をする。	120
3	弾き歌い 2	幼児歌唱曲にピアノ伴奏を付け、弾き歌いを行う。	歌唱にピアノ伴奏を付けた弾き歌いの練習をする。	120
4	弾き歌い3	幼児歌唱曲にピアノ伴奏を付け、弾き歌いを行う。	歌唱にピアノ伴奏を付けた弾き歌いの練習をする。	120
5	弾き歌い4	幼児歌唱曲にピアノ伴奏を付け、弾き歌いを行う。	歌唱にピアノ伴奏を付けた弾き歌いの練習をする。	120
6	弾き歌い5	幼児歌唱曲にピアノ伴奏を付け、弾き歌いを行う。	歌唱にピアノ伴奏を付けた弾き歌いの練習をする。	120
7	弾き歌い 6	幼児歌唱曲にピアノ伴奏を付け、弾き歌いを行う。	歌唱にピアノ伴奏を付けた弾き歌いの練習をする。	120
8	身体的表現を伴った歌唱表現1	幼児歌唱曲にピアノ伴奏を付け、弾き歌いを行う。	歌唱にピアノ伴奏を付けた弾き歌いの練習をする。	120
9	身体的表現を伴った歌唱表現2	幼児歌唱曲に身体的表現を付けながら歌う。幼児歌唱曲に合わせてそのように身体的表現を行えばよいか、ディスカッションで表現を考察する。	身体的表現の情報を収集し練習する。	120
10	身体的表現を伴った歌唱表現3	幼児歌唱曲に身体的表現を付けながら歌う。幼児歌唱曲に合わせてそのように身体的表現を行えばよいか、ディスカッションで表現を考察する。	身体的表現の情報を収集し練習する。	120
11	身体的表現を伴った歌唱表現4	幼児歌唱曲に身体的表現を付けながら歌う。幼児歌唱曲に合わせてそのように身体的表現を行えばよいか、ディスカッションで表現を考察する。	身体的表現の情報を収集し練習する。	120
12	身体的表現を伴った歌唱表現5	幼児歌唱曲に身体的表現を付けながら歌う。幼児歌唱曲に合わせてそのように身体的表現を行えばよいか、ディスカッションで表現を考察する。	身体的表現の情報を収集し練習する。	120
13	身体的表現を伴った歌唱表現6	幼児歌唱曲に身体的表現を付けながら歌う。幼児歌唱曲に合わせてそのように身体的表現を行えばよいか、ディスカッションで表現を考察する。	身体的表現の情報を収集し練習する。 試験曲の候補を選曲する。	120
14	III 期のまとめ1	期末試験に向け試験曲を決め、Ⅲ期のまとめを行う。	Ⅲ期の振り返りを行い、期末試験の練習を 行う。	120

		-授業内容とスケジュール-	+ W + 111	
回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
15	Ⅲ 期のまとめ2	期末試験に向け、Ⅲ期のまとめを行う。	Ⅲ期の振り返りを行い、期末試験の練習を 行う。	120
16	歌唱指導法 1	様々な歌唱曲を取り上げ、指導法を考察する。	様々な楽曲の身体的表現の情報を収集し、 身体的表現を伴った歌唱練習をする。	120
17	歌唱指導法 2	様々な歌唱曲を取り上げ、指導法を考察する。	様々な楽曲の身体的表現の情報を収集し 身体的表現を伴った歌唱練習をする。	120
18	歌唱指導法 3	様々な歌唱曲を取り上げ、指導法を考察する。	様々な楽曲の身体的表現の情報を収集し 身体的表現を伴った歌唱練習をする。	120
19	歌唱指導法 4	様々な歌唱曲を取り上げ、指導法を考察する。	様々な楽曲の身体的表現の情報を収集し 身体的表現を伴った歌唱練習をする。	120
20	歌唱指導法 5	様々な歌唱曲を取り上げ、指導法を考察する。	様々な楽曲の身体的表現の情報を収集し 身体的表現を伴った歌唱練習をする。	120
21	歌唱指導法 6	様々な歌唱曲を取り上げ、指導法を考察する。	様々な楽曲の身体的表現の情報を収集し 身体的表現を伴った歌唱練習をする。	120
22	ミュージカル表現 1	ミュージカル曲に身体的表現を付けながら歌い、ディス カッションをしながら身体的・音楽的表現を深めていく。	身体的表現を伴った歌唱練習をする。	120
23	ミュージカル表現 2	ミュージカル曲に身体的表現を付けながら歌い、ディス カッションをしながら身体的・音楽的表現を深めていく。	身体的表現を伴った歌唱練習をする。	120
24	ミュージカル表現 3	ミュージカル曲に身体的表現を付けながら歌い、ディス カッションをしながら身体的・音楽的表現を深めていく。	身体的表現を伴った歌唱練習をする。	120
25	ミュージカル表現 4	ミュージカル曲に身体的表現を付けながら歌い、ディス カッションをしながら身体的・音楽的表現を深めていく。	身体的表現を伴った歌唱練習をする。	120
26	ミュージカル表現 5	ミュージカル曲に身体的表現を付けながら歌い、ディス カッションをしながら身体的・音楽的表現を深めていく。	身体的表現を伴った歌唱練習をする。	120
27	ミュージカル表現 6	ミュージカル曲に身体的表現を付けながら歌い、ディス カッションをしながら身体的・音楽的表現を深めていく。	身体的表現を伴った歌唱練習をする。また 試験曲の候補を選曲しておく。	120
28	まとめ1	ミュージカル曲に身体的表現を付けながら歌う。試験曲を 決め、ディスカッションをしながら身体的・音楽的表現を 深めていく。		120
29	まとめ2	決めた楽曲について伴奏者と演奏を行い、音楽表現を深めていく。音楽表現についてディスカッションを行う。	IV期の振り返りを行う。試験曲の歌唱練習を行う。また伴奏合わせを行い、アンサンブル及び音楽表現を深めていく。	120
30	まとめ3	決めた楽曲について伴奏者と演奏を行い、IV期実技試験へ 向けて音楽表現を完成させる。音楽表現についてディス カッションを行う。	IV期の振り返りを行う。試験曲の歌唱練習を行う。また伴奏合わせを行い、アンサンブル及び音楽表現を完成させる。	120

科目名     リトミック     対象       担当教員     小林 郁子     単位数     短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 必修					
<b>担当教員</b> 小林 郁子 <b>単位数</b> 短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 必修					
72/37 (3 Hr 93/37) 3 Hr 93/37					
開講期   通年     必選					
(授業の目的・ねらい) 幼稚園・保育園においてリトミックの指導を行う技術と、実践する力を身に付ける。 (授業全体の内容の概要) 指導者になるためのリズム運動と、年齢別の具体的な指導法、指導に必要な演奏法を、実技を通して指導する。また 投業概要 指導を継続している経験を元に、実際の子どもの発達に即した音楽的指導や子どもの反応、園の状況に応じた実践方 9 7 年より、東京都の栄光乃園幼稚園において年少、年中、年長の保育課内リトミック指導を行なっている。また1 ター指導者養成校、月例研修会において、リトミック指導者養成クラスにて指導を行っている。 〔フィードバックバックを行います。	7法を指導する。 〔実務経歴〕 1 9 9 9 9 年より、リトミック研究セン				
(授業修了時の達成課題) <b>達成目標</b> ①幼稚園保育園において、リトミック指導を行なうことができる②リトミック研究センターが実施する、幼稚園・保 格、1級指導資格を得る試験に合格する	:育園のためのリトミック2級指導資				
受講資格 短大幼児教育学科チャイルドミュージックコース2年生 成績評価 方法					
教科書 幼稚園、保育園のためのリトミック3歳児用、4歳児用、5歳児用(リトミック研究センター)	幼稚園、保育園のためのリトミック3歳児用、4歳児用、5歳児用(リトミック研究センター)				
参考書					
<b>学生への要望</b> 動きやすい服装で出席してください					
1	水曜日授業開始前、終了後				

リメニー1	時間	目安時間	自習	自学	授業内容	項目	回
2   1   (1学期)	120		リズム運動の復習	自分の課題曲を練習		リズムー1	1
3	120		リズム運動の復習	自分の課題曲を練習			2
1	120		リズム運動の復習	自分の課題曲を練習		リズム-3 ティーチング-2	3
1	120		リズム運動の復習	自分の課題曲を練習		リズム-4 ティーチング-3	4
1	120		リズム運動の復習	自分の課題曲を練習		リズム-5 ティーチング-4	5
7	120		リズム運動の復習	自分の課題曲を練習	****	リズム-6 ティーチング-5	6
8	120		リズム運動の復習	自分の課題曲を練習		リズム-7 ティーチング-6	7
9     (2学期)       10     リズム-10 ティーチング-9     認定試験公示 試験課題練習 リズムフレーズ-2 ティーチング3歳児-9 (3学期)     自分の課題曲を練習 試験課題練習 ティーチング3歳児-10 自分の課題曲を練習 試験課題練習 (3学期)       11     リズム-11 ティーチング-10 試験課題練習 リズムカノン-1 ティーチング3歳児-10 自分の課題曲を練習 試験課題練習 (3学期)     リズム-12 ティーチング-11 試験課題練習 リズムカノン-2 ティーチング3歳児-11 自分の課題曲を練習 試験課題練習 (3学期)       13     リズム-13 ティーチング-1 えい はい	120		リズム運動の復習	自分の課題曲を練習	1111	リズムー8 ティーチング-7	8
10	120		リズム運動の復習	自分の課題曲を練習		リズム-9 ティーチング-8	9
11	120		試験課題練習	自分の課題曲を練習		リズム-10 ティーチング-9	10
12	120		試験課題練習	自分の課題曲を練習		リズム-11 ティーチング-10	11
13     2     3歳児-12 (3学期)       14     リズム-14 ティーチング-13     試験課題練習 テイーチング3歳児-13 (年間を通しての まとめ)     自分の課題曲を練習 試験課題練習 まとめ)       15     資格認定試験     リトミック研究センター 幼稚園保育園のためのリトミッ 指導書4歳児の課題曲を練習する ク2級 資格認定試験       16     リズム-15 ティーチング-14     リズムフレーズ-3 ティーチング4歳児-1 (1学期)     自分の課題曲を練習 リズム運動の復習       17     リズム-16 ティーチング-15     リズムフレーズ-4 ティーチング4歳児-2 (1学期)     自分の課題曲を練習 リズム運動の復習       18     リズム-17 ティーチング-16     リズムフレーズ-5 ティーチング4歳児-3 (2学期)     自分の課題曲を練習 リズム運動の復習	120		試験課題練習	自分の課題曲を練習		リズム-12 ティーチング-11	12
14   まとめ   まとめ   15   資格認定試験	120		試験課題練習	自分の課題曲を練習			13
15	120		試験課題練習	自分の課題曲を練習		リズム-14 ティーチング-13	14
16	120		由を練習する	指導書4歳児の課題的		資格認定試験	15
17 リズム-17 ティーチング-16 リズムフレーズ-5 ティーチング 4 歳児-3 (2 学期) 自分の課題曲を練習 リズム運動の復習 18	120		リズム運動の復習	自分の課題曲を練習	リズムフレーズ-3 ティーチング4歳児-1 (1学期)	リズム-15 ティーチング-14	16
18	120		リズム運動の復習	自分の課題曲を練習	リズムフレーズ-4 ティーチング 4 歳児-2 (1学期)	リズム-16 ティーチング-15	17
リブノ 10 ニ , エンが 17 リブノキ ハン 2 ニ , エンが 4 塩田 A (2出町) 白八の細暗曲 4 は379 リブノ 字転の体379	120		リズム運動の復習	自分の課題曲を練習	リズムフレーズ-5 ティーチング 4 歳児-3 (2学期)	リズム-17 ティーチング-16	18
リズム-18 ティーチング-17   リズムカノン-3 ティーチング 4 歳児- 4 (2 学期)   自分の課題曲を練習 リズム運動の復習   19	120		リズム運動の復習	自分の課題曲を練習	リズムカノン-3 ティーチング 4 歳児-4 (2 学期)	リズム-18 ティーチング-17	19

	- 授業内容とスケジュール-							
回	項目	授業内容	自学自習	目安時間				
20	リズム-19 ティーチング-18	リズムカノン-4 ティーチング4歳児-5 (3学期)	自分の課題曲を練習 リズム運動の復習	120				
21	リズム-20 ティーチング-19	リズムカノン-5 ティーチング4歳児-6 (3学期)	自分の課題曲を練習 リズム運動の復習	120				
22	リズム-21 ティーチング-20	リズムカノン-6 ティーチング4歳児-7 (年間を通してのまとめ)	自分の課題曲を練習 リズム運動の復習	120				
23	リズム-22 ティーチング-21	複リズム-1 ティーチング5歳児-1 (1学期)	自分の課題曲を練習 リズム運動の復習	120				
24	リズム-23 ティーチング-22	複リズム-2 ティーチング5歳児-2 (1学期)	自分の課題曲を練習 リズム運動の復習	120				
25	リズム-24 ティーチング-23	試験公示 複リズム-3 ティーチング 5 歳児-3 (2 学期)	自分の課題曲を練習 試験課題練習	120				
26	リズム-25 ティーチング-24	試験課題練習 複リズム-4 ティーチング5歳児-4 (2学期)	自分の課題曲を練習 試験課題練習	120				
27	リズム-26 ティーチング-25	試験課題練習 ティーチング 5 歳児-5 (3学期)	自分の課題曲を練習 試験課題練習	120				
28	リズム-27 ティーチング-26	試験課題練習 ティーチング 5 歳児-6 (3学期)	自分の課題曲を練習 試験課題練習	120				
29	リズム-28 ティーチング-27	試験課題練習 ティーチング 5 歳児-7 (年間を通してのまとめ) J=ダルクローズについて-2	自分の課題曲を練習 試験課題練習	120				
30	資格認定試験	リトミック研究センター 幼稚園保育園のためのリトミック1級 資格認定試験		0				

科目名	ハンドベル演習	対象		
担当教員	横溝 聡子	単位数	短期大学部 幼児教育:	学科 2年2単位選択
開講期	通年	必選		
授業概要	を身につけ、美しい音の響きで表現す 表現力を高め、個人の責任と他との協	るための演奏法を学ぶ 調を大切にする態度を り上げることで、問題	ぶ。また、ハンドベル <i>t</i> ≿養い、コミュニケーシ 追解決能力も養う。ま <i>t</i>	見ができる楽器である。ハンドベルの多様な奏法の基礎的な知識や技術だけでなく、トーンチャイムや様々な楽器のアンサンブルを通して音楽ション能力を身につけることをねらいとする。授業では音楽表現についた、地域貢献活動など学外での演奏を通して子どもたちと交流し、総合
達成目標	目標は ①ハンドベルの基本的な取り扱い方や奏法、音楽的知識を身につけている。 ②美しい響きや表現を目指すために、豊かな感性や想像力を持って積極的に演奏に取り組むことができる。 ③個人の責任を果たし、他と協調しながらコミュニケーション能力を高めることができている。 ④保育現場でも役立つような音楽創りの力を身につけていることが確認できる。 単位認定の最低基準:①~④の内容の7割を理解し、授業や演奏において確認できること。 ディプロマ・ポリシーとの関係:「保育の方法と技術力」「表現とコミュニケーション能力」「問題解決力」「豊かな人間性と規範意識」「音楽表現能力」			
受講資格	幼児教育学科チャイルド・ミュージッ	クコース2年	成績評価 方法	平常点50%(関心・意欲・態度)、成果発表30%、ラーニングポートフォリオ10%、課題提出10%
教科書	進度に合わせて、その都度指示。			
参考書	進度に合わせて、適宜楽譜を紹介する。			
学生への要望	手袋・筆記用具・楽譜を必ず持参する	。ハンドベルに適した	服装にし、長い髪のヨ	には後ろで結ぶこと。欠席・遅刻をしないようにすること。
オフィスタイム	火曜日   限 金曜日   限 場所:芸	術館 3 F No. 1 幼児教	<b>教育学研究室</b>	

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	基礎技術の学習1	ハンドベルの基本的な扱い方と、基礎的な技術の習得を図	楽譜の読み方やリズムへの理解を深めてお	30
1		<b>3</b> .	<.	
2	基礎技術の学習 2	曲を用いて基礎的な技術や奏法の習得を図る。	楽譜を整え、必要な点をラーニングポート	30
			フォリオに整理しておく。	
3	基礎技術の学習3	曲を用いて基礎的な技術や奏法の習得を図る。	楽譜を整え、必要な点をラーニングポート	30
3			フォリオに整理しておく。	
4	基礎技術の学習 4	曲を用いて基礎的な技術や奏法の習得を図る。	楽譜を整え、必要な点をラーニングポート	30
4			フォリオに整理しておく。	
_	基礎技術の学習 5	曲を用いて基礎的な技術や奏法の習得を図る。	楽譜を整え、必要な点をラーニングポート	30
5			フォリオに整理しておく。	
	基礎技術の学習 6	曲を用いて基礎的な技術や奏法の習得を図る。	楽譜を整え、必要な点をラーニングポート	30
6			フォリオに整理しておく。	
	基礎技術の学習7	曲を用いて基礎的な技術や奏法の習得を図る。	楽譜を整え、必要な点をラーニングポート	30
7			フォリオに整理しておく。譜読みの復習。	
	基礎技術の学習8とフィールド	曲を用いて基礎的な技術や奏法の習得を図る。フィールド	楽譜を整え、必要な点をラーニングポート	30
8	ワーク準備	ワークに向けた準備を行う。	フォリオに整理しておく。譜読みの復習。	
	基礎技術のまとめとフィールド	曲を用いて基礎的な技術や奏法の習得を図る。フィールド	楽譜を整え、必要な点をラーニングポート	30
9	ワーク準備	ワークに向けた準備を行う。	フォリオに整理しておく。譜読みの復習。	
1.0	フィールドワークと演奏発表 1	子どもたちに向けた演奏及びフィールドワークの実践。	演奏やフィールドワークの準備を行う。	30
10				
1.1	フィールドワークと演奏発表 2	子どもたちに向けた演奏及びフィールドワークの実践。	演奏やフィールドワークの準備を行う。	30
11				
	器楽合奏の学習 1	フィールドワークの振り返り。保育現場で使用する楽器や	指導案の作成と、器楽合奏作品の創作を行	30
12		他の楽器とのアンサンブルの実践と創作。指導案につい	う。	
		て。		
	器楽合奏の学習 2	フィールドワークでの演奏発表に向けた練習。保育現場で	保育現場で使用する楽器を使って幼児曲の	30
13		使用する楽器や他の楽器とのアンサンブルの実践と創作。	アレンジを考える。保育現場での指導法を	
			考える。	
	器楽合奏の学習3	フィールドワークでの演奏発表に向けた練習。保育現場で	保育現場で使用する楽器を使って幼児曲の	60
14		使用する楽器や他の楽器とのアンサンブルの実践と創作。	アレンジを考える。保育現場での指導法を	
			考える。	
	•	1	1 I	

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
15	器楽合奏の学習 4	フィールドワークでの演奏発表に向けた練習。保育現場で 使用する楽器や他の楽器とのアンサンブルの指導法につい て考える。	演奏発表や楽器指導にむけた練習。	60
16	フィールドワークと器楽合奏の 実践 1	フィールドワークでの演奏発表。保育現場で使用する楽器 や他の楽器とのアンサンブルの指導と実践。	演奏発表や楽器指導にむけた練習。	30
17	フィールドワークと器楽合奏の 実践 2	フィールドワークでの演奏発表。保育現場で使用する楽器 や他の楽器とのアンサンブルの指導と実践。	演奏発表や楽器指導にむけた練習。	30
18	トーンチャイムの演奏技術の学習 1	トーンチャイムの基本的奏法の習得。	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向 上を目指し練習を行う。授業での課題を次 週までにできるようにする。	30
19	トーンチャイムの演奏技術の学習2	トーンチャイムの基本的奏法の習得。	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向 上を目指し練習を行う。授業での課題を次 週までにできるようにする。	30
20	トーンチャイムの演奏技術の学習3	トーンチャイムの基本的奏法の習得と応用。	語読みをしっかり行い、基礎的な技術の向 上を目指し練習を行う。授業での課題を、 次週までにできるようにする。	30
21	トーンチャイムの演奏技術の学習4	トーンチャイムの基本的奏法の習得と表現方法について。	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	30
22	ハンドベルの演奏技術の学習 1	演奏発表に向けた練習。ハンドベルの基本的奏法の確認。	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向 上を目指し練習を行う。授業での課題を、 次週までにできるようにする。	30
23	ハンドベルの演奏技術の学習 2	演奏発表に向けた練習。ハンドベルの基本的奏法の習得と 表現について。	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	30
24	ハンドベルの演奏技術の学習3	演奏発表に向けた練習。ハンドベルの基本的奏法の習得と 表現について。	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	30
25	演奏表現の学習 1	演奏発表に向けた練習。演奏表現の向上に向け、ディス カッションをしながら表現を創意工夫する。	楽曲への理解を深め、基礎的な技術と表現 力の向上を目指し練習を行う。授業での課 題を次週までにできるようにする。	30
26	演奏表現の学習 2	演奏発表に向けた練習。演奏表現の向上に向け、ディスカッションをしながら表現を創意工夫する。	楽曲への理解を深め、基礎的な技術と表現 力の向上を目指し練習を行う。授業での課 題を次週までにできるようにする。	30
27	演奏表現の学習3	演奏発表に向けた練習。演奏表現の向上に向け、ディス カッションをしながら表現を創意工夫する。	楽曲への理解を深め、演奏技術と表現力の 向上を目指し練習を行う。授業での課題を 次週までにできるようにする。	30
28	演奏表現の学習 4	演奏発表に向けた練習。演奏表現の向上に向け、ディス カッションをしながら表現を創意工夫する。	楽曲への理解を深め、演奏技術と表現力の 向上を目指し練習を行う。授業での課題を 次週までにできるようにする。	30
29	演奏表現の学習5	演奏発表に向けた練習。演奏表現の向上に向け、ディス カッションをしながら表現を創意工夫する。	楽曲への理解を深め、演奏技術と表現力の 更なる向上を目指し練習を行う。授業での 課題を次週までにできるようにする。	60
30	演奏表現の学習6とまとめ	演奏発表を行う。ディスカッションを通じて演奏を振り返り、1年間の学習のまとめとしてのフィードバックを行う。	演奏発表に向けた練習を行う。	60

7年10年12					
科目名	音楽基礎丨	対象			
担当教員	横溝 聡子	単位数	短期大学部 幼児教育	学科 1年 1単位 選択	
開講期	II	必選			
授業概要	音楽表現や、保育場面を想定した音楽表現における表現技術と指導法を修得するために、楽典の最も基礎的な知識を学び、技術・理論的な側面から音楽のルールと理論を身につける。音楽の基礎力を獲得するために、授業では演習を行い、理論を理解しながら、実際に役立つ力を養うことをめざす。確実な音楽的基礎を身に付けるため、少人数でのアクティブラーニング、ディスカッションや協働的体験を行うグループワークによる授業を実施する。グループ発表においてはルーブリックによるフィードバックを行う。位置づけ・水準:CE2171				
達成目標	目標は ①楽典の基礎知識を理解している。 ②音楽の基礎知識を活用して、楽譜を読み解くことができる。 単位認定の最低基準は①~②の内容の7割を理解し、授業や課題提出において確認できること。 ディプロマ・ポリシーとの関係は「表現力とコミュニケーション能力」「問題解決力」「豊かな人間性と規範意識」「音楽表現能力」				
受講資格	幼児教育学科1年生		成績評価 方法	平常点(興味・関心、意欲、態度、創意工夫) 50%、小テスト30%、 グループ発表20%	
教科書	『楽典 理論と実践』音楽之友社、津布楽杏里・桑原章寧共著『保育・教育の現場で使える!弾き歌いピアノ曲集』ドレミ楽譜出版社、 全国大学音楽教育学会編著『明日へ歌い継ぐ日本の子どもの歌』音楽之友社				
参考書	特になし				
学生への要望	豊かな演奏表現力に結び付く音楽理論	の知識を確実に身につ	つけるため、自学自習	を積極的に行って授業に臨んで欲しい。	
オフィスタイム	火曜日   限、金曜日   限 場所:芸術	館3階 No.1幼児教育	育学研究室		

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス 確認テスト	授業計画、授業内容、評価内容、授業への心構えについて 説明を行う。入学前の課題であった楽典課題の確認を行	楽典課題の復習をしっかりしてくること。	60
2	諸表、音名、変化記号とその効力、音符と休符	楽譜のしくみ、音名、音符と休符について理解する。	教科書の指示された項目を読み、予習をすること。授業の内容を繰り返し復習すること。	60
3	拍子とリズム	拍子とリズムについて理解する。	教科書の指示された項目を読み、予習をすること。授業の内容を繰り返し復習すること。	60
4	音程	単音程と複音程について理解する。	教科書の指示された項目を読み、予習をすること。授業の内容を繰り返し復習すること。	60
5	音階	長音階と短音階の音階の仕組みについて理解する。	教科書の指示された項目を読み、予習をすること。授業の内容を繰り返し復習すること。	60
6	5度圏、近親調	5度圏や近親調について理解する。	教科書の指示された項目を読み、予習をすること。授業の内容を繰り返し復習すること。	60
7	調判定	調判定の方法について理解する。	教科書の指示された項目を読み、予習をすること。授業の内容を繰り返し復習すること。	60
8	調判定と移調	調判定と移調の方法について理解する。	教科書の指示された項目を読み、予習をすること。授業の内容を繰り返し復習すること。	60
9	和音①3和音の種類	3 和音の種類について理解する。	教科書の指示された項目を読み、予習をすること。授業の内容を繰り返し復習すること。	60
10	和音②7の和音の種類	7の和音について理解する。	教科書の指示された項目を読み、予習をすること。授業の内容を繰り返し復習すること。	60
11	和音③音階とコードネーム	音階と和音、コードネームについて理解する。	教科書の指示された項目を読み、予習をすること。授業の内容を繰り返し復習すること。	60
12	発想記号、省略記号、その他の 記号	発想記号や様々な記号の意味を理解する。	教科書の指示された項目を読み、予習をすること。授業の内容を繰り返し復習すること。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
	総合演習①	幼児曲の楽譜を使用して、楽典を総合的に復習する。グ	教科書の指示された項目を読み、予習をす	60
13		ループワークにより、音楽理論と表現について考える。	ること。授業の内容を繰り返し復習するこ	
			と。	
	総合演習②	幼児曲の楽譜を使用して、楽典を総合的に復習する。グ	教科書の指示された項目を読み、予習をす	60
14		ループワークにより、音楽理論と表現について考える。	ること。授業の内容を繰り返し復習するこ	
			と。	
	総合演習③とまとめ	幼児曲の楽譜を使用して、楽典を総合的に復習する。グ	発表の準備を行う。	60
15		ループワークにより、音楽理論と表現を結び付けた演奏発		
		表。		

科目名	ソルフェージュー	対象			
担当教員	深谷 悠里絵	単位数	短期大学部 幼児教	育学科 1年 1単位 選択	
開講期	II	必選			
授業概要	音楽に関わる上で音やリズムを聴く、書き取る、表現するなどの基礎的能力は欠かすことのできないものである。基礎的な読譜能力の養成から簡易な書き取り、視唱を行い、音楽的基礎力を初歩から総合的に養い、着実に身につけることを目的とする。  確実な音楽的基礎や音楽表現を身につけるため、少人数でのアクティブラーニング、ディスカッションや協働的体験を行うグループワークによる授業を実施する。授業内でグループ発表を実施し、終了後コメントによるフィードバック、試験においてはルーブリックによるフィードバックを行う。  位置づけ・水準 CE2173				
達成目標	①楽譜の音やリズムの表記方法につい ②音楽の基礎となる音やリズムを理解 ③音楽の基礎となる音やリズムを理解 単位認定の最低基準:①~③の内容の ディプロマ・ポリシーとの関係:「表	し、正確に歌ったりまし、譜面に書き表する 7割を理解し、授業や	表現することができる ことができる。 ウ課題提出において		
受講資格	幼児教育学科1年生		成績評価 方法	平常点(興味・関心、意欲、態度、創意工夫) 50%、小テスト30%、 グループ発表20%	
教科書	大阪開成館発行「コールユーブンゲン」、津布楽杏里・桑原章寧共著『保育・教育の現場で使える!弾き歌いピアノ曲集』ドレミ楽譜出版社、 全国大学音楽教育学会編著『明日へ歌い継ぐ日本の子どもの歌』音楽之友社				
参考書	特になし	特になし			
学生への要望	授業での課題を次の授業までに出来る	よう、よく考えながら	ら根気強く取り組みる	ましょう。	
オフィスタイム	横溝・深谷:火曜日 限 金曜日  限	場所:芸術館 3 F	No. 1 幼児教育学研	究室	

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
	ガイダンス 確認テスト	授業計画、授業内容、評価内容、授業への心構えについて	視唱課題の予習と復習をしっかりしてくる	60
1	横溝・深谷	説明を行う。入学前の課題であったコールユーブンゲンで	こと。	
		確認を行う。		
	視唱と聴音の基礎①	2度・3度音程の視唱練習と楽譜の正しい書き方…音部記	視唱課題やリズム課題の復習をしっかりし	60
2	横溝・深谷	号・調号・音符・休符・小節について、短い楽曲の写譜	てくること。	
3	視唱と聴音の基礎②	2度・3度音程の視唱練習と簡単なハ長調の旋律聴音、4/4	視唱課題やリズム課題の予習と復習をしっ	60
3	横溝・深谷	拍子のリズム打ち	かりしてくること。	
	視唱と聴音の基礎③	4度音程の視唱と長調の旋律聴音、3/4拍子のリズム打ち	視唱課題やリズム課題の予習と復習をしっ	60
4	横溝・深谷		かりしてくること。	
	視唱と聴音の基礎④	3/8、6/8拍子の視唱と聴音、リズム打ち	視唱課題やリズム課題の予習と復習をしっ	60
5	横溝・深谷		かりしてくること。	
	視唱と聴音の基礎⑤	5度音程の視唱と短調の旋律聴音	視唱課題やリズム課題の予習と復習をしっ	60
6	横溝・深谷		かりしてくること。	
	視唱と聴音の基礎⑥	シンコペーションのリズムの視唱と聴音	視唱課題やリズム課題の予習と復習をしっ	60
7	横溝・深谷		かりしてくること。	
0	視唱と聴音の基礎⑦	6度音程の視唱と短調の旋律聴音	視唱課題やリズム課題の予習と復習をしっ	60
8	横溝・深谷		かりしてくること。	
9	視唱と聴音の基礎⑧	3連音と付点音符のリズムの視唱と聴音	視唱課題やリズム課題の予習と復習をしっ	60
9	横溝・深谷		かりしてくること。	
10	視唱と聴音の基礎⑨	7度音程の視唱と単旋律聴音	視唱課題やリズム課題の予習と復習をしっ	60
10	横溝・深谷		かりしてくること。	
11	視唱と聴音の応用①	幼児曲を使った視唱練習。単旋律聴音、リズム打ちのアン	視唱課題やリズム課題の予習と復習をしっ	60
11	横溝・深谷	サンブル	かりしてくること。	
	視唱と聴音の応用②	幼児曲を使った視唱練習。単旋律聴音、リズム打ちのアン	視唱課題やリズム課題の予習と復習をしっ	60
12	横溝・深谷	サンブル	かりしてくること。	
13	視唱と聴音の応用③	幼児曲を使った視唱練習。単旋律聴音、リズムをグループ	視唱課題やリズム課題の予習と復習をしっ	60
13	横溝・深谷	で創作し、アンサンブルを行う。	かりしてくること。	
	視唱と聴音の応用④	幼児曲を使った視唱練習。単旋律聴音、リズム打ちをグ	視唱課題やリズム課題の予習と復習をしっ	60
14	横溝・深谷	ループで創作し、アンサンブルの発表を行う。	かりしてくること。	
15	視唱と聴音のまとめ	視唱と旋律聴音のまとめと確認	視唱課題やリズム課題の予習と復習をしっ	60
10	横溝・深谷		かりしてくること。	

THISTIR					
科目名	ミュージカル演習	対象			
担当教員	横溝 聡子	単位数	短期大学部 幼児教育	学科 2年 1単位 選択	
開講期	IV	必選			
授業概要	本科目では卒業研究と連動させた科目であり、音楽、歌、踊り、芝居を融合させた総合舞台表現であるミュージカル制作を行う。卒業研究での振り返りを基に、キャスト・スタッフの課題解決をねらいとする。授業では卒業研究のキャストの身体表現、音楽表現の考察、スタッフの舞台製作、キャスト、スタッフの共同ディスカッションで互いの問題を解決しながら、ミュージカル作品を作り上げていく。最終授業で全体に対するフィードバックを行う。位置づけ・水準 CE2268				
達成目標	目標は ①キャストの身体表現、音楽表現、スタッフの造形的表現の基礎技術が身についていることが確認できる。 ②キャスト・スタッフの共同作業において、問題解決能力を身につけていることが確認できる。 ③幼児を対象にした音楽的表現、造形的表現が身についていることが確認できる。 単位認定の最低基準は①~③の内容の7割を理解し、授業や研究発表において確認できること。ディプロマ・ポリシーとの関係は「表現力とコミュニケーション能力」「問題解決力」「豊かな人間性と規範意識」「音楽表現能力」である。				
受講資格	幼児教育学科2年生       成績評価       平常点(興味・関心、意欲、態度、創意工夫、協調性)80%、課題提 方法       出20%				
教科書	授業内で適宜プリントを配布する。		•	•	
参考書	ミュージカル制作に関する書籍				
学生への要望	研究倫理を十分に理解し、自己の責任	と協調性を持って共同	同作業を行うこと。		
オフィスタイム	横溝・深谷:火曜日   限、金曜日   限	場所:芸術館3階	No.1幼児教育学研究	室	

1	<b>項目</b> ガイダンス 横溝・深谷	授業内容	自学自習	目安時間
1	カイメイク 快用・木竹	授業計画、授業内容、評価内容、授業への心構えについて	シラバフを目で 塔業内突 評価内容 フ	60
		技業計画、技業内各、計画内各、技業への心構えにプリリー 説明を行う。	ケジュールを把握しておくこと。	00
	通し稽古・舞台製作1	もみじ会に向けて、キャストは身体・音楽表現、スタッフ	キャストは振り付け、音楽練習、スタッフ	60
2	横溝・深谷	は造形的表現の研究を行う。	は舞台製作の準備をする。	
3	音響機器研究 横溝・深谷	音楽の録音のための機器の取り扱いと実践。	演奏の準備と録音準備をしておくこと。	60
	通し稽古・舞台製作2	もみじ会に向けて、キャストは身体・音楽表現、スタッフ	キャストは振り付け、音楽練習、スタッフ	60
4	横溝・深谷	は造形的表現の研究を行う。	は舞台製作の準備をする。	
	通し稽古・舞台製作3	もみじ会に向けて、キャストは身体・音楽表現、スタッフ	キャストは振り付け、音楽練習、スタッフ	60
5	横溝・深谷	は造形的表現の研究を行う。	は舞台製作の準備をする。	
	通し稽古・舞台製作4	もみじ会に向けて、キャストは身体・音楽表現、スタッフ	キャストは振り付け、音楽練習、スタッフ	60
6	横溝・深谷	は造形的表現の研究を行う。	は舞台製作の準備をする。	
	もみじ会発表振り返り	もみじ会発表について振り返り、卒研発表に向けてのディ	もみじ会発表の振り返りをする。	60
7	横溝・深谷	スカッションを行う。		
	音楽・身体表現稽古・舞台製作	もみじ会発表の振り返りを踏まえ、キャスト、スタッフそ	修正点について考察する。	60
8	横溝・深谷	れぞれの修正を確認しキャストは音楽・身体表現稽古、ス		
		タッフは舞台製作に取り組む。		
	音響・照明機器研究	建学記念講堂の音響機器について操作方法等の説明を基	音響・照明機器についてのプランを考え	60
9	横溝・深谷	に、音響・照明のシミュレーションをする。	る。	
	立ち稽古・舞台製作1	前回の修正点を踏まえ、身体的表現、音楽的表現、造形的	キャストは振り付け、音楽練習、スタッフ	60
10	横溝・深谷	表現を考察する。	は舞台製作の準備をする。	
	立ち稽古・舞台製作 2	前回の修正点を踏まえ、身体的表現、音楽的表現、造形的	キャストは振り付け、音楽練習、スタッフ	60
11	横溝・深谷	表現を考察する。	は舞台製作の準備をする。	
	通し稽古・舞台製作1	身体的表現、音楽的表現、造形的表現の最終確認を行い、	総合舞台表現の完成度をチェックする。	60
12	横溝・深谷	研究発表に向け総合舞台表現の完成度をチェックする。		
	通し稽古・舞台製作2	身体的表現、音楽的表現、造形的表現の最終確認を行い、	総合舞台表現の完成度をチェックする。	60
13	横溝・深谷	研究発表に向け総合舞台表現の完成度をチェックする。		
	通し稽古・舞台製作3	卒業研究舞台リハーサルを振り返り、修正を行う。	振り返りを基に完成度をチェックする。	60
14	横溝・深谷			
	まとめ、通し稽古・舞台製作4	ミュージカルの全体的な最終点検を行う。	振り返りを基に最終点検を行う。	60
15	横溝・深谷			

和5年度 <b>科目名</b>	保育内容演習 人間関係	対象			
担当教員	宇治 和子.一柳 智子	単位数	短期大学部 幼児教	育学科 2年 1単位 選択	
開講期		必選	<b>み選</b>		
授業概要	目的とねらいは以下の3点にまとめら ①幼稚園教諭及び保育士の資格取得に ②幼稚園教諭及び保育士として必要な ③幼稚園教諭及び保育士として「人間	れます。 - 必要な知識の習得 - 人間関係に関わる力 間関係」に関わる現代	の養成 的課題の検討	て、人と関わる力を養う、ということについて学びます。 は授業内にて随時返却 or 口頭フィードバックしていきます(位置付け・	
達成目標	① 領域「人間関係」のねらいと内容 ② 人との関わり方について理解でき ③ 「人間関係」に関する現代的課題	業は、以下3点を達成目標(8割以上で単位認定)とします。 領域「人間関係」のねらいと内容について理解できる 人との関わり方について理解できる 人間関係」に関する現代的課題を理解できる この科目は、本学科DPの「保育の内容理解と総合的計画力」「保育の方法と技術力」「表現力とコミュニケーション能力」に関連しています。			
受講資格	幼児教育学科2年		成績評価方法	・前半は、積極的な授業参加(10%)、授業内課題やレポート(2回:40%)により評価します。 ・後半は、試験(30%)・レポート提出物及び授業態度(20%)を総合的に評価します。	
教科書	・前半は教科書は使わず、レジュメ、資料を配布します。  ・後半は以下の通りです。  文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館  厚生労働省『保育所保育指針解説書』フレーベル館 『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説』フレーベル館				
参考書	授業時に紹介します。				
学生への要望	積極的な授業参加を望みます。				
オフィスタイム	前半 授業開始前・終了後・月曜3限・4限:宇治研究室(836)				

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
	前半のオリエンテーション	・授業内容、評価方法について説明する	資料をよく読みこんで、予習・復習するこ	60
4	(宇治)	・なぜ「人間関係」を学ばなければならないのか、なぜ人	ک	
1		とかかわることが大切なのか、について説明する		
2	自己理解と他者理解1 (宇治)	・自己理解についての説明と課題を行う(心理テストの実	資料をよく読みこんで、予習・復習するこ	60
2		施)	ک	
3	自己理解と他者理解2 (宇治)	・自己理解についての説明と課題を行う(描画法1の実施)	資料をよく読みこんで、予習・復習するこ	60
<u> </u>			ک	
4	自己理解と他者理解3 (宇治)	・自己理解についての説明と課題を行う(描画法2の実施)	資料をよく読みこんで、予習・復習するこ	60
7			ک	
5	自己理解と他者理解4 (宇治)	・他者理解についての説明と課題を行う(グループワーク1	資料をよく読みこんで、予習・復習するこ	60
3		の実施)	۷	
6	自己理解と他者理解5 (宇治)	・他者理解についての説明と課題を行う(グループワーク2	資料をよく読みこんで、予習・復習するこ	60
0		の実施)	۷	
7	自己理解と他者理解6 (宇治)	・他者理解についての説明と課題を行う(グループワーク3	資料をよく読みこんで、予習・復習するこ	60
,		の実施)	۷	
	子どもの自立心	・子どもの主体性を育てるかかわりについて説明する	資料をよく読みこんで、予習・復習するこ	60
8	前半のまとめ (宇治)	・まとめ課題の提出	ک	
9	後半のオリエンテーション(一	社会・文化に生きる子ども	ワークの感想をレポートする	30
J	柳)	ワーク「私は・・・」		

0	項目	授業内容	自学自習	目安時間
10	領域「人間関係」(一柳)	幼稚園教育要領および保育所保育指針における五領域のうちの「人間関係」の確認  1. 幼稚園教育要領の基本と領域  2. 発達の諸側面と領域  3. 領域「人間関係」について  4. 領域「人間関係」の「ねらい」について  5. 領域「人間関係」の「内容」について  6. 領域「人間関係」の「内容の取扱い」  7. 発達の過程	幼稚園教育要領および保育所保育指針の該 当箇所の復習	30
11	子どもの集団生活(一柳)	「群れ」から「集団」へ 1. 「群れ」に始まる園生活 2. 新しい「仲間とのふれあい」への手がかり 3. 集団の「形成」について 4. 集団の存続 5. 集団の「構造」について	子どもたちの集団性について話し合た結果 をレポートする	30
12	保護者との関わり(一柳)	保育者の専門性を生かす 保育者と保護者の良好な人間関係のために	教育実習時の保護者と自分との関わりにつ いての気付きをレポートする	30
13	保育者同士の関わり(一柳)	保育者の言動から子どもは学ぶ 道徳的育ち	教育実習時の保育者同志の関わり方につい ての気付きをレポートする	30
14	かかわりの育ちを「みる」 (一柳)	子どもを「みる」とは 見えるものと見えないものについてのグループワーク	グループワークのレポート	30
15	まとめ (一柳)	全体のまとめ 小テスト		60

令机5年度				
科目名	保育内容演習 生活と環境	対象		
担当教員	柴田 卓	単位数	短期大学部 幼児教育	学科 2年 1単位 選択
開講期	III	必選		
授業概要	授業の概要 〔授業の目的・ねらい〕 生活と環境   において、幼稚園教育要領および保育所保育指針の領域環境に示されている「ねらい」と「内容」を理解したことを前提とし、フィールドワークにおける実践を基に地域資源や自然環境における教材の多様性と、環境を通して学ぶ姿を具体的に理解する。また、地域資源を活用したアクティブラーニングを通して発達段階に応じた教材の選定方法、環境構成やリスクマネジメントの手法について学習し、保育実践力の向上を目指す。フィールドワーク先は国立那須甲子青少年自然の家で、令和5年度は9月23日・24日(1泊2日)を予定している。詳細は第1回の授業において説明するが、事前に確認したいことがある場合は研究室を訪ねること。 ※位置づけ・水準CE2228			
達成目標	授業のテーマ及び到達目標 1) 幼稚園教育要領や保育所保育指針における領域「環境」のねらい及び内容を理解し、教材や環境構成の意義を理解することができる。 2) 発達段階を踏まえて教材や保育環境を構想し、指導場面を想定しながら保育活動を計画および展開することができる。 3) フィールドワークを通して地域資源や自然環境を活かした保育活動について理解し、保育計画およびリスクマネジメントを遂行することができる。 ※単位認定の最低基準は、達成目標に対して7割を理解し習得していること。 ※ディプロマ・ポリシーとの関係:保育の内容理解と総合的計画力、保育の方法と技術力、表現力とコミュニケーション能力			
受講資格	幼児教育学科2年生		成績評価 方法	課題発表30点 レポート等提出物60点 平常点10点
教科書	幼稚園教育要領解説 フレーベル館 北欧スウェーデン発 科学する心を育			
参考書	授業内容に応じて、適宜紹介する。			
学生への要望	包含性によりでは、同点性によりでは、同点性によりでは、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で			
オフィスタイム	月曜日の13時~16時、金曜日の13時~	-16時 場所:83年館	824研究室	

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	・授業概要、評価方法の説明 ・フィールドワークの説明 ・学習環境としての地域資源の可能性		45
2	フィールドワーク 1	フィールドワーク① ・自然環境下における教材を探求する。 ・ネイチャーゲームを体験する。	フィールドワーク1に向け自然を活用した 保育活動を探求する。フィールドワーク2 に向けた指導計画の作成と準備	45
3	フィールドワーク 1-②	フィールドワーク1-② ・自然環境下における幼児トレイルの理解 ・コース設定の方法とリスクマネジメントの理解	フィールドワーク1に向け自然を活用した 保育活動を探求する。フィールドワーク2 に向けた指導計画の作成と準備	45
4	フィールドワーク1-③	フィールドワーク1-③ ・自然環境への配慮とアクティビティ ・フィールドワーク①のふりかえりおよびフィールドワー ク2に向けたグルービングと準備	フィールドワーク1に向け自然を活用した 保育活動を探求する。フィールドワーク2 に向けた指導計画の作成と準備	45
5	フィールドワーク2	フィールドワーク2 ・グループごとに模擬保育の準備をする。	フィールドワーク2に向け指導計画を作成し教材を準備する。また、模擬保育のふり	45
6	フィールドワーク2-②	フィールドワーク2-② ・グループごとに模擬保育を行う。	フィールドワーク2に向け指導計画を作成し教材を準備する。また、模擬保育のふり	45
7	フィールドワーク2-③	フィールドワーク2-③ ・グループごとに模擬保育を行う。	フィールドワーク2に向け指導計画を作成し教材を準備する。また、模擬保育のふり	45
8	ふりかえり	ふりかえり ・2回のフィールドワークを通して学習したことを振り返る。自身の計画と実践の改善策について議論する。	フィールドワークを通して学習したことを 踏まえ、学習環境としての地域資源の意義 と可能性についてレポートにまとめる。	60

科目名	保育表現技術 音楽	対象					
担当教員	菅原 美謝	単位数	短期大学部 幼児教育	下学科 2年	1単位 選択		
開講期	III	必選					
授業概要	授業の目的・ねらい						
達成目標	目標は ①子どもの育ちやあそびの中単位認定の最低基準は内容の7割を理解的計画力」「保育の方法と技術力」「	<b>犀し、実技試験におい</b>	て合奏表現が確認で	きること。デ	ィプロマ・ポリシ	ーとの関係は、「保育	•
—————————————————————————————————————	短大幼児教育学科2年生		成績評価 方法	演奏発表8	30%、平常点(卵	興味・関心・意欲・態度	度) 20%にて評価
教科書	『現場で生かせる幼児合奏』 三瓶令子ほか5名著 圭文社 2016 適宜プリントを配付						
参考書	特になし						
学生への要望	テキストを必ず持参すること。						
オフィスタイム	菅原:火曜日お昼、または放課後、83年館非常勤控室						

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
	ガイダンス	授業計画、授業内容、評価内容、授業への心構え、教科書	本学科のシラバスを見て、授業内容、評価	60
1		について説明を行う。	内容、スケジュールを把握しておくこと。	
2	楽器の扱い方	楽器の扱い方を学ぶ。楽器に触れ、様々な奏法や音色につ	様々な楽器に触れ、音を出したり演奏を行	60
۷		いて考える。	い、楽器に慣れること。	
3	身体・楽器による音楽活動の導	子どもの表現活動での楽器導入の方法を学び、身体と楽器	音を出したり演奏を行い、リズムに慣れる	60
3	入指導法	による音楽あそびを体験する。	こと。	
	身体・楽器による音楽活動の導	子どもの表現活動での楽器導入の方法を学び、身体と楽器	音を出したり演奏を行い、リズムに慣れる	60
4	入指導法	による音楽あそびを体験する。グループごとに楽器あそび	こと。	
		を創作する。		
5	小打楽器による表現活動	小打楽器での簡単なリズム打ちを中心とした合奏を体験す	小打楽器合奏曲を楽譜で確認し、歌ってお	60
3		る。	<.	
6	小打楽器による表現活動	小打楽器でのリズム打ちを中心とした合奏を体験する。	小打楽器合奏曲を楽譜で確認し、歌ってお	60
0			<.	
7	音板楽器による表現活動	幼児の木琴、鉄琴の奏法について学ぶ。幼児曲を演奏す	授業で取り上げた曲を弾いたり歌っておく	60
,		る。	こと。	
8	音板楽器による表現活動	幼児の木琴、鉄琴の奏法について学ぶ。即興アンサンブル	授業で学んだ即興パターンをまとめておく	60
0		を体験する。	こと。	
9	3歳児、4歳児、5歳児の音楽表	各年齢に応じた指導法と音楽活動を実践する。木琴、鉄	リズム打ちをして合奏譜に慣れること。	60
9	現について①	琴、小打楽器による合奏を体験する。		
10	3歳児、4歳児、5歳児の音楽表	各年齢に応じた指導法と音楽活動を実践する。木琴、鉄	リズム打ちをして合奏譜に慣れること。	60
10	現について②	琴、小打楽器による合奏を体験する。		
11	3歳児、4歳児、5歳児の音楽表	各年齢に応じた指導法と音楽活動を実践する。木琴、鉄	リズム打ちをして合奏譜に慣れること。	60
11	現について③	琴、小打楽器による合奏を体験する。		
12	簡単編曲と発表の環境設定①	子どもの曲を合奏用に編曲する方法を学ぶ。発表の環境設	簡単なリズムを用いて幼児曲に楽器をつけ	60
12		定について考える。	ること。	
	簡単編曲と発表の環境設定②	子どもの曲を合奏用に編曲する方法を学ぶ。発表の環境設	簡単なリズムを用いて幼児曲に楽器をつけ	60
13		定について考えグループでオリジナル合奏曲をつくる。	る。グループでオリジナル合奏曲をつく	
			<b>వ</b> 。	
14	まとめ1	年齢に応じた音楽表現について整理する、オリジナル合奏	オリジナル合奏曲をグループごとに練習を	60
14		曲をグループごとに発表する。	行う。	
15	まとめ2	年齢に応じた音楽表現について整理する、オリジナル合奏	オリジナル合奏曲をグループごとに練習を	60
15		曲をグループごとに発表する。	行う。	

科目名	保育表現技術器楽川				
10 V/ +/- D	深谷 悠里絵,渡辺 桂子,本橋 美恵	対象	1-45 1 W to 1 10 to	T W C   0 C 4 W / 1 77 P	
担当教員	子,佐久間 智子,横溝 聡子,佐藤 美 鶴稀	単位数 必選	短期大学部 幼児教	育学科 2年 1単位 選択	
開講期	通年				
	【ピアノ表現技術】				
	Ⅲ期は、幼児曲の弾き歌いを中心に学習	する。子どもた <sup>っ</sup>	ちを意識した演奏がで	きるようになることをねらいとし、保育の方法と技術力を身につける。	
	期では、教育実習・保育実習をすべて終	えたことを踏ま;	え、これまで学んだこ	とを基盤に置き、演奏技術のみの学習に留まらず、子どもの発達に応	
	ピアノであそぶことが出来る表現力、即	]興力、応用力の1	伸長を図る。		
	ML授業については、アンサンブルにおり	いてパートナーと	: ディスカッションを重	ねながら取り組み、更なる表現力の向上やコミュニケーション能力の	
授業概要	長を図り、保育現場での実践力を養う。	各期の試験後に	時間を設け、コメントに	こよるフィードバックを行います。	
	【ハンドベル表現技術】				
				力を深める。また地域ボランティア活動等に出向き本学幼児教育学生	
	て、地域交流を図る。演奏発表後にコメ	ントによるフィー	ードバックを行います。		
	位置づけ・水準 CE2234				
	個人レッスン				
	①幼児曲を最低15曲仕上げる。				
	②幼児曲の弾き歌いにおいて、歌を生か	す伴奏ができる。	•		
	③幼児曲の弾き歌いにおいて曲想をイメ	ージして歌うこ	とができる。		
	ML授業				
	①他の人のテンポやリズム感に共感し、	協力して演奏で	きる。		
	②ハーモニーの美しさやアンサンブルの -	楽しさを感じる	ことができる。		
	③表情豊かな演奏ができる。				
	=				
達成目標	ハンドベル	1±1,	h-m		
達成目標	ハンドベル ①11人でテンポやリズム感等を共感し、				
達成目標	ハンドベル ①11人でテンポやリズム感等を共感し、 ②メロディーと伴奏のバランスハーモニ	の美しさを感	じられる。		
達成目標	ハンドベル ①11人でテンポやリズム感等を共感し、 ②メロディーと伴奏のバランスハーモニ ③ハンドベル奏法を理解し、周りの人と	の美しさを感 の調和を取りな;	じられる。 がら自己表現できる。	②の7割を冊解! - 娯業や演奏発表において確認できること	
達成目標	ハンドベル ①11人でテンポやリズム感等を共感し、 ②メロディーと伴奏のバランスハーモニ ③ハンドベル奏法を理解し、周りの人と 単位認定の最低基準:個人レッスンの①	ーの美しさを感 の調和を取りな; )は必須条件であ	じられる。 がら自己表現できる。 る。その他の項目は内タ	容の7割を理解し、授業や演奏発表において確認できること。 の方法と技術力  「表現力とコミュニケーション能力  「豊かな人間	
達成目標	ハンドベル ①11人でテンポやリズム感等を共感し、 ②メロディーと伴奏のバランスハーモニ ③ハンドベル奏法を理解し、周りの人と 単位認定の最低基準:個人レッスンの①	ーの美しさを感 の調和を取りな; )は必須条件であ	じられる。 がら自己表現できる。 る。その他の項目は内タ		
達成目標	ハンドベル ①11人でテンポやリズム感等を共感し、 ②メロディーと伴奏のバランスハーモニ ③ハンドベル奏法を理解し、周りの人と 単位認定の最低基準:個人レッスンの① ディプロマ・ポリシーとの関係:「保育	ーの美しさを感 の調和を取りな; )は必須条件であ	じられる。 がら自己表現できる。 る。その他の項目は内タ		
達成目標	ハンドベル ①11人でテンポやリズム感等を共感し、 ②メロディーと伴奏のバランスハーモニ ③ハンドベル奏法を理解し、周りの人と 単位認定の最低基準:個人レッスンの① ディプロマ・ポリシーとの関係:「保育 規範意識」	ーの美しさを感 の調和を取りな; )は必須条件であ	じられる。 がら自己表現できる。 る。その他の項目は内タ	の方法と技術力」「表現力とコミュニケーション能力」「豊かな人間	
達成目標	ハンドベル ①11人でテンポやリズム感等を共感し、 ②メロディーと伴奏のバランスハーモニ ③ハンドベル奏法を理解し、周りの人と 単位認定の最低基準:個人レッスンの① ディプロマ・ポリシーとの関係:「保育	ーの美しさを感 の調和を取りな; )は必須条件であ	じられる。 がら自己表現できる。 る。その他の項目は内3 総合的計画力」「保育	の方法と技術力」「表現力とコミュニケーション能力」「豊かな人間	
達成目標	ハンドベル ①11人でテンポやリズム感等を共感し、 ②メロディーと伴奏のバランスハーモニ ③ハンドベル奏法を理解し、周りの人と 単位認定の最低基準:個人レッスンの① ディプロマ・ポリシーとの関係:「保育 規範意識」	ーの美しさを感 の調和を取りな; )は必須条件であ	じられる。 がら自己表現できる。 る。その他の項目は内? 総合的計画力」「保育 成績評価	の方法と技術力」「表現力とコミュニケーション能力」「豊かな人間 個人レッスン:毎授業でのレッスン成果(態度、課題に対する取	
	ハンドベル ①11人でテンポやリズム感等を共感し、 ②メロディーと伴奏のバランスハーモニ ③ハンドベル奏法を理解し、周りの人と 単位認定の最低基準:個人レッスンの① ディプロマ・ポリシーとの関係:「保育 規範意識」	ーの美しさを感 の調和を取りな; )は必須条件であ	じられる。 がら自己表現できる。 る。その他の項目は内3 総合的計画力」「保育	の方法と技術力」「表現力とコミュニケーション能力」「豊かな人間 個人レッスン:毎授業でのレッスン成果(態度、課題に対する取 み姿勢・意欲、進度等)40点	
	ハンドベル ①11人でテンポやリズム感等を共感し、 ②メロディーと伴奏のバランスハーモニ ③ハンドベル奏法を理解し、周りの人と 単位認定の最低基準:個人レッスンの① ディプロマ・ポリシーとの関係:「保育 規範意識」	一の美しさを感 の調和を取りな; のは必須条件であ。 育の内容の理解と	じられる。 がら自己表現できる。 る。その他の項目は内? 総合的計画力」「保育 成績評価	の方法と技術力」「表現力とコミュニケーション能力」「豊かな人間 個人レッスン:毎授業でのレッスン成果(態度、課題に対する取 み姿勢・意欲、進度等)40点 ML:平常点(意欲・態度等)40点	
	ハンドベル ①11人でテンポやリズム感等を共感し、 ②メロディーと伴奏のバランスハーモニ ③ハンドベル奏法を理解し、周りの人と 単位認定の最低基準:個人レッスンの① ディプロマ・ポリシーとの関係:「保育 規範意識」 幼児教育学科2年生	一の美しさを感 の調和を取りな; のは必須条件であ。 育の内容の理解と	じられる。 がら自己表現できる。 る。その他の項目は内? 総合的計画力」「保育 成績評価 方法	の方法と技術力」「表現力とコミュニケーション能力」「豊かな人間 個人レッスン:毎授業でのレッスン成果(態度、課題に対する取 み姿勢・意欲、進度等)40点 ML:平常点(意欲・態度等)40点 定期試験:20点	
	ハンドベル ①11人でテンポやリズム感等を共感し、 ②メロディーと伴奏のバランスハーモニ ③ハンドベル奏法を理解し、周りの人と 単位認定の最低基準:個人レッスンの① ディプロマ・ポリシーとの関係:「保育 規範意識」  幼児教育学科2年生  吉野 幸男・三瓶 令子外10名 執筆・編	一の美しさを感 の調和を取りな; のは必須条件であ。 育の内容の理解と	じられる。 がら自己表現できる。 る。その他の項目は内? 総合的計画力」「保育 成績評価 方法	の方法と技術力」「表現力とコミュニケーション能力」「豊かな人間 個人レッスン:毎授業でのレッスン成果(態度、課題に対する取 み姿勢・意欲、進度等)40点 ML:平常点(意欲・態度等)40点 定期試験:20点	
	ハンドベル ①11人でテンポやリズム感等を共感し、 ②メロディーと伴奏のバランスハーモニ ③ハンドベル奏法を理解し、周りの人と 単位認定の最低基準:個人レッスンの① ディプロマ・ポリシーとの関係:「保育 規範意識」 幼児教育学科2年生  吉野 幸男・三瓶 令子外10名 執筆・編 『幼稚園教諭・小学校教諭・保育士養成	一の美しさを感 の調和を取りな; のは必須条件であっ 質の内容の理解と	じられる。 がら自己表現できる。 る。その他の項目は内 <sup>2</sup> 総合的計画力」「保育 <b>成績評価</b> 方法	の方法と技術力」「表現力とコミュニケーション能力」「豊かな人間 個人レッスン:毎授業でのレッスン成果(態度、課題に対する取 み姿勢・意欲、進度等)40点 ML:平常点(意欲・態度等)40点 定期試験:20点	
受講資格	ハンドベル ①11人でテンポやリズム感等を共感し、 ②メロディーと伴奏のバランスハーモニ ③ハンドベル奏法を理解し、周りの人と 単位認定の最低基準:個人レッスンの① ディブロマ・ポリシーとの関係:「保育 規範意識」  幼児教育学科2年生  吉野 幸男・三瓶 令子外10名 執筆・編 『幼稚園教諭・小学校教諭・保育士養成 津布楽 杏里・桑原 章寧 共著	一の美しさを感 の調和を取りな; のは必須条件であっ 質の内容の理解と	じられる。 がら自己表現できる。 る。その他の項目は内 <sup>2</sup> 総合的計画力」「保育 <b>成績評価</b> 方法	の方法と技術力」「表現力とコミュニケーション能力」「豊かな人間 個人レッスン:毎授業でのレッスン成果(態度、課題に対する取 み姿勢・意欲、進度等)40点 ML:平常点(意欲・態度等)40点 定期試験:20点	
受講資格	ハンドベル ①11人でテンポやリズム感等を共感し、 ②メロディーと伴奏のバランスハーモニ ③ハンドベル奏法を理解し、周りの人と 単位認定の最低基準:個人レッスンの① ディプロマ・ポリシーとの関係:「保育 規範意識」  幼児教育学科2年生  吉野 幸男・三瓶 令子外10名 執筆・編 『幼稚園教諭・小学校教諭・保育士養成 津布楽 杏里・桑原 章寧 共著 『保育・教育の現場で使える! 弾き歌い 全国大学音楽教育学会 編著 『明日へ歌い継ぐ 日本の子どもの歌ー	一の美しさを感 の調和を取りな; )は必須条件であ。 育の内容の理解と 集者 課程のためのビ	じられる。 がら自己表現できる。 る。その他の項目は内 総合的計画力」「保育 成績評価 方法 アノ・テキスト』ドレ レミ楽譜出版社	の方法と技術力」「表現力とコミュニケーション能力」「豊かな人間 個人レッスン:毎授業でのレッスン成果(態度、課題に対する取 み姿勢・意欲、進度等)40点 ML:平常点(意欲・態度等)40点 定期試験:20点	
受講資格	ハンドベル ①11人でテンポやリズム感等を共感し、 ②メロディーと伴奏のバランスハーモニ ③ハンドベル奏法を理解し、周りの人と 単位認定の最低基準:個人レッスンの① ディプロマ・ポリシーとの関係:「保育 規範意識」  幼児教育学科2年生  吉野 幸男・三瓶 令子外10名 執筆・編 『幼稚園教諭・小学校教諭・保育土養成 津布楽 杏里・桑原 章寧 共著 『保育・教育の現場で使える! 弾き歌い 全国大学音楽教育学会 編著	一の美しさを感 の調和を取りな; )は必須条件であ。 育の内容の理解と 集者 課程のためのビ	じられる。 がら自己表現できる。 る。その他の項目は内 総合的計画力」「保育 成績評価 方法 アノ・テキスト』ドレ レミ楽譜出版社	の方法と技術力」「表現力とコミュニケーション能力」「豊かな人間 個人レッスン:毎授業でのレッスン成果(態度、課題に対する取 み姿勢・意欲、進度等)40点 ML:平常点(意欲・態度等)40点 定期試験:20点	
受講資格	ハンドベル ①11人でテンポやリズム感等を共感し、 ②メロディーと伴奏のバランスハーモニ ③ハンドベル奏法を理解し、周りの人と 単位認定の最低基準:個人レッスンの① ディプロマ・ポリシーとの関係:「保育 規範意識」  幼児教育学科2年生  吉野 幸男・三瓶 令子外10名 執筆・編 『幼稚園教諭・小学校教諭・保育士養成 津布楽 杏里・桑原 章寧 共著 『保育・教育の現場で使える! 弾き歌い 全国大学音楽教育学会 編著 『明日へ歌い継ぐ 日本の子どもの歌ー	一の美しさを感 の調和を取りな; )は必須条件であ。 育の内容の理解と 集者 課程のためのビ	じられる。 がら自己表現できる。 る。その他の項目は内 総合的計画力」「保育 成績評価 方法 アノ・テキスト』ドレ レミ楽譜出版社	の方法と技術力」「表現力とコミュニケーション能力」「豊かな人間 個人レッスン:毎授業でのレッスン成果(態度、課題に対する取 み姿勢・意欲、進度等)40点 ML:平常点(意欲・態度等)40点 定期試験:20点	
受講資格教科書	ハンドベル ①11人でテンポやリズム感等を共感し、 ②メロディーと伴奏のパランスハーモニ ③ハンドベル奏法を理解し、周りの人と 単位認定の最低基準:個人レッスンの① ディブロマ・ポリシーとの関係:「保育 規範意識」  幼児教育学科2年生  吉野 幸男・三瓶 令子外10名 執筆・編 『幼稚園教諭・小学校教諭・保育士養成 津布楽 杏里・桑原 章寧 共著 『保育・教育の現場で使える! 弾き歌い 全国大学音楽教育学会 編著 『明日へ歌い継ぐ 日本の子どもの歌ーの中から選択	一の美しさを感 の調和を取りな; )は必須条件であっ 育の内容の理解と 集者 課程のためのビニ 、ピアノ曲集』ド ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	じられる。 がら自己表現できる。 る。その他の項目は内 総合的計画力」「保育 成績評価 方法 アノ・テキスト』ドレ レミ楽譜出版社	の方法と技術力」「表現力とコミュニケーション能力」「豊かな人間 個人レッスン:毎授業でのレッスン成果(態度、課題に対する取 み姿勢・意欲、進度等)40点 ML:平常点(意欲・態度等)40点 定期試験:20点	
受講資格教科書	ハンドベル ①11人でテンポやリズム感等を共感し、 ②メロディーと伴奏のバランスハーモニ ③ハンドベル奏法を理解し、周りの人と 単位認定の最低基準:個人レッスンの① ディプロマ・ポリシーとの関係:「保育 規範意識」  幼児教育学科2年生  吉野 幸男・三瓶 令子外10名 執筆・編 『幼稚園教諭・小学校教諭・保育士養成 津布楽 杏里・桑原 章寧 共著 『保育・教育の現場で使える! 弾き歌い 全国大学音楽教育学会 編著 『明日へ歌い継ぐ 日本の子どもの歌ーの中から選択  個人に合わせて適宜使用する	一の美しさを感の調和を取りなった。 の調和を取りなった。 での内容の理解と を は必須条件である。 での内容の理解と は、ビアノ曲集』ドー唱歌童謡140年の と。	じられる。 がら自己表現できる。 る。その他の項目は内 総合的計画力」「保育 成績評価 方法 アノ・テキスト』ドレ レミ楽譜出版社	の方法と技術力」「表現力とコミュニケーション能力」「豊かな人間 個人レッスン:毎授業でのレッスン成果(態度、課題に対する取 み姿勢・意欲、進度等)40点 ML:平常点(意欲・態度等)40点 定期試験:20点	
受講資格教科書参考書	ハンドベル ①11人でテンポやリズム感等を共感し、 ②メロディーと伴奏のバランスハーモニ ③ハンドベル奏法を理解し、周りの人と 単位認定の最低基準:個人レッスンの① ディプロマ・ポリシーとの関係:「保育 規範意識」  幼児教育学科 2 年生  吉野 幸男・三瓶 令子外10名 執筆・編 『幼稚園教諭・小学校教諭・保育土養成 津布楽 杏里・桑原 章寧 共著 『保育・教育の現場で使える! 弾き歌い 全国大学音楽教育学会 編著 『明日へ歌い継ぐ 日本の子どもの歌ーの中から選択  個人に合わせて適宜使用する ○毎時間休まないでレッスンを受けるこ	一の美しさを感の調和を取りない。 の調和を取りない。 は必須条件である。 質の内容の理解と は課程のためのピー・ ・ピアノ曲集』ドー・ 唱歌童謡140年の と。 に取り組むこと。	じられる。 がら自己表現できる。 る。その他の項目は内? 総合的計画力」「保育 成績評価 方法 アノ・テキスト』ドレ レミ楽譜出版社 り歩み』音楽之友社	の方法と技術力」「表現力とコミュニケーション能力」「豊かな人間個人レッスン:毎授業でのレッスン成果(態度、課題に対する取み姿勢・意欲、進度等)40点ML:平常点(意欲・態度等)40点定期試験:20点	
受講資格教科書参考書	ハンドベル ①11人でテンポやリズム感等を共感し、 ②メロディーと伴奏のパランスハーモニ ③ハンドベル奏法を理解し、周りの人と 単位認定の最低基準:個人レッスンの① ディプロマ・ポリシーとの関係:「保育 規範意識」  幼児教育学科2年生  吉野 幸男・三瓶 令子外10名 執筆・編 『幼稚園教諭・小学校教諭・保育士養成 津布楽 杏里・桑原 章寧 共著 『保育・教育の現場で使える! 弾き歌い 全国大学音楽教育学会 編著 『明日へ歌い継ぐ 日本の子どもの歌ーの中から選択  個人に合わせて適宜使用する ○毎時間休まないでレッスンを受けるこ ○毎日最低30分は練習し、自己の課題に	一の美しさを感の調和を取りない。 の調和を取りない。 のは必須条件であい 質の内容の理解と 集課程のためのピー いピアノ曲集』ドー 唱歌童謡140年の と。 こと。髪の毛が	じられる。 がら自己表現できる。 る。その他の項目は内2 総合的計画力」「保育 成績評価 方法 アノ・テキスト』ドレ レミ楽譜出版社 り歩み』音楽之友社	の方法と技術力」「表現力とコミュニケーション能力」「豊かな人間 個人レッスン:毎授業でのレッスン成果(態度、課題に対する取み姿勢・意欲、進度等)40点 ML:平常点(意欲・態度等)40点 定期試験:20点	

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
	オリエンテーション	・担当教員を決定する。	春休みの課題確認の結果を振り返り、弾け	30
	渡辺・鈴木・加藤・佐久間・本	・授業形態は、1年次同様Iコマ90分を45分ずつに分割	なかった部分を再度練習する。	
	橋・佐藤	し、個人レッスンとMLのレッスンとする。		
		・授業内容については、添付資料(参考曲)を参照する。行		
1		事のうた(8曲) 季節のうた(13曲) その他(24曲)		
		・春休みの課題の確認を行う。		

		- 授業内容とスケジュール- 		
回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
2	幼児曲の弾き歌いのレパート リーを増やす MLによるアン サンブル体験①渡辺・鈴木・加 藤・佐久間・本橋・佐藤	・個人レッスン→個人の進度に合わせて、上記幼児曲の弾き歌いをし、レパートリーを増やす。 ・進度の進んでいる学生は、極力原曲での伴奏に挑戦する。 ・MLレッスン→アンサンブル体験をする。	自分の進度に合わせて課題曲(幼児曲)のレ パートリーを増やす。	30
3	幼児曲の弾き歌いのレパート リーを増やす MLによるアン サンブル②渡辺・鈴木・加藤・ 佐久間・本橋・佐藤	・個人レッスン→個人の進度に合わせて、上記幼児曲の弾き歌いをし、レパートリーを増やす。 ・進度の進んでいる学生は、極力原曲での伴奏に挑戦する。 ・MLレッスン→アンサンブル体験をする。	自分の進度に合わせて課題曲(幼児曲)のレパートリーを増やす。	30
4	幼児曲の弾き歌いのレパート リーを増やす MLによるアン サンブル③渡辺・鈴木・加藤・ 佐久間・本橋・佐藤	・個人レッスン→個人の進度に合わせて、上記幼児曲の弾き歌いをし、レバートリーを増やす。 ・進度の進んでいる学生は、極力原曲での伴奏に挑戦する。 ・MLレッスン→アンサンブル体験をする。	自分の進度に合わせて課題曲(幼児曲)のレバートリーを増やす。	30
5	幼児曲の弾き歌いのレパート リーを増やす MLによるアン サンブル④渡辺・鈴木・加藤・ 佐久間・本橋・佐藤	・個人レッスン→個人の進度に合わせて、上記幼児曲の弾き歌いをし、レパートリーを増やす。 ・進度の進んでいる学生は、極力原曲での伴奏に挑戦する。 ・MLレッスン→アンサンブル体験をする。	自分の進度に合わせて課題曲(幼児曲)のレパートリーを増やす。	30
6	幼児曲の弾き歌いのレパート リーを増やす MLによるアン サンブル⑤渡辺・鈴木・加藤・ 佐久間・本橋・佐藤	・個人レッスン→個人の進度に合わせて、上記幼児曲の弾き歌いをし、レパートリーを増やす。 ・進度の進んでいる学生は、極力原曲での伴奏に挑戦する。 ・MLレッスン→アンサンブル体験をする。	自分の進度に合わせて課題曲(幼児曲)のレパートリーを増やす。	30
7	幼児曲の弾き歌いのレパート リーを増やす MLによるアン サンブル体験⑥渡辺・鈴木・加藤・佐久間・本橋・佐藤	・個人レッスン→個人の進度に合わせて、上記幼児曲の弾き歌いをし、レパートリーを増やす。 ・進度の進んでいる学生は、極力原曲での伴奏に挑戦する。 ・MLレッスン→アンサンブル体験をする。	自分の進度に合わせて課題曲(幼児曲)のレパートリーを増やす。	30
8	幼児曲の弾き歌いのレパート リーを増やす MLによるアン サンブル体験①渡辺・鈴木・加 藤・佐久間・本橋・佐藤	・個人レッスン→個人の進度に合わせて、上記幼児曲の弾き歌いをし、レパートリーを増やす。 ・進度の進んでいる学生は、極力原曲での伴奏に挑戦する。 ・MLレッスン→アンサンブル体験をする。	自分の進度に合わせて課題曲(幼児曲)のレパートリーを増やす。	30
9	幼児曲の弾き歌いのレパート リーを増やす MLによるアン サンブル体験⑧渡辺・鈴木・加 藤・佐久間・本橋・佐藤	・個人レッスン→個人の進度に合わせて、上記幼児曲の弾き歌いをし、レパートリーを増やす。 ・進度の進んでいる学生は、極力原曲での伴奏に挑戦する。 ・MLレッスン→アンサンブル体験をする。	自分の進度に合わせて課題曲(幼児曲)のレパートリーを増やす。	30
10	幼児曲の弾き歌いのレパート リーを増やす MLによるアン サンプル体験⑨渡辺・鈴木・加 藤・佐久間・本橋・佐藤	・個人レッスン→個人の進度に合わせて、上記幼児曲の弾き歌いをし、レパートリーを増やす。 ・進度の進んでいる学生は、極力原曲での伴奏に挑戦する。 ・MLレッスン→アンサンブル体験をする。	自分の進度に合わせて課題曲(幼児曲)のレバートリーを増やす。	30
11	幼児曲の弾き歌いのレパート リーを増やす MLによるアン サンブル・即興演奏体験⑩渡 辺・鈴木・加藤・佐久間・本 橋・佐藤	・個人レッスン→個人の進度に合わせて、上記幼児曲の弾き歌いをし、レパートリーを増やす。 ・進度の進んでいる学生は、極力原曲での伴奏に挑戦する。 ・MLレッスン→アンサンブル体験をする。	自分の進度に合わせて課題曲(幼児曲)のレパートリーを増やす。	30
12	幼児曲の弾き歌いのレパート リーを増やす MLによるアン サンブル体験⑪渡辺・鈴木・加藤・佐久間・本橋・佐藤	・個人レッスン→個人の進度に合わせて、上記幼児曲の弾き歌いをし、レパートリーを増やす。 ・進度の進んでいる学生は、極力原曲での伴奏に挑戦する。 ・MLレッスン→アンサンブル体験をする。	自分の進度に合わせて課題曲(幼児曲)のレパートリーを増やす。	30
13	幼児曲の弾き歌いのレパート リーを増やす MLによるアン サンブル体験⑫渡辺・鈴木・加藤・佐久間・本橋・佐藤	・個人レッスン→個人の進度に合わせて、上記幼児曲の弾き歌いをし、レパートリーを増やす。 ・進度の進んでいる学生は、極力原曲での伴奏に挑戦する。 ・MLレッスン→アンサンプル体験をする。	自分の進度に合わせて課題曲(幼児曲)のレパートリーを増やす。	30

	項目	- 授業内容とスケンュール- <b>授業内</b> 容	自学自習	目安時間
14	幼児曲の弾き歌いのレパート リーを増やす MLによるアン サンブル体験⑬渡辺・鈴木・加藤・佐久間・本橋・佐藤	・個人レッスン→個人の進度に合わせて、上記幼児曲の弾き歌いをし、レバートリーを増やす。 ・進度の進んでいる学生は、極力原曲での伴奏に挑戦する。		<b>日女時间</b> 30
15	Ⅲ期のまとめ、及び確認 渡辺・鈴木・加藤・佐久間・本 橋・佐藤	・MLレッスン→アンサンブル体験をする。 15回のレッスンで挑戦した幼児曲を振り返り、確認テスト の準備をする。	確認テストに向け練習に取り組む。	30
16	幼児曲の弾き歌いのレパート リーを増やす MLによるアン サンブル体験⑭渡辺・鈴木・加藤・佐久間・本橋・佐藤	・個人レッスン→個人の進度に合わせて、上記幼児曲の弾き歌いをし、レパートリーを増やす。 ・進度の進んでいる学生は、極力原曲での伴奏に挑戦する。 ・MLレッスン→アンサンブル体験をする。	自分の進度に合わせて課題曲(幼児曲)のレパートリーを増やす。	30
17	幼児曲の弾き歌いのレパート リーを増やす MLによるアン サンブル体験⑮渡辺・鈴木・加 藤・佐久間・本橋・佐藤	・個人レッスン→個人の進度に合わせて、上記幼児曲の弾き歌いをし、レパートリーを増やす。 ・進度の進んでいる学生は、極力原曲での伴奏に挑戦する。 ・MLレッスン→アンサンブル体験をする。	自分の進度に合わせて課題曲(幼児曲)のレバートリーを増やす。	30
18	幼児曲の弾き歌いのレパート リーを増やす MLによるアン サンブル体験®渡辺・鈴木・加藤・佐久間・本橋・佐藤	・個人レッスン→個人の進度に合わせて、上記幼児曲の弾き歌いをし、レパートリーを増やす。 ・進度の進んでいる学生は、極力原曲での伴奏に挑戦する。 ・MLレッスン→アンサンブル体験をする。	自分の進度に合わせて課題曲(幼児曲)のレパートリーを増やす。	30
19	幼児曲の弾き歌いのレパート リーを増やす MLによるアン サンブル体験①渡辺・鈴木・加 藤・佐久間・本橋・佐藤	・個人レッスン→個人の進度に合わせて、上記幼児曲の弾き歌いをし、レパートリーを増やす。 ・進度の進んでいる学生は、極力原曲での伴奏に挑戦する。 ・MLレッスン→アンサンブル体験をする。	自分の進度に合わせて課題曲(幼児曲)のレパートリーを増やす。	30
20	幼児曲の弾き歌いのレパート リーを増やす MLによるアン サンブル体験®渡辺・鈴木・加藤・佐久間・本橋・佐藤	・個人レッスン→個人の進度に合わせて、上記幼児曲の弾き歌いをし、レパートリーを増やす。 ・進度の進んでいる学生は、極力原曲での伴奏に挑戦する。 ・MLレッスン→アンサンブル体験をする。	自分の進度に合わせて課題曲(幼児曲)のレ バートリーを増やす。	30
21	幼児曲の弾き歌いのレパート リーを増やす MLによるアン サンブル体験®渡辺・鈴木・加 藤・佐久間・本橋・佐藤	・個人レッスン→個人の進度に合わせて、上記幼児曲の弾き歌いをし、レパートリーを増やす。 ・進度の進んでいる学生は、極力原曲での伴奏に挑戦する。 ・MLレッスン→アンサンブル体験をする。	自分の進度に合わせて課題曲(幼児曲)のレパートリーを増やす。	30
22	幼児曲の弾き歌いのレパート リーを増やす MLによるアン サンブル体験@渡辺・鈴木・加藤・佐久間・本橋・佐藤	・個人レッスン→個人の進度に合わせて、上記幼児曲の弾き歌いをし、レパートリーを増やす。 ・進度の進んでいる学生は、極力原曲での伴奏に挑戦する。 ・MLレッスン→アンサンプル体験をする。	自分の進度に合わせて課題曲(幼児曲)のレパートリーを増やす。	30
23	幼児曲の弾き歌いのレパート リーを増やす MLによるアン サンブル体験②渡辺・鈴木・加 藤・佐久間・本橋・佐藤	・個人レッスン→個人の進度に合わせて、上記幼児曲の弾き歌いをし、レパートリーを増やす。 ・進度の進んでいる学生は、極力原曲での伴奏に挑戦する。 ・MLレッスン→アンサンブル体験をする。	自分の進度に合わせて課題曲(幼児曲)のレ パートリーを増やす。	30
24	幼児曲の弾き歌いのレパート リーを増やす MLによるアン サンブル体験②渡辺・鈴木・加 藤・佐久間・本橋・佐藤	・個人レッスン→個人の進度に合わせて、上記幼児曲の弾き歌いをし、レパートリーを増やす。 ・進度の進んでいる学生は、極力原曲での伴奏に挑戦する。 ・MLレッスン→アンサンブル体験をする。	自分の進度に合わせて課題曲(幼児曲)のレ パートリーを増やす。	30
25	幼児曲の弾き歌いのレパート リーを増やす MLによるアン サンブル体験②渡辺・鈴木・加 藤・佐久間・本橋・佐藤	・個人レッスン→個人の進度に合わせて、上記幼児曲の弾き歌いをし、レパートリーを増やす。 ・進度の進んでいる学生は、極力原曲での伴奏に挑戦する。 ・MLレッスン→アンサンブル体験をする。	自分の進度に合わせて課題曲(幼児曲)のレパートリーを増やす。	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
26	幼児曲の弾き歌いのレパート リーを増やす MLによるアン サンブル体験②渡辺・鈴木・加藤・佐久間・本橋・佐藤	・個人レッスン→個人の進度に合わせて、上記幼児曲の弾き歌いをし、レパートリーを増やす。 ・進度の進んでいる学生は、極力原曲での伴奏に挑戦する。 ・MLレッスン→アンサンブル体験をする。	自分の進度に合わせて課題曲(幼児曲)のレパートリーを増やす。	30
27	幼児曲の弾き歌いのレパート リーを増やす MLによるアン サンブル体験偽渡辺・鈴木・加藤・佐久間・本橋・佐藤	・個人レッスン→個人の進度に合わせて、上記幼児曲の弾き歌いをし、レパートリーを増やす。 ・進度の進んでいる学生は、極力原曲での伴奏に挑戦する。 ・MLレッスン→アンサンプル体験をする。	自分の進度に合わせて課題曲(幼児曲)のレパートリーを増やす。	30
28	幼児曲の弾き歌いのレパート リーを増やす MLによるアン サンブル体験®渡辺・鈴木・加藤・佐久間・本橋・佐藤	・個人レッスン→個人の進度に合わせて、上記幼児曲の弾き歌いをし、レパートリーを増やす。 ・進度の進んでいる学生は、極力原曲での伴奏に挑戦する。 ・MLレッスン→アンサンブル体験をする。	自分の進度に合わせて課題曲(幼児曲)のレパートリーを増やす。	30
29	幼児曲の弾き歌いのレパート リーを増やす MLによるアン サンブル体験②渡辺・鈴木・加藤・佐久間・本橋・佐藤	・個人レッスン→個人の進度に合わせて、上記幼児曲の弾き歌いをし、レパートリーを増やす。 ・進度の進んでいる学生は、極力原曲での伴奏に挑戦する。 ・MLレッスン→アンサンプル体験をする。	確認テストに向け練習に取り組む。	30
30	IV期のまとめ、及び確認 渡辺・鈴木・加藤・佐久間・本 橋・佐藤	15回のレッスンで挑戦した幼児曲を振り返り、確認テストの準備をする。	確認テストに向け練習に取り組む。	30

令和5年度						
科目名	保育表現技術 造形	対象				
担当教員	早川 仁	単位数	短期大学部 幼児教育	育学科 2年 1単位 選択		
開講期	III	必選				
授業概要	保育に関する環境構成や、適した造形素材・用具知識・技法等を幼児発達過程の理解と共に学び、自己研究を積み重ね、造形活動の側面から保育実践力・発表力を身につける。 ・課題作品については添削返却時に簡略なコメントを記す。 ・研究発表に対しては随時内容に対するフィードバックを全体、または個々に対して行う。 位置づけ・水準CE2236					
達成目標	ディプロマポリシーとの関係;保育 2 描画基礎を身に付けると共に他者 ディプロマポリシーとの関係;表現 3 幼児の発達過程を造形表現の側面: ディプロマポリシーとの関係;保育 ・単位認定の最低基準; 規定授業数の3分の2以上出席し	おける造形活動に適した環境構成・造形素材・用具などの知識、基礎技法を修得する。 ロマポリシーとの関係;保育の内容理解と総合的計画力。 基礎を身に付けると共に他者の作品の良さに気づくこと。 ロマポリシーとの関係;表現力とコミュニケーション能力・豊かな人間性。 の発達過程を造形表現の側面から理解できるようにする。 ロマポリシーとの関係;保育の内容理解。 認定の最低基準; 授業数の3分の2以上出席していること。 作品(自学自習課題含む)3分の2以上提出していること。				
受講資格	保育表現技術造形   を取得しているこ	とが望ましい。	成績評価 方法	<ul><li>・授業課題作品 60点</li><li>・平常点 10点</li><li>・自学自習課題 30点</li></ul>		
教科書	特になし。		•			
参考書	著ーV・ローエンフェルド 訳一竹内清 「美術による人間形成」 1989年 黎明書房 (特に用意しなくとも良いが一読しておく事を薦める)。					
学生への要望	毎回、運動着着用で授業に臨むこと。 毎回、授業終了時に清掃を行うこと。 課題作品提出締切日を厳守すること。					
オフィスタイム	月曜日・水曜日・金曜日の5時限目	8 2 6 研究室。				

	- 授業内容とスケジュール-						
回	項目	授業内容	自学自習	目安時間			
1	授業オリエンテーション・校内スケッチ	1 授業オリエンテーション 配布物と内容説明(授業の約束・授業日程表) ・授業目的・授業計画内容・受講上の約束事等の説明を理解する。 2 スケッチ課題「わたしが気になる場所」 ・校内で「自分にとっての春」を探索してスケッチ記録する。 ・それがなぜ自分にとっての春なのか、個々の生活体験に基づいた情感や美意識でスケッチする。 描画素材一水彩・色鉛筆・クレヨンなど(鉛筆・ペンなどの単色も可)	授業目的及び使用する材料・道具を準備す	90			
2	壁面構成①	壁面構成とは何かを学ぶ。 ・幼児が、「自然の変化や身の回りを美しく飾ることについて興味関心を持ち、豊かな心情や思考力を培う」。 又、「行事・伝統習慣に馴染み理解する」。ことが出来るようにしていくための方法であることを理解する。 A自然・B行事・C造形装飾、3つのテーマから各自1つ選択し、壁面構成する 選択テーマの研究(行事の謂われ、季節の動植物、デザイン構成など)~アイディアスケッチ作成~提出(中間指導)。	る。 いろいろな壁面構成の作品を調べる。宿題 作品(折り紙構成及びキャラクターデザイ	90			

		-授業内容とスケジュール- -授業内容とスケジュール-		
回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
3	壁面構成②	・用紙、素材、制作道具を各自準備し、表現の狙い・画面構図・配色等を検討して、作品制作。~ 完成~提出。・鑑賞会 学内に作品を掲示。これを互いに鑑賞し、表現を学び合う。*素材は各自購入 *サイズ指定=全版二分の一・ベース素材=厚手の紙であれば自由(模造紙は薄いので不可・ボール紙は可)・装飾素材=自由(保育現場で使用する身近なものがより望ましい)・立体平面どちらも可 ・個人制作とする ・優秀作品は83年館1階掲示	授業目的及び使用する材料・道具を準備する。 いろいろな壁面構成の作品を調べる。宿題 作品(折り紙構成及びキャラクターデザイ	90
4	実習準備研究① 計画 案の実例から学ぶ	*計画案プリント・計画案作成ポイント資料配布 1計画案の実例から学ぶ(先輩の実習指導案・報告書 資料から) ・発達段階・現場環境・活動時間・衛生・安全などを考慮 した計画が立てられるよう、指導案作成のポイントを理解 する。 2各自実習で実践してみたい造形活動内容を造形工作資料 など用いて決定し素材・手順など教材研究する。 *次回までに必要な素材の購入・用具準備の計画を立て る。	る。 教育実習で取り入れたい造形活動を検討し	90
5	実習準備研究②	1実際の制作を通して教材研究する。 2 教材研究と並行しながら計画案を作成する。(次回までに仕上げる) 3 模擬授業発表グルーピング(1 G 6 名程度)~担当配役決定(実習生-1 名・園児-その他全員)*対象年齢・環境構成・実施時間など明確にしておく。次回までにグループ検討会で使用する材料を実習生役の学生を中心にグループで準備。	る。 教育実習で取り入れたい造形活動の教材研究と並行しながら計画案を作成する。宿題 作品(折り紙構成及びキャラクターデザイ	90
6	実習準備研究③	模擬授業グループ内検討会〜発表練習・グループ内で、実習生役学生の計画案に基づき模擬授業を行う。 より良い実習が充実できるように授業内容について適切であるか等、検討し合う。(幼児役も含めて一指定年齢の幼児ならどんな行動をするかなども検討してみる)・次回の発表練習	(折り紙構成及びキャラクターデザイン	90
7	実習準備研究④	各グループ模擬授業発表 発表を通して、他の教材展開の仕方、活動のポイントや発 展展開の可能性・安全面・幼児の発達興味関心との整合 性、時間配分など学び合う	宿題作品(折り紙構成及びキャラクターデザイン画)を各1枚仕上げる	90
8	行事ポスター制作	・保育現場での行事に関わる制作活動の一環としてポスターを描く。ポスターとは何か。 ・表現の目的を参考作品を鑑賞しながら探る。 ・内容日程・参考作品鑑賞・文字情報・技法について~下 絵制作	実践報告書をまとめる。宿題作品(折り紙 構成及びキャラクターデザイン画)を各1 枚仕上げる	90

令和5年度 科目名	保育表現技術 体育	対象				
担当教員	柴田 卓	対象 単位数	短期十分或 幼旧教			
		必選	短期八十郎 初元叙	教育子科 Z 年 I 毕应 选扒		
開講期	III					
授業概要	(授業の目的・ねらい) ①幼児体育・運動遊びに関する教材を研究する。 ②指導計画を立案し、模擬保育を行い、安全面や環境構成、指導内容などについて相互に評価を行う。 ③評価に基づき、指導計画や指導方法の見直しを行い、保育者としての実践的なスキルを習得する。 〔授業全体の概要〕 教材研究を通して、さまざまな視点から運動の面白さを探究し、子どもが意欲的かつ主体的に取り組む運動遊びの内容や指導方法を習得する。また、象年齢に応じた運動遊び指導のポイント、安全面や環境設定等を実践的に学習するために模擬保育を実施する。また、振り返りによって、専門性やま力を高める。 ※位置づけ・水準:CE2238					
達成目標	①幼児期の運動・健康の指導法について理解する。 ②幼児体育・運動遊びの指導計画・指導方法・評価方法を理解する。 ③幼体体育・運動遊びの実践力を習得する。 ※単位認定の基準は:内容の7割を理解していること。 ※ディプロマ・ポリシーとの関係:保育の方法と技術力、表現とコミュニケーション能力					
受講資格	幼児教育学科2年		成績評価 方法	課題(教材研究)30点 提出物(指導案等)30点 まとめのレポート30点 平常点10点		
教科書	柴田卓 石森真由子編,楽しく学ぶ運動	遊びのすすめ-ポー	- -トフォリオを活用し	した保育実践力の探求 – ,みらい,2017		
参考書	幼児期運動指針策定委員会,幼児期運動	指針ガイドブック,3	文部科学省,2013			
学生への要望	各実習に向けた教材研究及び模擬保育を行います。各自で教材の準備や指導案の作成を行うなど、主体的に学習して自身の実践力を高めて下さい。 毎回、運動できる服装、筆記用具を持参し、主体的に教材研究や教材準備を行うこと。					
オフィスタイム	月曜日 Ⅲ限目 (12:50~14:20) Ⅳ限目 (14:30~16:00) 824研究室 (柴田)					

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	授業内容の概要	事後:第2回に向けた教材研究	45
2	教材研究①集団遊び	教材研究および指導案の作成 集団遊びを促す導入教材	事前: 教材の準備 事後: 指導案の作成	45
3	教材研究②道具を使った遊び	教材研究および指導案の作成 道具を使った遊びを行うための環境構成	事前: 教材の準備 事後: 指導案の作成	45
4	教材研究③園庭・戸外遊び	教材研究および指導案の作成 園庭環境を活用した運動遊びの計画	事前:教材の準備 事後:指導案の作成	45
5	教材研究④リズムダンス	教材研究および指導案の作成 リズムダンスの制作と展開方法	事前:教材の準備 事後:指導案の作成	45
6	模擬保育①	グループ毎に模擬保育を実施する。 実施後リフレクションを行い、保育内容を検証する。	事前:指導案の作成 事後:指導案の修正	45
7	模擬保育②	グループ毎に模擬保育を実施する。 実施後リフレクションを行い、保育内容を検証する。 各実習に向けて	事前:模擬保育②に向けた指導案の作成 事後:指導案の修正	45
8	まとめ	自身で計画した教材が教育実習において、どのように役立ったのか、どこを改善すべきかなど、振り返り、レポートにまとめる。	実習日誌・指導案	45

市和5年及					
科目名	ダンスパフォーマンスⅡ	対象			
担当教員	朝日 雅宏	単位数	短期大学部 幼児教	育学科 2年 1単位 選択	
開講期	III	必選			
授業概要	ダンスパフォーマンス   で習得した	ステップ、バレエの要	要素、コンビネーショ	ンなど自身の身体を操る基礎的な能力を基に振り付け構成等幅広い要素	
<b>汉未</b> 佩安	を学ぶ。				
	ダンスの基礎的な技法の習得を強化しダンス表現における応用的技術を身につける。				
\*-\*-	柔軟性、体力、技術の向上。質的内容の熟練度を上げる。				
達成目標	ダンスの振り付け、ステップなど幼児にも教えられるスキルを身につける。				
	初歩的な振り付けや構成ができるよう	な力を養う。			
	幼児教育学科 チャイルド・ミュージッ	クコース 2年	成績評価	授業への参加姿勢、理解度、上達度、表現力で50点、課題発表を50点	
受講資格			方法	とし、総合的に評価	
教科書	なし			·	
参考書	随時参考資料プリントを配布				
<b>学生。</b> 0 再相	ダンスパフォーマンスIの発展、応用です。楽しみながら技術を習得してください。				
学生への要望	毎授業振り付けを行います。その週に	学んだことを忘れない	いように練習しましょ	: う。	
オフィスタイム	毎回の授業前後の時間。				

	-授業内容とスケジュール-						
回	項目	授業内容	自学自習	目安時間			
1	ガイダンス	授業の進め方の説明。評価方法の説明。授業内容等の質疑 応答、ダンスパフォーマンス   のフィードバック	その週に学んだ技術を反復練習する。	0			
2	ストレッチ(柔軟体操) 筋力アップトレーニング フロアレッスン コンビネーションダンス	柔軟性強化のためのストレッチや各種筋トレの仕方の習得ターンやバトマンなど技術的科目の練習フロアレッスンによる自身の体でしか支えることのできない状況での各種バ(型)の習得各種バ(型)の組み合わせによる簡単な振付の習得	その週に学んだ技術を反復練習する。	0			
3	ストレッチ(柔軟体操) 筋力アップトレーニング フロアレッスン コンビネーションダンス	柔軟性強化のためのストレッチや各種筋トレの仕方の習得ターンやバトマンなど技術的科目の練習フロアレッスンによる自身の体でしか支えることのできない状況での各種が(型)の習得各種が(型)の組み合わせによる簡単な振付の習得	その週に学んだ技術を反復練習する。	0			
4	ストレッチ(柔軟体操) 筋力アップトレーニング フロアレッスン コンビネーションダンス	柔軟性強化のためのストレッチや各種筋トレの仕方の習得ターンやバトマンなど技術的科目の練習フロアレッスンによる自身の体でしか支えることのできない状況での各種バ(型)の習得各種バ(型)の組み合わせによる簡単な振付の習得	その週に学んだ技術を反復練習する。	0			
5	ストレッチ (柔軟体操) フロアレッスン コンビネーションダンス	柔軟性強化のためのストレッチや各種筋トレの仕方の習得 ターンやバトマンなど技術的科目の練習 振り付け 1	その週に学んだ技術を反復練習する。	0			
6	ストレッチ (柔軟体操) フロアレッスン コンビネーションダンス 振り付け	柔軟性強化のためのストレッチや各種筋トレの仕方の習得 ターンやバトマンなど技術的科目の練習 振り付け 2	その週に学んだ技術を反復練習する。	0			
7	ストレッチ (柔軟体操) フロアレッスン コンビネーションダンス 振り付け	柔軟性強化のためのストレッチや各種筋トレの仕方の習得ターンやパトマンなど技術的科目の練習振り付け3	その週に学んだ技術を反復練習する。	0			
8	ストレッチ (柔軟体操) フロアレッスン コンビネーションダンス 振り付け	柔軟性強化のためのストレッチや各種筋トレの仕方の習得ターンやバトマンなど技術的科目の練習振り付け4	その週に学んだ技術を反復練習する。	0			

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	ストレッチ フロアレッスン 筋力アップトレーニング ダンス課題①	ストレッチ、筋トレ、フロアレッスンを技術強化のために 短めに行う 課題ダンス①を習得(残りの約3分の2の振付を習得、振付 完成)	その週に学んだ技術を反復練習する。	(
10	ストレッチ フロアレッスン 筋力アップトレーニング ダンス課題②	ストレッチ、筋トレ、フロアレッスンを技術強化のために 短めに行う 課題ダンス③を習得(残りの約3分の3の振付を習得、振付 完成)	その週に学んだ技術を反復練習する。	C
11	ストレッチ フロアレッスン 筋力アップトレーニング ダンス課題③	ストレッチ、筋トレ、フロアレッスンを技術強化のために 短めに行う 課題ダンス③を習得(続きの約3分の1の振付を習得、振付 完成)		C
12	ストレッチ フロアレッスン 筋力アップトレーニング 卒研の振り付けと調整	ストレッチ、筋トレ、フロアレッスンを技術強化のために 短めに行う 卒業研究の振り付けとの調整	その週に学んだ技術を反復練習する。	(
13	ストレッチ フロアレッスン 筋力アップトレーニング 卒研の振り付けと調整	ストレッチ、筋トレ、フロアレッスンを技術強化のために 短めに行う 卒業研究の振り付けとの調整	その週に学んだ技術を反復練習する。	C
14	ストレッチ フロアレッスン 筋力アップトレーニング 卒研の振り付けと調整	ストレッチ、筋トレ、フロアレッスンを技術強化のために 短めに行う 卒業研究の振り付けとの調整	その週に学んだ技術を反復練習する。	C
15	各種応用技術取得の発表 課題ダンス①②の発表	各種応用技術習得の度合いを一人ずつ発表 課題ダンス①②のグループ発表	その週に学んだ技術を反復練習する。	(

ミュージカル表現Ⅱ	対象		
朝日 雅宏	単位数	短期大学部 幼児教育	学科 2年 1単位 必修
III	必選		
- 2年間の成果発表としての舞台公演を想	思定し、オリジナリテ	ティを育みながら児童にも伝わりやすい音楽的かつ演劇的表現を学ぶ。	
自分たちの手でミュージカル作品の企画、制作し上演する、もしくは成果物(音源制作や動画制作)を作成する。			
		成績評価	毎回の講義において求める200字程度のコメント(70%)と授業内での発表完成度(30%)の合計を総合して評価する。
特になし。			
授業の中で必要に応じて紹介する場合がある。			
疑問点が生じた場合、授業のなかや毎回提出するコメントの文中で積極的な質問をしていただくことを希望する。			
毎回授業終了直後、同一教室内にて行	う。また希望に応じ授	<b>業直前の時間帯にも設</b>	<b>设ける。</b>
車 1 2 1	朝日 雅宏	朝日 雅宏 単位数 必選 2年間の成果発表としての舞台公演を想定し、オリジナリテ 自分たちの手でミュージカル作品の企画、制作し上演する、 特になし。 授業の中で必要に応じて紹介する場合がある。 疑問点が生じた場合、授業のなかや毎回提出するコメントの	朝日 雅宏 単位数 短期大学部 幼児教育: 必選 短期大学部 幼児教育: 2年間の成果発表としての舞台公演を想定し、オリジナリティを育みながら児童に自分たちの手でミュージカル作品の企画、制作し上演する、もしくは成果物(音源 成績評価 方法

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	演劇プロデュース研究 1	舞台作品の上演に必要な衣装や道具、印刷物などについて の考察と立案、役割分担。	ミュージカル表現   で学んだことをまとめ ておく	0.3
2	演劇プロデュース研究 2	ステージの規模や対象に応じたパブリシティや観客動員に ついての事例研究と計画。	観客の必要性と重要性について考察しまと めておく	0.3
3	演劇プロデュース研究3	市民ミュージカル公演制作を例にリスクマネジメント及び 問題解決の手法を学ぶ。	「リスクマネジメント」の意味について調べておく	0.25
4	舞台表現研究 1	上演作品の音楽構成や、それにともなう作曲、ダンス構成などの連携確認作業。	成果物となる音源(または動画)の全体像 を学生同士で共有しておく	0.3
5	舞台表現研究 2	制作予定作品研究(戯曲又は歌詞の研究)	前回の講義を受けて、さらに表現内容につ いて吟味する	3
6	舞台表現研究 3	役割分担者との連携による作品研究と実践準備。	前回の講義を受けて、さらに表現内容について吟味し、当初議論した「完成度」を高めるための実践を行う	0.3
7	舞台作品制作演習1	上演日程立案と、各人の役割分担と作業進捗状況の確認し 音楽(歌)、ダンス、芝居の完成度を上げるプラン立案。	作品のデモ版制作を開始し、発生する問題 点を整理する。	0.25
8	舞台作品制作演習 2	作品分析と台詞表現の研究。	前回講義でまとめた問題点の整理と解決を 試みる。	0.25
9	舞台作品制作演習3	制作分担毎の脚本分析と台詞、音楽、ダンス、芝居の研究 と実践。	前回講義でまとめた問題点の整理と解決を試みる。	0.25
10	舞台作品表現実践 1	実際にステージで発表することを想定した実践演習、問題 点の発見。	講義で想定された内容に基づいて、自分の 役割を時系列でまとめておく。	0.25
11	舞台作品表現実践 2	ステージ制作演習で立てたプランに則った録音実践、問題 点の解決。	講義で示された録音(録画)の工程を確認 しておく	0.25
12	舞台作品表現実践 3	実践演習まとめとディスカッション。	実践演習3回の振り返りをノートにまとめる	0.5
13	舞台表現のまとめと音源制作1	各人の役割分担と連携による成果物(録音物または録画物)の発表と補足修正ディスカッション パート 1	ディスカッションの内容をまとめて次の授 業準備につなげる	0.25
14	舞台表現のまとめと音源制作2	各人の役割分担と連携による成果物(録音物または録画物)の発表と補足修正ディスカッション パート 2	前回授業を受け、完成度を高める策を講じる	0.25
15	舞台表現のまとめと音源制作3	発表に基づく各人の分析をまとめ卒業制作へ役立てる準備 を整える。	完成した成果物を制作者同士が共有し学内 外へ示す手立てをとる。	0.5

刊和3千及					
科目名	卒業研究	対象			
担当教員	横溝 聡子,磯部 哲夫,深谷 悠里絵,	刈家 単位数	短期十分郊 外月教艺	5学科 2年 2単位 必修	
但当教具	朝日 雅宏	必選	应别人子即 初元叙目	子村 2年2年世 必修	
開講期	通年	必送			
	子どもの表現活動は遊びや生活経験を	イメージした総合的な	な体験から発せられる	。本科目では音楽、歌、踊り、芝居を融合させた総合舞台表現である	
	ミュージカル制作を通し、保育者とし	て企画・構成力、音楽	<sup>条</sup> 的表現力、造形的表	現力、豊かな人間性を磨いていくことをねらいとする。授業では、幼児	
授業概要	のための題材を取り上げ、キャスト、	スタッフの共同作業で	で台本を作成し、台詞	のメロディー化、振り付け、小・大道具作製を行い、ディスカッション	
	を重ねながらミュージカル作品を作り	上げ発表する。中間昇	発表でコメントによる	フィードバック、最終授業で全体に対するフィードバックを行う。位置	
	づけ・水準 CE2270				
	①キャスト・スタッフの共同作業で、	計画的に舞台製作する	ることができる。		
	②キャスト・スタッフの共同作業において、問題解決能力を身につけていることが確認できる。				
達成目標	③幼児を対象にした音楽的表現、造形的表現が身についていることが確認できる。				
	単位認定の最低基準は①~③の内容の	7割を理解し、授業や	研究発表において確認	忍できること。ディプロマ・ポリシーとの関係は、「保育の内容理解と	
	総合的計画力」「問題解決力」「豊か	な人間性と規範意識」	である。		
可=#次4	幼児教育学科 2 年生		成績評価	平常点(興味・関心・意欲・態度・創意工夫・協調性)60%、ミュー	
受講資格			方法	ジカルによる研究成果(論文含む)40%	
教科書	研究題材が決定後指定する。				
参考書	ミュージカル制作に関する書籍。				
学生への要望	時間厳守のこと。事前の準備をしっかり行うことや、自分の役割に対する責任の重さをしっかり自覚し、積極的に行動して欲しい。研究倫理を十分に理				
子生への安室	解し、協調性を持って共同作業を行うこと。				
オフィスタイム	磯部哲夫:火曜日II限、水曜日IV限	841研究室			
3 / 1 A X 1 A	横溝聡子・深谷悠里絵:火曜日   限、	金曜日   限 芸術館 3	3 階 No.1幼児教育学	研究室	

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
	オリエンテーション 1	シラバスを用いたオリエンテーション。「自己確認シー	シラバスを事前に読む。	30
1	磯部・横溝・深谷	ト」を記入する。自己紹介をする。		
	オリエンテーション 2	研究倫理・著作権について理解を深める。ミュージカル制	シラバスを事前に読む。	30
	磯部・横溝・深谷	作におけるスタッフの役割について学ぶ。題材について収		
2		集した資料を基に、題材選定に向けてディスカッションを		
		行う。		
	研究題材の選定	────────────────────────────────────	事前に題材についての資料を収集する。	30
3	磯部・横溝・深谷	スカッションを行い、題材を決定する。		
	役割分担、台本作成1	ミュージカル制作に向けて台詞・歌詞制作等の役割分担を	事前に題材についての資料を収集する。	30
4	磯部・横溝・深谷	決め、脚本作成を行う。あらすじ、登場人物、場面設定の		
		明確化を行う。		
	台本作成 2	作成した台本に基づき、ディスカッションを重ねて作品へ	台詞・歌詞についてグループでまとめる。	30
5	磯部・横溝・深谷	の理解を深め、台本を完成させる。		
	台本作成3	作成した台本に基づき、ディスカッションを重ねて作品へ	台詞・歌詞についてグループでまとめる。	30
	研究倫理指導	の理解を深め、台本を完成させる。研究倫理について学	The manufacture of the property of the control of t	00
6	磯部・横溝・深谷	\$\$` <sub>0</sub>		
	WHE DATE WELL			
	身体表現 1	演劇のエチュードを通して、周囲の言動に敏感に反応して	<b>ム詞・歌詞についてグループでまとめる</b>	60
7	磯部・横溝・深谷	状況を把握する力を養い、身体表現の基礎を学ぶ。		00
,	WHE DATE WHE	V/VC 103E / 0/3 C 2E · ( /3/11 2C 3E · E · E · E · E · E · E · E · E · E		
	身体表現 2	演劇のエチュードを通して、周囲の言動に敏感に反応して	台詞・歌詞・音楽についてグループでまと	30
	磯部・横溝・深谷		める。	
8		た台本に基づいて、音楽について考える。		
	発声基礎 1	発声の基礎を学び、音楽表現力を身につける。	台詞・歌詞・音楽についてグループでまと	30
9	磯部・横溝・深谷	July Server of Transfer of the street of the	める。	00
	発声基礎 2	発声の基礎を学び、音楽表現力を身につける。	台詞・歌詞・音楽についてグループでまと	30
10	磯部・横溝・深谷	10人の金属と10人目不扱が月と分についる。	める。	30
10	WHE DATE WHE			
	キャスティング 1	自薦、他薦、オーディション等でキャスティングを行う。	歌唱・台詞の練習をする。楽譜制作を進め	30
11	磯部・横溝・深谷		3.	
	キャスティング 2	自薦、他薦、オーディション等でキャスティングを行う。	歌唱・台詞の練習をする。楽譜制作を進め	30
12	磯部・横溝・深谷		S.	30
12				
	Į	1		

	項目	- 授業内容とスケシュール- <b>授業内容</b>	<b>占带</b> 占33	
回	****	######################################	自学自習	目安時間
10	舞台製作準備	台本の読み合わせを行い、舞台全体のイメージを共有す	歌唱・台詞の練習をする。楽譜制作を進め	30
13	磯部・横溝・深谷	る。台本の手直しを行う。	٥.	
	立	キャストは歌唱・器楽の音楽レッスン、スタッフは小・大	ナッフトル立窓体図 フクッフル無ム制作	20
1.4	音楽稽古・舞台製作 1 磯部・横溝・深谷	では、	で 本人 下は 自 米練 首、 スタックは 舞 古 製 下 し の 準備 を する。	30
14	一般の・快海・冷台	担兵の表下にプいて快討する。	の卒佣をする。	
	立文统士 無 / 制 / 6 0		ト 1 1 h 立 かた 77 1 h 4m / - 年 /	20
15	音楽稽古・舞台製作 2	キャストは歌唱・器楽の音楽レッスン、スタッフは小・大		30
	磯部・横溝・深谷	道具の製作について検討する。	の準備をする。	
16	音楽稽古・舞台製作3	キャストは歌唱・器楽の音楽レッスン、スタッフは小・大 道具の製作について検討する。		30
	磯部・横溝・深谷		の準備をする。	00
17	舞台製作 1 磯部・横溝・深谷	台本の読み合わせを行い、舞台全体のイメージを具体化する。	キャストは振り付け、 首条練習、 スタッフ は舞台製作の準備をする。	30
				20
18	舞台製作 2 磯部・横溝・深谷	台本の読み合わせを行い、舞台全体のイメージを具体化す る。	マストは振り刊り、 言業練育、 スタック は舞台製作の準備をする。	30
				20
19	立ち稽古・舞台製作 1 磯部・横溝・深谷	キャストは動作、表情をつけながらのレッスン、スタッフ は小・大道具の製作を行う。	マストは振り刊り、自業練首、スタック は舞台製作の準備をする。	30
				30
20	立ち稽古・舞台製作 2 磯部・横溝・深谷	キャストは動作、表情をつけながらのレッスン、スタッフ は小・大道具の製作を行う。	マストは振り刊り、自来練音、スタックは舞台製作の準備をする。	30
				20
21	立ち稽古・舞台製作3 磯部・横溝・深谷	キャストは動作、表情をつけながらのレッスン、スタッフ は小・大道具の製作を行う。	キャストは振り付け、 首業練習、 スタッノ は舞台製作の準備をする。	30
	立ち稽古・舞台製作4	キャストは動作、表情をつけながらのレッスン、スタッフ		30
22	磯部・横溝・深谷	は小・大道具の製作を行う。	マストは振り刊り、自来練音、スタックは舞台製作の準備をする。	30
	立ち稽古・舞台製作5	キャストは動作、表情をつけながらのレッスン、スタッフ		30
23	磯部・横溝・深谷	は小・大道具の製作を行う。	は舞台製作の準備をする。	30
	立ち稽古・舞台製作6	キャストは動作、表情をつけながらのレッスン、スタッフ		30
24	磯部・横溝・深谷	は小・大道具の製作を行う。	は舞台製作の準備をする。	30
	立ち稽古・舞台製作7	キャストは動作、表情をつけながらのレッスン、スタッフ		30
25	磯部・横溝・深谷	は小・大道具の製作を行う。	は舞台製作の準備をする。	30
	立ち稽古・舞台製作8	キャストは動作、表情をつけながらのレッスン、スタッフ		30
26	磯部・横溝・深谷	は小・大道具の製作を行う。	は舞台製作の準備をする。	30
	立ち稽古・舞台製作9	キャストは動作、表情をつけながらのレッスン、スタッフ		30
27	磯部・横溝・深谷	は小・大道具の製作を行う。	は舞台製作の準備をする。	30
	立ち稽古・舞台製作10	キャストは動作、表情をつけながらのレッスン、スタッフ		30
28	磯部・横溝・深谷	は小・大道具の製作を行う。	は舞台製作の準備をする。	30
	中間発表準備1	中間発表であるもみじ会に向けて、キャストは身体・音楽		30
29	磯部・横溝・深谷	表現、スタッフは造形的表現の最終確認を行う。	練習、スタッフは舞台製作の準備をする。	
23				
	中間発表準備 2	中間発表であるもみじ会に向けて、キャストは身体・音楽	中間発表に向けキャストは振り付け、音楽	30
30	磯部・横溝・深谷	表現、スタッフは造形的表現の最終確認を行う。	練習、スタッフは舞台製作の準備をする。	
	中間発表準備3	中間発表であるもみじ会に向けて、キャストは身体・音楽	中間発表に向けキャストは振り付け、音楽	30
31	磯部・横溝・深谷	表現、スタッフは造形的表現の最終確認を行う。	練習、スタッフは舞台製作の準備をする。	
	中間発表準備4	中間発表であるもみじ会に向けて、キャストは身体・音楽	中間発表に向けキャストは振り付け、音楽	30
32	磯部・横溝・深谷	表現、スタッフは造形的表現の最終確認を行う。	練習、スタッフは舞台製作の準備をする。	
	中間発表振り返り	もみじ会の中間発表についてディスカッションを行う。	中間発表の振り返りをする。	30
33	磯部・横溝・深谷			
	音楽稽古・舞台製作1	中間発表の振り返りを踏まえ、キャスト、スタッフそれぞ	修正点について考察する。	30
34	磯部・横溝・深谷	れの修正を行う。		
	音楽稽古・舞台製作 1	中間発表の振り返りを踏まえ、キャスト、スタッフそれぞ	修正点について考察する。	30
35	磯部・横溝・深谷	れの修正を行う。		
2.5	音楽稽古・舞台製作 2	中間発表の振り返りを踏まえ、キャスト、スタッフそれぞ	修正点について考察する。	30
36	磯部・横溝・深谷	れの修正を行う。		
0=	音響機器研究 1	建学記念講堂の音響機器について操作方法等の説明を行	音響機器について情報を収集する。	30
37	磯部・横溝・深谷	う。		
00	音響機器研究 2	建学記念講堂の音響機器について操作方法等の説明を行	音響機器について情報を収集する。	30
38	磯部・横溝・深谷	う。		
	立ち稽古・舞台製作1	中間発表の修正点を踏まえ、身体的表現、音楽的表現、造	キャストは演技や振り付けを工夫し、音楽	30
39	磯部・横溝・深谷	形的表現を考察する。	練習も行う。スタッフは舞台製作の準備を	
			する。	
	•			

-授業内容とスケジュール-						
回	項目	授業内容	自学自習	目安時間		
	立ち稽古・舞台製作2	中間発表の修正点を踏まえ、身体的表現、音楽的表現、造	キャストは演技や振り付けを工夫し、音楽	30		
40	磯部・横溝・深谷	形的表現を考察する。	練習も行う。スタッフは舞台製作の準備を			
			する。			
	立ち稽古・舞台製作3	中間発表の修正点を踏まえ、身体的表現、音楽的表現、造	キャストは演技や振り付けを工夫し、音楽	30		
41	磯部・横溝・深谷	形的表現を考察する。	練習も行う。スタッフは舞台製作の準備を			
			する。			
	立ち稽古・舞台製作 4	中間発表の修正点を踏まえ、身体的表現、音楽的表現、造	キャストは演技や振り付けを工夫し、音楽	30		
42	磯部・横溝・深谷	形的表現を考察する。	練習も行う。スタッフは舞台製作の準備を			
			する。			
	通し稽古・舞台製作1	身体的表現、音楽的表現、造形的表現の最終確認を行い、	キャストは自己練習や場面毎の練習を行	30		
43	磯部・横溝・深谷	研究発表に向け総合舞台表現の完成度をチェックする。	い、表現力の向上を図る。スタッフは舞台			
75	200		製作の準備をする。			
	通し稽古・舞台製作 2	身体的表現、音楽的表現、造形的表現の最終確認を行い、	キャストは自己練習や場面毎の練習を行	30		
44	磯部・横溝・深谷	研究発表に向け総合舞台表現の完成度をチェックする。	い、表現力の向上を図る。スタッフは舞台	30		
44		WI 九九 花 八 四 以 心 口 舛 日 衣 光 い 儿 从 皮 で フェ ブ ノ す る 。	製作の準備をする。			
	無 /、 (株土	7本以三○○本本の無ハマー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		20		
45	舞台稽古・舞台製作1	建学記念講堂の舞台で、立ち位置、動き、小道具、舞台美術、音響、照明の確認を行う。		30		
45	磯部・横溝・深谷	例、自音、思明の確認を行う。	い、表現力の向上を図る。スタッフは舞台 の準備をする。			
	舞台稽古・舞台製作 2	建学記念講堂の舞台で、立ち位置、動き、小道具、舞台美		30		
46	磯部・横溝・深谷	術、音響、照明の確認を行う。	い、表現力の向上を図る。スタッフは舞台			
			の準備をする。			
47	舞台稽古・舞台製作3	建学記念講堂の舞台で、立ち位置、動き、小道具、舞台美	総合舞台表現の完成度をチェックする。	30		
77	磯部・横溝・深谷	術、音響、照明の確認を行う。				
48	舞台稽古・舞台製作4	建学記念講堂の舞台で、立ち位置、動き、小道具、舞台美	総合舞台表現の完成度をチェックする。	30		
40	磯部・横溝・深谷	術、音響、照明の確認を行う。				
40	舞台稽古・舞台製作 5	建学記念講堂の舞台で、立ち位置、動き、小道具、舞台美	総合舞台表現の完成度をチェックする。	30		
49	磯部・横溝・深谷	術、音響、照明の確認を行う。				
	舞台稽古・舞台製作 6	建学記念講堂の舞台で、立ち位置、動き、小道具、舞台美	総合舞台表現の完成度をチェックする。	30		
50	磯部・横溝・深谷	術、音響、照明の確認を行う。				
	まとめ、舞台リハーサル1	建学記念講堂の舞台で、立ち位置、動き、小道具、舞台美	総合舞台表現の完成度をチェックする。	60		
51	磯部・横溝・深谷	術、音響、照明の確認を行う。				
	まとめ、舞台リハーサル2	建学記念講堂の舞台で、立ち位置、動き、小道具、舞台美	総合舞台表現の完成度をチェックする。	60		
52	磯部・横溝・深谷	術、音響、照明の確認を行う。				
	まとめ、舞台リハーサル3	建学記念講堂の舞台で、立ち位置、動き、小道具、舞台美	振り返りを基に研究発表の準備をする。	60		
53	磯部・横溝・深谷	術、音響、照明の最終認を行う。	派 / 起 / と至に 別 / じん タ 平 師 と / も 。	00		
	まとめ、舞台リハーサル4	建学記念講堂の舞台で、立ち位置、動き、小道具、舞台美	振り返りを其に研究発表の準備をする	60		
54	磯部・横溝・深谷	術、音響、照明の最終確認を行う。	派り及りと坐に別元元衣の午頭とする。	00		
	卒業研究発表会	建学記念講堂で舞台発表を行う。	振り返りを基に研究発表の最終点検を行	60		
55	磯部・横溝・深谷	注于 心心 時主 ( 対口 光 次 で 1) 7。	う。	00		
		74世三0全井出マ毎4290 ままたこ				
56	卒業研究発表会	建学記念講堂で舞台発表を行う。	振り返りを基に研究発表の最終点検を行	60		
	磯部・横溝・深谷	74 24 - 7	7.			
57	卒業研究発表会	建学記念講堂で舞台発表を行う。 	振り返りを基に研究発表の最終点検を行	60		
	磯部・横溝・深谷		j.			
58	卒業研究発表会	建学記念講堂で舞台発表を行う。 	振り返りを基に研究発表の最終点検を行	60		
	磯部・横溝・深谷		う。			
59	『本文』『保育研究』のまとめ	『本文』『保育研究』をまとめ、提出できるよう準備を行	卒業論文をまとめる。	60		
- 55	磯部・横溝・深谷	う。				
	『本文」『保育研究』のまとめ	『本文』『保育研究』をまとめ、提出できるよう準備を行	卒業論文をまとめる。	60		
60	と自己評価	う。「自己確認シート」で自己評価を行う。				
	磯部・横溝・深谷					
•	•	•				

科目名	卒業研究	対象			
担当教員	草野 葉子	単位数	短期大学部 幼児教	育学科 2年 2単位 必修	
開講期	通年	必選			
授業概要	て、児童文化財や保育環境について作 会を持ち相互に高め合う。	作品制作過程から理解	を深めるとともに新た	制作を中心とした研究を行う。表現方法や素材活用の実験研究を通し -な提案をめざす。研究は個人またはグループで行い、研究経過報告の機 講評によるフィードバックを行います。	
達成目標	①テーマに基づき資料収集や制作実験に意欲的に取り組むことができる。 ②保育の視点に立ち、表現方法や素材に関する知識を深め、表現技術を向上させることができる。 ③独自の視点から研究テーマをとらえ、新たな取り組みを盛り込み研究を進化させることができる。 ④研究倫理を踏まえた上で、研究過程や成果を分かりやすくまとめて発表することができる。 単位認定の最低基準:上記4項目の内容について6割以上を満たしていること。 ディプロマ・ポリシーとの関係:保育内容の理解と総合的計画力・問題解決力・豊かな人間性と規範意識				
受講資格	幼児教育学科2年生。		成績評価	研究成果40点(作品・論文) 平常点60点(研究姿勢・意欲・貢献)	
教科書	教科書は使用せず、必要に応じて資料	斗等を印刷し配布する	•	1	
参考書	研究内容に応じて指示する。				
学生への要望	自ら課題をもって意欲的に取り組む。 資料収集、実験研究等について課外の時間を積極的に活用する。				
オフィスタイム	火曜から木曜 15:00~17:00 83年館2階823研究室。				

	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	研究課題を決めるI-①	関心ある研究テーマについて発表し、学生相互に意識を高めあうと共に学生自身の考えを明確にしていく。学生自身の現状と研究目標を「振り返りシート(start)」に記載し明確にする。	学生各自のテーマに関連する資料を収集する。 る。	30
2	研究課題を決めるI-②	関心ある研究テーマについて発表し、学生相互に意識を高めあうと共に学生自身の考えを明確にしていく。	1回と同様の活動。	30
3	研究課題を決めるⅡ-①	資料や参考作品の収集 - その1 資料等を紹介し、情報交換すると共に相互に刺激しあ う。各自の関心を視覚的にとらえることにより、研究課題 の焦点をより明確にしていく。	情報交換により得た新たな視点をもとに、 資料収集を継続する。	30
4	研究課題を決める II - ②	資料や参考作品の収集 - その1 資料等を紹介し、情報交換すると共に相互に刺激しあ う。各自の関心を視覚的にとらえることにより、研究課題 の焦点をより明確にしていく。	3回と同様の活動。	30
5	研究課題を決めるⅢ−①	資料や参考作品の収集 - その 2 前回より深化させた資料や参考作品を持ち寄り、研究 テーマを決める。	研究テーマに基づき、実験研究に参考となる具体的な資料を収集する。	30
6	研究課題を決めるⅢ−②	資料や参考作品の収集 - その 2 前回より深化させた資料や参考作品を持ち寄り、研究 テーマを決める。	5回と同様の活動。	30
7	研究活動の計画①	基礎研究・制作実験・中間発表(実践)・本制作を柱に活動計画を立てる。テーマに基づいた基礎研究を行う。	基礎研究体験をもとに、深化のための資料 収集を行う。	30
8	研究活動の計画②	基礎研究・制作実験・中間発表(実践)・本制作を柱に活動計画を立てる。テーマに基づいた基礎研究を行う。	7回と同様の活動。	30

	項目	- 授業内容とスケシュール- <b>授業内</b> 容	自学自習	
回	<b>境日</b> 論文書き方指導	放来内容 論文の書き方指導	前回の活動計画と卒業論文の構成を比較	<b>目安時間</b> 30
	- 一 一	◎研究の基本的進め方と論文の基本的構成について。	前回の活動計画と学未舗文の構成を比較 し、研究活動の方向性について確認検討す	30
		◎研究論理について。	る。	
9		© MI JURITURE CO CO		
	#7#7E00 I	TID TELEBRICA 2 0 任长人 0 大田 4 50 1 7 2 9 10 10 年 2 0 0	######################################	
	基礎研究Ⅰ	研究課題に関連する各種技法の表現体験と資料収集―その 1		60
		□ ○ 各種表現方法を体験し、表現に関する視野の拡大と技	内容を実現させる。また関係する資料等を収集する	
		術の基礎力を養う。	10.00	
10		◎関連分野の資料収集により研究課題に関する基礎知識		
		を養う。		
	基礎研究Ⅱ-①	研究課題に関連する各種技法の表現体験と資料収集―その	マスで計画  た基理実験の内容を実現させ	30
	至此明九11 ①	2	る。また関係する資料等の収集を継続して	30
		○   ○   ○   ○   ○   ○   ○   ○   ○   ○		
11		術の基礎力を養う。		
		◎関連分野の資料収集により研究課題に関する基礎知識		
		を養う。		
	基礎研究Ⅱ−②	研究課題に関連する各種技法の表現体験と資料収集―その	11回と同様の活動。	30
		2		
		◎各種表現方法を体験し、表現に関する視野の拡大と技		
12		術の基礎力を養う。		
		◎関連分野の資料収集により研究課題に関する基礎知識		
		を養う。		
	基礎研究Ⅲ-①	研究課題に関連する各種技法の表現体験と資料収集―その	基礎研究の結果として得たものをまとめあ	30
		3	げ、次回の視覚化に向けて使用素材を準備	
		◎各種表現方法を体験し、表現に関する視野の拡大と技	する。	
13		術の基礎力を養う。		
		◎関連分野の資料収集により研究課題に関する基礎知識		
		を養う。		
		◎各自の研究課題を軸に基礎研究をまとめる。		
	基礎研究Ⅲ−②	研究課題に関連する各種技法の表現体験と資料収集―その	13回と同様の活動。	30
		3		
		◎各種表現方法を体験し、表現に関する視野の拡大と技		
14		術の基礎力を養う。		
		◎関連分野の資料収集により研究課題に関する基礎知識を養う。		
		◎各自の研究課題を軸に基礎研究をまとめる。		
	_			
	制作実験   -①	課題を具体化する一その1	この回で実験目標とした内容を実現させ	30
15		基礎研究をもとに研究課題の構想を具体化し制作実験す	<b>ప</b> .	
	44.7. ± 55.	3.		
1.0	制作実験   -②	課題を具体化する一その1 基礎研究をもとに研究課題の構想を具体化し制作実験す	15回と同様の内容。	30
16		基礎研究をもこに研究課題の構想を具体化し制TF美級 9 る。		
	制作実験Ⅱ-①	**。	15回と同様の内容。	30
17	前11天殿11一口	制作実験の継続。	15回と同僚の内谷。	30
	制作実験 II - ②	課題を具体化する一その2	15回と同様の内容。	30
18		制作実験の継続。	ाजा टानास्कानकः	30
	制作実験Ⅲ−①	課題を具体化する一その③	15回と同様の内容。	30
19		制作実験の継続。		30
	制作実験Ⅲ-②	課題を具体化する一その③	15回と同様の内容。	30
20		制作実験の継続。		30
	制作実験IV-①	課題を具体化する一その④	基礎研究で取組んだ内容を発表できるよう	30
21		研究経過報告会に向けて制作実験結果をまとめる。	完成させる。	
	制作実験IV-②	課題を具体化する―その④	21回と同様の活動。	30
22		研究経過報告会に向けて制作実験結果をまとめる。		
De-				

23 制作 24 制作 中間 25 中間 26 中間 27 中間 28 中間 30 制作 31 制作	項目 作実験 V - ① 作実験 V - ② 間発表 I - ① 間発表 II - ② 間発表 III - ②	授業内容  課題を視覚化する一その⑤「研究経過報告会」 制作実験結果を相互に発表し講評しあう。  課題を視覚化する一その⑤「研究経過報告会」 制作実験結果を相互に発表し講評しあう。  研究成果の中間発表の実施計画。 ⑥「研究経過報告会」の結果を基に、中間発表の目的を明確にする。 ⑥中間発表の方法について具体化し、準備を行う。  研究成果の中間発表の実施計画。 ⑥「研究経過報告会」の結果を基に、中間発表の目的を明確にする。 ⑥中間発表の方法について具体化し、準備を行う。  研究中間発表を行う。 ⑥中間発表を行う。 ⑥研究過程を実験作品としてまとめ、学園行事や実習において実践する。 ⑥中間発表目的に基づき結果を記録する。  研究中間発表を行う。 ⑥研究過程を実験作品としてまとめ、学園行事や実習において実践する。 ⑥中間発表目的に基づき結果を記録する。  中間発表の結果と考察。 中間発表の結果と考察。 中間発表の結果と考察。 中間発表記録をもとに研究内容の検討と考察を行う。	25回と同様の活動。 中間発表の記録を次回の結果報告に向けて	30
23 制作 24 制作 中間 25 中間 26 中間 27 中間 28 中間 30 制作 31 制作	作実験 V - ② 間発表 I - ① 間発表 II - ① 間発表 II - ②	制作実験結果を相互に発表し講評しあう。  課題を視覚化する一その⑤「研究経過報告会」 制作実験結果を相互に発表し講評しあう。 研究成果の中間発表の実施計画。 ⑥「研究経過報告会」の結果を基に、中間発表の目的を明確にする。 ⑥中間発表の方法について具体化し、準備を行う。  研究成果の中間発表の実施計画。 ⑥「研究経過報告会」の結果を基に、中間発表の目的を明確にする。 ⑥中間発表の方法について具体化し、準備を行う。  研究中間発表の方法について具体化し、準備を行う。  研究中間発表を行う。 ⑥中間発表を行う。 ⑥中間発表目的に基づき結果を記録する。  研究中間発表を行う。 ⑥中間発表を行う。 ⑥中間発表を行う。 ⑥中間発表を行う。 ⑥・中間発表を行う。	できるようまとめる。  23回と同様の内容。 計画に基づき、中間発表の環境設定等準備を完了させる。  25回と同様の活動。  中間発表の記録を次回の結果報告に向けて整理する。  27回と同様の活動。  中間発表の結果と考察をもとに、本研究に	30 30 30 30 30
24 中間 25 中間 26 中間 27 中間 28 中間 30 制作 31 制作 32 制作	間発表   -①  間発表   -②  間発表   -②  間発表   -②	制作実験結果を相互に発表し講評しあう。 研究成果の中間発表の実施計画。 ②「研究経過報告会」の結果を基に、中間発表の目的を明確にする。 ③中間発表の方法について具体化し、準備を行う。  研究成果の中間発表の実施計画。 ③「研究経過報告会」の結果を基に、中間発表の目的を明確にする。 ③中間発表の方法について具体化し、準備を行う。  研究中間発表を行う。 ③研究過程を実験作品としてまとめ、学園行事や実習において実践する。 ③中間発表目的に基づき結果を記録する。 研究中間発表を行う。  ③研究過程を実験作品としてまとめ、学園行事や実習において実践する。 ③中間発表目的に基づき結果を記録する。  中間発表目的に基づき結果を記録する。  中間発表目的に基づき結果を記録する。  中間発表記録をもとに研究内容の検討と考察を行う。	計画に基づき、中間発表の環境設定等準備を完了させる。  25回と同様の活動。  中間発表の記録を次回の結果報告に向けて整理する。  27回と同様の活動。  中間発表の結果と考察をもとに、本研究に	30
25 中間 26 中間 27 中間 27 中間 30 中間 31 制作 32 制作	間発表   -②	②「研究経過報告会」の結果を基に、中間発表の目的を明確にする。 ②中間発表の方法について具体化し、準備を行う。  研究成果の中間発表の実施計画。 ③「研究経過報告会」の結果を基に、中間発表の目的を明確にする。 ③中間発表の方法について具体化し、準備を行う。  研究中間発表を行う。 ③研究過程を実験作品としてまとめ、学園行事や実習において実践する。 ③中間発表目的に基づき結果を記録する。  研究中間発表を行う。 ③研究過程を実験作品としてまとめ、学園行事や実習において実践する。 ③中間発表目的に基づき結果を記録する。  中間発表目的に基づき結果を記録する。  中間発表目的に基づき結果を記録する。  中間発表記録をもとに研究内容の検討と考察を行う。	を完了させる。  25回と同様の活動。  中間発表の記録を次回の結果報告に向けて 整理する。  27回と同様の活動。  中間発表の結果と考察をもとに、本研究に	30
26 中間 27 中間 28 中間 30 中間 31 制作 32 制作	間発表    一① 間発表    一② 間発表     一①	<ul> <li>◎「研究経過報告会」の結果を基に、中間発表の目的を明確にする。</li> <li>◎中間発表の方法について具体化し、準備を行う。</li> <li>研究中間発表を行う。</li> <li>◎研究過程を実験作品としてまとめ、学園行事や実習において実践する。</li> <li>◎中間発表目的に基づき結果を記録する。</li> <li>研究過程を実験作品としてまとめ、学園行事や実習において実践する。</li> <li>◎中間発表目的に基づき結果を記録する。</li> <li>中間発表目的に基づき結果を記録する。</li> <li>中間発表の結果と考察。</li> <li>中間発表記録をもとに研究内容の検討と考察を行う。</li> </ul>	中間発表の記録を次回の結果報告に向けて整理する。 27回と同様の活動。 中間発表の結果と考察をもとに、本研究に	30
27 中間 28 中間 29 中間 30 制作 31 制作	間発表 II −② 間発表 III −①	②研究過程を実験作品としてまとめ、学園行事や実習において実践する。 ②中間発表目的に基づき結果を記録する。 研究中間発表を行う。 ③研究過程を実験作品としてまとめ、学園行事や実習において実践する。 ③中間発表目的に基づき結果を記録する。 中間発表目的に基づき結果を記録する。 中間発表の結果と考察。 中間発表記録をもとに研究内容の検討と考察を行う。	整理する。 27回と同様の活動。 中間発表の結果と考察をもとに、本研究に	30
28 中間 29 中間 30 中間 31 制作 32 制作	間発表Ⅲ-①	<ul><li>◎研究過程を実験作品としてまとめ、学園行事や実習において実践する。</li><li>◎中間発表目的に基づき結果を記録する。</li><li>中間発表の結果と考察。</li><li>中間発表記録をもとに研究内容の検討と考察を行う。</li></ul>	中間発表の結果と考察をもとに、本研究に	
29 中間 30 制作 31 制作 32		中間発表記録をもとに研究内容の検討と考察を行う。		30
30 制作 31 制作 32	間発表Ⅲ-②	中間改まのは用し来席	1	
31 制作32		中間発表の結果と考察。 中間発表記録をもとに研究内容の検討と考察を行う。	29回と同様の活動。	30
32 制作	/̄ϝ I − ①	中間発表の検討考察をもとに本制作の構想を具体化する。 本制作の構想を発表し相互に講評を行い、研究内容をよ り充実させる。	中間発表の結果と考察から得た、本研究構想に関する資料の収集と実験材料の準備。	30
制作	作 I -②	中間発表の検討考察をもとに本制作の構想を具体化する。 本制作の構想を発表し相互に講評を行い、研究内容をよ り充実させる。	31回と同様の活動。	30
33	<b>/</b> F∥−①	本制作構想に基づき各自制作する。	ここで計画した内容を実現させる。参考と なる資料と素材を収集する。	30
34 制作	作    一②	本制作構想に基づき各自制作する。	33回と同様の活動。	30
35 制作	作   -①	本制作構想に基づき各自制作する。	33回と同様の活動。	30
36 制作	作III - ②	本制作構想に基づき各自制作する。	33回と同様の活動。	30
37 制作	作IV - ①	本制作構想に基づき各自制作する。	33回と同様の活動。	30
38 制作	作IV - ②	本制作構想に基づき各自制作する。	33回と同様の活動。	30
39 制作	/̄F V − ①	本制作構想に基づき各自制作する。	完成予定を見据えて計画した段階までを実 現させる。	30
40 制作	作V -②	本制作構想に基づき各自制作する。	39回と同様の活動。	30
41 制作	/FVI - ①	本制作構想に基づき各自制作する。	39回と同様の活動。	30
42 制作	作VI - ②	本制作構想に基づき各自制作する。	39回と同様の活動。	30
43 制作	″ŧVII − ①	作品を完成させる。	不十分な点を確実に完成させる。	30
44 制作	作VII - ②	作品を完成させる。	43回と同様の活動。	30
制作 45	/FVIII — ①	完成作品の相互発表をする。 作品を相互に発表し、異なる視点からの助言を通して作 品を見直す。	助言をもとに具体的な対策と方法を検討する。必要に応じて素材を準備する。	30
46	VIII-② 完成作品の相互発表をする。 45回と同様の内容。 作品を相互に発表し、異なる視点からの助言を通して作品を見直す。			30
47 制作		<u>担方及まれ受け作りのチボート目の7世</u> コナナマ	作品を完成させる。	30
48 制作	/̄εΙX − ①	相互発表を受け作品の手直しと最終確認をする。		30

	-授業内容とスケジュール-					
回	項目	授業内容	自学自習	目安時間		
49	論文書き方指導 II	論文の書き方指導Ⅱ ◎本文、「保育研究」の原稿の書き方指導。	論文に必要な研究資料や情報を確認し準備 する。	30		
	研究まとめI	◎研究題目等の調査及び提出用USB配布。 書き方指導を基に発表原稿を作成する。	発表に必要な資料等を整える	60		
50		◎研究経過及び成果をわかりやすく順序だてて整理する。				
		◎資料写真の確認と撮影。				
	研究まとめⅡ−①	卒業研究発表の準備及び発表練習。 研究結果をパワーポイントにまとめ、発表原稿とあわせ	作品の発表方法とパワーポイント内容の手 直しをする。	30		
51		て練習を行う。				
	研究まとめⅡ-②	卒業研究発表の準備及び発表練習。 研究結果をパワーポイントにまとめ、発表原稿とあわせ	51回と同様の活動。	30		
52		で練習を行う。				
F2	研究まとめ   -①	卒業研究発表会	発表を振り返り、反省や他者からの学びを	30		
53		研究成果を作品と共に発表する。	まとめる。			
54	研究まとめⅢ−②	卒業研究発表会 研究成果を作品と共に発表する。	53回と同様の活動。	30		
55	研究まとめIV-①	卒業研究結果のまとめ-その① 研究過程と結果を文章及び写真資料等によりわかりやす	この回で計画したことを確実に行い終了させる。	30		
		く整理し研究論文にまとめる。				
56	研究まとめⅣ−②	卒業研究結果のまとめ-その① 研究過程と結果を文章及び写真資料等によりわかりやす <整理し研究論文にまとめる。	56回と同様の活動。	30		
	研究まとめV-①	卒業研究結果のまとめ-その② ②研究過程と結果を文章及び写真資料等によりわかりや	56回と同様の活動。	30		
57		すく整理し研究論文にまとめる。 ②研究論文を基に、卒業研究要旨集「保育研究」の原稿 を指定書式により作成する。				
	研究まとめV‐②	卒業研究結果のまとめ-その② ②研究過程と結果を文章及び写真資料等によりわかりや	56回と同様の活動。	30		
58		すく整理し研究論文にまとめる。 ◎研究論文を基に、卒業研究要旨集「保育研究」の原稿 を指定書式により作成する。				
	研究まとめVI - ①	研究論文と卒業研究要旨集「保育研究」の最終確認。	この回で計画したことを確実に行い終了さ	30		
	WINESCO VI	◎論文内容及び書式の最終確認をする。 ◎研究論文は配布のUSBメモリへ入れ、「保育研究」は印	せる。	55		
59		刷して提出。				
	研究まとめVI-②	研究論文と卒業研究要旨集「保育研究」の最終確認。	卒業研究の本文・保育研究の内容確認を行	30		
		◎論文内容及び書式の最終確認をする。 ◎研究論文は配布のUSBメモリへ入れ、「保育研究」は印刷して提出。	い、所定の時間に遅れず提出する。			
60		◎ 「振り返りシート(end) 」により研究活動の振り返りと 自己評価を行う。				

科目名	卒業研究	対象					
担当教員	山上 裕子	単位数	短期大学部 幼児教	育学科 2年 2単位 必修			
開講期	通年	必選					
NI MASA1	保育活動で使用するさまざまな「モノ」(絵本、玩具、遊具等)を手がかりにして、保育の世界を探究する。例えば、「モノ」の誕生の背景やその役						
				1る。文献だけでなく実際幼稚園を訪れて、実地調査もおこないたい。			
				を進める上での研究倫理など、研究方法の基礎も合わせて指導する。最終			
授業概要	授業で全体に対するフィードバックを			では、			
	技表 (*王)4に対するノイートハックを行う。						
	位置づけ・水準 CE2276						
	位置 JVV・水準 CLZZTO	<u>                                    </u>					
	本科目は、・ディプロマ・ポリシーの	「保育の内容理解と終	総合的計画力」「問題	<b>夏解決力」「豊かな人間性と規範意識」に対応している。</b>			
達成目標	①保育に関する課題を自ら設定し、年間を通して課題と向き合う。						
	②課題を解決するための方法を、7割以上身に付ける。その際、研究倫理について学ぶ。						
	③保育の世界を広げるとともに、保育への理解を深める。						
	幼児教育学科2学年		成績評価	平常点(60点)、研究成果(40点:研究発表、本文、『保育研			
受講資格			方法	究』原稿)			
教科書	特に指定はしない。						
参考書	適時、紹介する。						
学生への要望	どんな小さなことでもよいので、疑問に思ったことをメモとること。						
	木曜日:14:30~16:00						
	木曜日:14:30~16:00						
	木曜日:14:30~16:00 金曜日:14:30~16:00 (III	期)					
オフィスタイム							

	-授業内容とスケジュール-					
回	項目	授業内容	自学自習	目安時間		
	オリエンテーション	授業の内容、進め方、評価について説明を聞く。何を研究したいのかを出し合う。「自己確認シート」の記入をす	目身が研究したいことを確認する。	30		
1		る。				
	T中の株士 1			2/		
2	研究の模索 1	過去の研究冊子『保育研究』を調査し、自身の興味の方向を定めていく。	日身の興味関心のめる情報を採す。	30		
3	研究の模索 2	図書館で資料を検索し、自身の興味の方向を定めていく。	自身の興味関心のある情報を探す。	30		
3		研究ノートの記載の仕方を知る。				
4	研究の模索 3	図書館で資料を検索し、研究ノートに記載していく。	自身の興味関心のある情報を探す。	30		
5	研究の模索 4	自身のテーマの方向性をまとめる。	自身の研究の方向性のまとめを進める。	30		
6	研究の確認 その1	これまでの資料収集の結果を報告する。	報告資料をそろえ、研究の方向を調整す	30		
-			る。			
7	研究の方法 1	書誌情報の整理の仕方、インターネット情報の検索結果の	自己の興味関心のある情報を探す。	30		
		整理の方法を知る。				
8	研究の方法 2 研究ノートに整理をしていく。		研究ノート整理をする。	30		
9	研究を進める 1	研究ノートをもとに、これからの研究計画を立てる。	研究ノート整理をする。	30		
10	研究を進める 2	研究計画について発表する。	計画を練る。	30		
11	研究を進める 3	資料の整理を引き続き行う。	自己の興味関心のある情報を探す。	30		
12	研究を進める 4	資料の整理を引き続き行い、ノートに整理する。	自己の興味関心のある情報を探す。	30		
13	研究の確認 その2	研究の進捗状況を確認し合う。	研究ノート整理をする。	30		
1.4	研究を進める 5	報告をとおして、研究の方向性を修正していく。	報告資料をそろえ、研究の方向を調整す	30		
14			3.			
15	テーマの決定 1	研究の仮テーマを考える。	研究の方向を調整する。	30		
16	テーマの決定と計画の修正	研究テーマに沿った計画に修正する。	研究ノート整理をする。	30		
17	研究を進める 6	文献を読み進める。	テーマに沿った情報を取集する。	30		
18	研究を進める 7	文献を読み進める。	テーマに沿った情報を取集する。	30		
19	研究を進める 8	引き続き、文献を読み進める。	テーマに沿った情報を取集する。	30		
20	研究を進める 9	引き続き、文献を読み進める。	テーマに沿った情報を取集する。	30		
21	研究を進める 10	文献の整理をする。	テーマに沿った情報を取集する。	30		
22	研究を進める 11	文献の整理をする。	テーマに沿った情報を取集する。	30		
23	研究の確認 その3	これまでの研究の進度を報告し、研究内容を確かめる。	研究の方向を調整する。	30		
24	研究を進める 12	研究内容の充実のための計画を練り直す。	研究の方向を調整する。	30		
25	研究を進める 13	研究テーマを絞りこむ。	テーマに沿った情報を取集する。	30		

	-授業内容とスケジュール-						
回	項目	授業内容	自学自習	目安時間			
26	テーマの確認 テーマを確認すると同時に、新たな課題を確		テーマに沿った情報を取集する。	30			
27	中間発表の計画 1	卒業研究の中間発表の場である、もみじ会に向けた準備を 考える。	研究ノート整理をする。	30			
28	中間発表の計画 2	もみじ会に向けた準備の計画をたてる。	もみじ会の準備を進める。	30			
29	中間発表の準備 1	もみじ会の準備を始める。	もみじ会の準備を進める。	30			
30	中間発表の準備 2	もみじ会の準備を始める。	もみじ会の準備を進める。	30			
31	中間発表の準備 3	もみじ会の準備を進める。	もみじ会の準備を進める。	30			
32	中間発表の準備 4	もみじ会の準備を進める。	もみじ会の準備を進める。	30			
33	研究を進める 14	収集した資料の内容を整理する。	研究ノートを振り返る。	30			
34	研究を進める 15	取集した資料の内容をまとめていく。	研究の方向を調整する。	30			
35	論文の執筆 1	研究発表会、本文、『保育研究』のフォーマットを知り、 論文作成の準備を始める。	執筆の計画を考える。	30			
36	論文の執筆 2	研究発表会、本文、『保育研究』の提出に関して知り、今 後の計画を立てる。	執筆の計画を考える。	30			
37	論文の執筆 3	論文の執筆を始める。	執筆する。	30			
38	論文の執筆 4	論文の執筆を始め、適宜指導を受ける。	執筆する。	30			
39	論文の執筆 5	論文の執筆を進める。	執筆する。	30			
40	論文の執筆 6	論文の執筆を進める。	執筆する。	30			
41	論文の執筆 7	進捗状況を確認し、指導を受ける。	執筆する。	30			
42	論文の執筆 8	指導に応じた執筆をする。	執筆する。	30			
43	論文の執筆 9	引き続き、論文を執筆する。	執筆する。	30			
44	論文の執筆 10	引き続き、論文を執筆する。	執筆する。	30			
45	論文の執筆 11	よりよいものになるように、写真や図などを効果的に取り 入れていく。	執筆する。	30			
46	論文の執筆 12	写真や図などを効果的に取り入れて行く。	執筆する。	30			
47	論文の執筆 13	本文、『保育研究』の原稿の仕上げをしていく。	執筆する。	30			
48	論文の執筆 14	本文、『保育研究』の原稿の仕上げをしていく。	執筆する。	30			
49	卒業研究発表会の準備 1	発表用のパワーポイントの原稿を作成する。	パワーポイントの作成をする。	60			
50	卒業研究発表会の準備 2	パワーポイントの原稿を作成する。	パワーポイントの作成をする。	60			
51	卒業研究発表会の準備 3	研究発表会の準備を進める。	パワーポイントの作成をする。	60			
52	卒業研究発表会の準備 4	原稿を読み上げ、声の出し方、読む速度など確認する。	発表の練習をする。	60			
53	卒業研究発表会リハーサル 1	機材を実際に操作し、不備がないか確かめる。 他の研究分野と協力して、よりよい発表会にするための準 備を行う。	発表の練習をする。	60			
54	卒業研究発表会リハーサル 2	よりよい発表会にするための準備を行う。	発表の練習をする。	60			
55	卒業研究発表会 1	卒業研究のこれまでの成果をプレゼンテーションする。	発表の準備をし、振り返る。	30			
56	卒業研究発表会 2 卒業研究のこれまでの成果をプレゼンテーションする。		発表の準備をし、振り返る。	30			
57	卒業研究発表会 3	他の分野の研究成果を聴き、学ぶ。	自身の発表と比較する。	30			
58	卒業研究発表会 4	他の分野の研究成果を聴き、学ぶ。	自身の発表と比較する。	30			
59	まとめ 1	提出に向けて、本文と『保育研究』の原稿を仕上げる。	原稿を。よりよいものに仕上げる。	30			
60	まとめ 2	「自己確認シート」の記入をとおして、これまでの卒業研 究で学んだことを確認する。	原稿を。よりよいものに仕上げる。自身の 成長を確かめる。	30			

令和5年度	1	T	<u> </u>			
科目名	卒業研究	対象				
担当教員	一柳 智子	単位数	短期大学部 幼児教育	育学科 2年 2単位 必修		
開講期	通年	必選				
	建学の精神である「尊敬・責任・自由」の理念を追求し、グループ活動での協調性を大切にし、各人が積極的に表現運動に関わる活動をする					
	制作に関しては、お互いのアイディアを出し合い、発表会や論文の提出に向け、共同作業での実践力を身に付ける。					
授業概要	5月と10月に、第一回論文の書き方指導、第二回論文の書き方指導を1コマずつ行うこと。					
	第一回目(5月)の論文の書き方指導の	の内容に、研究倫理に	について学ぶこと。			
	位置づけ・水準 CE2270					
	1. 保育者に必要な協調性およびグル・	ープをまとめる能力の	の養成。			
	2. 幼児教育における身体表現の開発を目的とした運動経験的指導力の養成。					
達成目標	3. 自己の心身の健康を意識すること及び幼児の心身の健康育成の指導のための知識と経験を得る。					
	単位認定の基準は:内容の7割を理解していること。					
	ディプロマ・ポリシーとの関係:総合的計画力、人間性と規範意識、問題解決力					
	幼児教育学科2年生			平常点60点(取り組みの姿勢、意欲、態度、他との協力、チームへの		
受講資格			成績評価	貢献度、担当の係)		
			方法	成果40点(研究発表、本文、『保育研究』原稿)		
教科書	特になし					
参考書	適宜紹介する					
	熱心に授業に取り組むことはもちろんのこと、グループ活動では主体的に関わりながら、協調性をもって積極的に活動することが重要である。					
	①先行研究の検討					
	②題材、テーマ、ストーリーの創作					
学生への要望	③振付創作、曲の選択					
	④実技活動(自学自習としてストレッチ等を怠らない)					
	⑤発表会の運営と実践					
	⑥卒業論文の作成と「保育研究」冊子の原稿作成と提出					
	木曜日 Ⅲ限目 (12:50~14:20)					
オフィスタイム	Ⅳ限目(14:30~16:00)					
	825研究室(一柳)					

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業ガイダンス	幼児用のダンスまたはダンス作品を制作するにあたっての ガイダンス。 「自己確認シート」を通して自己評価をする。	ストレッチ	30
2	授業ガイダンス	幼児用のダンスまたはダンス作品を制作するにあたっての 先行資料研究。	ストレッチ	30
3	研究テーマの構想と1年間の研究の流れについて	幼児用のダンスまたはダンス作品を制作するにあたっての 先行資料研究。リーダー等の諸係を選出する。係が決まっ たら、リーダー・サブリーダーを中心に作品創作に向け て、相互に討論を行う。 本授業は、基本的に全員の分担によるグループワークであ る。 もみじ会の発表は中間発表的位置づけをする。それを土台 として、講堂大ホールにおける卒業研究発表会への準備・ 修正を行う。	ストレッチ	30
4	研究テーマの構想について	幼児用のダンスまたはダンス作品制作するにあたっての先 行資料研究。研究テーマ、ストーリーなど構想を練る。 グループ分けをする。	ストレッチ	30
5	ダンス作品コンセプトの決定	幼児用のダンスまたはダンス作品制作。相互に出た案を基 に一つのストーリーの概略を創り上げる。	ストレッチ	30
6	ダンス作品コンセプトの決定	幼児用のダンスまたはダンス作品制作。 相互に出た案を基に一つのストーリーの概略を創り上げ る。	ストレッチ	30
7	ダンス作品コンセプトの完成	幼児用のダンスまたはダンス作品制作。 出来上がったストーリーの場面構成と感情抽出を行い、 キャストをどうするか相談する。	ストレッチ	30
8	ダンス作品コンセプトの完成	幼児用のダンスまたはダンス作品制作。 出来上がったストーリーの場面構成と感情抽出を行い、 キャストをどうするか相談する。	ストレッチ	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	役割分担,選曲	幼児用のダンスまたはダンス作品制作。 選曲をどうするか的を絞る。	ストレッチ	30
10	役割分担,選曲	幼児用のダンスまたはダンス作品制作。 選曲をどうするか的を絞る。	ストレッチ	30
11	リズミカルな身体作りの実践	幼児用のダンスまたはダンス作品制作。 ステップワーク, リズミカルな身体作りと身体表現の基礎 運動を実施する。	ストレッチ	30
12	リズミカルな身体作りの実践	幼児用のダンスまたはダンス作品制作。 ステップワーク, リズミカルな身体作りと身体表現の基礎 運動を実施する。	ストレッチ	30
13	即興表現、振り付け、選曲	幼児用のダンスまたはダンス作品制作。 即興表現と振り付けによる創作活動を行う。	ストレッチ	30
14	即興表現,振り付け、選曲	幼児用のダンスまたはダンス作品制作。 即興表現と振り付けによる創作活動を行う。	ストレッチ	30
15	創作活動	幼児用のダンスまたはダンス作品制作。 共通のキャスト同士で振付を創作する。 第1グループが子どもたちとの実践活動を行う。	ストレッチ	30
16	創作活動・脚本作成・衣装考案	幼児用のダンスまたはダンス作品製作 衣装考案、振り付け創作を進める。	ストレッチ	30
17	創作活動・脚本作成・衣装考案	幼児用のダンスまたはダンス作品制作 選曲したものに振付を創作する。 第2グループが、子どもたちとの実践活動を実施する。	ストレッチ	30
18	創作活動・脚本作成・衣装考案	幼児用のダンスまたはダンス作品制作 選曲したものに振付を創作する。	ストレッチ	30
19	創作活動・脚本作成・衣装考案	幼児用のダンスまたはダンス作品制作 衣装考案、振り付け創作を進める。	ストレッチ	30
20	創作活動・脚本作成・衣装考案	幼児用のダンスまたはダンス作品制作 衣装考案、振り付け創作を進める。	ストレッチ	30
21	創作活動・脚本作成・衣装考案	幼児用のダンスまたはダンス作品制作 衣装考案、振り付け創作を進める。	ストレッチ	30
22	創作活動・脚本作成・衣装考案	幼児用のダンスまたはダンス作品制作 衣装考案、振り付け創作を進める。	ストレッチ	30
23		幼児用のダンスまたはダンス作品制作 衣装考案、大道具考案、振り付け創作を進める。	ストレッチ	30
24		幼児用のダンスまたはダンス作品制作 衣装考案、大道具考案、振り付け創作を進める。	ストレッチ	30
25		幼児用のダンスまたはダンス作品制作 前回と同様に進める。舞台を発表の工夫と研究。	ストレッチ	30
26		幼児用のダンスまたはダンス作品制作 前回と同様に進める。舞台を発表の工夫と研究。	ストレッチ	30
27		幼児用のダンスまたはダンス作品制作 前回同様に進める。舞台を発表の工夫と研究。	ストレッチ	30
28		幼児用のダンスまたはダンス作品制作。 前回同様に進める。舞台を発表の工夫と研究。	ストレッチ	30
29		幼児用のダンスまたはダンス作品制作。 前回同様に進める。照明や舞台装置の工夫をする。	ストレッチ	30
30		幼児用のダンスまたはダンス作品制作。 前回同様に進める。照明や舞台装置の工夫をする。	ストレッチ	30
31	衣装制作・舞台大道具考案・創 作 もみじ会中間発表	もみじ会中間発表と反省会。	ストレッチ	30
32	衣装制作・舞台大道具考案・創 作 もみじ会中間発表	もみじ会中間発表と反省会。	ストレッチ	30

		- 授業内容とスケジュール- 	<del>-</del>	
回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
33	卒業研究機材説明会	記念講堂大ホールの照明や舞台装置の使用法を学習する。	ストレッチ	30
34	卒業研究機材説明会	記念講堂大ホールの照明や舞台装置の使用法を学習する。	ストレッチ	30
35	卒業論文の準備・発表会の準備	幼児用のダンスまたはダンス作品制作。 卒業論文の準備と役割を分担する。卒業研究発表会に向け ての準備をする。	ストレッチ	30
36	卒業論文の準備・発表会の準備	幼児用のダンスまたはダンス作品制作。 卒業論文の準備と役割を分担する。卒業研究発表会に向け ての準備をする。	ストレッチ	30
37	卒業研究発表会に向けての準 備・卒業論文作成	幼児用のダンスまたはダンス作品制作。 卒業研究発表会に向けて舞台練習を進める。卒業論文を作 成する。	ストレッチ	30
38	卒業研究発表会に向けての準 備・卒業論文作成	幼児用のダンスまたはダンス作品制作。 卒業研究発表会に向けて舞台練習を進める。卒業論文を作 成する。	ストレッチ	30
39	卒業研究発表会に向けての準 備・練習	幼児用のダンスまたはダンス作品制作。 卒業研究発表会に向けて舞台練習を進める。卒業論文を作 成する。	ストレッチ	30
40	卒業研究発表会に向けての準 備・練習	幼児用のダンスまたはダンス作品制作。 卒業研究発表会に向けて舞台練習を進める。卒業論文を作 成する。	ストレッチ	30
41	卒業研究発表会に向けての準 備・VTR制作	幼児用のダンスまたはダンス作品踊りこみ。 卒業研究発表会に向けて舞台練習を進める。	ストレッチ	30
42	卒業研究発表会に向けての準 備・VTR制作	幼児用のダンスまたはダンス作品踊りこみ。 卒業研究発表会に向けて舞台練習を進める。	ストレッチ	30
43	卒業研究発表会に向けての準備 と練習・卒業論文の準備	幼児用のダンスまたはダンス作品踊りこみ。 卒業研究発表会に向けての準備と練習・卒業論文の準備・ 役割分担を明確にして進める。	ストレッチ	30
44	卒業研究発表会に向けての準備 と練習・卒業論文の準備	幼児用のダンスまたはダンス作品踊りこみ。 卒業研究発表会に向けての準備と練習・卒業論文の準備・ 役割分担を明確にして進める。	ストレッチ	30
45	卒業研究発表会に向けての準備 と練習・卒業論文の準備	幼児用のダンスまたはダンス作品踊りこみ。 卒業研究発表会に向けての準備と練習・卒業論文の準備・ 役割分担を明確にして進める。	ストレッチ	30
46	卒業研究発表会に向けての準備 と練習・卒業論文の準備	幼児用のダンスまたはダンス作品 卒業研究発表会に向けての準備と練習・卒業論文の準備・ 役割分担を明確にして進める。	ストレッチ	30
47	卒業論文の作成・卒業研究発表 会の準備と練習	幼児用のダンスまたはダンス作品踊りこみ。 卒業論文の作成・卒業研究発表会の準備と練習を進める。	ストレッチ	30
48	卒業論文の作成・卒業研究発表 会の準備と練習	幼児用のダンスまたはダンス作品踊りこみ。 卒業論文の作成・卒業研究発表会の準備と練習を進める。	ストレッチ	30
49	卒業論文の作成・卒業研究発表 会の準備と練習	幼児用のダンスまたはダンス作品踊りこみ。 卒業論文の作成・卒業研究発表会の準備と練習を進める。	ストレッチ	30
50	卒業論文の作成・卒業研究発表 会の準備と練習	幼児用のダンスまたはダンス作品踊りこみ。 卒業論文の作成・卒業研究発表会の準備と練習を進める。	ストレッチ	30
51		幼児用のダンスまたはダンス作品踊りこみ。 保育研究冊子原稿の作成と、一致協力して発表会に向けて の踊り込みを進める。	ストレッチ	30
52	保育研究冊子原稿の作成・卒業 研究発表会に向けての踊り込み	幼児用のダンスまたはダンス作品踊りこみ。 保育研究冊子原稿の作成と、一致協力して発表会に向けて の踊り込みを進める。	ストレッチ	30
53	卒業研究発表会に向けての準 備・踊り込み1回目リハーサル	幼児用のダンスまたはダンス作品踊りこみ。 卒業研究発表会に向けての準備・踊り込みを徹底する。	ストレッチ	30

	-授業内容とスケジュール-				
回	項目	授業内容	自学自習	目安時間	
54	卒業研究発表会に向けての準備・踊り込み2回目リハーサル	幼児用のダンスまたはダンス作品踊りこみ。 卒業研究発表会に向けての準備・踊り込みを徹底する。	ストレッチ	30	
55	卒業研究発表会に向けての準備・踊り込み2回目リハーサル,卒業論文・保育研究冊子の原稿作成	幼児用のダンスまたはダンス作品完成。 前回同様に進め、完成度を高める。卒業論文・保育研究冊子 の原稿作成も同時に進める。	ストレッチ	30	
56	卒業研究発表会に向けての準備・踊り込み3回目リハーサル,卒業論文・保育研究冊子の原稿作成	幼児用のダンスまたはダンス作品完成。 前回同様に進め、完成度を高める。卒業論文・保育研究冊子 の原稿作成も同時に進める。	ストレッチ	30	
57	卒業研究発表会・反省会	幼児用のダンスまたはダンス作品発表。 卒業研究の発表会に全精力を傾注し堂々と行う。反省会を 行い、論文に反映させる。	ストレッチ	30	
58	卒業研究発表会・反省会	幼児用のダンスまたはダンス作品発表。 卒業研究の発表会に全精力を傾注し堂々と行う。反省会を 行い、論文に反映させる。	ストレッチ	30	
59	卒業論文・保育研究冊子原稿の 完成・提出	卒業論文・保育研究冊子原稿の完成させ、提出する。「劇 とあそびのつどい」に向けて練習する。	ストレッチ	30	
60	卒業論文・保育研究冊子原稿の 完成・提出	卒業論文・保育研究冊子原稿の完成させ、提出する。「劇とあそびのつどい」に向けて練習する。 「自己確認シート」を通して自己評価を行う。	ストレッチ	30	

#### 令和5年度

科目名	卒業研究	対象			
担当教員	早川 仁 単	<b>並位数</b>	短期大学部 幼児教育	学科 2年 2単位 必修	
開講期	通年	必選			
授業概要	い課題を設定し、それらが子どもの 成長発達 ・シナリオ・制作・演技・演出等課題ごと指導:	にどのようた 者及び学生問	な意義を持っているかる間で常に評価し合うフ	文化などを含め、教育と文化の両面から学生 自身が最も興味関心の深などについて研究する。 ィードバックを行いながら内容を深めていく。演技に関しては担当者の自分たちの研究成果を、学内に於いてステージ又は映像を通して発表す	
達成目標	1、発達に関わる造形遊びの製作などを行なう。 ディプロマポリシーとの関連;問題解決能力 2、研究の成果を幼稚園や保育所での実習、又は地域社会のボランテイア体験・学内行事発表会などで実践 し、それらを通して子ども理解と保育者としての資質を向上させる。 ディプロマポリシーとの関連;総合的計画力 3、研究活動を通して本学建学の精神「尊敬・責任・自由」を体現する。又、グルーブ活動によりコミニ ケーション能力を高める。 ディプロマポリシーとの関連;規範意識 ・単位認定の最低基準; 規定授業数の3分の2以上出席していること。 中間発表会、卒業研究発表会、に参加発表し、論文を提出していること。				
受講資格	幼児教育学科2年生		成績評価方法	・平常点(取り組み姿勢、意欲、他との協力、チーム への貢献など)60点。 ・成果(研究発表、本文、「保育研究」原稿)40点	
教科書	特になし				
参考書	担当教員より必要に応じて指示				
学生への要望	・自己課題の解決に向けて積極的に取り組むこと。 ・活動後に毎回清掃を行うこと。				
オフィスタイム	水曜日・木曜日 15:00~17:00 826研究室				

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業オリエンテーション1	・オリエンテーション・シラバイ説明(人形劇指導趣旨及び活動日程説明。) ・自己紹介 ・自己確認シート記録	シナリオ原作の選定	30
2	授業オリエンテーション2	・シナリオ(既成のお話)〜シナリオ原作の決定 ・人形形態について(棒使い人形)	人形形態を調べる	30
3	過去の作品鑑賞	・先輩の作品鑑賞を通して研究意欲を高める。人形劇にた いするを理解を深める	人形劇について自由に調べる	30
4	役割組織つくり	・チームの役割組織をつくり互いの責任を明確にすると共 にチームワークを高める。	人形劇について自由に調べる	30
5	シナリオ検討	・作品選定	役割組織担当毎に年間計画案を立てる	30
6	登場キャラクター検討	・人形デザイン決定。	人形デザインの考案	30
7	シナリオ再検討	・シナリオ原案を全員で検討する	作品から台本案を起こす	30
8	シナリオ修正	・人形劇の演出効果を考慮したシナリオ修正をする。	台本の下読みをする	30
9	人形製作1	・論文指導一研究倫理について学ぶ。 ・もみじ会用人形制作	研究の狙いを各自で立てる	30
10	人形製作2	・人形の構造を研究・検討する	作品素材の検討と準備	30
11	人形制作3	・人形制作構造の研究	作品素材の検討と準備	30
12	人形制作4	・人形制作構造の研究	作品素材の検討と準備	30
13	人形制作5	・人形完成作品の完成。	作品素材の検討と準備	30
14	人形制作6	・人形完成作品の完成。	作品素材の検討と準備	30
15	人形操作練習	・操作練習 人形の操作について研究する。	人形操作について下調べをする	30

0	項目	<sub>- 技</sub> 表的合と	自学自習	目安時間
	立ち稽古(行動線の確認)	***************************************	台本を読み込む	30
	2 7 E E (1) 30/10/ 7 FE (10)	・行動線確認。・発声練習。	14.600.723	00
1.0		1 Jay Mr. Hoo Joy Mr. E Book		
16				
	立ち稽古(音の表現)	・人形を用いて演じるときの動作一連の流れを稽古する。	台本を読み込む	30
17		- 行動線確認。		
18	立ち稽古 大小道具・背景制作1	大小道具・背景を検討しデザイン〜制作する。	舞台演出を検討する	30
10				
10	立ち稽古 大小道具・背景制作 2	大小道具・背景を検討しデザイン〜制作する。	舞台演出を検討する	30
19				
	立ち稽古 大小道具・背景制作3	大小道具・背景を検討しデザイン〜制作する。	作品素材の検討と準備	30
20				
	立ち稽古 大小道具・背景制作4	大小道具・背景を検討しデザイン〜制作する。	作品素材の検討と準備	30
21				
	立ち稽古大小道具・背景制作5	<u></u> 立ち稽古	演者の行動線を検討する	30
22	立 7 旧 日 八 7 起来 日 小 川 1	- VIII I	K I V I Jaylov C (K II )	00
	立ち稽古大小道具・背景制作6	十小溢目,非星制作	作品素材の検討と準備	30
23	立り信日人小担共・自京制TF0	八小坦共·   月京前  F	下四条例の候前と卒崩	30
	// HD         -   -   -		X 40155 344 1 1 - 1 - 1	
24	後期オリエンテーション	卒研行事等の確認。論文作成(前期活動経過)作成。	前期授業内容まとめ	30
25	論文作成	論文作成(前期活動経過について).	「もみじ会」の舞台演出を検討しておく	30
26	もみじ会中間発表準備1	・卒業研究中間発表「もみじ会」の発表準備をする。	「もみじ会」の舞台演出を検討しておく	30
20				
0.7	もみじ会中間発表準備2	・「もみじ会」の発表会場舞台構造により大小道具準備又	「もみじ会」の舞台演出を検討しておく	30
27		は、演出機材等の操作練習をする。		
	もみじ会中間発表準備3	・「もみじ会」の発表における幕間も含め準備、練習。	音楽・効果音素材を検討・準備しておく	30
28				
	もみじ会中間発表準備4	・「もみじ会」の発表における幕間も含め準備、練習。	音楽・効果音素材を検討・準備しておく	30
29	0 / 0 12   1   1   1   1   1   1   1   1   1	TO YOUR THIN OH TO WAR AND THE	an mine the	
	もみじ会中間発表練習1	・中間発表「もみじ会」に向けた発表練習をする。	各、準備担当作業の不備を補う	30
30	5000公平周光教派百工	・各係毎に発表会運営に関する業務にあたる。		50
30		日が母に元教五是日に因うる未動にのたる。		
21	+ 7.1°公山門改丰体羽 2	及主人担無ム笠の記尚	 	60
31	もみじ会中間発表練習2	・発表会場舞台等の設営	演技・演出担当毎に各自練習を積む	60
32	中間発表準備・練習1	・各係毎に発表会運営に関する業務にあたる。	演技・演出担当毎に各自練習を積む	60
	中間発表準備・練習 2	・中間発表「もみじ会」に向けた発表練習をする。	演技・演出担当毎に各自練習を積む	60
33		・各係毎に発表会運営に関する業務にあたる。		
	中間発表準備・練習~もみじ会	・中間発表「もみじ会」に向けた発表練習をする。	演技・演出担当毎に各自練習を積む	60
34	発表 1	・各係毎に発表会運営に関する業務にあたる。		
	中間発表準備・練習~もみじ会	・中間発表「もみじ会」に向けた発表練習をする。	演技・演出担当毎に各自練習を積む	60
35	発表 2	・各係毎に発表会運営に関する業務にあたる。		
	中間発表準備・練習~もみじ会	・記録ビデオから自分たちの演技を確認する。	演技・演出担当毎に各自練習を積む	60
36	発表 3	・来場者の感想アンケートなどを基にして作品内容、演技		
		内容等、活動全般の反省をする。		
	人形劇新規計画	・卒研発表に向けたシナリオ及び人形の制作計画。	新たな作品シナリオを検討する	60
37	7 (1) (2) (2)	, ,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,		
<b> </b>	論文指導	・論文指導ー研究倫理について学ぶ。	新たな作品の研究・狙いテーマを検討して	30
38	中間発表反省	・もみじ会記録ビデオから自分たちの演技を振り返る。	おく	00
30		□ 1 . ○ 五日のが □ 1 . 1 . 2 □ 1 . 1 . C . 2 · 2 · 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 . C . 1 .		
-	シナリナ・トドのチェー 1	・		
39	シナリオ・人形の手直し1	・卒業研究発表会に向けて、「もみじ会」中間発表反省。	演技・演出担当毎に各自練習を積む	60
40	シナリオ・人形の手直し2	・卒業研究発表会に向けて、「もみじ会」中間発表反省。 	演技・演出担当毎に各自練習を積む	60
<u> </u>				
41	シナリオ・人形の手直し3	・卒業研究発表会に向けて、人形、シナリオの手直し。	新たな作品シナリオを検討する	30
	<del></del>			

-授業内容とスケジュール-					
回	項目	授業内容	自学自習	目安時間	
42	卒研発表練習1	・記念講堂の舞台を生かしたシナリオ手直しをする。	新たな作品シナリオを検討する	30	
43	卒研発表練習 2	・記念講堂の舞台を生かした演出の手直しをする。	新たな作品シナリオを検討する	30	
44	卒研発表練習3	・記念講堂機材担当者決定~説明会内容の確認をする。	舞台演出を検討する	30	
45	機材操作説明会1	・記念講堂機材説明会で演出機材の操作内容を学ぶ。 ・機材演出を作品に活かす工夫を研究する。	舞台演出を検討する	30	
46	機材操作説明会 2	・記念講堂機材説明会で演出機材の操作内容を学ぶ。 ・機材演出を作品に活かす工夫を研究する。	舞台演出を検討する	30	
47	ステージ発表練習 1	・ステージ発表練習(演技・機材による演出)。 ・記念講堂発表用の大・小道具を製作する。	各自練習を積む・研究論文をまとめる	60	
48	ステージ発表練習2	・ステージ発表練習(演技・機材による演出)。 ・記念講堂発表用の大・小道具を製作する。	各自練習を積む・研究論文をまとめる	60	
49	ステージ発表練習3	・ステージ発表練習(演技・機材による演出)。 ・記念講堂発表用の大・小道具を製作する。	各自練習を積む・研究論文をまとめる	60	
50	ステージ発表練習4	・ステージ発表練習(演技・機材による演出)。 ・記念講堂発表用の大・小道具を製作する。	各自練習を積む・研究論文をまとめる	60	
51	ステージ発表練習5	・ステージ発表練習(演技・機材による演出)。 ・記念講堂発表用の大・小道具を製作する。	各自練習を積む・研究論文をまとめる	60	
52	ステージ発表練習 6	・ステージ発表練習(演技・機材による演出)。 ・記念講堂発表用の大・小道具を製作する。	各自練習を積む・研究論文をまとめる	60	
53	ステージ発表練習7	・ステージ発表練習(演技・機材による演出)。 ・記念講堂発表用の大・小道具を製作する。	各自練習を積む・研究論文をまとめる	60	
54	ステージ発表練習8	・ステージ発表練習(演技・機材による演出)。 ・記念講堂発表用の大・小道具を製作する。	各自練習を積む・研究論文をまとめる	60	
55	卒研発表リハーサル①	・卒研発表リハーサル 建学記念講堂で行う。	各自練習を積む・研究論文をまとめる	60	
56	卒研発表リハーサル②	・卒研発表リハーサル 建学記念講堂で行う。	各自練習を積む・研究論文をまとめる	60	
57	卒研発表リハーサル③	・卒研発表リハーサル 建学記念講堂で行う。	各自練習を積む・研究論文をまとめる	60	
58	卒研発表リハーサル④	・卒研発表リハーサル 建学記念講堂で行う。	各自練習を積む・研究論文をまとめる	60	
59	卒研発表会(論文発表)	・卒研発表会(論文発表)を聴講する。	各自練習を積む・研究論文をまとめる	60	
60	卒研発表会 (舞台発表)	・卒研発表会(舞台発表)を上演する。・論文・冊子原稿提出・卒研反省。	各自練習を積む・研究論文をまとめる	60	

#### 令和5年度

市和3千及					
科目名	卒業研究	対象			
担当教員	折笠 国康	単位数	短期大学部 幼児教	7育学科 2年 2単位 必修	
開講期	通年	必選			
授業概要	実際に保育や幼稚園教育の現場に出たときに求められる、児童の好ましい成長を支える態度や知見を習得することを目標とする。また、自他の尊重と幸福の追求の態度を身につけ、実践する基礎力を身につけることも目標とする。最終授業で全体に対するフィードバックを行う。 位置づけ・水準 CE2276				
達成目標	①実際に保育や幼稚園教育の現場に出たときに求められる、児童の好ましい成長を支える態度や知見を 習得することを目標とする。 ②自他の尊重と幸福の追求の態度を身につけ、実践する基礎力を身につけることも目標とする。 単位認定の最低基準は、: 「内容の8割を理解していること」 ディプロマ・ポリシーとの関連:保育の内容理解と総合的計画力、問題解決力、豊かな人間性と規範意識				
受講資格	短期大学部 幼児教育学科 2年		成績評価 方法	平常点60点、研究成果を40点として評価する。	
教科書	教科書は使わず、プリントを配布する	•			
参考書	参考書は授業ごとに指示する。				
学生への要望	自他のためになる知的活動の時間として捉えてほしい。				
オフィスタイム	金曜 2 限 8 3 5 研究室 3 限 8 3 5 研究室				

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	研究の基礎1 オリエンテー	心理学の研究の基礎的な説明	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考	60
1	ション		文献にあたる	
0	研究の基礎2 オリエンテー	心理学の研究の基礎的な説明	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考	60
2	ション		文献にあたる	
2	研究の基礎3	心理学の研究調査の方法の説明	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考	60
3			文献にあたる	
4	研究の基礎4	心理学の研究調査の方法の説明	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考	60
4			文献にあたる	
_	研究の概念形成1	研究のテーマについての話し合い	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考	60
5			文献にあたる	
	研究の概念形成2	研究のテーマについての話し合い	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考	60
6			文献にあたる	
7	研究の概念形成3	研究のアウトラインについての話し合い テーマ決定	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考	60
7			文献にあたる	
0	研究の概念形成4	研究のアウトラインについての話し合い テーマ決定	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考	60
8			文献にあたる	
0	研究調査の手順1	研究調査の手順についての話し合い	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考	60
9			文献にあたる	
10	研究調査の手順2	研究調査の手順についての話し合い	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考	60
10			文献にあたる	
11	調査用紙作成1	調査用紙作成についての話し合い	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考	60
11			文献にあたる	
10	調査用紙作成2	調査用紙作成についての話し合い	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考	60
12			文献にあたる	
10	調査用紙作成3	調査用紙作成についての話し合い	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考	60
13			文献にあたる	
1.4	調査用紙作成4	調査用紙作成についての話し合い	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考	60
14			文献にあたる	
1.5	調査の分析 1	質問紙についての説明	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考	60
15			文献にあたる	
1.0	調査の分析2	質問紙についての説明	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考	60
16			文献にあたる	
17	調査の分析3	統計処理についての概説	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考	60
17			文献にあたる	
10	調査の分析4	統計処理についての概説	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考	60
18			文献にあたる	
10	調査の分析5	統計処理についての概説	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考	60
19			文献にあたる	
20	調査の分析6	統計処理についての概説	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考	60
20			文献にあたる	

0	項目	-授業内容とスケジュール- <b>授業内容</b>	自学自習	目安時間
21	調査の分析7	統計処理についての概説	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考 文献にあたる	60
22	調査の分析8	統計処理についての概説	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	0
23	調査のまとめ1	分析結果のまとめについての話し合い	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考 文献にあたる	60
24	調査のまとめ2	分析結果のまとめについての話し合い	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考 文献にあたる	60
25	調査のまとめ3	分析結果のまとめについての話し合い	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考 文献にあたる	60
26	調査のまとめ4	分析結果のまとめについての話し合い	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考 文献にあたる	60
27	調査のまとめ5	分析結果のまとめについての話し合い	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
28	調査のまとめ6	分析結果のまとめについての話し合い	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
29	調査のまとめ7	分析結果の考察についての話し合い	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
30	調査のまとめ8	分析結果の考察についての話し合い	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
31	調査のまとめ9	分析結果の考察についての話し合い	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
32	調査のまとめ10	分析結果の考察についての話し合い	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
33	研究発表の準備1	研究発表の準備作業	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
34	研究発表の準備2	研究発表の準備作業	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考 文献にあたる	60
35	研究発表の準備3	追加の調査用紙の作成	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考 文献にあたる	60
36	研究発表の準備4	追加の調査用紙の作成	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考 文献にあたる	60
37	研究発表の準備 5	研究発表の準備作業	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
38	研究発表の準備6	研究発表の準備作業	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考 文献にあたる	60
39	中間発表 1	ゼミの中での中間発表 それについての全員での検討	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考 文献にあたる	60
40	中間発表2	ゼミの中での中間発表 それについての全員での検討	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考 文献にあたる	60
41	中間発表3	ゼミの中での中間発表 それについての全員での検討	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考 文献にあたる	60
42	中間発表4	ゼミの中での中間発表 それについての全員での検討	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
43	発表についての説明	これからの発表と論文作成の手順についての説明	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考 文献にあたる	60
44	発表についての説明	これからの発表と論文作成の手順についての説明	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考 文献にあたる	60
45	卒業研究のまとめ1	考察を検討する 全員で検討する	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考 文献にあたる	60
46	卒業研究のまとめ2	考察を検討する 全員で検討する	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考 文献にあたる	60
47	卒業研究のまとめ3	考察を検討する 全員で検討する	大帆にのに。   授業内容についてまとめ、必要に応じ参考   文献にあたる	60
48	卒業研究のまとめ4	考察を検討する 全員で検討する	大帆にのに。   授業内容についてまとめ、必要に応じ参考   文献にあたる	60
49	卒業研究発表準備1	発表のリハーサル	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考 文献にあたる	60
50	卒業研究発表準備2	発表のリハーサル	大帆にのに。   授業内容についてまとめ、必要に応じ参考   文献にあたる	60
			人用( IC O) IC O	

	項目	授業内容	自学自習	目安時間
51	卒業研究発表準備3	発表のリハーサル	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考 文献にあたる	60
52	卒業研究発表準備4	発表のリハーサル	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考 文献にあたる	60
53	卒業研究発表	卒業研究の発表プレゼンテーション	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考 文献にあたる	60
54	卒業研究発表	卒業研究の発表プレゼンテーション	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考 文献にあたる	60
55	論文作成1	論文の作成	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考 文献にあたる	60
56	論文作成 2	論文の作成	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考 文献にあたる	60
57	論文作成3	論文の作成	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考 文献にあたる	60
58	論文作成4	論文の作成	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考 文献にあたる	60
59	論文提出のための準備1	論文の最終確認、印刷、製本	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考 文献にあたる	60
60	論文提出のための準備2	論文の最終確認、印刷、製本	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考 文献にあたる	60

#### 令和5年度

市和3年及				
科目名	卒業研究	対象		
担当教員	永瀬 悦子	単位数	短期大学部 幼児教育	学科 2年2単位 必修
開講期	通年	必選		
授業概要	マずつ行うこと。③第一回目の論文の書き方指導の内容に、研究倫理について学ぶこと。 [授業の目的・ねらい] 教育の専門職として課題を捉え、その課題を研究的視点で追及する。【位置づけ・水準】 CE2270			
達成目標	1) 図究の意義を説明できる     2) 図ともの健康を維持・増進するための健康教育の方法を実践できる     3) 図康教育の実践過程において積極的に参加できる     これらのことを7割達成すれば単位認定とする。			
受講資格	幼児教育学科学生2年生		成績評価 方法	平常点60点、研究成果40点
教科書	宗像恒次著『行動科学からみた健康と	病気』 メディカルフ	フレンド社 2000年	
参考書	全国保育園保健師看護師連絡会『保育	のなかの健康教育』2	018年	
学生への要望	主体的な問題解決能力、思考力、表現力等が求められます。講義以外の時間を費やすことが多いと思いますが、課題を追求するため、熱意と積極的姿勢で参加して下さい。			
オフィスタイム	火曜日 V時限(16:10~17:40)8 木曜日 I時限(8:50~10:20)			

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
ы	卒業研究の概要1	卒業研究の進め方、メンバーの紹介等。	現在の子どもの健康課題について書籍・新	<b>日女时间</b>
1	一来前7607例女工	研究とは何か、について理解する	聞等を通して調べる	0.
2	卒業研究の概要2	研究の進め方について	具体的な教育方法について書籍等を通し考える	6
3	研究課題について1	研究の課題の見つけ方・研究課題の絞り込み方について理 解する	教材研究	6
4	研究課題について2	研究の課題の見つけ方・研究課題の絞り込み方について理 解する	教材研究	6
5	研究課題の明確化と概念枠組み 1	研究課題の明確化と概念枠組みの設定について理解する	教材研究	60
6	研究課題の明確化と概念枠組み 2	研究課題の明確化と概念枠組みの設定について理解する	教材研究	60
7	研究方法と研究デザインの選定 1	研究方法の選定と研究デザインの選定を理解する	教材研究	60
8	研究方法と研究デザインの選定 2	研究方法の選定と研究デザインの選定を理解する	教材研究	60
9	研究方法のデータ収集と分析1	研究方法のデータ収集と分析を理解する	教材研究	60
10	研究方法のデータ収集と分析2	研究方法のデータ収集と分析を理解する	教材研究	60
11	研究結果の分析/研究課題の絞 り込みの実際1	研究結果とその分析について理解する 研究課題の絞り込みをする	教材研究	60
12	研究結果の分析/研究課題の絞 り込みの実際2	研究結果とその分析について理解する 研究課題の絞り込みをする	教材研究	60
13	倫理的配慮について1	研究における倫理的配慮について	教材研究	60
14	倫理的配慮について2	研究における倫理的配慮について	教材研究	60
15	文献検索のプロセス1	文献検索の方法を理解し、研究課題に関する先行研究を検索する	教材研究	60
16	文献検索のプロセス2	文献検索の方法を理解し、研究課題に関する先行研究を検索する	教材研究	60
17	研究計画書の作成1	研究計画書の作成	教材研究	60
18	研究計画書の作成2	研究計画書の作成	教材研究	60
19	研究の実際①	健康教育の教材作成をする	教材研究	60
20	研究の実際②	健康教育の教材作成をする	教材研究	60
21	研究の実際③	健康教育の教材作成をする	教材研究	60
22	研究の実際④	健康教育の教材作成をする	教材研究	6
23	研究の実際⑤	健康教育の教材作成をする	教材研究	60

0	項目	-授業内容とスケジュール- <b>授業内容</b>	自学自習	目安時間
24	研究の実際⑥	健康教育の教材作成をする	教材研究	60
25	研究の実際⑦	健康教育の教材作成をする	教材研究	60
26	研究の実際⑧	健康教育の教材作成をする	教材研究	60
27	研究の実際⑨	健康教育の教材作成をする	教材研究.	60
28	研究の実際⑩	健康教育の教材作成をする	教材研究	60
29	研究の実際⑪	健康教育の教材作成をする	教材研究	60
30	研究の実際⑫	健康教育の教材作成をする	教材研究.	60
31	中間発表の準備①	中間発表の「もみじ会」の準備をする	教材研究	60
32	中間発表の準備②	中間発表の「もみじ会」の準備をする	教材研究	60
	中間発表①	研究の中間発表として「もみじ会」において発表する	教材研究	60
33				
34	中間発表②	研究の中間発表として「もみじ会」において発表する	教材研究	60
35	研究成果の振り返り①	「もみじ会」の発表の反省をもとにして、研究内容を検討	教材研究	60
		する		
36	研究成果の振り返り②	「もみじ会」の発表の反省をもとにして、研究内容を検討 する	教材研究	60
37	研究成果の振り返り③	研究成果を振り返り、今後の成果を検討する	教材研究	60
38	研究成果の振り返り④	研究成果を振り返り、今後の成果を検討する	教材研究	60
39	フィールドワークの準備①	フィールドワークの準備をする	教材研究	60
40	フィールドワークの準備②	フィールドワークの準備をする	教材研究	60
41	フィールドワークの実際③	保育園・幼稚園等で実際に健康教育を実践する	実践の振り返りをする	60
42	フィールドワークの実際④	保育園・幼稚園等で実際に健康教育を実践する	実践の振り返りをする	60
43	研究論文の執筆準備①	研究テーマ、研究論文の構成を考える	論文作成	60
44	研究論文の執筆準備②	研究テーマ、研究論文の構成を考える	論文作成	60
45	研究論文の執筆活動①	研究論文の執筆	論文作成	60
46	研究論文の執筆活動②	研究論文の執筆	論文作成	60
47	研究論文の執筆活動③	研究論文の執筆と発表(プレゼンテーション)の準備	論文作成	60
48	研究論文の執筆活動④	研究論文の執筆と発表(プレゼンテーション)の準備	論文作成	60
49	研究論文の執筆活動⑤	研究論文の原稿を仕上げ、指導教員に提出し指導を受ける	論文作成	60
50	研究論文の執筆活動⑥	研究論文の原稿を仕上げ、指導教員に提出し指導を受ける	論文作成	60
51	研究発表の練習①	発表原稿を作成し、発表の練習をする	発表原稿及びパワーポイント作成	60
52	研究発表の練習②	発表原稿を作成し、発表の練習をする	発表原稿及びパワーポイント作成	60
53	研究発表①	研究の成果をわかりやすく発表する	発表の振り返り	60
54	研究発表②	研究の成果をわかりやすく発表する	発表の振り返り	60
55	研究のまとめ①	研究の論文規定に従い執筆する。	論文作成	60
56	研究のまとめ②	研究の論文規定に従い執筆する。	論文作成	60
57	研究のまとめ③	「卒業研究の論文規定」に従い執筆する。	論文作成	60
58	研究のまとめ④	「卒業研究の論文規定」に従い執筆する。	論文作成	60
59	論文提出と今後の課題①	「卒業研究論文」原稿と「保育研究」原稿を提出する	論文作成	60
60	論文提出と今後の課題②	「卒業研究論文」原稿と「保育研究」原稿を提出する	論文作成	60

#### 令和5年度

科目名	卒業研究	対象		
担当教員	柴田 卓	 単位数	短期大学部 幼児教育	育学科 2年 2単位 必修
開講期	通年			
授業概要	きる実践力の向上を目指す。身	具体的には、幼児体育・自然 ギキュメンテーションを作成 Rめ、2年間の集大成として 発表後と最終授業において、	保育について、事例や してふりかえり、その まとめる。 フィードバックを行う	· ·
	本授業における達成目標の観点 ①研究に向き合い、課題や問題		を習得することができ	たか。
達成目標	②先行研究や教材研究を行い、 ③フィールドワークを通して、 ※単位認定の最低基準は、内容 ※ディプロマ・ポリシーとの関	運動遊びや自然保育を展開 学の理解および実践力の習得	する実践力を習得する に関して7割以上であ	ることができたか。 ること。
達成目標	③フィールドワークを通して、 ※単位認定の最低基準は、内容	運動遊びや自然保育を展開 学の理解および実践力の習得	する実践力を習得する に関して7割以上であ	ることができたか。 ること。
	<ul><li>③フィールドワークを通して、</li><li>※単位認定の最低基準は、内容</li><li>※ディプロマ・ポリシーとの</li></ul>	運動遊びや自然保育を展開 学の理解および実践力の習得	まる実践力を習得する に関して7割以上であ 的計画力、問題解決力 成績評価	ることができたか。 ること。 J、豊かな人間性規範意識 平常点60点(振り返りシート30点含む) 研究成果40点(研究発表・
受講資格	③フィールドワークを通して、 ※単位認定の最低基準は、内容 ※ディプロマ・ポリシーとの関 幼児教育学科2年生	運動遊びや自然保育を展開 学の理解および実践力の習得 関連:保育の内容理解と総合 遊びのすすめ ポートフォリ	まる実践力を習得する に関して7割以上であ 的計画力、問題解決力 成績評価 方法	ることができたか。 ること。 3、豊かな人間性規範意識 平常点60点(振り返りシート30点含む) 研究成果40点(研究発表・ 論文原稿) 送力の探求,みらい,2017
受講資格教科書	③フィールドワークを通して、 ※単位認定の最低基準は、内容 ※ディプロマ・ポリシーとの関 幼児教育学科2年生 必要に応じて資料配布 柴田卓 石森真由子編著,運動	運動遊びや自然保育を展開 学の理解および実践力の習得 関連:保育の内容理解と総合 遊びのすすめ ポートフォリ する心を育てるアウトドア引 当事者意識を持ち、主体的か こし、授業内はメンバーとの 得できる研究成果をあげる。	は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は	ること。 ること。 のこと。 要かな人間性規範意識 平常点60点(振り返りシート30点含む) 研究成果40点(研究発表・ 論文原稿) 残力の探求,みらい,2017

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション(教室)	研究計画・グループ・役割分担・研究テーマに関する説明をする。 自己確認シートの記入	事後学習として、ドキュメンテーションの 作成方法について理解する。	60
2	オリエンテーション(教室)	研究計画・グループ・役割分担・研究テーマに関する説明をする。 研究倫理について理解を深め、データの収集方法・活用方法を確認する。	事後学習として、ドキュメンテーションの 作成方法を修得する。	60
3	研究テーマの構想(教室)	先行研究から研究テーマ、内容について話し合い構想を練る。 ●論文の書き方 指導 1 ・研究の基本的な進め方、論文の基本構成 ・研究倫理	事前学習として、先行研究を収集する。	60
4	研究テーマの構想(教室)	先行研究から研究テーマ、内容について話し合い構想を練 る。	事前学習として、先行研究を収集する。	60
5	研究テーマ・グループの決定(教室)	文献およびVTR鑑賞等から研究テーマ・グループ・役割分担(指導・撮影等)を決める。	事後学習として、先行研究を分析する。	60
6		文献およびVTR鑑賞等から研究テーマ・グループ・役割分担(指導・撮影等)を決める。	事後学習として、先行研究を分析する。	60
7	フィールドワーク①(現地)	下記フィールドより選択して調査を実施 (国見町・小野町・三春町・葛尾村・郡山女子大学総合教育園・裏磐梯小野川湖・那須甲子青少年交流の家・磐梯青少年交流の家・福島県民の森、アオネマトカ、私立幼稚園協会イベント、その他保育施設) 参加学生:本授業受講生 引率教員:授業担当者	事後学習として、ドキュメンテーションを 作成しながらふりかえる。	60

	-授業内容とスケジュール-			
回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	フィールドワーク①(現地)	下記フィールドより選択して調査を実施 (国見町・小野町・三春町・葛尾村・郡山女子大学総合教育園・裏磐梯小野川湖・那須甲子青少年交流の家・磐梯青少年交流の家・福島県民の森、アオネマトカ、私立幼稚園協会イベント、その他保育施設) 参加学生:本授業受講生 引率教員:授業担当者	事後学習として、ドキュメンテーションを 作成しながらふりかえる。	60
9	リフレクション①(教室)	調査結果のデータ入力・分析	事後学習として、計画に応じた準備物を整理・確認する。	60
10	リフレクション①(教室)	調査結果の発表・シェアリング	事後学習として、計画に応じた準備物を整理・確認する。	60
11	フィールドワーク②(現地)	下記フィールドより選択して調査を実施 (国見町・小野町・三春町・葛尾村・郡山女子大学総合教育園・裏磐梯小野川湖・那須甲子青少年交流の家・磐梯青少年交流の家・福島県民の森、アオネマトカ、私立幼稚園協会イベント、その他保育施設) 参加学生:本授業受講生 引率教員:授業担当者	事後学習として、ドキュメンテーションを 作成しながらふりかえる。	60
12	フィールドワーク②(現地)	下記フィールドより選択して調査を実施 (国見町・小野町・三春町・葛尾村・郡山女子大学総合教育園・裏磐梯小野川湖・那須甲子青少年交流の家・磐梯青少年交流の家・福島県民の森、アオネマトカ、私立幼稚園協会イベント、その他保育施設) 参加学生:本授業受講生 引率教員:授業担当者	事後学習として、ドキュメンテーションを 作成しながらふりかえる。	60
13	リフレクション②(教室)	調査結果のデータ入力・分析	事後学習として、リフレクションでの学び を考察としてまとめる。	60
14	リフレクション②(教室)	調査結果の発表・シェアリング	事後学習として、リフレクションでの学び を考察としてまとめる。	60
15	フィールドワーク③(現地)	下記フィールドより選択して調査を実施 (国見町・小野町・三春町・葛尾村・郡山女子大学総合教育園・裏磐梯小野川湖・那須甲子青少年交流の家・磐梯青少年交流の家・福島県民の森、アオネマトカ、私立幼稚園協会イベント、その他保育施設) 参加学生:本授業受講生 引率教員:授業担当者	事後学習として、ドキュメンテーションを 作成しながらふりかえる。	60
16	フィールドワーク③(現地)	下記フィールドより選択して調査を実施 (国見町・小野町・三春町・葛尾村・郡山女子大学総合教育園・裏磐梯小野川湖・那須甲子青少年交流の家・磐梯青少年交流の家・福島県民の森、アオネマトカ、私立幼稚園協会イベント、その他保育施設) 参加学生:本授業受講生 引率教員:授業担当者	事後学習として、ドキュメンテーションを 作成しながらふりかえる。	60
17	リフレクション③(教室)	調査結果のデータ入力・分析	事後学習として、リフレクションでの学び を考察としてまとめる。	60
18	リフレクション③(教室)	調査結果の発表・シェアリング	事後学習として、リフレクションでの学び を考察としてまとめる。	60
19	フィールドワーク④(現地)	下記フィールドより選択して調査を実施 (国見町・小野町・三春町・葛尾村・郡山女子大学総合教育園・裏磐梯小野川湖・那須甲子青少年交流の家・磐梯青少年交流の家・福島県民の森、アオネマトカ、私立幼稚園協会イベント、その他保育施設) 参加学生:本授業受講生 引率教員:授業担当者	事後学習として、ドキュメンテーションを 作成しながらふりかえる。	60
20	フィールドワーク④(現地)	下記フィールドより選択して調査を実施 (国見町・小野町・三春町・葛尾村・郡山女子大学総合教育園・裏磐梯小野川湖・那須甲子青少年交流の家・磐梯青少年交流の家・福島県民の森、アオネマトカ、私立幼稚園協会イベント、その他保育施設) 参加学生:本授業受講生 引率教員:授業担当者	事後学習として、ドキュメンテーションを 作成しながらふりかえる。	60

	項目	-授業内容とスケジュール- <b>授業内容</b>	自学自習	B中味明
回	リフレクション(4)(教室)	調査結果のデータ入力・分析	事後学習として、リフレクションでの学び	<b>目安時間</b> 60
21	リノレクション(((教室)	同直和未のナーダ人力・刃が 	を考察としてまとめる。	60
22	リフレクション④(教室)	調査結果の発表・シェアリング	事後学習として、リフレクションでの学び を考察としてまとめる。	60
23	もみじ会準備	もみじ会準備	事後学習として、準備が終わらなかった点を補う。	60
24	もみじ会準備	もみじ会準備	事後学習として、準備が終わらなかった点を補う。	60
25	もみじ会準備	もみじ会準備	事後学習として、準備が終わらなかった点を補う。	60
26	もみじ会準備	もみじ会準備	事後学習として、準備が終わらなかった点 を補う。	60
27	フィールドワーク⑤(現地)	下記フィールドより選択して調査を実施 (国見町・小野町・三春町・葛尾村・郡山女子大学総合教育園・裏磐梯小野川湖・那須甲子青少年交流の家・磐梯青少年交流の家・福島県民の森、アオネマトカ、私立幼稚園協会イベント、その他保育施設) 参加学生:本授業受講生 引率教員:授業担当者	事後学習として、ドキュメンテーションを 作成しながらふりかえる。	60
28	フィールドワーク⑤(現地)	下記フィールドより選択して調査を実施 (国見町・小野町・三春町・葛尾村・郡山女子大学総合教育園・裏磐梯小野川湖・那須甲子青少年交流の家・磐梯青少年交流の家・福島県民の森、アオネマトカ、私立幼稚園協会イベント、その他保育施設) 参加学生:本授業受講生 引率教員:授業担当者	事後学習として、ドキュメンテーションを 作成しながらふりかえる。	60
29	リフレクション⑤(教室)	調査結果のデータ入力・分析	事後学習として、リフレクションでの学び を考察としてまとめる。	60
30	リフレクション⑤(教室)	調査結果の発表・シェアリング	事後学習として、リフレクションでの学び を考察としてまとめる。	60
31	フィールドワーク⑥(現地)	下記フィールドより選択して調査を実施 (国見町・小野町・三春町・葛尾村・郡山女子大学総合教育園・裏磐梯小野川湖・那須甲子青少年交流の家・磐梯青少年交流の家・福島県民の森、アオネマトカ、私立幼稚園協会イベント、その他保育施設) 参加学生:本授業受講生 引率教員:授業担当者	事後学習として、ドキュメンテーションを 作成しながらふりかえる。	60
32	フィールドワーク⑥(現地)	下記フィールドより選択して調査を実施 (国見町・小野町・三春町・葛尾村・郡山女子大学総合教育園・裏磐梯小野川湖・那須甲子青少年交流の家・磐梯青少年交流の家・福島県民の森、アオネマトカ、私立幼稚園協会イベント、その他保育施設) 参加学生:本授業受講生 引率教員:授業担当者	事後学習として、ドキュメンテーションを 作成しながらふりかえる。	60
33	リフレクション⑥(教室)	調査結果のデータ入力・分析	事後学習として、リフレクションでの学び を考察としてまとめる。	60
34	リフレクション⑥(教室)	調査結果の発表・シェアリング	事後学習として、リフレクションでの学び を考察としてまとめる。	60
35	フィールドワーク⑦(現地)	下記フィールドより選択して調査を実施 (国見町・小野町・三春町・葛尾村・郡山女子大学総合教育園・裏磐梯小野川湖・那須甲子青少年交流の家・磐梯青少年交流の家・福島県民の森、アオネマトカ、私立幼稚園協会イベント、その他保育施設) 参加学生:本授業受講生 引率教員:授業担当者	事後学習として、ドキュメンテーションを	60

<u> </u>	項目	- 授業内容とスケシュール- <b>授業内容</b>	自学自習	目安時間
	フィールドワーク⑦(現地)	下記フィールドより選択して調査を実施 (国見町・小野町・三春町・葛尾村・郡山女子大学総合教育園・裏磐梯小野川湖・那須甲子青少年交流の家・磐梯青少年交流の家・福島県民の森、アオネマトカ、私立幼稚園	事後学習として、ドキュメンテーションを	60
36		協会イベント、その他保育施設) 参加学生:本授業受講生 引率教員:授業担当者		
37	リフレクション①(教室)	調査結果のデータ入力・分析	事後学習として、リフレクションでの学び を考察としてまとめる。	60
38	リフレクション⑦(教室)	調査結果の発表・シェアリング	事後学習として、リフレクションでの学び を考察としてまとめる。	60
39	フィールドワーク⑧(現地)	下記フィールドより選択して調査を実施 (国見町・小野町・三春町・葛尾村・郡山女子大学総合教育園・裏磐梯小野川湖・那須甲子青少年交流の家・磐梯青少年交流の家・福島県民の森、アオネマトカ、私立幼稚園協会イベント、その他保育施設) 参加学生:本授業受講生 引率教員:授業担当者	事後学習として、ドキュメンテーションを 作成しながらふりかえる。	60
40	フィールドワーク⑧(現地)	下記フィールドより選択して調査を実施 (国見町・小野町・三春町・葛尾村・郡山女子大学総合教育園・裏磐梯小野川湖・那須甲子青少年交流の家・磐梯青少年交流の家・福島県民の森、アオネマトカ、私立幼稚園協会イベント、その他保育施設) 参加学生:本授業受講生 引率教員:授業担当者	事後学習として、ドキュメンテーションを 作成しながらふりかえる。	60
41	リフレクション⑧(教室)	調査結果のデータ入力・分析	事後学習として、リフレクションでの学び を考察としてまとめる。	60
42	リフレクション⑧(教室)	調査結果の発表・シェアリング	事後学習として、リフレクションでの学び を考察としてまとめる。	60
43	フィールドワーク⑨(現地)	下記フィールドより選択して調査を実施 (国見町・小野町・三春町・葛尾村・裏磐梯小野川湖・那 須甲子青少年交流の家・磐梯青少年交流の家・福島県民の 森、アオネマトカ、私立幼稚園協会イベント、その他保育 施設) 参加学生:本授業受講生 引率教員:授業担当者	事後学習として、ドキュメンテーションを 作成しながらふりかえる。	60
44	フィールドワーク⑨(現地)	下記フィールドより選択して調査を実施 (国見町・小野町・三春町・葛尾村・裏磐梯小野川湖・那 須甲子青少年交流の家・磐梯青少年交流の家・福島県民の 森、アオネマトカ、私立幼稚園協会イベント、その他保育 施設) 参加学生:本授業受講生 引率教員:授業担当者	事後学習として、ドキュメンテーションを 作成しながらふりかえる。	60
45	リフレクション⑨(教室)	調査結果のデータ入力・分析・シェアリング	事後学習として、リフレクションでの学び を考察としてまとめる。	60
46	卒業研究の書き方指導	●論文の書き方指導2 ・ 本文および『保育研究』 原稿の書き方と提出方法 ・ 卒業研究発表会の題目等の確認	事後学習として、リフレクションでの学び を考察としてまとめる。	60
47	卒業研究発表会に向けての準備 と練習および論文作成① ※ゼミ合宿予定	卒業研究発表会に向けての準備と練習・卒業論文の準備・ 役割分担を明確にして進める。 (会場:青根マトカまたは郡山自然の家予定)	事前学習として、まとめた考察を整理・分類化する。	60
48	卒業研究発表会に向けての準備 と練習および論文作成① ※ゼミ合宿予定	卒業研究発表会に向けての準備と練習・卒業論文の準備・ 役割分担を明確にして進める。 (会場:青根マトカまたは郡山自然の家予定)	事前学習として、まとめた考察を整理・分 類化する。	60
49	卒業研究発表会に向けての準備 と練習および論文作成② ※ゼミ合宿予定	卒業研究発表会に向けての準備と練習・卒業論文の準備・ 役割分担を明確にして進める。 (会場:青根マトカまたは郡山自然の家予定)	事後学習として、論文を完成させる。	60
50	卒業研究発表会に向けての準備 と練習および論文作成② ※ゼミ合宿予定	卒業研究発表会に向けての準備と練習・卒業論文の準備・ 役割分担を明確にして進める。 (会場:青根マトカまたは郡山自然の家予定)	事後学習として、論文を完成させる。	60

0	項目	授業内容	自学自習	目安時間
51	1回目リハーサル	卒業研究発表会に向けての準備を行う。 記念講堂大ホールの照明や舞台装置の使用法を学習する。	事後学習として、論文を完成させる。	60
52	1回目リハーサル	卒業研究発表会に向けての準備を行う。 記念講堂大ホールの照明や舞台装置の使用法を学習する。	事後学習として、論文を完成させる。	60
53	2回目リハーサル	前回同様に進め、完成度を高める。保育研究冊子原稿を校 正する。卒業論文の完成に向けて努力する。	事後学習として、論文・パワーポイントを 完成させる。	60
54	2回目リハーサル	前回同様に進め、完成度を高める。保育研究冊子原稿を校 正する。卒業論文の完成に向けて努力する。	事後学習として、論文・パワーポイントを 完成させる。	60
55	卒業研究発表会・反省会	卒業研究の成果を発表する。反省会を行い、論文に反映させる。	事後学習として、発表について振り返り、 課題・改善策等を整理する。	60
56	卒業研究発表会・反省会	卒業研究の成果を発表する。反省会を行い、論文に反映さ せる。	事後学習として、発表について振り返り、 課題・改善策等を整理する。	60
57	卒業論文・保育研究冊子原稿の 完成・提出	卒業論文・保育研究冊子原稿を完成させる。	事後学習として、本論と抄録を完成させる。	60
58	卒業論文・保育研究冊子原稿の 完成・提出	卒業論文・保育研究冊子原稿を完成させる。	事後学習として、本論と抄録を完成させる。	60
59	卒業論文・保育研究冊子原稿の 完成・提出	卒業論文・保育研究冊子原稿を完成させる。	事後学習として、本論と抄録を完成させる。	60
60	卒業論文・保育研究冊子原稿の 完成・提出	卒業論文・保育研究冊子原稿を完成させる。 自己確認シートの記入	卒業研究および2年間の学びをふりかえ る。	60

#### 令和5年度

卒業研究	対象		
宇治 和子	単位数	短期大学部 幼児教育	学科 2年 2単位 必修
通年	必選		
り、作業や調査を行って研究を深め、 発表と論文作成という流れです。この	1年かけて完成を目指 授業は、子ども家庭福	します。全体としては 晶祉の現場で臨床心理:	、最初に研究倫理について学び、途中には中間報告、年度末には卒業
・子どもを対象とした研究のデザイン ・保育や幼稚園の現場で科学的な視点	と組み立てがわかる。 を取り入れた子ども理	里解ができるようにな?	
幼児教育学科2年		成績評価 方法	平常点 (60点:取り組みの姿勢、意欲、態度、他との協力、チームへの貢献度など)、研究成果 (40点:研究発表、本文、『保育研究』原稿)により評価します。
教科書は使わず、資料を配布します。			
授業の中で、随時紹介します。			
資料等を工夫してイメージしやすい授	業を心がけるので、積	責極的な授業参加を期(	寺します。
授業開始前・終了後・月曜3限・4限:	宇治研究室(836)		
	宇治 和子 通年 ここは臨床心理学の卒業研究です。基 り、作業や調査を行って研究を深め、 発表と論文作成という流れです。この にて随時返却 or 口頭フィードバックし 本授業は、以下2点を達成目標 (8割以 ・子どもを対象とした研究のデザイン ・保育や幼稚園の現場で科学的な視点 なおこの科目は、本学科DPの「保育の 幼児教育学科2年 教科書は使わず、資料を配布します。 授業の中で、随時紹介します。 資料等を工夫してイメージしやすい授	宇治 和子 単位数 必選  ここは臨床心理学の卒業研究です。基本的にはメンバーがなり、作業や調査を行って研究を深め、1年かけて完成を目指発表と論文作成という流れです。この授業は、子ども家庭部にて随時返却の「口頭フィードバックしていきます(位置付本授業は、以下2点を達成目標(8割以上で単位認定)としま・子どもを対象とした研究のデザインと組み立てがわかる。・保育や幼稚園の現場で科学的な視点を取り入れた子ども思なおこの科目は、本学科DPの「保育の内容理解と総合的計が見教育学科2年  教科書は使わず、資料を配布します。 授業の中で、随時紹介します。 資料等を工夫してイメージしやすい授業を心がけるので、利	宇治 和子

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
	研究の基礎 1	・授業内容、評価方法について説明する	テーマに関するニュースや新聞記事、資料	60
1		・関心のあるテーマについてのディスカッション	などをよく読みこんで、知見を広げる	
	研究の基礎 2	・関心のあるテーマについてのディスカッション	テーマに関するニュースや新聞記事、資料	60
2		・資料集め・「自己確認シート」の記入	などをよく読みこんで、知見を広げる	
	研究の基礎 3	・関心のあるテーマについてのディスカッション	テーマに関するニュースや新聞記事、資料	60
3		・資料集め	などをよく読みこんで、知見を広げる	
	研究の基礎 4	・関心のあるテーマについてのディスカッション	テーマに関するニュースや新聞記事、資料	60
4		・資料集め	などをよく読みこんで、知見を広げる	
	研究の基礎 5	・関心のあるテーマについてのディスカッション	テーマに関するニュースや新聞記事、資料	60
5		・発表準備	などをよく読みこんで、知見を広げる	
	研究の基礎 6	・関心のあるテーマについてのディスカッション	テーマに関するニュースや新聞記事、資料	60
6		・発表準備	などをよく読みこんで、知見を広げる	
	研究の基礎 7	・関心のあるテーマについての発表	テーマに関するニュースや新聞記事、資料	60
7		・テーマ・研究グループの決定	などをよく読みこんで、知見を広げる	
	研究の基礎 8	・関心のあるテーマについての発表	テーマに関するニュースや新聞記事、資料	60
8		・テーマ・研究グループの決定	などをよく読みこんで、知見を広げる	
	研究の展開 1	・研究グループごとに研究の組み立てを考える	テーマに関するニュースや新聞記事、資料	60
9		(検査対象・調査方法・報告準備)	などをよく読みこんで、知見を広げる	
	研究の展開 2	・研究グループごとに研究の組み立てを考える	テーマに関するニュースや新聞記事、資料	60
10		(検査対象・調査方法・報告準備)	などをよく読みこんで、知見を広げる	
	研究の展開 3	・研究グループごとに研究の組み立てを考える	テーマに関するニュースや新聞記事、資料	60
11		(検査対象・調査方法・報告準備)	などをよく読みこんで、知見を広げる	
	研究の展開 4	・研究グループごとに研究の組み立てを考える	テーマに関するニュースや新聞記事、資料	60
12		(検査対象・調査方法・報告準備)	などをよく読みこんで、知見を広げる	
	研究の展開 5	・研究グループごとに研究の組み立てを考える	テーマに関するニュースや新聞記事、資料	60
13		(検査対象・調査方法・報告準備)	などをよく読みこんで、知見を広げる	

	1	- 授業内容とスケジュール-		
回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
14	研究の展開 6	・研究グループごとに研究の組み立てを考える (検査対象・調査方法・報告準備)	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
15	研究の展開 7	・研究グループごとに研究の組み立てを報告 (調査準備)	テーマに関するニュースや新聞記事、資料 などをよく読みこんで、知見を広げる	60
16	研究の展開 8	・研究グループごとに研究の組み立てを報告 (調査準備)	テーマに関するニュースや新聞記事、資料 などをよく読みこんで、知見を広げる	60
17	パイロット調査1	・各研究グループ合同でパイロット調査の準備と実施 ・近距離で研究協力してくださる園を募り、イベント形式 で実際にお邪魔して調査させていただく計画 ・参加学生:本授業受講学生・引率者:本授業担当教員	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
18	バイロット調査 2	・各研究グループ合同でパイロット調査の準備と実施 ・近距離で研究協力してくださる園を募り、イベント形式 で実際にお邪魔して調査させていただく計画 ・参加学生:本授業受講学生・引率者:本授業担当教員	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
19	パイロット調査3	・各研究グループ合同でパイロット調査の準備と実施 ・近距離で研究協力してくださる園を募り、イベント形式 で実際にお邪魔して調査させていただく計画 ・参加学生:本授業受講学生・引率者:本授業担当教員	テーマに関するニュースや新聞記事、資料 などをよく読みこんで、知見を広げる	60
20	バイロット調査 4	・各研究グループ合同でパイロット調査の準備と実施 ・近距離で研究協力してくださる園を募り、イベント形式 で実際にお邪魔して調査させていただく計画 ・参加学生:本授業受講学生・引率者:本授業担当教員	テーマに関するニュースや新聞記事、資料 などをよく読みこんで、知見を広げる	60
21	バイロット調査5	・各研究グループ合同でパイロット調査の準備と実施 ・近距離で研究協力してくださる園を募り、イベント形式 で実際にお邪魔して調査させていただく計画 ・参加学生:本授業受講学生・引率者:本授業担当教員	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
22	バイロット調査 6	・各研究グループ合同でパイロット調査の準備と実施 ・近距離で研究協力してくださる園を募り、イベント形式 で実際にお邪魔して調査させていただく計画 ・参加学生:本授業受講学生・引率者:本授業担当教員	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
23	バイロット調査 7	・各研究グループ合同でパイロット調査の準備と実施 ・近距離で研究協力してくださる園を募り、イベント形式 で実際にお邪魔して調査させていただく計画 ・参加学生:本授業受講学生・引率者:本授業担当教員	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60

ペイロット調査9 ペイロット調査10 マ間報告の準備と発表1	・各研究グループ合同でパイロット調査の準備と実施・近距離で研究協力してくださる園を募り、イベント形式で実際にお邪魔して調査させていただく計画・参加学生:本授業受講学生・引率者:本授業担当教員・各研究グループ合同でパイロット調査の準備と実施・近距離で研究協力してくださる園を募り、イベント形式で実際にお邪魔して調査させていただく計画・参加学生:本授業受講学生・引率者:本授業担当教員・各研究グループ合同でパイロット調査の準備と実施・近距離で研究協力してくださる園を募り、イベント形式で実際にお邪魔して調査させていただく計画・参加学生:本授業受講学生・引率者:本授業担当教員・参加学生:本授業受講学生・引率者:本授業担当教員	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる テーマに関するニュースや新聞記事、資料	<b>日安時間</b> 60 60
ペイロット調査10	・近距離で研究協力してくださる園を募り、イベント形式で実際にお邪魔して調査させていただく計画 ・参加学生:本授業受講学生・引率者:本授業担当教員 ・各研究グループ合同でパイロット調査の準備と実施 ・近距離で研究協力してくださる園を募り、イベント形式で実際にお邪魔して調査させていただく計画 ・参加学生:本授業受講学生・引率者:本授業担当教員	などをよく読みこんで、知見を広げる テーマに関するニュースや新聞記事、資料	
	で実際にお邪魔して調査させていただく計画 ・参加学生:本授業受講学生・引率者:本授業担当教員 ・各研究グループ合同でパイロット調査の準備と実施 ・近距離で研究協力してくださる園を募り、イベント形式 で実際にお邪魔して調査させていただく計画 ・参加学生:本授業受講学生・引率者:本授業担当教員	テーマに関するニュースや新聞記事、資料	60
	・近距離で研究協力してくださる園を募り、イベント形式で実際にお邪魔して調査させていただく計画 ・参加学生:本授業受講学生・引率者:本授業担当教員		60
□間報告の準備と発表 1	. PowerPoint な/古田! 卒主次約またたポーフ	1	
	・PowerPointを使用し、発表資料を作成する ・これまでの活動の振り返り	テーマに関するニュースや新聞記事、資料 などをよく読みこんで、知見を広げる	60
中間報告の準備と発表2	・PowerPointを使用し、発表資料を作成する ・これまでの活動の振り返り	テーマに関するニュースや新聞記事、資料 などをよく読みこんで、知見を広げる	60
中間報告の準備と発表3	・PowerPointを使用し、発表資料を作成する ・これまでの活動の振り返り	テーマに関するニュースや新聞記事、資料 などをよく読みこんで、知見を広げる	60
中間報告の準備と発表4	・PowerPointを使用し、発表資料を作成する ・これまでの活動の振り返り	テーマに関するニュースや新聞記事、資料 などをよく読みこんで、知見を広げる	60
中間報告の準備と発表5	・PowerPointを使用し、発表資料を作成する ・これまでの活動の振り返り	テーマに関するニュースや新聞記事、資料 などをよく読みこんで、知見を広げる	60
中間報告の準備と発表 6	・PowerPointを使用し、発表資料を作成する ・これまでの活動の振り返り	テーマに関するニュースや新聞記事、資料 などをよく読みこんで、知見を広げる	60
中間報告の準備と発表 7	・PowerPointを使用し、発表資料を作成する ・これまでの活動の振り返り	テーマに関するニュースや新聞記事、資料 などをよく読みこんで、知見を広げる	60
中間報告の準備と発表8	・PowerPointを使用し、発表資料を作成する ・これまでの活動の振り返り	テーマに関するニュースや新聞記事、資料 などをよく読みこんで、知見を広げる	60
X調查 1	・各研究グループ合同で本調査の準備と実施 ・近距離で研究協力してくださる園を募り、イベント形式 で実際にお邪魔して調査させていただく計画 ・参加学生:本授業受講学生・引率者:本授業担当教員	テーマに関するニュースや新聞記事、資料 などをよく読みこんで、知見を広げる	60
□調査2	・各研究グループ合同で本調査の準備と実施 ・近距離で研究協力してくださる園を募り、イベント形式 で実際にお邪魔して調査させていただく計画 ・参加学生:本授業受講学生・引率者:本授業担当教員	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
	間報告の準備と発表 3 間報告の準備と発表 4 間報告の準備と発表 5 間報告の準備と発表 6 間報告の準備と発表 7 間報告の準備と発表 7	<ul> <li>これまでの活動の振り返り</li> <li>・ PowerPointを使用し、発表資料を作成する。これまでの活動の振り返り</li> <li>間報告の準備と発表3</li> <li>・ PowerPointを使用し、発表資料を作成する。これまでの活動の振り返り</li> <li>間報告の準備と発表4</li> <li>・ PowerPointを使用し、発表資料を作成する。これまでの活動の振り返り</li> <li>間報告の準備と発表5</li> <li>・ PowerPointを使用し、発表資料を作成する。これまでの活動の振り返り</li> <li>間報告の準備と発表6</li> <li>・ PowerPointを使用し、発表資料を作成する。これまでの活動の振り返り</li> <li>間報告の準備と発表7</li> <li>・ PowerPointを使用し、発表資料を作成する。これまでの活動の振り返り</li> <li>間報告の準備と発表8</li> <li>・ PowerPointを使用し、発表資料を作成する。これまでの活動の振り返り</li> <li>        でおよでの活動の振り返り</li> <li>        でおおいまり返り</li> <li>        で実際にお邪魔して調査の準備と実施。近距離で研究協力してくださる園を募り、イベント形式で実際にお邪魔して調査させていただく計画・参加学生:本授業受講学生・引率者:本授業担当教員</li> <li>        お研究グループ合同で本調査の準備と実施。近距離で研究協力してくださる園を募り、イベント形式で実際にお邪魔して調査させていただく計画</li> </ul>	・これまでの活動の振り返り などをよく読みこんで、知見を広げる テーマに関するニュースや新聞記事、資料 などをよく読みこんで、知見を広げる でしますの活動の振り返り などをよく読みこんで、知見を広げる かとをよく読みこんで、知見を広げる でしますの活動の振り返り などをよく読みこんで、知見を広げる などをよく読みこんで、知見を広げる でしますの活動の振り返り などをよく読みこんで、知見を広げる でしますの活動の振り返り などをよく読みこんで、知見を広げる からでよく読みこんで、知見を広げる でします できない から から できない から から できない から できない から から できない から から できない から

		項目	-授業内容とスケシュール- <b>授業内容</b>	自学自習	D中性眼
2 日本的で開発の1、1くくどものからかり、イベトト的では、	Щ			********	
272   ・		本調 <b>並</b> 3			60
おお恋女   からな   おお恋女   からな   おお恋女   からな   からな				などをよく読みこんで、知見を広ける	
本項性	27				
************************************	31		・参加学生:本授業受講学生・引率者:本授業担当教員		
************************************					
************************************					
************************************		★調本 //	・タ研究がループへ同で木調本の準備と実施	テーフ/5関するニューフや新聞記事 答料	60
中央部に外側して登録させていただけ目。		4 明且 4	H 01707		00
おおり				なとをよく読みとんで、相見を払ける	
本語	38				
・			・・参加子生・本授耒又請子生・別学者・本授耒担当教員		
・					
・					
** ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** **		本調査5	・各研究グループ合同で本調査の準備と実施	テーマに関するニュースや新聞記事、資料	60
** ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** **			・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ に い に に に に	などをよく読みこんで、知見を広げる	
- 参加学生:本規章交換学生・引率者:本授者和出教教養					
本調査6	39				
40					
40					
40					
で実際にお別集して選生させていただく計画		本調査6	・各研究グループ合同で本調査の準備と実施	テーマに関するニュースや新聞記事、資料	60
で実際にお別集して選生させていただく計画			・近距離で研究協力してくださる園を募り、イベント形式	などをよく読みこんで、知見を広げる	
			で実際にお邪魔して調査させていただく計画		
	40		·参加学生:本授業受講学生·引率者:本授業担当教員		
41					
41					
41					
		論文の執筆1	・各グループに分かれて結果を整理する	テーマに関するニュースや新聞記事、資料	60
42   ・整理したものを質的に検討する	41		・整理したものを質的に検討する	などをよく読みこんで、知見を広げる	
42   ・整理したものを質的に検討する					
42   ・整理したものを質的に検討する		論文の執筆 2	・各グループに分かれて結果を整理する	テーマに関するニュースや新聞記事 資料	60
論文の執筆3	40	m人の利車 Z			00
金型したものを質的に検討する	42		正在した 000 と負的に採削する	なことよく肌がこんで、相先と囚りる	
金型したものを質的に検討する					
論文の執筆 4		論文の執筆3	・各グループに分かれて結果を整理する	テーマに関するニュースや新聞記事、資料	60
44       ・整理したものを質的に検討する       などをよく読みこんで、知見を広げる         論文の執筆5       ・各グループに分かれて結果を整理する (検討したものを文章にまとめる)       テーマに関するニュースや新聞記事、資料 などをよく読みこんで、知見を広げる       60         46       ・金グループに分かれて結果を整理する (検討したものを文章にまとめる)       テーマに関するニュースや新聞記事、資料 などをよく読みこんで、知見を広げる       60         47       ・金グループに分かれて結果を整理する (校討したものを文章にまとめる)       テーマに関するニュースや新聞記事、資料 などをよく読みこんで、知見を広げる       60         48       ・金グループに分かれて結果を整理する (校討したものを文章にまとめる)       テーマに関するニュースや新聞記事、資料 などをよく読みこんで、知見を広げる       60         49       ・金グループに分かれて結果を整理する (校討したものを文章にまとめる)       テーマに関するニュースや新聞記事、資料 などをよく読みこんで、知見を広げる       60         60       ・検討したものを文章にまとめる       テーマに関するニュースや新聞記事、資料 などをよく読みこんで、知見を広げる       60	43		・整理したものを質的に検討する	などをよく読みこんで、知見を広げる	
44       ・整理したものを質的に検討する       などをよく読みこんで、知見を広げる         論文の執筆5       ・各グループに分かれて結果を整理する (検討したものを文章にまとめる)       テーマに関するニュースや新聞記事、資料 などをよく読みこんで、知見を広げる       60         46       ・金グループに分かれて結果を整理する (検討したものを文章にまとめる)       テーマに関するニュースや新聞記事、資料 などをよく読みこんで、知見を広げる       60         47       ・金グループに分かれて結果を整理する (校討したものを文章にまとめる)       テーマに関するニュースや新聞記事、資料 などをよく読みこんで、知見を広げる       60         48       ・金グループに分かれて結果を整理する (校討したものを文章にまとめる)       テーマに関するニュースや新聞記事、資料 などをよく読みこんで、知見を広げる       60         49       ・金グループに分かれて結果を整理する (校討したものを文章にまとめる)       テーマに関するニュースや新聞記事、資料 などをよく読みこんで、知見を広げる       60         60       ・検討したものを文章にまとめる       テーマに関するニュースや新聞記事、資料 などをよく読みこんで、知見を広げる       60					
論文の執筆 5		論文の執筆4	・各グループに分かれて結果を整理する	テーマに関するニュースや新聞記事、資料	60
論文の執筆5       ・各グループに分かれて結果を整理する ・検討したものを文章にまとめる       デーマに関するニュースや新聞記事、資料 などをよく読みこんで、知見を広げる       60         46       ・各グループに分かれて結果を整理する ・検討したものを文章にまとめる       デーマに関するニュースや新聞記事、資料 などをよく読みこんで、知見を広げる       60         47       ・各グループに分かれて結果を整理する ・検討したものを文章にまとめる       デーマに関するニュースや新聞記事、資料 などをよく読みこんで、知見を広げる       60         48       ・各グループに分かれて結果を整理する ・検討したものを文章にまとめる       デーマに関するニュースや新聞記事、資料 などをよく読みこんで、知見を広げる       60         49       ・各グループに分かれて結果を整理する ・検討したものを文章にまとめる       デーマに関するニュースや新聞記事、資料 などをよく読みこんで、知見を広げる       60         60       ・各グループに分かれて結果を整理する ・検討したものを文章にまとめる       デーマに関するニュースや新聞記事、資料 などをよく読みこんで、知見を広げる       60         61       ・各グループに分かれて結果を整理する ・検討したものを文章にまとめる       デーマに関するニュースや新聞記事、資料 などをよく読みこんで、知見を広げる       60         62       ・株がけしたものを文章にまとめる       デーマに関するニュースや新聞記事、資料 などをよく読みこんで、知見を広げる       60         63       ・株がけしたものを文章にまとめる       デーマに関するニュースや新聞記事、資料       60         64       ・各グループに分かれて結果を整理する ・検討したものを文章にまとめる       デーマに関するニュースや新聞記事、資料       60	44		・整理したものを質的に検討する	などをよく読みこんで、知見を広げる	
45       ・検討したものを文章にまとめる       などをよく読みこんで、知見を広げる         46       ・各グループに分かれて結果を整理する・検討したものを文章にまとめる       デーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる       60         47       ・各グループに分かれて結果を整理する・検討したものを文章にまとめる       デーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる       60         48       ・各グループに分かれて結果を整理する・検討したものを文章にまとめる       デーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる       60         60       ・検討したものを文章にまとめる       デーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる       60         60       ・各グループに分かれて結果を整理する・検討したものを文章にまとめる       デーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる       60         60       ・検討したものを文章にまとめる       デーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる       60         61       ・各グループに分かれて結果を整理する・検討したものを文章にまとめる       デーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる       60         62       ・検討したものを文章にまとめる       デーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる       60         63       ・各グループに分かれて結果を整理する・検討したものを文章にまとめる       デーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる       60					
45       ・検討したものを文章にまとめる       などをよく読みこんで、知見を広げる         46       ・各グループに分かれて結果を整理する・検討したものを文章にまとめる       デーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる       60         47       ・各グループに分かれて結果を整理する・検討したものを文章にまとめる       デーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる       60         48       ・各グループに分かれて結果を整理する・検討したものを文章にまとめる       デーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる       60         60       ・検討したものを文章にまとめる       デーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる       60         60       ・各グループに分かれて結果を整理する・検討したものを文章にまとめる       デーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる       60         60       ・検討したものを文章にまとめる       デーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる       60         61       ・各グループに分かれて結果を整理する・検討したものを文章にまとめる       デーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる       60         62       ・検討したものを文章にまとめる       デーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる       60         63       ・各グループに分かれて結果を整理する・検討したものを文章にまとめる       デーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる       60		会立の劫等 F	・タグループに入かれては用を敷珊する	テーフに関するニューフや新聞司車 姿料	60
60		冊文の教事 5			00
46       ・検討したものを文章にまとめる       などをよく読みこんで、知見を広げる         47       ・各グループに分かれて結果を整理する ・検討したものを文章にまとめる       テーマに関するニュースや新聞記事、資料 などをよく読みこんで、知見を広げる       60         48       ・各グループに分かれて結果を整理する ・検討したものを文章にまとめる       テーマに関するニュースや新聞記事、資料 などをよく読みこんで、知見を広げる       60         49       ・各グループに分かれて結果を整理する ・検討したものを文章にまとめる       テーマに関するニュースや新聞記事、資料 などをよく読みこんで、知見を広げる       60         50       ・格グループに分かれて結果を整理する ・検討したものを文章にまとめる       テーマに関するニュースや新聞記事、資料 などをよく読みこんで、知見を広げる       60         60       ・検討したものを文章にまとめる       テーマに関するニュースや新聞記事、資料 などをよく読みこんで、知見を広げる       60         60       ・検討したものを文章にまとめる       テーマに関するニュースや新聞記事、資料 などをよく読みこんで、知見を広げる       60         論文の執筆12       ・各グループに分かれて結果を整理する ・検討したものを文章にまとめる       テーマに関するニュースや新聞記事、資料 などをよく読みこんで、知見を広げる       60	45		・快討したものを又草にまとめる	なとをよく読みこんで、和見を払ける	
46       ・検討したものを文章にまとめる       などをよく読みこんで、知見を広げる         47       ・各グループに分かれて結果を整理する ・検討したものを文章にまとめる       テーマに関するニュースや新聞記事、資料 などをよく読みこんで、知見を広げる       60         48       ・各グループに分かれて結果を整理する ・検討したものを文章にまとめる       テーマに関するニュースや新聞記事、資料 などをよく読みこんで、知見を広げる       60         49       ・各グループに分かれて結果を整理する ・検討したものを文章にまとめる       テーマに関するニュースや新聞記事、資料 などをよく読みこんで、知見を広げる       60         50       ・格グループに分かれて結果を整理する ・検討したものを文章にまとめる       テーマに関するニュースや新聞記事、資料 などをよく読みこんで、知見を広げる       60         60       ・検討したものを文章にまとめる       テーマに関するニュースや新聞記事、資料 などをよく読みこんで、知見を広げる       60         60       ・検討したものを文章にまとめる       テーマに関するニュースや新聞記事、資料 などをよく読みこんで、知見を広げる       60         論文の執筆12       ・各グループに分かれて結果を整理する ・検討したものを文章にまとめる       テーマに関するニュースや新聞記事、資料 などをよく読みこんで、知見を広げる       60					
論文の執筆 7		論文の執筆 6	・各グループに分かれて結果を整理する	テーマに関するニュースや新聞記事、資料	60
47       ・検討したものを文章にまとめる       などをよく読みこんで、知見を広げる         論文の執筆8       ・各グループに分かれて結果を整理する	46		・検討したものを文章にまとめる	などをよく読みこんで、知見を広げる	
47       ・検討したものを文章にまとめる       などをよく読みこんで、知見を広げる         論文の執筆8       ・各グループに分かれて結果を整理する					
47       ・検討したものを文章にまとめる       などをよく読みこんで、知見を広げる         論文の執筆8       ・各グループに分かれて結果を整理する		論文の執筆 7	<ul><li>・各グループに分かれて結果を整理する</li></ul>	テーマに関するニュースや新聞記事、資料	60
論文の執筆 8	17		・検討したものを文章にまとめる		
48       ・検討したものを文章にまとめる       などをよく読みこんで、知見を広げる         論文の執筆9       ・各グループに分かれて結果を整理する	47		), as a real of estimates as a second	0.0000000000000000000000000000000000000	
48       ・検討したものを文章にまとめる       などをよく読みこんで、知見を広げる         論文の執筆9       ・各グループに分かれて結果を整理する		-A 1 - +1 mr o			
論文の執筆9		論文の執筆 8			60
49       ・検討したものを文章にまとめる       などをよく読みこんで、知見を広げる         論文の執筆10       ・各グループに分かれて結果を整理する かどをよく読みこんで、知見を広げる       ・検討したものを文章にまとめる         30       ・各グループに分かれて結果を整理する かだをよく読みこんで、知見を広げる       ・クマに関するニュースや新聞記事、資料 などをよく読みこんで、知見を広げる         51       ・検討したものを文章にまとめる かどをよく読みこんで、知見を広げる         論文の執筆12       ・各グループに分かれて結果を整理する テーマに関するニュースや新聞記事、資料 60	48		・検討したものを文章にまとめる	などをよく読みこんで、知見を広げる	
49       ・検討したものを文章にまとめる       などをよく読みこんで、知見を広げる         論文の執筆10       ・各グループに分かれて結果を整理する かどをよく読みこんで、知見を広げる       ・検討したものを文章にまとめる         30       ・各グループに分かれて結果を整理する かだをよく読みこんで、知見を広げる       ・クマに関するニュースや新聞記事、資料 などをよく読みこんで、知見を広げる         51       ・検討したものを文章にまとめる かどをよく読みこんで、知見を広げる         論文の執筆12       ・各グループに分かれて結果を整理する テーマに関するニュースや新聞記事、資料 60					
(a)       ・各グループに分かれて結果を整理する       テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる       60         (b)       ・各グループに分かれて結果を整理する・検討したものを文章にまとめる       テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる       60         (c)       ・検討したものを文章にまとめる       テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる       60         (c)       ・各グループに分かれて結果を整理する。 テーマに関するニュースや新聞記事、資料       60		論文の執筆 9	・各グループに分かれて結果を整理する	テーマに関するニュースや新聞記事、資料	60
論文の執筆10       ・各グループに分かれて結果を整理する	49		・検討したものを文章にまとめる	などをよく読みこんで、知見を広げる	
50       ・検討したものを文章にまとめる       などをよく読みこんで、知見を広げる         論文の執筆11       ・各グループに分かれて結果を整理する ・検討したものを文章にまとめる       テーマに関するニュースや新聞記事、資料 などをよく読みこんで、知見を広げる       60         論文の執筆12       ・各グループに分かれて結果を整理する ・各グループに分かれて結果を整理する       テーマに関するニュースや新聞記事、資料       60					
50       ・検討したものを文章にまとめる       などをよく読みこんで、知見を広げる         論文の執筆11       ・各グループに分かれて結果を整理する ・検討したものを文章にまとめる       テーマに関するニュースや新聞記事、資料 などをよく読みこんで、知見を広げる       60         論文の執筆12       ・各グループに分かれて結果を整理する ・各グループに分かれて結果を整理する       テーマに関するニュースや新聞記事、資料       60		   論文の劫筆10	・タグループに分かれて紅甲を敷珊ナス	テーマに関するニューフや新興和市 次割	£0
論文の執筆11       ・各グループに分かれて結果を整理する ・検討したものを文章にまとめる       テーマに関するニュースや新聞記事、資料 などをよく読みこんで、知見を広げる       60         論文の執筆12       ・各グループに分かれて結果を整理する       テーマに関するニュースや新聞記事、資料       60		nm人ッポギェリ			00
51       ・検討したものを文章にまとめる       などをよく読みこんで、知見を広げる         論文の執筆12       ・各グループに分かれて結果を整理する       テーマに関するニュースや新聞記事、資料	50		大引したひいで大早にまとめる	なこでよくjjjがこんじ、	
51       ・検討したものを文章にまとめる       などをよく読みこんで、知見を広げる         論文の執筆12       ・各グループに分かれて結果を整理する       テーマに関するニュースや新聞記事、資料					
論文の執筆 1 2		論文の執筆11	・各グループに分かれて結果を整理する	テーマに関するニュースや新聞記事、資料	60
	51		・検討したものを文章にまとめる	などをよく読みこんで、知見を広げる	
		論文の執筆12	・各グループに分かれて結果を整理する	テーマに関するニュースや新聞記事 資料	60
JL	E2				00
	52		が明りたしっと人手にあこのも	SCEST WITH CITY OF	
		<u> </u>			

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
	卒業研究の準備と発表 1	・PowerPointを使用し、発表資料を作成する	テーマに関するニュースや新聞記事、資料	60
53		・これまでの活動の振り返り	などをよく読みこんで、知見を広げる	
	卒業研究の準備と発表 2	・PowerPointを使用し、発表資料を作成する	テーマに関するニュースや新聞記事、資料	60
54		・これまでの活動の振り返り	などをよく読みこんで、知見を広げる	
	卒業研究の準備と発表3	・PowerPointを使用し、発表資料を作成する	テーマに関するニュースや新聞記事、資料	60
55		・これまでの活動の振り返り	などをよく読みこんで、知見を広げる	
	卒業研究の準備と発表4	・PowerPointを使用し、発表資料を作成する	テーマに関するニュースや新聞記事、資料	60
56		・これまでの活動の振り返り	などをよく読みこんで、知見を広げる	
	卒業研究の準備と発表5	・PowerPointを使用し、発表資料を作成する	テーマに関するニュースや新聞記事、資料	60
57		・これまでの活動の振り返り	などをよく読みこんで、知見を広げる	
	卒業研究の準備と発表6	・PowerPointを使用し、発表資料を作成する	テーマに関するニュースや新聞記事、資料	60
58		・これまでの活動の振り返り	などをよく読みこんで、知見を広げる	
	まとめ1	・提出に向けて、本文と『保育研究』の原稿を仕上げる	テーマに関するニュースや新聞記事、資料	60
59		・「自己確認シート」の記入	などをよく読みこんで、知見を広げる	
	まとめ2	・提出に向けて、本文と『保育研究』の原稿を仕上げる	テーマに関するニュースや新聞記事、資料	60
60		・卒業研究のまとめ	などをよく読みこんで、知見を広げる	

令和5年度 <b>科目名</b>	卒業研究	対象			
担当教員	安部高太朗	 単位数	短期大学部 幼児教育	育学科 2年 2単位 必修	
開講期	通年	必選			
授業概要	本科目では、子どもを育てることに関わる具体的な社会環境を、その場に行ってみて実態を体感しながら、望ましい子育て環境とはどのようなものであるか、フィールドワーク等のアクティヴ・ラーニングの手法を使って探究する。今年は、特に郡山市を主たるフィールドとして定め、参加学生の希望に即しながら、市内の子育でに関わる施設や場所を訪れる。フィールドノートをつけながら、最終的な成果は『保育研究』に文章として残す。各自の研究テーマの設定、具体的な研究の手法の例示、研究倫理について指導、卒業研究の成果をまとめる『保育研究』に記載する文章の指導等を本科目の時間で行う。最終授業回で、一年間の学びに対して、本授業受講生それぞれに対して担当教員から総合的なフィードバックをするが、平常時においてはフィールドノート提出時に担当教員からコメントを付して返すことでフィードバックを行う。				
達成目標	本科目は、ディプロマ・ポリシーのうち「保育の内容理解と総合的計画力」・「問題解決力」・「豊かな人間性と規範意識」に対応している。 具体的な達成目標は次のとおりである。 (1) 子育てに関わる自分なりの研究テーマを設定し、『保育研究』に最終的に文章で成果をまとめることを意識し、計画的に研究を進めることができる。 (2) 自ら設定した研究テーマ、核となる問いを練りあげ、その問いに対してどのように向き合うことができるかを自分の頭を使って考え、フィールドノートに記すことができる。 (3) 子どもを育てることに関わる具体的な社会環境を見聞きするにあたって、人権の尊重、研究倫理上の作法等を身につける。 単位認定は、目標の7割以上の達成を基準とする。				
受講資格	幼児教育学科2学年		成績評価 方法	①平常点(フィールドノートへの記載等からみる卒業研究への取り組みの状況):60点。 ②研究成果(卒研発表会での口頭発表、本文、『保育研究』の原稿):40点。 ①+②以上の合計100点満点で評価する。	
教科書	特にないが、各自、以下の参考に (参考): コクヨ ノート ソフトリン			J I意すること。 48WT-T(およそ500円程度で購入可能)。	
参考書	・仙田満 (2018) 『こどもを育む環境、触む環境』朝日新聞出版。 ・山田ズーニー (2001) 『伝わる・揺さぶる! 文章を書く』 PHP研究所。 ・戸田山和久 (2012) 『新版 論文の教室』 NHK出版。 ※必要に応じて適宜該当箇所等をコピーして受講学生に提示するため、購入の必要はない。 ※その他、研究の方向性に即して適宜参考文献を提示する。				
学生への要望	本科目を受講する学生には、以下の点を求める。 ・疑問を持ったことに対して、調べようと努力すること。 ・他の参加学生と協力し合って、研究を深めようとすること。 ・(各自で用意する)フィールドノートに気づいたことを書き留めること。				
オフィスタイム	<ul> <li>・火曜日V限(14:30~16:00)</li> <li>・火曜日V限(16:10~17:40)</li> <li>いずれも、83年館2階の安部研究室(821研究室)とする。そのほかの時間帯を希望する場合は、予め、安部(k-abe@koriyama-kgc.ac.jp)までメールで連絡を入れること。</li> </ul>				

	項目	授業内容	自学自習	P内性眼
回				目安時間
	オリエンテーション	本科目の進め方に関する説明を聞く。本授業受講生の自己	自分なりの問題関心を1分程度で紹介でき	30
		紹介及び研究関心を共有する。	るように、自己紹介及び研究関心について	
1			というテーマで作文をしておく。	
	子育て環境をめぐる情報収集	郡山市の子ども・子育てに関わる計画や新聞等での報道、	郡山市のHPから子ども・子育て支援に関	30
		子育てにかかわる施設のHP等から情報を収集し、ゼミメン	する計画をダウンロードし、内容を少しず	
2		バー同士で共有し、ディスカッションをする。	つでよいので読んでおく。昨年度の卒業研	
_			究について『保育研究』から把握してお	
			<.	
	研究倫理に関するレクチャー	サイニー等の論文検索エンジンを使用しながら、文献を調	本科目の参考書である、『新版 論文の教	30
_		べる方法を伝えると共に、引用や情報の真偽に関する判断	室』(戸田山, 2012)を参照し、特に第1章	
3		の仕方など具体的な研究上倫理的に配慮すべきことを伝え	第3節の剽窃に関する部分を熟読する。	
		る。		
	研究倫理を踏まえた研究計画の	各自の研究計画について、共同的に検討し、計画を練り上	自分自身の研究テーマに即して、どのよう	30
4	策定	げる。	な題材で何を調べるのか、問いの形で言明	
			できるように紙に記しておく。	
	研究倫理を踏まえた研究計画の	各自の研究計画について、共同的に検討し、計画を練り上	他者の研究計画に対して、建設的な意見を	30
5	完成	げる。	出せるように、他のメンバーの研究関心に	
			即した情報を得るようにする。	

ㄷ	項目	-授業内容とスケジュール- <b>授業内容</b>	自学自習	日本吐服
回	研究計画に即したフィールド	<b>収集内谷</b>   フィールドワークで行く場所を決定し、フィールドワーク		<b>目安時間</b> 30
6	ワークに向けた事前準備	を行う日程を組む。	出せるように、他のメンバーの研究関心に 即した情報を得るようにする。	30
7	研究計画に即したフィールドワーク①	学生の研究計画に即して、以下の想定している子ども・子育で環境に関するフィールドにフィールドワークを行う。 具体的な子ども・子育で環境について、実際にその場に行ってみてわかったことや気付いたことをフィールドノートに記入する。・想定している子ども・子育で環境に関するフィールド(ニコニコこども館、郡山カルチャーパーク、石筵ふれあい牧場、郡山市ふれあい科学館スペースパーク、開成山公園・21世紀記念公園等の近隣の公園、その他[学生の希望による子ども・子育で環境に関わる施設等]以上から計画に基づいて決定)・参加学生:本授業受講学生。・引率者:本授業担当教員。	は、事前のアポイントメントの取り方、研 究倫理上の配慮などをレクチャーしたうえ	30
8	研究計画に即したフィールドワーク②	学生の研究計画に即して、以下の想定している子ども・子育で環境に関するフィールドにフィールドワークを行う。 具体的な子ども・子育で環境について、実際にその場に行ってみてわかったことや気付いたことをフィールドノートに記入する。・想定している子ども・子育で環境に関するフィールド(ニコニコこども館、郡山カルチャーパーク、石筵ふれあい牧場、郡山市ふれあい科学館スペースパーク、開成山公園・21世紀記念公園等の近隣の公園、その他[学生の希望による子ども・子育で環境に関わる施設等]以上から計画に基づいて決定)・参加学生:本授業受講学生。・引率者:本授業担当教員。	は、事前のアポイントメントの取り方、研 究倫理上の配慮などをレクチャーしたうえ	60
9	研究計画に即したフィールド ワーク③	学生の研究計画に即して、以下の想定している子ども・子育で環境に関するフィールドにフィールドワークを行う。 具体的な子ども・子育で環境について、実際にその場に行ってみてわかったことや気付いたことをフィールドノートに記入する。・想定している子ども・子育で環境に関するフィールド(ニコニコこども館、郡山カルチャーパーク、石筵ふれあい牧場、郡山市ふれあい科学館スペースパーク、開成山公園・21世紀記念公園等の近隣の公園、その他[学生の希望による子ども・子育で環境に関わる施設等]以上から計画に基づいて決定)・参加学生:本授業受講学生。・引率者:本授業担当教員。	は、事前のアポイントメントの取り方、研 究倫理上の配慮などをレクチャーしたうえ	30
10	研究計画に即したフィールドワーク④	学生の研究計画に即して、以下の想定している子ども・子育て環境に関するフィールドにフィールドワークを行う。 具体的な子ども・子育て環境について、実際にその場に行ってみてわかったことや気付いたことをフィールドノートに記入する。・想定している子ども・子育て環境に関するフィールド(ニコニコこども館、郡山カルチャーパーク、石筵ふれあい牧場、郡山市ふれあい科学館スペースパーク、開成山公園・21世紀記念公園等の近隣の公園、その他[学生の希望による子ども・子育て環境に関わる施設等]以上から計画に基づいて決定)・参加学生:本授業受講学生。・引率者:本授業担当教員。	は、事前のアポイントメントの取り方、研究倫理上の配慮などをレクチャーしたうえで、学生自ら電話等でやり取りを行い、研究活動を進められるように準備する。	30

	項目	- 授業内容とスケシュール- <b>授業内</b> 容	自学自習	目安時間
11	****	前回までのフィールドワークについて授業参加学生同士の ディスカッションを通じて振り返る。		30
12	フィールドワークについての フィールドノートの作成①	フィールドノートに整理した形で調べたことを記載しておく。	学生同士のディスカッションの内容を フィールドノートにメモしておき、調べた 内容を自分なりに整理しておく。	30
13	フィールドノートに基づく卒業 研究中間発表会用のスライド・ 『保育研究』の原稿作成		各自貸与PCでWordを開き、所定の書式に即して、フィールドノートに整理した情報を基に、文章を執筆しておく。	30
14	フィールドノートに基づく卒業 研究中間発表会用のスライド・ 『保育研究』の原稿作成	_	各自貸与PCでWordを開き、所定の書式に 即して、フィールドノートに整理した情報 を基に、文章を執筆しておく。	30
15	研究計画に即したフィールド ワーク⑤	学生の研究計画に即して、以下の想定している子ども・子育で環境に関するフィールドにフィールドワークを行う。 具体的な子ども・子育で環境について、実際にその場に行ってみてわかったことや気付いたことをフィールドノートに記入する。・想定している子ども・子育で環境に関するフィールド(ニコニコこども館、郡山カルチャーパーク、石筵ふれあい牧場、郡山市ふれあい科学館スペースパーク、開成山公園・21世紀記念公園等の近隣の公園、その他[学生の希望による子ども・子育で環境に関わる施設等]以上から計画に基づいて決定)・参加学生:本授業受講学生。・引率者:本授業担当教員。	は、事前のアポイントメントの取り方、研究倫理上の配慮などをレクチャーしたうえで、学生自ら電話等でやり取りを行い、研究活動を進められるように準備する。	30
16	研究計画に即したフィールドワーク⑥	学生の研究計画に即して、以下の想定している子ども・子育で環境に関するフィールドにフィールドワークを行う。 具体的な子ども・子育で環境について、実際にその場に行ってみてわかったことや気付いたことをフィールドノートに記入する。・想定している子ども・子育で環境に関するフィールド(ニコニコこども館、郡山カルチャーバーク、石筵ふれあい牧場、郡山市ふれあい科学館スペースパーク、開成山公園・21世紀記念公園等の近隣の公園、その他[学生の希望による子ども・子育で環境に関わる施設等]以上から計画に基づいて決定)・参加学生:本授業受講学生。・引率者:本授業担当教員。	は、事前のアポイントメントの取り方、研究倫理上の配慮などをレクチャーしたうえで、学生自ら電話等でやり取りを行い、研究活動を進められるように準備する。	30
17	研究計画に即したフィールド ワーク⑦	学生の研究計画に即して、以下の想定している子ども・子育で環境に関するフィールドにフィールドワークを行う。 具体的な子ども・子育で環境について、実際にその場に行ってみてわかったことや気付いたことをフィールドノートに記入する。・想定している子ども・子育で環境に関するフィールド(ニコニコこども館、郡山カルチャーバーク、石筵ふれあい牧場、郡山市ふれあい科学館スペースパーク、開成山公園・21世紀記念公園等の近隣の公園、その他[学生の希望による子ども・子育で環境に関わる施設等]以上から計画に基づいて決定)・参加学生:本授業受講学生。・引率者:本授業担当教員。	は、事前のアポイントメントの取り方、研 究倫理上の配慮などをレクチャーしたうえ で、学生自ら電話等でやり取りを行い、研 究活動を進められるように準備する。	30

0	項目	- 授業内容とスケシュール- <b>授業内</b> 容	自学自習	目安時間
18	研究計画に即したフィールドワーク⑧	学生の研究計画に即して、以下の想定している子ども・子育で環境に関するフィールドにフィールドワークを行う。 具体的な子ども・子育で環境について、実際にその場に行ってみてわかったことや気付いたことをフィールドノートに記入する。・想定している子ども・子育で環境に関するフィールド(ニコニコこども館、郡山カルチャーパーク、石筵ふれあい牧場、郡山市ふれあい科学館スペースパーク、開成山公園・21世紀記念公園等の近隣の公園、その他[学生の希望による子ども・子育で環境に関わる施設等]以上から計画に基づいて決定)・参加学生:本授業受講学生。・引率者:本授業担当教員。	は、事前のアポイントメントの取り方、研究倫理上の配慮などをレクチャーしたうえで、学生自ら電話等でやり取りを行い、研究活動を進められるように準備する。	30
19	フィールドワークについての振 り返り②	前回までのフィールドワークについて授業参加学生同士のディスカッションを通じて振り返る。	各自で以下のことを行うこと。 ・フィールドノートにフィールドワークを 通じて気づいたことを記入しておく。 ・フィールドワークにおいて行った施設等 の写真をデータ上で整理しておく。	30
20	フィールドワークについての フィールドノートの作成②	フィールドノートに整理した形で調べたことを記載してお く。	学生同士のディスカッションの内容を フィールドノートにメモしておき、調べた 内容を自分なりに整理しておく。	30
21	フィールドノートに基づく卒業 研究中間発表会用のスライド・ 『保育研究』の原稿作成①		各自貸与PCでWordを開き、所定の書式に即して、フィールドノートに整理した情報を基に、文章を執筆しておく。	30
22	フィールドノートに基づく卒業 研究中間発表会用のスライド・ 『保育研究』の原稿作成②		各自貸与PCでWordを開き、所定の書式に即して、フィールドノートに整理した情報を基に、文章を執筆しておく。	30
23	フィールドノートに基づく卒業 研究中間発表会用のスライド・ 『保育研究』の原稿作成③		各自貸与PCでWordを開き、所定の書式に即して、フィールドノートに整理した情報を基に、文章を執筆しておく。	30
24	フィールドノートに基づく卒業 研究中間発表会用のスライド・ 『保育研究』の原稿作成④	中間発表に向けてスライドをつくり、併せて『保育研究』 の本文執筆を進める。	各自貸与PCでWordを開き、所定の書式に即して、フィールドノートに整理した情報を基に、文章を執筆しておく。	30
25	前期のフィールドワーク(第1 ターム)のまとめ	前期の授業内容をまとめ、フィールドノートを基にしたグ ループディスカッション等の手法で振り返る。	各自フィールドノートを整理しておき、前 期に学んだ内容を記す。	30
26	後期のフィールドワーク(第2 ターム)に向けた研究計画の見直 し・修正	後期のフィールドワーク先の確定及び研究計画の見直し・ 再検討を行う。	各自フィールドノートに後期に実施したい フィールドワークの内容を記す。	30
27	フィールドノートに基づく卒業 研究中間発表会用のスライド・ 『保育研究』の原稿作成⑤		各自貸与PCでWordを開き、所定の書式に即して、フィールドノートに整理した情報を基に、文章を執筆しておく。	30
28	フィールドノートに基づく卒業 研究中間発表会用のスライド・ 『保育研究』の原稿作成⑥	中間発表に向けてスライドをつくり、併せて『保育研究』 の本文執筆を進める。	各自貸与PCでWordを開き、所定の書式に即して、フィールドノートに整理した情報を基に、文章を執筆しておく。	30
29	フィールドノートに基づく卒業 研究中間発表会用のスライド・ 『保育研究』の原稿作成①		各自貸与PCでWordを開き、所定の書式に即して、フィールドノートに整理した情報を基に、文章を執筆しておく。	30
30	フィールドノートに基づく卒業 研究中間発表会用のスライド・ 『保育研究』の原稿作成®		各自貸与PCでWordを開き、所定の書式に即して、フィールドノートに整理した情報を基に、文章を執筆しておく。	30

	T	- 授業内容とスケジュール- 		
回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
31	研究計画に即したフィールドワーク③	学生の研究計画に即して、以下の想定している子ども・子育で環境に関するフィールドにフィールドワークを行う。 具体的な子ども・子育で環境について、実際にその場に行ってみてわかったことや気付いたことをフィールドノートに記入する。 ・想定している子ども・子育で環境に関するフィールド(ニコニコこども館、郡山カルチャーパーク、石筵ふれあい牧場、郡山市ふれあい科学館スペースパーク、開成山公園・21世紀記念公園等の近隣の公園、その他[学生の希望による子ども・子育で環境に関わる施設等]以上から計画に基づいて決定)・参加学生:本授業受講学生。 ・引率者:本授業担当教員。	は、事前のアポイントメントの取り方、研 究倫理上の配慮などをレクチャーしたうえ	30
32	研究計画に即したフィールド ワーク⑩	学生の研究計画に即して、以下の想定している子ども・子育で環境に関するフィールドにフィールドワークを行う。 具体的な子ども・子育で環境について、実際にその場に 行ってみてわかったことや気付いたことをフィールドノートに記入する。 ・想定している子ども・子育で環境に関するフィールド (ニコニコこども館、郡山カルチャーパーク、石筵ふれあい牧場、郡山市ふれあい科学館スペースパーク、開成山公園・21世紀記念公園等の近隣の公園、その他[学生の希望による子ども・子育で環境に関わる施設等]以上から計画に基づいて決定) ・参加学生:本授業受講学生。 ・引率者:本授業担当教員。	は、事前のアポイントメントの取り方、研 究倫理上の配慮などをレクチャーしたうえ	30
33	研究計画に即したフィールド ワーク⑪	学生の研究計画に即して、以下の想定している子ども・子育て環境に関するフィールドにフィールドワークを行う。 具体的な子ども・子育て環境について、実際にその場に行ってみてわかったことや気付いたことをフィールドノートに記入する。 ・想定している子ども・子育て環境に関するフィールド(ニコニコこども館、郡山カルチャーパーク、石筵ふれあい牧場、郡山市ふれあい科学館スペースパーク、開成山公園・21世紀記念公園等の近隣の公園、その他[学生の希望による子ども・子育て環境に関わる施設等]以上から計画に基づいて決定)・参加学生:本授業受講学生。 ・引率者:本授業担当教員。	は、事前のアポイントメントの取り方、研 究倫理上の配慮などをレクチャーしたうえ	30
34	研究計画に即したフィールドワーク⑫	学生の研究計画に即して、以下の想定している子ども・子育で環境に関するフィールドにフィールドワークを行う。 具体的な子ども・子育で環境について、実際にその場に行ってみてわかったことや気付いたことをフィールドノートに記入する。・想定している子ども・子育で環境に関するフィールド(ニコニコこども館、郡山カルチャーパーク、石筵ふれあい牧場、郡山市ふれあい科学館スペースパーク、開成山公園・21世紀記念公園等の近隣の公園、その他[学生の希望による子ども・子育で環境に関わる施設等]以上から計画に基づいて決定)・参加学生:本授業受講学生。・引率者:本授業担当教員。	は、事前のアポイントメントの取り方、研 究倫理上の配慮などをレクチャーしたうえ	30

リ返り②	回	項目	- <sub>-  技</sub> 来内谷 C スケッュール- <b>授業内容</b>	自学自習	目安時間
2日に対すのような主人に対している。		フィールドワークについての振	前回までのフィールドワークについて授業参加学生同士の	各自で以下のことを行うこと。	30
フィールドワークについての		り返り③	ディスカッションを通じて振り返る。	・フィールドノートにフィールドワークを	
27 (				通じて気づいたことを記入しておく。	
2	35			・フィールドワークにおいて行った施設等	
24 - ルドノードにメモしておき、歳べた   カイールドノードにメモしておき、歳べた   大田				の写真をデータ上で整理しておく。	
24 - ルドノードにメモしておき、歳べた   カイールドノードにメモしておき、歳べた   大田					
フィールドノーに基づく年本   中間形式に向けてスフィドをつくり、学士で「信用研究」   お自覚与PCでWoodを示例。 第次の書具に対している。   30   次面にの文字が下   かま文件で変更ら、   20   次面にの文字が下   次本文件で変更ら、   20   20   20   20   20   20   20   2					30
27	36	ノイールトノートの作成③	<b>`</b> •		
### (17. アメールドノードに整理した情報 を選に、文章を執着しておく。		. 10 . 1 . 14 0 . 1 . 14			
1			The state of the s		30
28	37		の本文料率を進める。		
239		[灰月柳九] ***7  赤侗[F  灰		と坐に、人手と批手しておく。	
39	38	卒業研究中間発表リハーサル	中間発表に向けたリハーサルを行う。	発表担当箇所について音読してくる。	30
中国発表用のスタイドに基づき、容差研究の中国発表を行う。 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20		卒業研究中間発表①	中間発表用のスライドに基づき、卒業研究の中間発表を行	発表担当箇所について音読すると共に、想	30
2 会議研究中間免表® 中間発表用のスライドに基づき、京業研究の中間発表を打 お表別組造所について育成すると共に、 想 される質問への答えを用意してくる。	39		う。	定される質問への答えを用意してくる。	
2 会議研究中間免表® 中間発表用のスライドに基づき、京業研究の中間発表を打 お表別組造所について育成すると共に、 想 される質問への答えを用意してくる。					
41		卒業研究中間発表②	中間発表用のスライドに基づき、卒業研究の中間発表を行	発表担当箇所について音読すると共に、想	30
41         う。         定名和交回和民主会の         大学研究中国民委会         中国民委用のスライドに基づき、卒業研究の中国民委を行うできません。         20           42         1         中国民委用のスライドに基づき、卒業研究の中国民委を行うできません。         要素研究の可以を表した。         20           43         「保育研究」の論文序域②         「保育研究」の論文時域②の論文所は「関に合うように、計画的に執筆を進め、必要に応じて途中検討を加えながら、完成にござっける。         会自の研究テーマに即して、少しずつでもいいので文章を記してくる。         60           44         「保育研究」の論文作成②         「保育研究」の論文的認定にで途中検討を加えながら、完成にござっける。         会自の研究テーマに即して、少しずつでもいいので文章を記してくる。         60           45         「保育研究」の論文作成③         「保育研究」の論文的認定にて途中検討を加えながら、完成にござっける。         60         中の研究テーマに即して、少しずつでもいいので文章を記してくる。         60           46         「保育研究」の論文作成③         「保育研究」の論文情報と同じて途中検討を加えながら、完成にござっける。         60         中の研究テーマに即して、少しずつでもいいので文章を記してくる。         60           47         「保育研究」の論文情報」の論文情報」に対さるように、計画的に執票を記して、かいので文章を記して、少しずつでもいいので文章を記してくる。         60         60           48         成別研究の論文の論文作成③         「保育研究」の論文情報」の論文情報」の論文情報」の論文情報」の論文情報の意义情報を記して、「保育研究」用の教育所述の文章を記して、フィールドノートに整理した情報を基にスライド及び発表会用のスライド及び発表原稿をつくる。         会自費料でWordを開ま、所定の書式に即して、フィールドノートに整理した情報を基にスライド及び発表原稿を向るフィースルドノートに整理した情報を認定のフィース・アノールドノートに変更した情報を認定のフィーストアノールドノートに変更した情報を認定のティーストのので表しますに対して、フィールドノートに変更した情報を認定のフィーストアノールドノートに変更した情報を認定のフィーストアノートに変更した情報を認定のティーストの場合を表しますに対して、フィールドノートに変更した情報を認定のよりに対して、フィールドノートに変更した情報を認定のよりに対して、フィールドノートに変更した情報を認定のよりに対して、フィールドノールドノートに変更した情報を認定のフィールドノートに変更した情報を認定のよりに対して、フィールドノートに変更した情報を認定のよりに対しますに対して、フィールドノートに変更した情報を認定のよりに対して、フィールドノートに変更した情報を認定のよりに対しますに対しますに対しましますに対しますに対しますに対しますに対しませないとないとないとないとないとないとないとないとないとないとないとないとないとな	40		う。	定される質問への答えを用意してくる。	
41         う。         定名和交回和民主会の         大学研究中国民委会         中国民委用のスライドに基づき、卒業研究の中国民委を行うできません。         20           42         1         中国民委用のスライドに基づき、卒業研究の中国民委を行うできません。         要素研究の可以を表した。         20           43         「保育研究」の論文序域②         「保育研究」の論文時域②の論文所は「関に合うように、計画的に執筆を進め、必要に応じて途中検討を加えながら、完成にござっける。         会自の研究テーマに即して、少しずつでもいいので文章を記してくる。         60           44         「保育研究」の論文作成②         「保育研究」の論文的認定にで途中検討を加えながら、完成にござっける。         会自の研究テーマに即して、少しずつでもいいので文章を記してくる。         60           45         「保育研究」の論文作成③         「保育研究」の論文的認定にて途中検討を加えながら、完成にござっける。         60         中の研究テーマに即して、少しずつでもいいので文章を記してくる。         60           46         「保育研究」の論文作成③         「保育研究」の論文情報と同じて途中検討を加えながら、完成にござっける。         60         中の研究テーマに即して、少しずつでもいいので文章を記してくる。         60           47         「保育研究」の論文情報」の論文情報」に対さるように、計画的に執票を記して、かいので文章を記して、少しずつでもいいので文章を記してくる。         60         60           48         成別研究の論文の論文作成③         「保育研究」の論文情報」の論文情報」の論文情報」の論文情報」の論文情報の意义情報を記して、「保育研究」用の教育所述の文章を記して、フィールドノートに整理した情報を基にスライド及び発表会用のスライド及び発表原稿をつくる。         会自費料でWordを開ま、所定の書式に即して、フィールドノートに整理した情報を基にスライド及び発表原稿を向るフィースルドノートに整理した情報を認定のフィース・アノールドノートに変更した情報を認定のフィーストアノールドノートに変更した情報を認定のティーストのので表しますに対して、フィールドノートに変更した情報を認定のフィーストアノールドノートに変更した情報を認定のフィーストアノートに変更した情報を認定のティーストの場合を表しますに対して、フィールドノートに変更した情報を認定のよりに対して、フィールドノートに変更した情報を認定のよりに対して、フィールドノートに変更した情報を認定のよりに対して、フィールドノールドノートに変更した情報を認定のフィールドノートに変更した情報を認定のよりに対して、フィールドノートに変更した情報を認定のよりに対しますに対して、フィールドノートに変更した情報を認定のよりに対して、フィールドノートに変更した情報を認定のよりに対しますに対しますに対しましますに対しますに対しますに対しますに対しませないとないとないとないとないとないとないとないとないとないとないとないとないとな					
中間発表の中間発表を分 中間発表用のスライドに基づき、卒業研究の中間発表を行 発表担当関係について音数すると共に、想定される質問への答えを用意してくる。		卒業研究中間発表③	中間発表用のスライドに基づき、卒業研究の中間発表を行	発表担当箇所について音読すると共に、想	30
1	41		う。	定される質問への答えを用意してくる。	
1					
1 「保育研究」の論文作成②		卒業研究中間発表④	中間発表用のスライドに基づき、卒業研究の中間発表を行	発表担当箇所について音読すると共に、想	30
### 2 を進め、必要に応じて途中検討を加えながら、完成にこぎ いいので文章を記してくる。つける。    「保育研究」の論文作成②	42		う。	定される質問への答えを用意してくる。	
### 2 を進め、必要に応じて途中検討を加えながら、完成にこぎ いいので文章を記してくる。つける。    「保育研究」の論文作成②					
「保育研究」の論文作成②		『保育研究』の論文作成①	『保育研究』の論文締切に間に合うように、計画的に執筆	各自の研究テーマに即して、少しずつでも	60
「保育研究」の論文作成②	43		を進め、必要に応じて途中検討を加えながら、完成にこぎ	いいので文章を記してくる。	
			つける。		
1		『保育研究』の論文作成②	『保育研究』の論文締切に間に合うように、計画的に執筆	各自の研究テーマに即して、少しずつでも	60
「保育研究』の論文作成③	44		を進め、必要に応じて途中検討を加えながら、完成にこぎ	いいので文章を記してくる。	
を進め、必要に応じて途中検討を加えながら、完成にこぎ いいので文章を記してくる。			つける。		
70		『保育研究』の論文作成③	『保育研究』の論文締切に間に合うように、計画的に執筆	各自の研究テーマに即して、少しずつでも	60
「保育研究」の論文作成④	45		を進め、必要に応じて途中検討を加えながら、完成にこぎ	いいので文章を記してくる。	
46         を進め、必要に応じて途中検討を加えながら、完成にこぎつける。         いいので文章を記してくる。           47         『保育研究』の論文作成③         『保育研究』の論文緒切に間に合うように、計画的に執筆 各自の研究テーマに即して、少しずつでもと進め、必要に応じて途中検討を加えながら、完成にこぎつける。         60           48         成)         『保育研究』の論文作成③(完 で操育研究』の論文緒切に間に合うように、計画的に執筆本文を基にした、『保育研究』用の抜粋原を進め、必要に応じて途中検討を加えながら、完成にこぎつける。         続をつくっておく。つける。           49         卒研発表会用のスライド及び発表原稿をつくる。表自資与PCでWordを開き、所定の書式に即して、フィールドノートに整理した情報を基にスライド及び原稿を作成しておく。         部して、フィールドノートに整理した情報を基にスライド及び原稿を作成しておく。           50         卒研発表会用のスライド及び発表原稿をつくる。表自資与PCでWordを開き、所定の書式に即して、フィールドノートに整理した情報を基にスライド及び原稿を作成しておく。         60           51         卒研発表会用のスライド及び発表原稿をつくる。表自資与PCでWordを開き、所定の書式に即して、フィールドノートに整理した情報を基にスライト及び原稿を作成しておく。         60           52         卒業研究発表会用のスライド及び発表原稿をつくる。表自資与PCでWordを開き、所定の書式に即して、フィールドノートに整理した情報を基にスライト及び原稿を作成しておく。         60			つける。		
70		『保育研究』の論文作成④	『保育研究』の論文締切に間に合うように、計画的に執筆	各自の研究テーマに即して、少しずつでも	60
「保育研究」の論文作成®   「保育研究」の論文締切に間に合うように、計画的に執筆 名自の研究テーマに即して、少しずつでも を進め、必要に応じて途中検討を加えながら、完成にこぎ いいので文章を記してくる。 つける。	46			いいので文章を記してくる。	
を進め、必要に応じて途中検討を加えながら、完成にこぎ いいので文章を記してくる。 つける。			つける。		
つける。		『保育研究』の論文作成⑤			60
48 成)         『保育研究』の論文作成⑤(完成)         『保育研究』の論文締切に間に合うように、計画的に執筆本文を基にした、『保育研究』用の抜粋原 を進め、必要に応じて途中検討を加えながら、完成にこぎ つける。         本文を基にした、『保育研究』用の抜粋原 稿をつくっておく。         60           49 本研発表会用のスライド及び発表を開のスライド及び発表原稿をつくる。表原稿作成①         本文を基にした、『保育研究』用の抜粋原 稿をつくっておく。         60           49 本研発表会用のスライド及び発表会用のスライド及び発表原稿をつくる。表原稿作成②         各自貸与PCでWordを開き、所定の書式に 即して、フィールドノートに整理した情報を基にスライド及び原稿を作成しておく。         60           50 本研発表会用のスライド及び発表会用のスライド及び発表原稿をつくる。表原稿作成③         本業研究発表会用のスライド及び発表原稿をつくる。表自貸与PCでWordを開き、所定の書式に 即して、フィールドノートに整理した情報を基にスライド及び原稿を作成しておく。         60           51 本研発表会用のスライド及び発表会別のスライド及び発表原稿をつくる。表自貸与PCでWordを開き、所定の書式に 即して、フィールドノートに整理した情報を基にスライド及び原稿を作成しておく。         60	47			いいので文章を記してくる。	
48 成)       を進め、必要に応じて途中検討を加えながら、完成にこぎ つける。       橋をつくっておく。         49 を研発表会用のスライド及び発表原稿をつくる。       各自賞与PCでWordを開き、所定の書式に即して、フィールドノートに整理した情報を基にスライド及び原稿を作成しておく。       60         49 を研発表会用のスライド及び発表原稿をつくる。表原稿作成②       本業研究発表会用のスライド及び発表原稿をつくる。表原稿作成②       各自賞与PCでWordを開き、所定の書式に即して、フィールドノートに整理した情報を基にスライド及び原稿を作成しておく。         50 を研発表会用のスライド及び発表原稿をつくる。表原稿作成③       本業研究発表会用のスライド及び発表原稿をつくる。表自賞与PCでWordを開き、所定の書式に即して、フィールドノートに整理した情報を基にスライド及び原稿を作成しておく。         51 を研発表会用のスライド及び発表原稿をつくる。表原稿作成④       本書の発表会用のスライド及び発表原稿をつくる。表自賞与PCでWordを開き、所定の書式に即して、フィールドノートに整理した情報を基にスライド及び原稿を作成しておく。			つける。		
49       卒研発表会用のスライド及び発表会用のスライド及び発表原稿をつくる。       各自貸与PCでWordを開き、所定の書式に即して、フィールドノートに整理した情報を基にスライド及び原稿を作成しておく。       60         49       卒研発表会用のスライド及び発表会用のスライド及び発表原稿をつくる。表自貸与PCでWordを開き、所定の書式に即して、フィールドノートに整理した情報を基にスライド及び原稿を作成しておく。       60         50       卒研発表会用のスライド及び発表会用のスライド及び発表原稿をつくる。表自貸与PCでWordを開き、所定の書式に即して、フィールドノートに整理した情報を基にスライド及び原稿を作成しておく。       60         51       卒研発表会用のスライド及び発表会用のスライド及び発表原稿をつくる。表自貸与PCでWordを開き、所定の書式に即して、フィールドノートに整理した情報を基にスライド及び原稿を作成しておく。       60         52       卒研発表会用のスライド及び発表を開のスライド及び発表原稿をつくる。表自貸与PCでWordを開き、所定の書式に即して、フィールドノートに整理した情報       60					60
49       卒研発表会用のスライド及び発表会用のスライド及び発表原稿をつくる。       各自貸与PCでWordを開き、所定の書式に即して、フィールドノートに整理した情報を基にスライド及び原稿を作成しておく。       60         50       卒研発表会用のスライド及び発表会用のスライド及び発表原稿をつくる。表原稿作成②       各自貸与PCでWordを開き、所定の書式に即して、フィールドノートに整理した情報を基にスライド及び原稿を作成しておく。       60         51       卒研発表会用のスライド及び発表会用のスライド及び発表原稿をつくる。表原稿作成③       各自貸与PCでWordを開き、所定の書式に即して、フィールドノートに整理した情報を基にスライド及び原稿を作成しておく。       60         52       卒研発表会用のスライド及び発表会用のスライド及び発表原稿をつくる。表原稿作成④       各自貸与PCでWordを開き、所定の書式に即して、フィールドノートに整理した情報を基にスライド及び原稿を作成しておく。       60	48	成)		稿をつくっておく。 	
### 表原稿作成① #### ###############################					
49       を基にスライド及び原稿を作成しておく。         本研発表会用のスライド及び発表会用のスライド及び発表原稿をつくる。       各自貸与PCでWordを開き、所定の書式に即して、フィールドノートに整理した情報を基にスライド及び原稿を作成しておく。         50       本研発表会用のスライド及び発表会用のスライド及び発表原稿をつくる。       各自貸与PCでWordを開き、所定の書式に即して、フィールドノートに整理した情報を基にスライド及び原稿を作成しておく。         51       本研発表会用のスライド及び発表会用のスライド及び発表原稿をつくる。       各自貸与PCでWordを開き、所定の書式に即して、フィールドノートに整理した情報を基にスライド及び原稿を作成しておく。         を研発表会用のスライド及び発表会用のスライド及び発表原稿をつくる。表原稿作成④       各自貸与PCでWordを開き、所定の書式に即して、フィールドノートに整理した情報を基にスティールドノートに整理した情報を基にスティールドノートに整理した情報			卒業研究発表会用のスライド及び発表原稿をつくる。 		60
50       卒研発表会用のスライド及び発表会用のスライド及び発表原稿をつくる。 表原稿作成②       各自貸与PCでWordを開き、所定の書式に 即して、フィールドノートに整理した情報 を基にスライド及び原稿を作成しておく。       60         51       卒研発表会用のスライド及び発表会用のスライド及び発表原稿をつくる。 表原稿作成③       各自貸与PCでWordを開き、所定の書式に 即して、フィールドノートに整理した情報 を基にスライド及び原稿を作成しておく。       60         本研発表会用のスライド及び発表会用のスライド及び発表原稿をつくる。 表原稿作成④       本自貸与PCでWordを開き、所定の書式に 即して、フィールドノートに整理した情報       60	49	表原楇作成①			
50       表原稿作成②       即して、フィールドノートに整理した情報を基にスライド及び原稿を作成しておく。         51       卒研発表会用のスライド及び発表会用のスライド及び発表原稿をつくる。 表原稿作成③       各自貸与PCでWordを開き、所定の書式に即して、フィールドノートに整理した情報を基にスライド及び原稿を作成しておく。       60         51       卒研発表会用のスライド及び発表会用のスライド及び発表原稿をつくる。 表原稿作成④       各自貸与PCでWordを開き、所定の書式に即して、フィールドノートに整理した情報       60				を基にスプイト及び原備をTF放しておく。	
50       表原稿作成②       即して、フィールドノートに整理した情報を基にスライド及び原稿を作成しておく。         51       卒研発表会用のスライド及び発表会用のスライド及び発表原稿をつくる。 表原稿作成③       各自貸与PCでWordを開き、所定の書式に即して、フィールドノートに整理した情報を基にスライド及び原稿を作成しておく。       60         51       卒研発表会用のスライド及び発表会用のスライド及び発表原稿をつくる。 表原稿作成④       各自貸与PCでWordを開き、所定の書式に即して、フィールドノートに整理した情報       60					
50       を基にスライド及び原稿を作成しておく。         を基にスライド及び原稿を作成しておく。       各自貸与PCでWordを開き、所定の書式に即して、フィールドノートに整理した情報を基にスライド及び原稿を作成しておく。         51       卒研発表会用のスライド及び発表を開のスライド及び発表原稿をつくる。       各自貸与PCでWordを開き、所定の書式に即して、フィールドノートに整理した情報を基にスライド及び原稿を作成しておく。					60
空研発表会用のスライド及び発   卒業研究発表会用のスライド及び発表原稿をつくる。   各自貸与PCでWordを開き、所定の書式に   即して、フィールドノートに整理した情報   を基にスライド及び原稿を作成しておく。	50	衣尿倫作成②			
表原稿作成③       即して、フィールドノートに整理した情報を基にスライド及び原稿を作成しておく。         卒研発表会用のスライド及び発表の高をつくる。       各自貸与PCでWordを開き、所定の書式に即して、フィールドノートに整理した情報				と金にハノコー及UI原制でIFI及しておく。	
表原稿作成③       即して、フィールドノートに整理した情報を基にスライド及び原稿を作成しておく。         卒研発表会用のスライド及び発表の高をつくる。       各自貸与PCでWordを開き、所定の書式に即して、フィールドノートに整理した情報				各自貸与PCでWordを聞き 所定の事式に	۵۸.
51       を基にスライド及び原稿を作成しておく。         卒研発表会用のスライド及び発表会用のスライド及び発表原稿をつくる。       各自貸与PCでWordを開き、所定の書式に即して、フィールドノートに整理した情報			1 木型プロル公共用サインプ   1 人 V 元秋原側で ノ V 2 。		00
卒研発表会用のスライド及び発 本業研究発表会用のスライド及び発表原稿をつくる。 表原稿作成④ 52 ABB ABB ABB ABB ABB ABB ABB ABB ABB ABB	51	2000 11911 790			
表原稿作成④ 即して、フィールドノートに整理した情報					
表原稿作成④ 即して、フィールドノートに整理した情報			 	各白貸与PCでWordを開き   所定の事士に	60
52			十末ッ  九九公五川ツヘノ1  下及い九衣原侗を ノくる。 		60
	52	TANK IPITI PACE			

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
53	卒業研究発表会リハーサル①	卒業研究発表会の発表用スライドを用いてリハーサルを行う。	発表担当箇所について音読してくる。	60
54	卒業研究発表会リハーサル②	卒業研究発表会の発表用スライドを用いてリハーサルを行う。	発表担当箇所について音読してくる。	60
55	卒業研究発表会①	卒業研究の発表をスライドを用いて行うと共に、他の卒業 研究について知る。	発表担当箇所について音読すると共に、想 定される質問への答えを用意してくる。	60
56	卒業研究発表会②	卒業研究の発表をスライドを用いて行うと共に、他の卒業 研究について知る。	発表担当箇所について音読すると共に、想 定される質問への答えを用意してくる。	60
57	卒業研究発表会③	卒業研究の発表をスライドを用いて行うと共に、他の卒業 研究について知る。	発表担当箇所について音読すると共に、想 定される質問への答えを用意してくる。	60
58	卒業研究発表会④	卒業研究の発表をスライドを用いて行うと共に、他の卒業 研究について知る。	発表担当箇所について音読すると共に、想 定される質問への答えを用意してくる。	60
59	相互フィードバック	ディスカッション形式で各自でそれぞれの研究成果に対し てフィードバックを行う。	できあがった論文原稿を見返しておく。	30
60	最終フィードバック	担当教員から学生個々に対して、フィードバックを行う。	できあがった論文原稿を見返しておく。	30

科目名	卒業研究	対象			
担当教員	ポール バーナミィ,栁沼 真美子	単位数	短期大学部 幼児教	育学科	2年 2単位 必修
開講期	通年	必選			
授業概要	Students should have high-level art sinstructions for completing tasks on the active learning.  ①保育に関する課題を自ら設定し、年「②課題を解決するための方法を身に付「③保育の世界を広げるとともに、保育・A. The number of this subject is CE22B. The instructor has taught English for C. The instructor has used computers	kills they would lik me and as a team 間を通して課題と ける。その際、研究 への理解を深める。 70. or more than 20 ye for more than 35	e to develop in compu . Students should be a 可き合う。 R倫理について学ぶ。 ears. years.	ter pro	strong curiosity to become proficient in computers and software oduction. Students should be able to understand and follow lead other students by example and by demonstrating using ation, leadership, creativity, computer skills, and software
達成目標	GOALS OF THIS CLASS:  1. The main focus will be to improve computer skills, enhance presentation ability and gain confidence. I will demonstrate new skills in each class using active learning.  2. The required material and homework will include communication tasks to establish and develop an overall practical ability.  3. Students will research topics through oral, visual, and final paper submissions.  4. The teacher will demonstrate the steps involved in achieving optimized results. We will use Active Learning, students will then complete tasks together and on their own to demonstrate understanding and follow through of concepts.  • The minimum standard to receive 2 credits for this subject is to achieve 60% or higher on the overall average of these main criteria, attitude, quizzes, and the final projects.  • The "Diploma Policy" (DP) for this subject stipulates "Problem-Solving Skills" and "Gaining Abundant Knowledge."				
受講資格	幼児教育学科2年生		成績評価	授業	集態度、意欲などを60点、発表の成果を40点として評価する
教科書	なし		l		
参考書	適宜推薦				
学生への要望	Don't miss class. Be attentive. Use your computer for assignments. Use 120 minutes of homework drawin Review the supplements provided for  ○グループで学びあうルールやマナー ○他の卒研グループとも互いに尊重していい時間割上の時間だけでなく、時間外	- this class. を守る。 合い、体験を共有す	tā.		
·フィスタイム	Room 837: Wednesday, 9:10~12:00 83年館 3 F 837研究室				

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション Orientation 1	Introductions. Talk of schedule and goals of class. Inform students of tools, use of computers, available material and other features such as music, games and internships. Talk about options and expectations. Give files containing visual references. Explain active learning and the use of feedback,	Familarize yourself with the PDF booklet, and review the software ideas we will be using. Use the PDF booklet to do your assignments. Review the PDF booklet of samples. Review the PDF booklet of how to do gradations. Review the active learning ideas.	120

- E	項目	-授業内容とスケジュール- <b>授業内容</b>	自学自習	目安時間
回	オリエンテーション	□ <b>以来がせ</b> ○メンバーの顔合わせと自己紹介	Review the software ideas we will be	120
2	Orientation 2	○1年間の日程確認 We will watch demonstration and begin use of software. Students will use Microsoft Word along with instruction to begin first assignment while in class. We will talk about the skill set needed and encourage through active learning.	using. Use booklet to do assignments. Review the active learning ideas.	120
3	研究課題について Research Discussion	研究の課題の見つけ方・研究課題の絞り込み方について理解する Demonstrate available tools and methods for optimal research. Give examples of research and discuss how we might use our research in a practical class situation. Consider time variables, age, total classes, methods of presentation, time of year, and any feature worth considering for further research. Class demonstration of illustration utilizing active learning.	= -	120
4	研究課題の明確化と概念枠組み Clarification of Research 1	研究課題の明確化と概念枠組みの設定について理解する  Define and narrow search. Demonstrate software and how to use for presenting information. Utilize sound, video and pictures in a simple, but clear format for discussion. Assign activity which utilizes tools we just used. Class will demonstrate their use in class situation. Class demonstration of illustration utilizing active learning.	Review the software ideas we will be using. Use booklet to do assignments. Start a sample from the booklet as a challenge. Review the active learning ideas.	120
5	研究課題の明確化と概念枠組み Clarification of Research 2	研究課題の明確化と概念枠組みの設定について理解する  Demonstrate software and how to use for presenting information. Utilize sound, video and pictures in an animation. Assign activity which utilizes tools we just used. Class demonstration of illustration utilizing active learning.	Review the software ideas we will be using. Use booklet to do assignments. Start a sample from the booklet as a challenge. Review the active learning ideas.	120
6	研究方法と研究デザインの選定 Research Topic Selection 1	研究方法の選定と研究デザインの選定を理解する Research selection comprehension, explain the point of the research. Class demonstration of illustration utilizing active learning.	Review the software ideas we will be using. Choose elements for mobile design. Draw items for the mobile. Review the active learning ideas.	120
7	研究方法と研究デザインの選定 Research Topic Selection 2	研究方法の選定と研究デザインの選定を理解する Class will demonstrate their use in class situation.We will talk about selection of first video. We will prepare materials for video. We will edit material. Class demonstration of illustration utilizing active learning.	Review the software ideas we will be using. Choose elements for mobile design. Draw items for the mobile. Review the active learning ideas.	120
8	研究方法のデータ収集と分析 Methods of Collection and Analysis 1	研究方法のデータ収集と分析を理解する Analyze material. Analyze material through activity, demonstrate their understanding of collected material. Continuse editing material. Class demonstration of illustration utilizing active learning.	Choose elements for mobile design. Draw items for the mobile. Review the active learning ideas.	120
9	研究方法のデータ収集と分析 Methods of Collection and Analysis 2	研究方法のデータ収集と分析を理解する Analyze material. Analyze material through activity, demonstrate their understanding of collected material. Use feedback to consider the process. Class demonstration of illustration utilizing active learning.	Choose elements for mobile design. Draw items for the mobile. Review the active learning ideas.	120

		-授業内容とスケジュール- 		
回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
	研究結果の分析/研究課題の絞	研究結果とその分析について理解する 研究課題の絞り込み	Choose elements for mobile design. Draw	120
	り込みの実際 Analysis	をする 	items for the mobile. Review the active	
10	Refinement 1	Refine and edit material.	learning ideas. We make paper cakes to	
10		Discussion of ideas for poster 1. Discussion of ideas for	demonstrate teamwork activity. We utilize	
		Momijikai 1.	time and construction techniques.	
	研究結果の分析/研究課題の絞	研究結果とその分析について理解する 研究課題の絞り込み	Choose elements for mobile design. Draw	120
	り込みの実際 Analysis	をする	items for the mobile. Review the active	
	Refinement 2	Refine and edit material.	learning ideas. We make paper cakes to	
11		Discussion of ideas for poster 2. Discussion of ideas for	demonstrate teamwork activity. We utilize	
		Momijikai 2.	time and construction techniques.	
	研究結果の分析/研究課題の絞		Change alaments for animation design	120
	が充結果の労働/研究課題の叙 り込みの実際 Analysis	研究結果とその分析について理解する 研究課題の絞り込みをする	Choose elements for animation design.  Draw items for the animation. Review the	120
	Refinement 3	Refine and edit material.	active learning ideas.	
4.0	Kennement 3	Build 3-d art from research material. Mobile art	active learning lueas.	
12		construction. Class demonstration of illustration utilizing		
		active learning.		
		active learning.		
	研究結果の分析/研究課題の絞	研究結果とその分析について理解する 研究課題の絞り込み	Choose elements for animation design.	120
	研究結果の分析/研究課題の叙 り込みの実際 Analysis	研究指来とその分析についく理解する研究課題の絞り込みをする	Draw items for the animation.	120
	Refinement 4	Refine and edit material.	Draw items for the animation.	
4.0	iverillelitetit 4	Continue building 3-d art from research material. Mobile		
13		art construction. Class demonstration of illustration		
		utilizing active learning.		
		attrizing dotive routhing.		
	公理的和家について	7.1.カル・カル・フ   公田   公田   公田   日本   日本   日本   日本   日本   日本   日本   日		120
	倫理的配慮について Considerations 1	研究における倫理的配慮について	Choose elements for animation design.  Draw items for the animation.	120
	Considerations 1	Considering ethics while researching 1.  Give examples of acceptable and unacceptable use of	Draw items for the animation.	
14		outside sources. Mobile art construction. Class		
		demonstration of illustration utilizing active learning.		
		demonstration of mustration utilizing active learning.		
	倫理的配慮について	研究における倫理的配慮について	Choose elements for animation design.	120
	に	いえたわりる 開発的 Dime に りい C Considering ethics while researching 2.	Draw items for the animation. Review the	120
	Considerations 2	Demostrate understanding of acceptable and		
		unacceptable outside sources. Mobile art construction.	active learning ideas.	
15		Class demonstration of illustration utilizing active		
		learning.		
		learning.		
	立む松声のプロレフ・	<b>・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・</b>	Change alaments for arrive 11	100
	文献検索のプロセス Search and Review Protocol 1	文献検索の方法を理解し、研究課題に関する先行研究を検	Choose elements for animation design.  Draw items for the animation. Review the	120
16	and Review Protocol 1	索する		
10		Research protocol and review.	active learning ideas.	
	文献検索のプロセス Search	文献検索の方法を理解し、研究課題に関する先行研究を検	Review the software ideas we will be	120
	and Review Protocol 2	索する	using. Choose elements for the poster.	
		Research protocol and review.	Draw items for the poster. Review the	
17		Poster concepts discussed. I will demonstrate new	active learning ideas.	
		drawing and computer topics in class using active		
		learning.		
	制作・練習 Production and	研究計画書の作成	Review the software ideas we will be	120
	制作・練省 Production and Practice 1	研究計画書の作成 Beginning to assemble research.	using. Choose elements for the poster.	120
	I TUGUIGE I	Poster concepts discussed. I will demonstrate new	Draw items for the poster. Review the	
18		drawing and computer topics in class using active	active learning ideas.	
		learning.	active learning fueus.	

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
19	制作・練習 Production and Practice 2	研究計画書の作成 Beginning to assemble research. Poster concepts discussed. I will demonstrate new drawing and computer topics in class using active learning.	Review the software ideas we will be using. Choose elements for the poster.  Draw items for the poster.	120
20	制作・練習 Production and Practice 3	研究計画書の作成 Beginning to assemble research. Poster concepts discussed. I will demonstrate new drawing and computer topics in class using active learning.	Review the software ideas we will be using. Choose elements for the poster.  Draw items for the poster.	120
21	研究の実際 Research 1	教材作成をする. Research continues. I will demonstrate new drawing and computer topics in class using active learning.	Choose elements for Momijikai design. Draw items for the wall designs. Construct models for Momijikai.	120
22	研究の実際 Research 2	教材作成をする. Research continues. I will demonstrate new drawing and computer topics in class using active learning.	Choose elements for Momijikai design. Draw items for the wall designs. Construct models for Momijikai.	120
23	研究の実際 Research 3	教材作成をする. Research continues. I will demonstrate new drawing and computer topics in class using active learning.	Choose elements for Momijikai design. Draw items for the wall designs. Construct models for Momijikai.	120
24	研究の実際 Research 4	教材作成をする. Research continues. Duties related to Momijikai are clarified. I will demonstrate new drawing and computer topics in class using active learning.	Choose elements for Momijikai design. Draw items for the wall designs. Construct models for Momijikai.	120
25	研究の実際 Research 5	教材作成をする. Research continues. Design elements ready for production. I will demonstrate new drawing and computer topics in class using active learning.	Choose elements for Momijikai design. Draw items for the wall designs. Construct models for Momijikai.	120
26	研究の実際 Research 6	教材作成をする. Research continues. Design elements ready for production. I will demonstrate new drawing and computer topics in class using active learning.	Choose elements for Momijikai design. Draw items for the wall designs. Contstuct models for Momijikai.	120
27	研究の実際 Research 7	教材作成をする. 中間発表の「もみじ会」の準備をする Research continues. Animation edited. I will demonstrate new drawing and computer topics in class using active learning.	Choose elements for Momijikai design. Draw items for the wall designs. Contstuct models for Momijikai.	120
28	研究の実際 Research 8	教材作成をする. 中間発表の「もみじ会」の準備をする Research continues. Animation edited. I will demonstrate new drawing and computer topics in class using active learning.	Draw items for the wall designs. Construct models for Momijikai. Draw items for the poster. Review the active learning ideas.	120
29	研究の実際 Research 9	教材作成をする. 中間発表の「もみじ会」の準備をする Research continues. Animation edited. I will demonstrate new drawing and computer topics in class using active learning.	Draw items for the wall designs. Construct models for Momijikai. Draw items for the poster. Review the active learning ideas.	120

回	項目	-授業内容とスケジュール- <b>授業内容</b>	自学自習	目安時間
30	研究の実際 Research 10	教材作成をする. 中間発表の「もみじ会」の準備をする Research continues. Animation edited. I will demonstrate new drawing and computer topics in class using active learning.	Draw items for the wall designs. Construct models for Momijikai. Draw items for the poster. Review the active learning ideas.	120
31	研究の実際 Research 11	教材作成をする. 中間発表の「もみじ会」の準備をする Research continues. I will demonstrate new drawing and computer topics in class using active learning.	Draw items for the wall designs. Contstuct models for Momijikai. Draw items for the poster. Review the active learning ideas.	120
32	研究の実際 Research 12	教材作成をする. 中間発表の「もみじ会」の準備をする Research continues. Animation edited. I will demonstrate new drawing and computer topics in class using active learning.	Draw items for the wall designs. Contstuct models for Momijikai.	120
33	研究の実際 Research 13	教材作成をする. Research continues. Design elements ready for production. I will demonstrate new drawing and computer topics in class using active learning.	We are filming animation designs. We are editing movies and animations.	120
34	研究の実際 Research 14	教材作成をする. Research continues. Design elements ready for production. I will demonstrate new drawing and computer topics in class using active learning.	We are filming animation designs. We are editing movies and animations. Complete ideas and drawings for the mobile. Review the active learning ideas.	120
35	研究の実際 Research 15	教材作成をする. Research continues. Design elements ready for production. I will demonstrate new drawing and computer topics in class using active learning.	We are filming animation designs. We are editing movies and animations. Complete ideas and drawings for the mobile. Review the active learning ideas.	120
36	研究の実際 Research 16	教材作成をする. Research continues. Design elements ready for production. I will demonstrate new drawing and computer topics in class using active learning.	We are filming animation designs. We are editing movies and animations. Complete ideas and drawings for the mobile. Review the active learning ideas.	120
37	研究の実際 Research 17	教材作成をする. Research continues. Design elements ready for production. I will demonstrate new drawing and computer topics in class using active learning.	We are filming animation designs. We are editing movies and animations. Complete ideas and drawings for the mobile. Review the active learning ideas.	120
38	研究の実際 Research 18	教材作成をする. Research continues. Design elements ready for production. I will demonstrate new drawing and computer topics in class using active learning.	We are filming animation designs. We are editing movies and animations. Complete ideas and drawings for the mobile. Review the active learning ideas.	120
39	研究の実際 Research 19	教材作成をする. Research continues. Design elements ready for production. I will demonstrate new drawing and computer topics in class using active learning.	We are working on presentation. We are editing movies and animations. We are making the beginning edits of the PowerPoint presentation. Complete ideas and drawings for the presentation.  Review the active learning ideas.	120
40	研究の実際 Research 20	教材作成をする. Research continues. Design elements ready for production. I will demonstrate new drawing and computer topics in class using active learning.	We are working on presentation. We are editing movies and animations. We are making the second edits of the PowerPoint presentation. Complete ideas and drawings for the presentation. Review the active learning ideas.	120

	項目	- 授業内容とスケシュール- <b>授業内容</b>	自学自習	日本吐明
回	研究の実際 Research 21	教材作成をする. Research continues. Design elements ready for production. I will demonstrate new drawing and computer	We are working on presentation. We are editing movies and animations. We are	<b>目安時間</b> 120
41		topics in class using active learning.	presentation. Complete ideas and drawings for the presentation. Review the active learning ideas.	
	研究の実際 Research	教材作成をする.	We are working on presentation. We are	120
	Intermediate Presentation Activity	PowerPoint concepts and editing. Class demonstration of illustration utilizing active learning.	adding movies and animations. We are editing PowerPoint presentation.	
42			Complete ideas and drawings for the presentation. Review the active learning ideas.	
	研究の実際 Research	教材作成をする.	We are working on presentation. We are	120
	Demonstration	Demonstrate activity for group. Talk about changes or additions to activity. Class demonstration of illustration	adding movies and animations. We are editing PowerPoint presentation.	
43		utilizing active learning. PowerPoint concepts and editing.		
			presentation. Review the active learning ideas.	
	研究を進める Research	読み込んだ資料の内容をまとめていく。	We are working on presentation. We are	120
	Advancement 1	Discuss thoughts on improvements to research. Class demonstration of illustration utilizing active learning.	adding movies and animations. We are editing PowerPoint presentation.	
44		PowerPoint concepts and editing.	Complete ideas and drawings for the	
			presentation. Review the active learning ideas.	
	研究を進める Research	読み込んだ資料の内容をまとめていく。	We are working on poster designs. We	120
45	Advancement 2	Discuss thoughts on improvements to research. Class demonstration of illustration utilizing active learning.	are editing movies and animations. We are working on PowerPoint designs.	
45		Poster samples edited. PowerPoint concepts and editing.		
	研究を進める Research Advancement 3	必要に応じて、足りない資料の収集をする。 Continue to add and demonstrate changes to research.	We are working on poster designs. We are editing movies and animations. We	120
46	Advancement 3	Class demonstration of illustration utilizing active learning. Poster samples edited. PowerPoint concepts and editing.	are working on PowerPoint designs.	
	研究を進める Research	本文、『保育研究』のフォーマットを知り、論文作成の準	We are working on presentation. We are	120
	Advancement 4	備を始める。 Continue to add and format changes to research.	adding movies and animations. We are editing PowerPoint presentation.	
47		PowerPoint concepts and editing. I will demonstrate new	Complete ideas and drawings for the	
		drawing and computer topics in class using active learning.	presentation. Review the active learning ideas.	
	論文の執筆 Writing Paper 1	論文の執筆を進めていく。	We are writing. We are editing movies	120
48		Writing is demonstrated. PowerPoint concepts and editing using active learning.	and animations. We are working on PowerPoint designs.	
	論文の執筆 Writing Paper 2	論文の執筆を進めていく。	We are working on writing reports. We	120
	im 文の 拠 準 Writing Paper 2	調文の教事を進めている。 Writing is demonstrated. PowerPoint concepts and	are editing movies and animations. We	120
49		editing using active learning.	are working on PowerPoint designs.	
	卒業研究のまとめ Summarize	考察を検討する 全員で検討する。	We are evaluating material. We are	120
50	Research 1	Outline is summarized to convey research. PowerPoint concepts and editing using active learning.	working on writing reports. We are editing movies and animations. We are working	
		The same seriang doing doubt rounning.	on PowerPoint designs.	

	項目	-授業内容とスケジュール- <b>授業内容</b>	自学自習	目安時間
Щ	卒業研究のまとめ Summarize	考察を検討する 全員で検討する。	We are evaluating material. We are	120
	Research 2	Outline is summarized to convey research.	working on writing reports. We are editing	120
51		PowerPoint presentaion editing, Animation edited.	movies and animations. We are working	
			on PowerPoint designs.	
	卒業研究のまとめ Summarize	考察を検討する 全員で検討する。	We are evaluating material. We are	120
	Research 3	Outline is summarized to convey research.	working on writing reports. We are editing	
52		PowerPoint presentaion editing. Animation edited.	movies and animations. We are working	
		PowerPoint concepts and editing using active learning.	on PowerPoint designs.	
	卒業研究のまとめ Summarize	考察を検討する 全員で検討する	We are evaluating material. We are	120
	Research 4	Outline is summarized to convery research.	working on writing reports. We are editing	
53		PowerPoint presentaion editing. Animation edited.	movies and animations. We are working	
		PowerPoint concepts and editing using active learning.	on PowerPoint designs.	
	カツπ内の本準件 Danasala	**************************************	Manager distinct an area to Manager time in the	120
	卒業研究発表準備 Research Editing 1	発表のリハーサル	We are editing reports. We are timing animations. We are practicing PowerPoint	120
<b>5</b> 4	Editing 1	Editing is continuous. Demonstration is continuous.  PowerPoint presentaion editing. Animation edited.	presentation.	
54		PowerPoint concepts and editing using active learning.	presentation.	
		one on the consoper and cannot be an a cannot be a can		
	卒業研究発表準備 Research	発表のリハーサル	We are editing reports. We are timing	120
	Editing 2	Editing is continuous. Demonstration is continuous.	animations. We are giving PowerPoint	
55		PowerPoint presentaion editing. Animation edited.	presentation.	
		PowerPoint concepts and editing using active learning.		
	卒業研究発表 Research	卒業研究の発表プレゼンテーション	We are editing reports. We are timing	120
	Announcement	Editing is being completed, demonstration is being	animations. We are giving PowerPoint	
56		completed. Animation edited.	presentation.	
	論文作成 Editing Finalizing 1	論文の作成	We are editing reports. We are editing	120
		Writing is being finalized. Animation edited. PowerPoint	designs for final presentation. We have	
57		concepts and editing using active learning.	designs for wall art.	
	論文作成 Editing Finalizing 2	論文の作成	We are editing reports. We are editing	120
58		Writing is being finalized. Animation edited.	designs for final presentation. We have	
30			designs for wall art.	
		論文の最終確認、印刷、製本	We are editing final reports.	120
	論文提出のための準備 Final Submission 1	調人の取於確認、印刷、製本 Submission of final material, writing and computer data.	vve are euring inial reports.	120
59	Oubmission 1	outsing and computer data.		
	論文提出のための準備 Final	論文の最終確認、印刷、製本	We are editing final reports.	120
60	Submission 2	Submission of final material, writing and computer data.		
		L	<u> </u>	